

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更								
フリガナ設置者	がっこうリツメイカン 学校法人 立命館								
フリガナ大学の名称	リツメイカンアジア太平洋大学 (Ritsumeikan Asia Pacific University)								
大学本部の位置	大分県別府市十文字原1丁目1番								
大学の目的	立命館アジア太平洋大学は、教育基本法の規定する教育の一般的法則と方法に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深くアジア太平洋に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させることを目的とする。								
新設学部等の目的	令和5年4月に、サステイナビリティ観光学部（入学定員350人、収容定員1,400人）を設置する。このために、既設学部の収容定員を減じつつ、大学全体の収容定員を増加する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	アジア太平洋学部 【College of Asia Pacific Studies】 アジア太平洋学科 【Department of Asia Pacific Studies】	4	510 (660)	2年次 5 (12) 3年次 5 (18)	2,065 (2,712)	学士（アジア太平洋学） 【Bachelor of Social Science】	令和5年4月 第1年次 令和5年4月 第2年次 令和5年4月 第3年次	大分県別府市十文字原1丁目1番	
	国際経営学部 【College of International Management】 国際経営学科 【Department of International Management】	4	610 (660)	2年次 5 (22) 3年次 5 (31)	2,465 (2,768)	学士（経営学） 【Bachelor of Business Administration】	令和5年4月 第1年次 令和5年4月 第2年次 令和5年4月 第3年次	大分県別府市十文字原1丁目1番	
	サステイナビリティ観光学部 【College of Sustainability and Tourism】 サステイナビリティ観光学科 【Department of Sustainability and Tourism】	4	350 (0)	—	1,400 (0)	学士（サステイナビリティ観光学） 【Bachelor of Sustainability and Tourism】	令和5年4月 第1年次	大分県別府市十文字原1丁目1番	※令和4年4月設置届出予定
	計	—	1,470 (1,320)	2年次 10 (34) 3年次 10 (49)	5,930 (5,480)	—	—	—	

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		令和4年3月 収容定員の変更に係る学則変更認可申請予定 サステイナビリティ観光学部 (令和4年4月届出予定) サステイナビリティ観光学部〔定員増〕 (350) アジア太平洋学部 アジア太平洋学科〔定員減〕 (△150) (令和5年4月) (2年次編入学定員)〔定員減〕 (△7) (令和5年4月) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△13) (令和5年4月) 国際経営学部 国際経営学科〔定員減〕 (△50) (令和5年4月) (2年次編入学定員)〔定員減〕 (△17) (令和5年4月) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△26) (令和5年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	—	— 科目	— 科目	— 科目	— 科目	— 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設	アジア太平洋学部	人	人	人	人	人	人	人	
			23 (23)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	36 (36)	0 (0)	106 (106)	
			国際経営学部	20 (20)	10 (10)	0 (0)	3 (3)	33 (33)	0 (0)	97 (97)
			サステイナビリティ観光学部	14 (15)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	23 (24)	0 (0)	74 (74)
		計	57 (58)	27 (27)	0 (0)	8 (8)	92 (93)	0 (0)	— (—)	
	既設	言語教育センター	2 (2)	9 (9)	63 (63)	0 (0)	74 (74)	0 (0)	35 (35)	
		教育開発・学修支援センター	4 (4)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	
		計	6 (6)	14 (14)	63 (63)	2 (2)	85 (85)	0 (0)	— (—)	
	合計	63 (64)	41 (41)	63 (63)	10 (10)	177 (178)	0 (0)	— (—)		
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任		計				
	事務職員		92 (92) 人	120 (120) 人		212 (212) 人				
	技術職員		0 (0)	0 (0)		0 (0)				
	図書館専門職員		1 (1)	0 (0)		1 (1)				
	その他の職員		0 (0)	0 (0)		0 (0)				
	計		93 (93) 人	120 (120) 人		213 (213) 人				
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
	校舎敷地	314,753.77㎡	0㎡	0㎡		314,753.77㎡				
	運動場用地	41,810.00㎡	0㎡	0㎡		41,810.00㎡				
	小計	356,563.77㎡	0㎡	0㎡		356,563.77㎡				
	その他	70,623.43㎡	0㎡	0㎡		70,623.43㎡				
	合計	427,187.20㎡	0㎡	0㎡		427,187.20㎡				
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用		計				
		69,042.21㎡ (69,042.21㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		69,042.21㎡ (69,042.21㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	58室	35室	2室	23室 (補助職員 35人)	27室 (補助職員 30人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称 大学全体		室数 171		大学全体 室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	大学全体	236,758 [102,701] (236,758 [102,701])	2,788 [951] (2,788 [951])	32,374 [32,374] (32,374 [32,374])	4,684 (4,684)	— (—)	— (—)		
	計	236,758 [102,701] (236,758 [102,701])	2,788 [951] (2,788 [951])	32,374 [32,374] (32,374 [32,374])	4,684 (4,684)	— (—)	— (—)		
図書館		面積 5,811.9 m ²		閲覧座席数 1,037		収納可能冊数 289,700		大学全体	
体育館		面積 2,950.67 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 —		—			
経費の 見積り 及び 維持 の 概 要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 共同研究費等は大学全体の経費を記載している。図書購入費には、電子ジャーナル、データベース等を含む。
	教員1人当り研究費等		959千円	959千円	959千円	959千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		2,800千円	2,800千円	2,800千円	2,800千円	—千円	—千円	
	図書購入費	27,500千円	27,500千円	27,500千円	27,500千円	27,500千円	—千円	—千円	
	設備購入費	109,350千円	109,350千円	109,350千円	109,350千円	39,350千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,500千円	第2年次 1,500千円	第3年次 1,500千円	第4年次 1,500千円	第5年次 —千円	第6年次 —千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。						
既設 大学 等 の 状 況	大学の名称	立命館アジア太平洋大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	4年	660人	年次人 2年次12 3年次18	2,712人	学士 (アジア太平洋学)	0.94	平成12年度	大分県別府市 十文字原1丁目1番
	国際経営学部 国際経営学科	4年	660人	2年次22 3年次31	2,768人	学士 (経営学)	0.92	平成12年度	
	アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻 博士前期課程	2年	15人	—	30人	修士 (アジア太平洋学)	0.93	平成15年度	
	博士後期課程	3年	10人	—	30人	博士 (アジア太平洋学)	0.60	平成15年度	
国際協力政策専攻 博士前期課程	2年	45人	—	90人	修士 (国際協力政策)	1.12	平成15年度		
経営管理研究科 経営管理専攻 修士課程	2年	40人	—	80人	修士 (経営管理)	0.76	平成15年度		

大学の名称		立命館大学							所在地	
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
法学部	年	人	年次人	人		倍				
法学科	4	720	—	2915	学士 (法学)	0.98	昭和 23年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	平成30年度入学定員減(△35人) 平成31年度入学定員減(△35人)	
経済学部						0.99				
経済学科	4	760	—	3075	学士 (経済学)	0.99	昭和 23年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	平成31年度入学定員減(△35人)	
国際経済学科	4	—	—	—	学士 (経済学)	—	平成 18年度		平成29年度より学生募集停止	
経営学部						0.95				
経営学科	4	650	—	2625	学士 (経営学)	0.96	昭和 37年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	平成31年度入学定員減(△25人)	
国際経営学科	4	145	—	585	学士 (経営学)	0.89	平成 18年度		平成31年度入学定員減(△5人)	
産業社会学部										
現代社会学科	4	810	—	3240	学士 (社会学)	0.99	平成 19年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	平成30年度入学定員減(△90人)	
文学部										
人文学科	4	1035	—	4030	学士 (文学)	0.97	平成 16年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	令和2年度入学定員増(55人)(文学部人文学科)	

理工学部						0.97			
電気電子工学科	4	154	3年次 12	640	学士 (工学)	0.91	昭和 24年度		
機械工学科	4	173	3年次 10	712	学士 (工学)	0.99	昭和 24年度		
環境都市工学科	4	166	3年次 4	672	学士 (工学)	0.99	平成 30年度		(3年次編入学定員は令和2年度より入学)
都市システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成30年度より学生募集停止 (3年次編入学定員は令和2年度より学生募集停止)
環境システム工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 6年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成30年度より学生募集停止 (3年次編入学定員は令和2年度より学生募集停止)
ロボティクス学科	4	90	3年次 6	372	学士 (工学)	0.99	平成 8年度		
数理科学科	4	97	—	388	学士 (理学)	0.98	平成 12年度		
物理科学科	4	86	3年次 2	348	学士 (理学)	0.95	平成 12年度		
電子情報工学科	4	102	3年次 8	424	学士 (工学)	1.03	平成 16年度		
建築都市デザイン学科	4	91	3年次 4	372	学士 (工学)	0.95	平成 16年度		
国際関係学部						0.95			
国際関係学科	4	335	—	1340	学士 (国際関係学)	0.96	昭和 63年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
アメリカ大学・立命館大学国際連携学科	4	25	—	100	学士 (グローバル国際関係学)	0.76	平成 30年度		
政策科学部									
政策科学科	4	410	—	1640	学士 (政策科学)	0.98	平成 6年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号	
情報理工学部						0.93			
情報理工学科	4	475	3年次 40	1980	学士 (工学)	0.93	平成 29年度		
情報システム学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生募集停止
情報コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成29年度より学生募集停止
メディア情報学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生募集停止
知能情報学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成 16年度		平成29年度より学生募集停止

映像学部 映像学科	4	160	—	640	学士 (映像学)	1.00	平成 19年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
薬学部 薬学科	6	100	—	600	学士 (薬学)	1.01	平成 20年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	6年制学科
創薬科学科	4	60	—	240	学士 (薬科学)	0.91	平成 27年度		4年制学科
生命科学部 応用化学科	4	111	—	444	学士 (理学) 学士 (工学)	0.95 0.94	平成 20年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
生物工学科	4	86	—	344	学士 (工学)	0.91	平成 20年度		
生命情報学科	4	64	—	256	学士 (理学) 学士 (工学)	1.02	平成 20年度		
生命医科学科	4	64	—	256	学士 (理学)	0.94	平成 20年度		
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	4	235	—	940	学士 (スポーツ健康科 学)	1.01	平成 22年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
総合心理学部 総合心理学科	4	280	—	1120	学士 (心理学)	0.99	平成 28年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	
食マネジメント学部 食マネジメント学科	4	320	—	1280	学士 (食マネジメント)	0.97	平成 30年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
グローバル教養学部 グローバル教養学科	4	100	—	300	学士 (グローバル教養 学)	0.83	平成 31年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	
法学研究科 法学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 (法学)	0.18	昭和 25年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士 (法学)	0.26	昭和 28年度		
経済学研究科 経済学専攻									
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士 (経済学)	0.95	昭和 25年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士 (経済学)	1.06	昭和 39年度		

既設大学等の状況	経営学研究科								
	企業経営専攻								
	博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 (経営学)	0.71	昭和 41年度	大阪府茨木市岩倉町2番150号
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (経営学)	0.26	昭和 41年度	
	社会学研究科								
	応用社会学専攻								
	博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 (社会学)	0.67	昭和 47年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (社会学)	0.26	昭和 49年度	
	文学研究科								
	人文学専攻								
	博士課程前期課程	2	70	—	140	修士 (文学)	0.43	平成 18年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1
	博士課程後期課程	3	20	—	60	博士 (文学)	0.68	平成 18年度	
	行動文化情報学専攻								
	博士課程前期課程	2	35	—	70	修士 (文学)	0.38	平成 26年度	
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (文学)	0.15	平成 26年度	
理工学研究科									
基礎理工学専攻									
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士 (理学) 修士 (工学)	0.91	平成 18年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	6	—	18	博士 (理学) 博士 (工学)	0.55	平成 24年度		
電子システム専攻									
博士課程前期課程	2	140	—	280	修士 (工学)	0.94	平成 24年度		
博士課程後期課程	3	8	—	24	博士 (工学)	0.87	平成 24年度		

機械システム専攻									
博士課程前期課程	2	140	—	280	修士 (工学)	1.06	平成 24年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	11	—	33	博士 (工学)	0.72	平成 24年度		
環境都市専攻									
博士課程前期課程	2	120	—	240	修士 (工学)	0.87	平成 24年度		
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (工学)	0.28	平成 24年度		
国際関係研究科									
国際関係学専攻									
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 (国際関係 学)	1.07	平成 4年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士 (国際関係 学)	0.83	平成 6年度		
政策科学研究科									
政策科学専攻									
博士課程前期課程	2	40	—	80	修士 (政策科学)	0.71	平成 9年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (政策科学)	0.35	平成 11年度		
言語教育情報研究科									
言語教育情報専攻									
修士課程	2	60	—	120	修士 (言語教育情 報学)	0.55	平成 15年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
テクノロジー・マネジメント研究科									
テクノロジー・マネジメント専攻									
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士 (技術経営)	0.92	平成 17年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士 (技術経営)	1.46	平成 18年度		
公務研究科									
公共政策専攻									
修士課程	2	—	—	—	修士 (公共政策)	—	平成 19年度	京都府京都市中京区 西ノ京東栞尾町8番地	平成30年度より学 生募集停止
スポーツ健康科学研究科									
スポーツ健康科学専攻									
博士課程前期課程	2	25	—	50	修士 (スポーツ 健康科学)	1.24	平成 22年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	8	—	24	博士 (スポーツ 健康科学)	0.99	平成 24年度		

映像研究科 映像専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (映像)	0.95	平成 23年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
情報理工学研究科 情報理工学専攻 博士課程前期課程	2	200	—	400	修士 (工学)	0.93	平成 24年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (工学)	1.11	平成 24年度		
生命科学研究所 生命科学専攻 博士課程前期課程	2	150	—	300	修士 (理学) 修士 (工学)	0.86	平成 24年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (理学) 博士 (工学)	0.50	平成 24年度		
先端総合学術研究科 先端総合学術専攻 一貫制博士課程	5	30	—	150	博士 (学術)	0.39	平成 15年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	
薬学研究科 薬科学専攻 博士課程前期課程	2	20	—	40	修士 (薬科学)	1.57	令和 2年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	令和3年度より課 程変更
博士課程後期課程	3	3	—	3	博士 (薬科学)	1.66	令和 3年度		
薬学専攻 博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.99	平成 26年度		
人間科学研究科 人間科学専攻 博士課程前期課程	2	65	—	130	修士 (人間科学) 修士 (心理学)	0.92	平成 30年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号	
博士課程後期課程	3	20	—	60	博士 (人間科学) 博士 (心理学)	1.16	平成 30年度		
食マネジメント研究科 食マネジメント専攻 博士課程前期課程	2	20	—	20	修士 (食マネジメ ント)	0.90	令和 3年度	滋賀県草津市野路東1 丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	3	—	3	博士 (食マネジメ ント)	0.66	令和 3年度		

法務研究科 法曹養成専攻 専門職学位課程	3	70	—	210	法務博士 (専門職)	0.71	平成 16年度	京都府京都市中京区 西ノ京東梅尾町8番地
経営管理研究科 経営管理専攻 専門職学位課程	2	80	—	160	経営修士 (専門職)	0.70	平成 18年度	大阪府茨木市岩倉町2 番150号
教職研究科 実践教育専攻 専門職学位課程	2	35	—	70	教職修士 (専門職)	0.75	平成 29年度	京都府京都市中京区 西ノ京東梅尾町8番地
附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校 of 収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人立命館 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度				入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度				入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
立命館アジア太平洋大学							立命館アジア太平洋大学							
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科		660	2年次 12 3年次	2,712		アジア太平洋学部	アジア太平洋学科		510	2年次 5 3年次	2,065		定員変更(△150) 2年次編入学定員(△7) 3年次編入学定員(△13)
国際経営学部	国際経営学科		660	2年次 18 22 3年次	2,768		国際経営学部	国際経営学科		610	2年次 5 3年次	2,465		定員変更(△50) 2年次編入学定員(△17) 3年次編入学定員(△26)
計			1,320	2年次 34 3年次	5,480		計			1,470	2年次 10 3年次	5,930		学部の設置(認可または届出)
立命館アジア太平洋大学大学院							立命館アジア太平洋大学大学院							
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士前期課程	15	-	30		アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士前期課程	15	-	30		
	アジア太平洋学専攻	博士後期課程	10	-	30			アジア太平洋学専攻	博士後期課程	10	-	30		
	国際協力政策専攻	博士前期課程	45	-	90			国際協力政策専攻	博士前期課程	45	-	90		
経営管理研究科	経営管理専攻	修士課程	40	-	80		経営管理研究科	経営管理専攻	修士課程	40	-	80		
計			110	-	230		計			110	-	230		
立命館大学							立命館大学							
法学部	法学科		720	-	2,880		法学部	法学科		720	-	2,880		
経済学部	経済学科		760	-	3,040		経済学部	経済学科		760	-	3,040		
経営学部	経営学科		650	-	2,600		経営学部	経営学科		650	-	2,600		
	国際経営学科		145	-	580			国際経営学科		145	-	580		
産業社会学部	現代社会学科		810	-	3,240		産業社会学部	現代社会学科		810	-	3,240		
文学部	人文学科		1,035	-	4,140		文学部	人文学科		1,035	-	4,140		
理工学部	電気電子工学科		154	3年次 12	640		理工学部	電気電子工学科		154	3年次 12	640		
	機械工学科		173	3年次 10	712			機械工学科		173	3年次 10	712		
	環境都市工学科		166	3年次 4	672			環境都市工学科		166	3年次 4	672		
	ロボティクス学科		90	3年次 6	372			ロボティクス学科		90	3年次 6	372		
	数理科学科		97	-	388			数理科学科		97	-	388		
	物理科学科		86	3年次 2	348			物理科学科		86	3年次 2	348		
	電子情報工学科		102	3年次 8	424			電子情報工学科		102	3年次 8	424		
	建築都市デザイン学科		91	3年次 4	372			建築都市デザイン学科		91	3年次 4	372		
国際関係学部	国際関係学科		335	-	1,340		国際関係学部	国際関係学科		335	-	1,340		
	アメリカン大学・立命館大学国際連携学科		25	-	100			アメリカン大学・立命館大学国際連携学科		25	-	100		
政策科学部	政策科学科		410	-	1,640		政策科学部	政策科学科		410	-	1,640		
情報理工学部	情報理工学科		475	3年次 40	1,980		情報理工学部	情報理工学科		475	3年次 40	1,980		
映像学部	映像学科		160	-	640		映像学部	映像学科		160	-	640		
薬学部	薬学科		100	-	600		薬学部	薬学科		100	-	600		
	創薬科学科		60	-	240			創薬科学科		60	-	240		
生命科学部	応用化学科		111	-	444		生命科学部	応用化学科		111	-	444		
	生物工学科		86	-	344			生物工学科		86	-	344		
	生命情報科学科		64	-	256			生命情報科学科		64	-	256		
	生命医科学科		64	-	256			生命医科学科		64	-	256		
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科		235	-	940		スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科		235	-	940		
総合心理学部	総合心理学科		280	-	1,120		総合心理学部	総合心理学科		280	-	1,120		
食マネジメント学部	食マネジメント学科		320	-	1,280		食マネジメント学部	食マネジメント学科		320	-	1,280		
グローバル教養学部	グローバル教養学科		100	-	400		グローバル教養学部	グローバル教養学科		100	-	400		
計			7,904	3年次 86	31,988		計			7,904	3年次 86	31,988		
立命館大学大学院							立命館大学大学院							
法学研究科	法学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		法学研究科	法学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		
	法学専攻	博士課程後期課程	10	-	30			法学専攻	博士課程後期課程	10	-	30		
経済学研究科	経済学専攻	博士課程前期課程	50	-	100		経済学研究科	経済学専攻	博士課程前期課程	50	-	100		
	経済学専攻	博士課程後期課程	5	-	15			経済学専攻	博士課程後期課程	5	-	15		
経営学研究科	企業経営専攻	博士課程前期課程	60	-	120		経営学研究科	企業経営専攻	博士課程前期課程	60	-	120		
	企業経営専攻	博士課程後期課程	15	-	45			企業経営専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		
	応用社会学専攻	博士課程後期課程	15	-	45			応用社会学専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
文学研究科	人文学専攻	博士課程前期課程	70	-	140		文学研究科	人文学専攻	博士課程前期課程	70	-	140		
	人文学専攻	博士課程後期課程	20	-	60			人文学専攻	博士課程後期課程	20	-	60		
	行動文化情報学専攻	博士課程前期課程	35	-	70			行動文化情報学専攻	博士課程前期課程	35	-	70		
	行動文化情報学専攻	博士課程後期課程	15	-	45			行動文化情報学専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程前期課程	50	-	100		理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程前期課程	50	-	100		
	基礎理工学専攻	博士課程後期課程	6	-	18			基礎理工学専攻	博士課程後期課程	6	-	18		
	電子デバイス専攻	博士課程前期課程	140	-	280			電子デバイス専攻	博士課程前期課程	140	-	280		
	電子デバイス専攻	博士課程後期課程	8	-	24			電子デバイス専攻	博士課程後期課程	8	-	24		
	機械デバイス専攻	博士課程前期課程	140	-	280			機械デバイス専攻	博士課程前期課程	140	-	280		
	機械デバイス専攻	博士課程後期課程	11	-	33			機械デバイス専攻	博士課程後期課程	11	-	33		
	環境都市専攻	博士課程前期課程	120	-	240			環境都市専攻	博士課程前期課程	120	-	240		
	環境都市専攻	博士課程後期課程	15	-	45			環境都市専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程前期課程	60	-	120		
	国際関係学専攻	博士課程後期課程	10	-	30			国際関係学専攻	博士課程後期課程	10	-	30		
政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程前期課程	40	-	80		政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程前期課程	40	-	80		
	政策科学専攻	博士課程後期課程	15	-	45			政策科学専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
言語教育情報研究科	言語教育情報専攻	修士課程	60	-	120		言語教育情報研究科	言語教育情報専攻	修士課程	60	-	120		
グローバルマネジメント研究科	グローバルマネジメント専攻	博士課程前期課程	70	-	140		グローバルマネジメント研究科	グローバルマネジメント専攻	博士課程前期課程	70	-	140		
	グローバルマネジメント専攻	博士課程後期課程	5	-	15			グローバルマネジメント専攻	博士課程後期課程	5	-	15		
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程前期課程	25	-	50		スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程前期課程	25	-	50		
	スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程	8	-	24			スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程	8	-	24		
映像研究科	映像専攻	修士課程	10	-	20		映像研究科	映像専攻	修士課程	10	-	20		
情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程前期課程	200	-	400		情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程前期課程	200	-	400		
	情報理工学専攻	博士課程後期課程	15	-	45			情報理工学専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程前期課程	150	-	300		生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程前期課程	150	-	300		
	生命科学専攻	博士課程後期課程	15	-	45			生命科学専攻	博士課程後期課程	15	-	45		
先端総合学術研究科	先端総合学術専攻	一貫制博士課程	30	-	150		先端総合学術研究科	先端総合学術専攻	一貫制博士課程	30	-	150		
薬学研究科	薬科学専攻	博士課程前期課程	20	-	40		薬学研究科	薬科学専攻	博士課程前期課程	20	-	40		
	薬科学専攻	博士課程後期課程	3	-	9			薬科学専攻	博士課程後期課程	3	-	9		
	薬学専攻	博士課程	3	-	12			薬学専攻	博士課程	3	-	12		
人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程前期課程	65	-	130		人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程前期課程	65	-	130		
	人間科学専攻	博士課程後期課程	20	-	60			人間科学専攻	博士課程後期課程	20	-	60		
食マネジメント研究科	食マネジメント専攻	博士課程前期課程	20	-	40		食マネジメント研究科	食マネジメント専攻	博士課程前期課程	20	-	40		
	食マネジメント専攻	博士課程後期課程	3	-	9			食マネジメント専攻	博士課程後期課程	3	-	9		
法務研究科	法曹養成専攻	専門職学位課程	70	-	210		法務研究科	法曹養成専攻	専門職学位課程	70	-	210		
経営管理研究科	経営管理専攻	専門職学位課程	80	-	160		経営管理研究科	経営管理専攻	専門職学位課程	80	-	160		
教職研究科	実践教育専攻	専門職学位課程	35	-	70		教職研究科	実践教育専攻	専門職学位課程	35	-	70		
計			1,937	-	4,254		計			1,937	-	4,254		

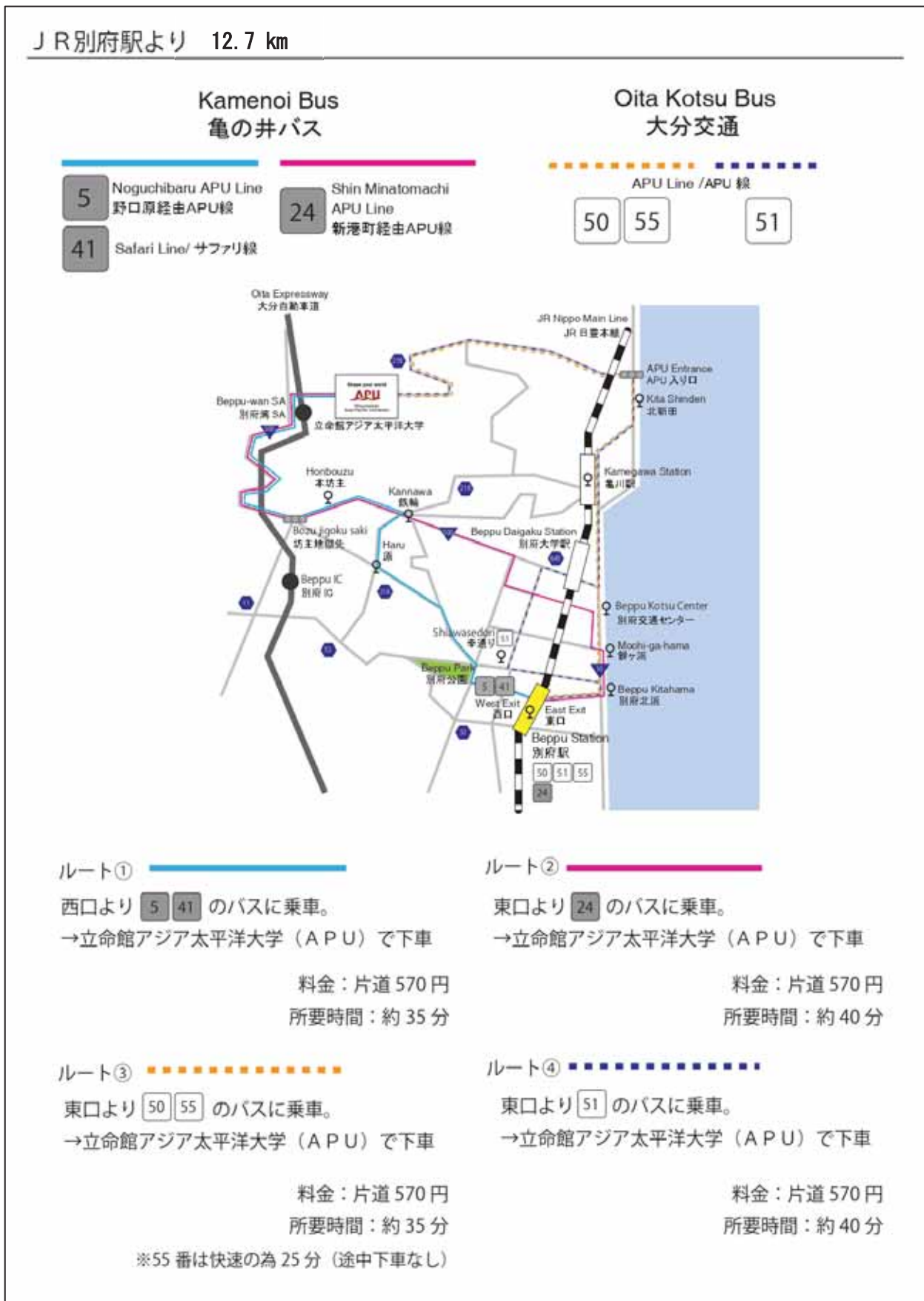
校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



【地図データ@2022 TMap Mobility、Google】

(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面



JR 亀川駅より 6.3 km



Oita Kotsu Bus
大分交通



亀川駅より、大分交通バス「立命館
アジア太平洋大学 APU」行きに乗車。
→「立命館アジア太平洋大学 APU」
で下車

料金：片道 350 円
所要時間：約 15 分

大分空港より 36 km



①大分空港より、空港リムジンバス
「エアライナー」に乗車→「亀川(古市)」
で下車

料金：片道 1,350 円
所要時間：約 35 分

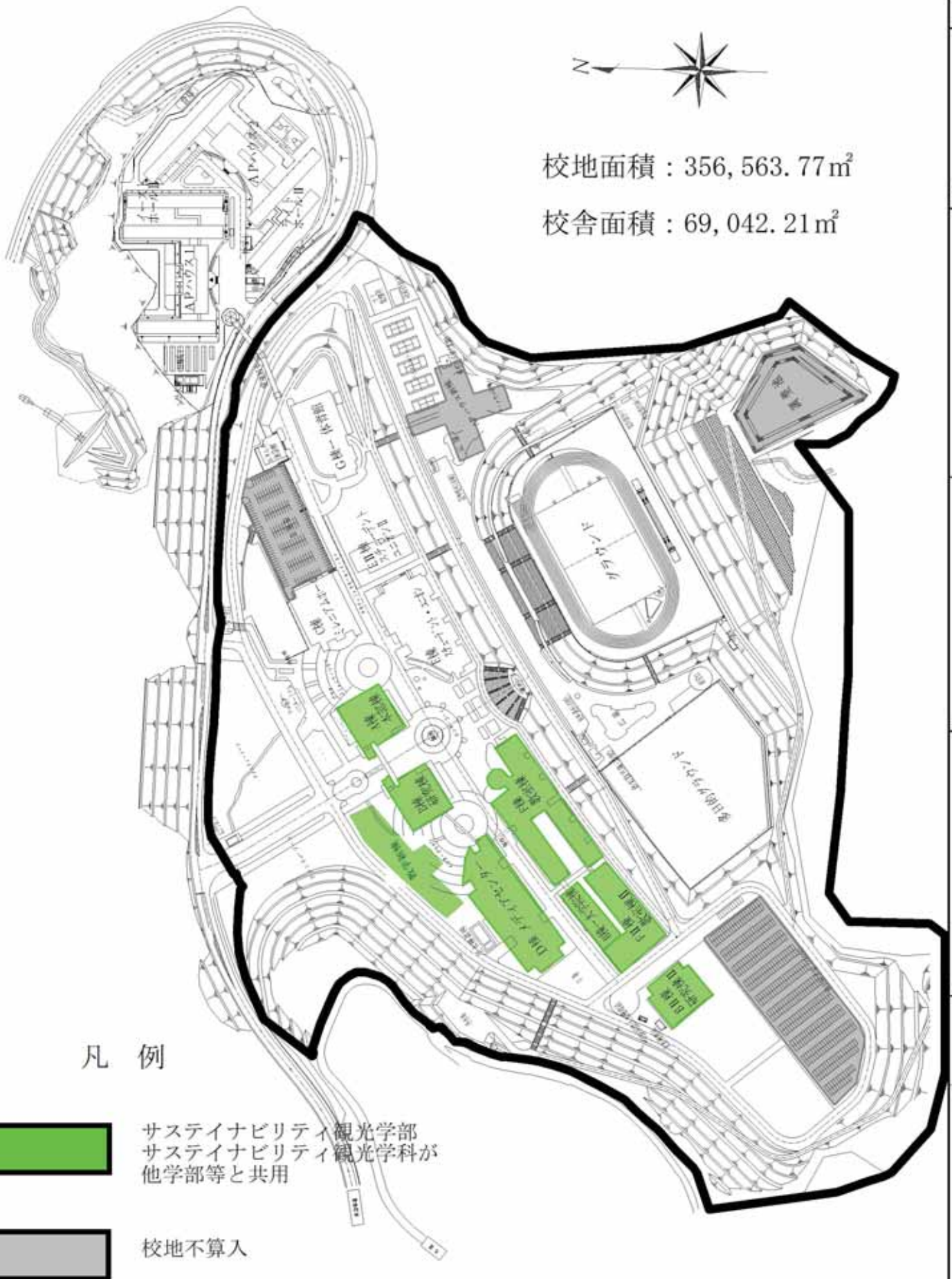
②「亀川(古市)」バス停より道の
反対側へ渡り、大分交通バス「古市」
バス停より「立命館アジア太平洋大
学 APU」行きに乗り換え
→「立命館アジア太平洋大学 APU」で
下車

料金：片道 350 円
所要時間：約 10 分

(3) 校舎、運動場等の配置図 <完成年度時点> (次ページ)

校舎、運動場等の配置図

【立命館アジア太平洋大学】



図面番号	HP-1009
図名	建築配置図
縮尺	1/1500
設計者	立命館アジア太平洋大学
設計者	山下設計
設計者	YAMASHITA DESIGN INC.

(4) 校舎の平面図 <完成年度時点> (次ページ以降)

校舎平面図

凡 例



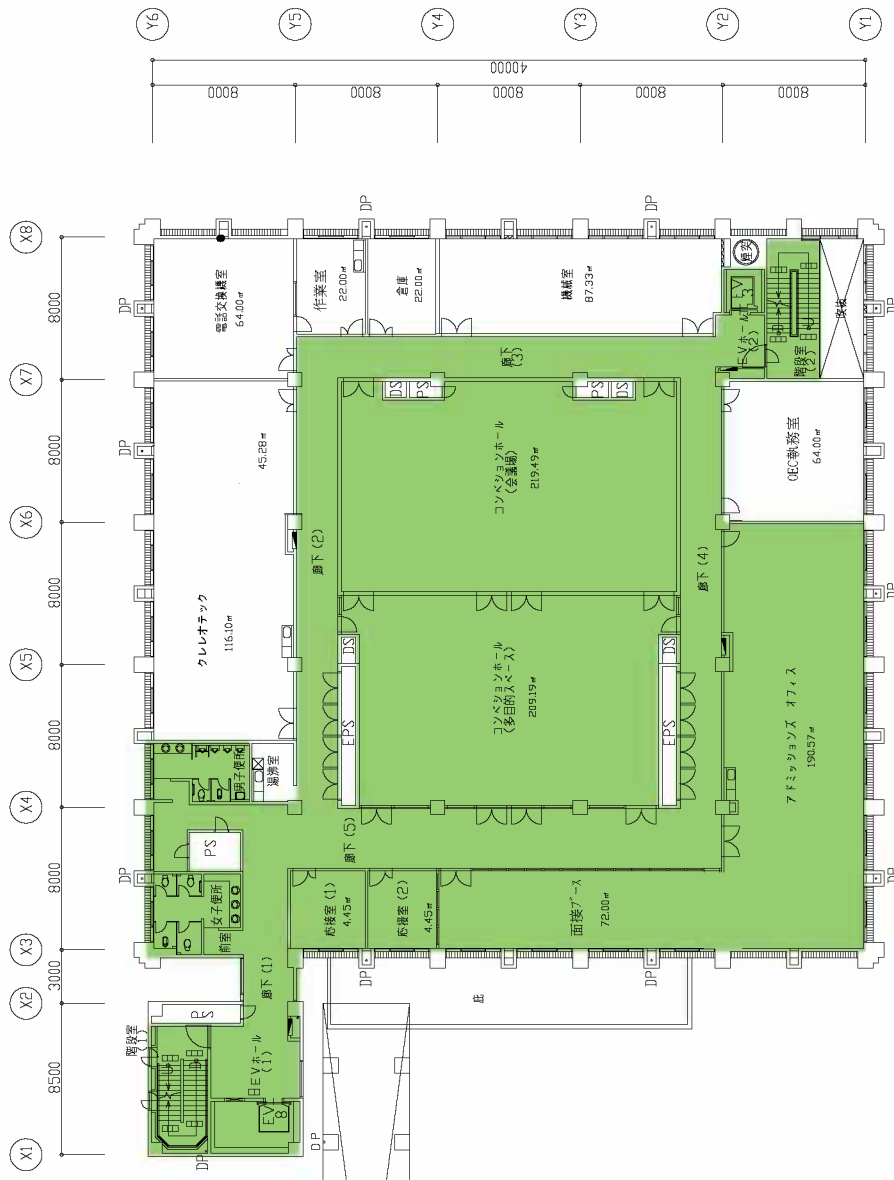
サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科専用



サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科が
他学部等と共用

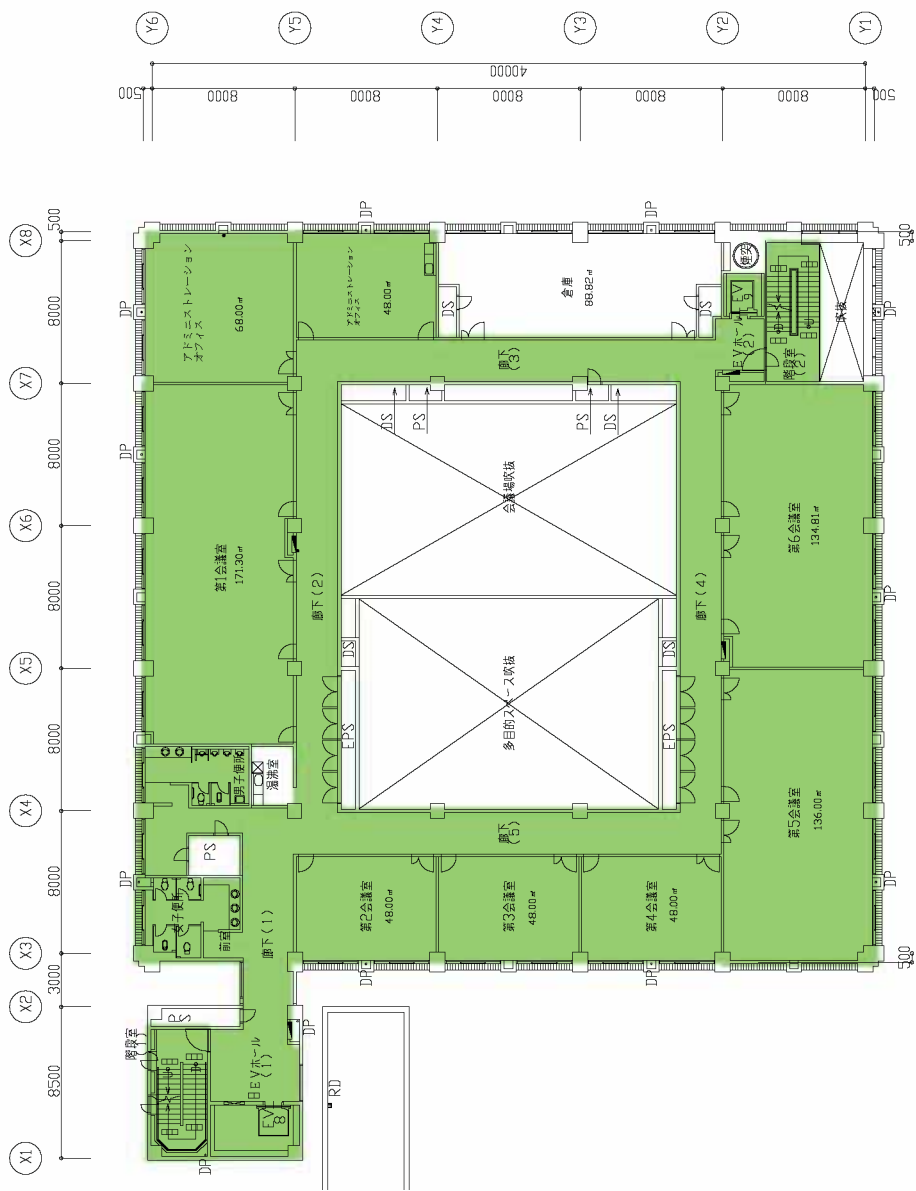


他学部・他研究科 専用



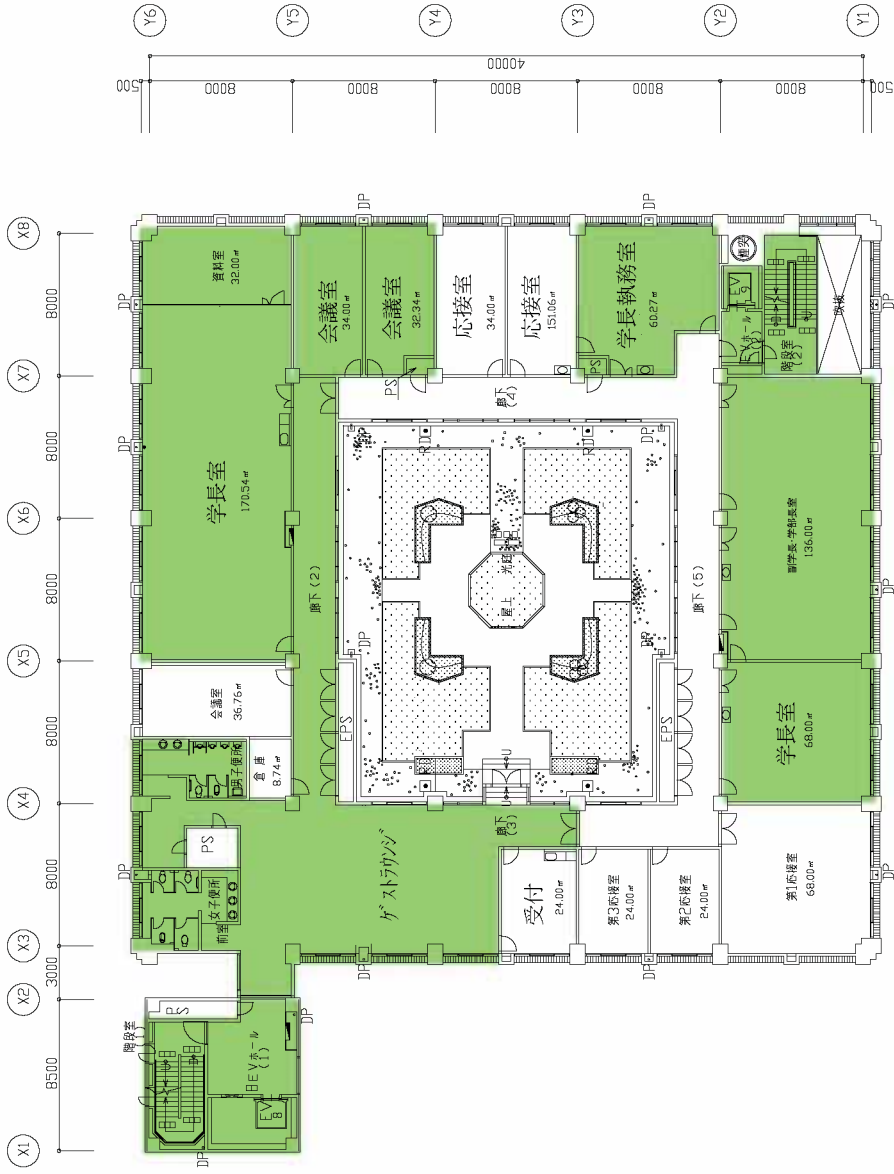
図面 10

更新日	年月日	縮尺	年月日	立命館アジア太平洋大学 A棟-本館棟(管理棟)	2階 平面図	縮尺 1:300 (A3)	年月日 -----	立命館 立命館 財務部管理課
-----	-----	----	-----	----------------------------	--------	---------------------	--------------	----------------



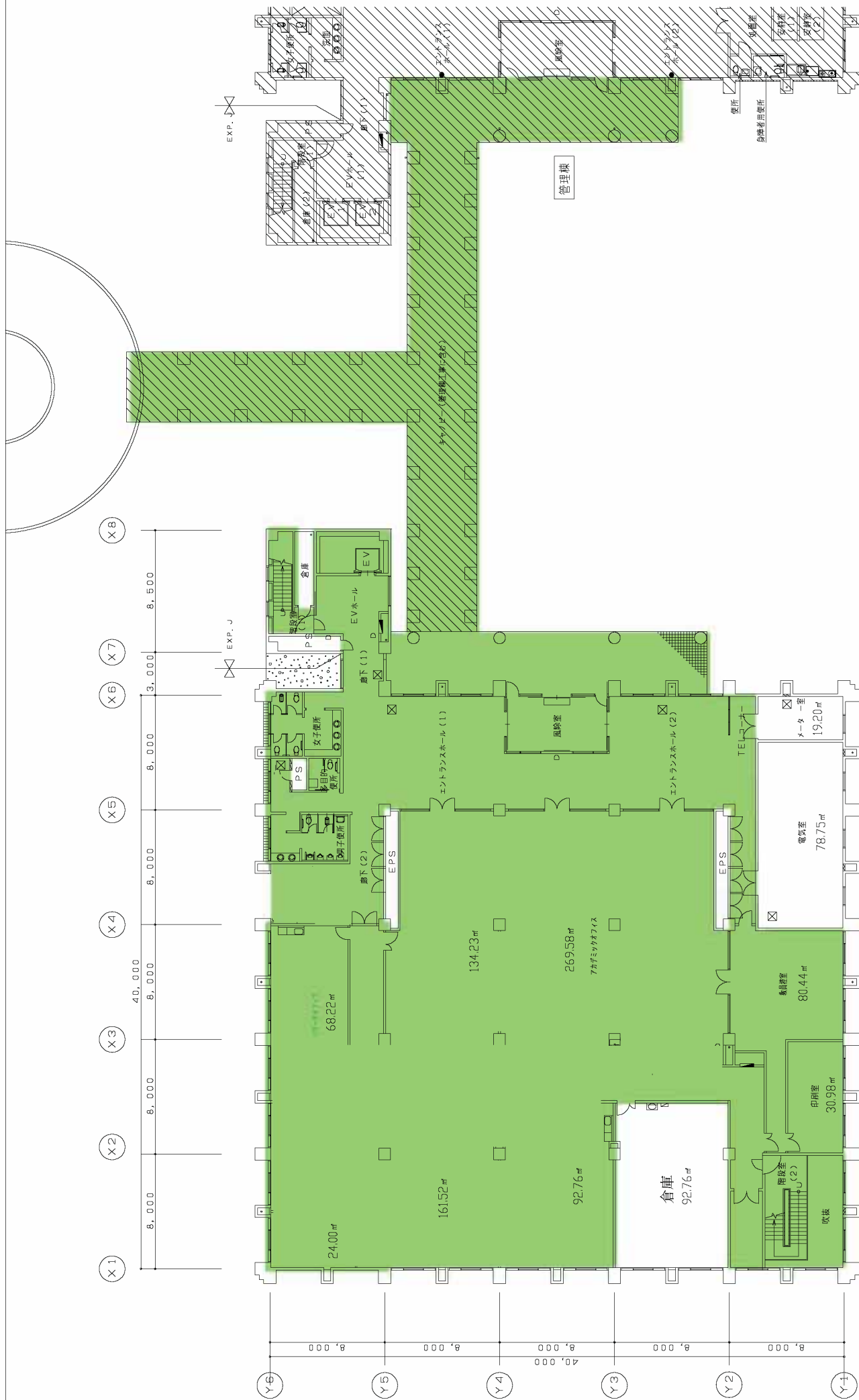
図面 11

更新日	年月日	縮尺	年月日	立命館アジア太平洋大学 A棟-本館棟(管理棟)	3階 平面図	縮尺 1:300 (A3)	年月日 -----	立命館 財務部管理課 学務法人 立命館
-----	-----	----	-----	----------------------------	--------	---------------------	--------------	------------------------



図面 12

更新日	-----	縮尺	年月日	立命館アジア太平洋大学 A棟-本館棟(管理棟)	4階 平面図	縮尺 1:300 (A3)	年月日 -----	立命館 財務部管理課 学務法人 立命館 財務部管理課
-----	-------	----	-----	----------------------------	--------	---------------------	--------------	-------------------------------



図面 14

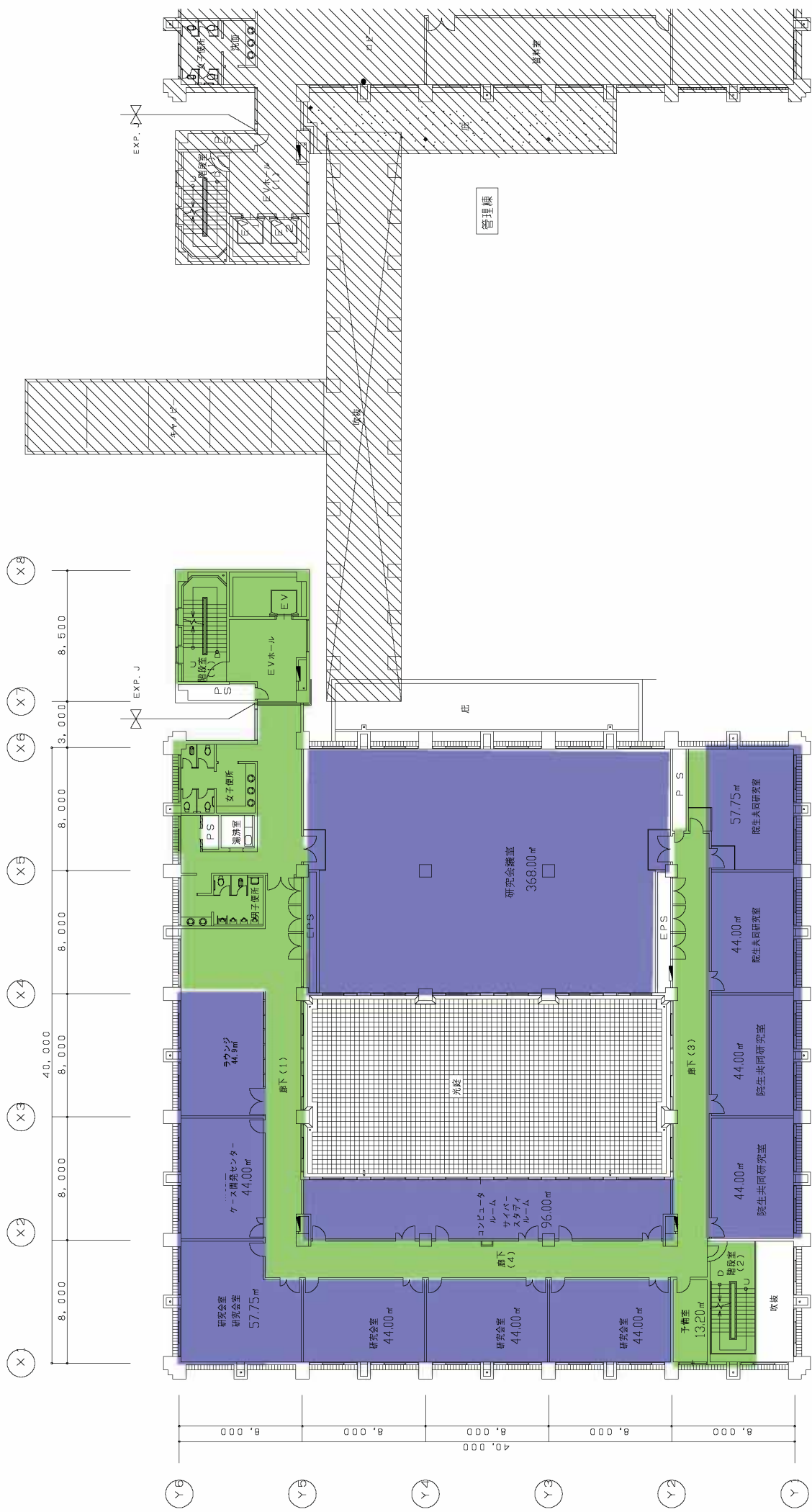
更新日

立命館アジア太平洋大学
環境研究棟(研究棟)

1階 平面図

縮尺 1:60 (A3)
年月日 2009.01.26 (7ヶ月後)

学校法人 立命館 財務部設計課



図面 15



図面 16

更新日

立命館アジア太平洋大学
3棟一研究棟(研究棟)

3階 平面図

縮尺
1 : 60
(A3)

年月日
2009.01.26
(イラ-棟由)

学校法人 立命館 財源研究財源



図面 17

更新日	-----	立命館アジア太平洋大学 環境研究棟(研究棟)	4階 平面図	縮尺 1 : 60 (A3)	年月日 2009.01.26 (7-9-14棟目)	作成者 立命館 建築研究室
-----	-------	---------------------------	--------	----------------------	---------------------------------	------------------



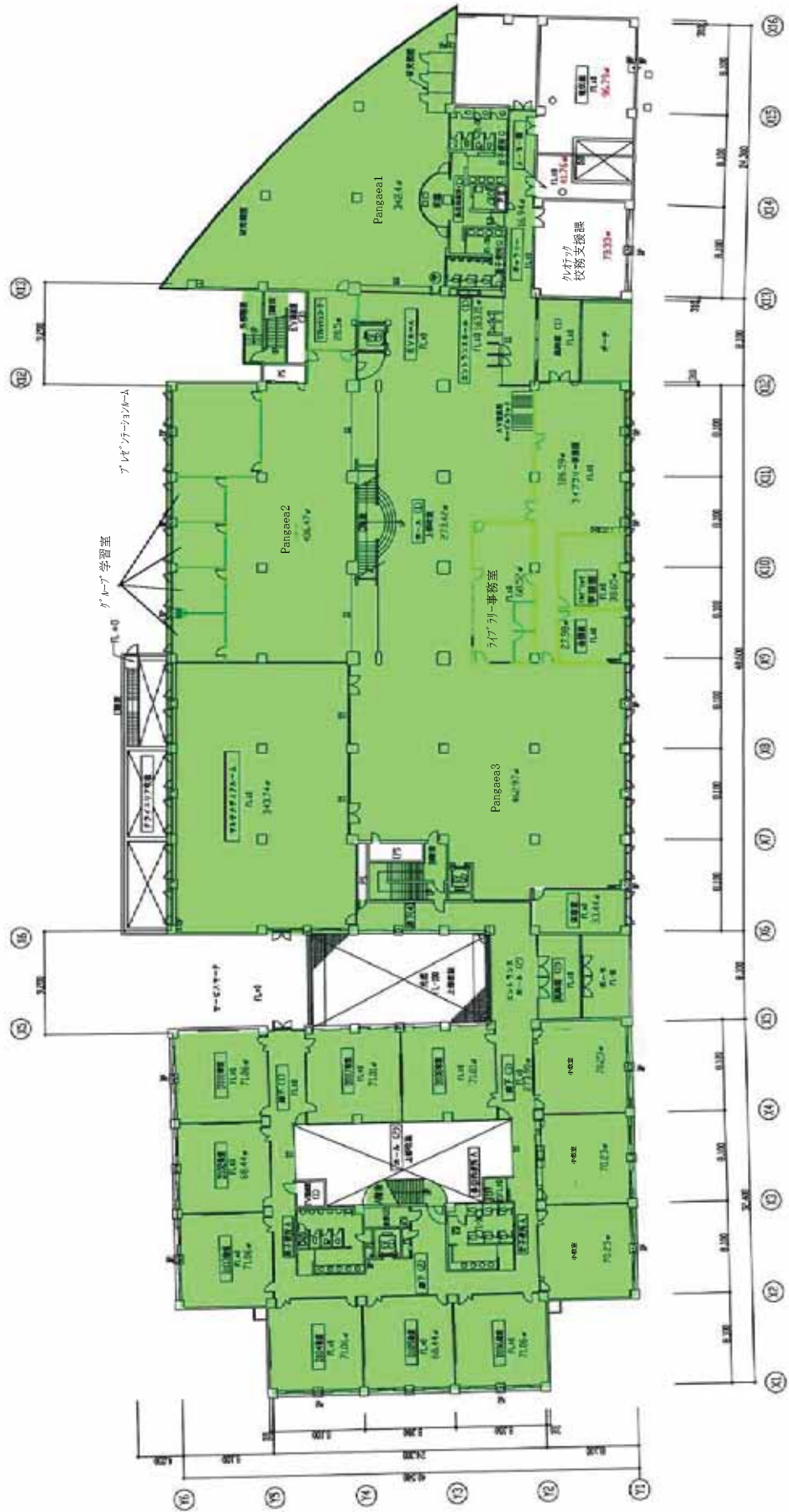
図面 19

更新日	-----
縮尺	1:250 (A3)
年月日	2008.02.03 (F-9-104E)
年	2008
月	02
日	03
図名	1階 平面図
建物名	立命館アジア太平洋大学 B II 棟 新研究棟
作成者	立命館 設備部 設備課
承認者	立命館 設備部 設備課



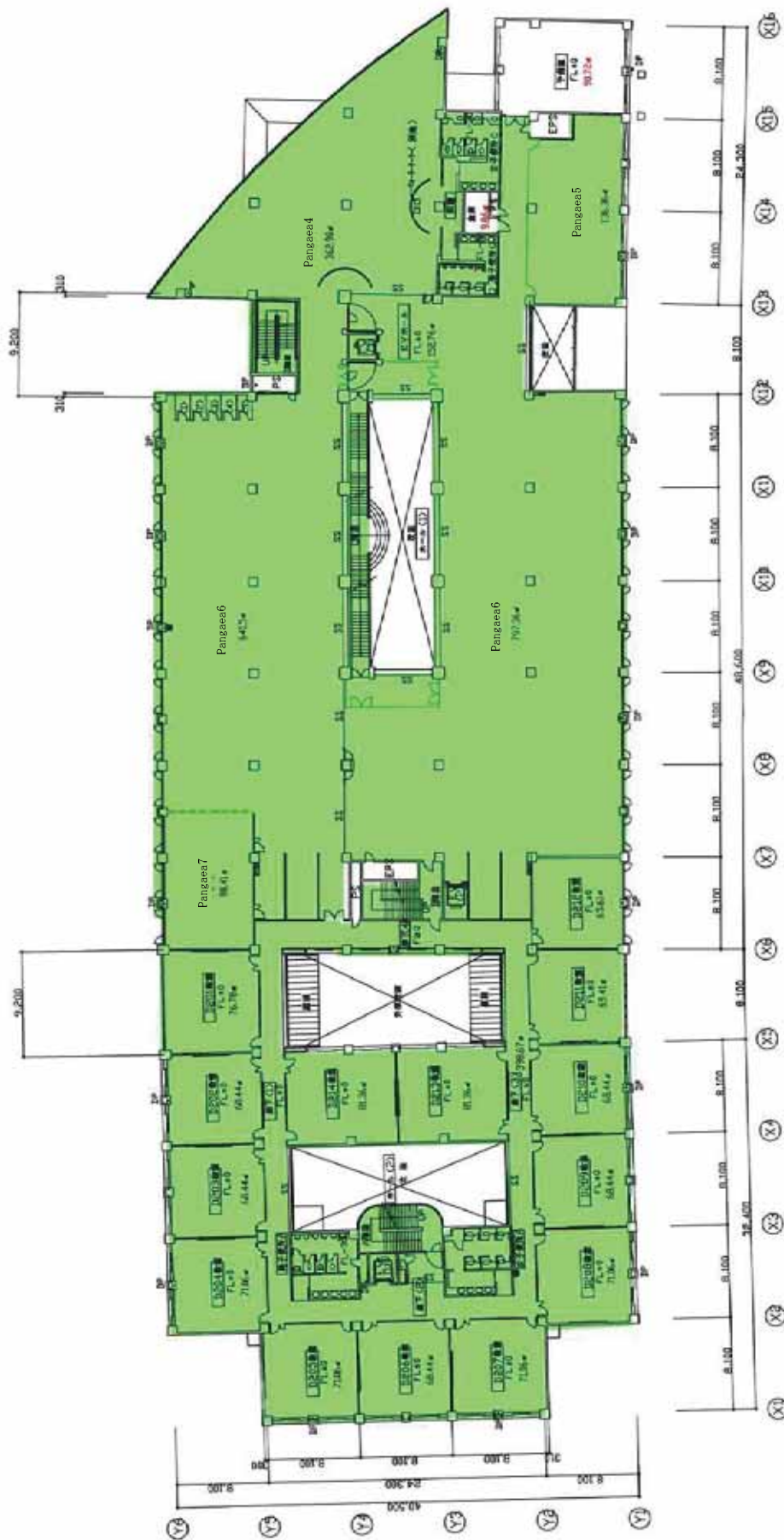
図面 21

更新日	-----	立命館アリアス大学 BII棟 新研究棟	3階 平面図	縮尺 1:250 (A3)	年月日 2008.02.03 (7-9-10編入)	学校法人 立命館 財務部管理課
-----	-------	------------------------	--------	---------------------	---------------------------------	-----------------



図面 22

2011.04	立命館アジア太平洋大学 D棟-メディアルーム (総合情報センター)	1階 平面図	縮尺 1:400 (A3)	年月日 2003.01.29 (ア-3-06B)	設計者 立命館 計画事務所
---------	--------------------------------------	--------	---------------------	--------------------------------	------------------



図面 23

2011.04	立命館アジア太平洋大学 J階-メディアルーム(総合情報センター)	2階 平面図	図 尺 1 : 400 (A3)	年月日 2009.01.29 (P-9-400D)	学校法人 立命館 財務管理課
---------	-------------------------------------	--------	------------------------	---------------------------------	----------------



- 中央廊下 (保留)
 □ 2階廊下 (保留)
 ○ 2階廊下 (保留)
 ⊕ 2階廊下 (保留)
 ⊙ 2階廊下 (保留)

教室棟 2階平面図

2階平面図
(OA) 0A707 H=100
(OA) 0A708 H=1200
0A707 SUS
0A708 SUS
0A709 SUS
0A710 SUS
0A711 SUS
0A712 SUS
0A713 SUS
0A714 SUS
0A715 SUS
0A716 SUS
0A717 SUS
0A718 SUS
0A719 SUS
0A720 SUS
0A721 SUS
0A722 SUS
0A723 SUS
0A724 SUS
0A725 SUS
0A726 SUS
0A727 SUS
0A728 SUS
0A729 SUS
0A730 SUS
0A731 SUS
0A732 SUS
0A733 SUS
0A734 SUS
0A735 SUS
0A736 SUS
0A737 SUS
0A738 SUS
0A739 SUS
0A740 SUS
0A741 SUS
0A742 SUS
0A743 SUS
0A744 SUS
0A745 SUS
0A746 SUS
0A747 SUS
0A748 SUS
0A749 SUS
0A750 SUS
0A751 SUS
0A752 SUS
0A753 SUS
0A754 SUS
0A755 SUS
0A756 SUS
0A757 SUS
0A758 SUS
0A759 SUS
0A760 SUS
0A761 SUS
0A762 SUS
0A763 SUS
0A764 SUS
0A765 SUS
0A766 SUS
0A767 SUS
0A768 SUS
0A769 SUS
0A770 SUS
0A771 SUS
0A772 SUS
0A773 SUS
0A774 SUS
0A775 SUS
0A776 SUS
0A777 SUS
0A778 SUS
0A779 SUS
0A780 SUS
0A781 SUS
0A782 SUS
0A783 SUS
0A784 SUS
0A785 SUS
0A786 SUS
0A787 SUS
0A788 SUS
0A789 SUS
0A790 SUS
0A791 SUS
0A792 SUS
0A793 SUS
0A794 SUS
0A795 SUS
0A796 SUS
0A797 SUS
0A798 SUS
0A799 SUS
0A800 SUS

立命館777太平洋大学設置事業
 F棟-教室棟
 (新築)

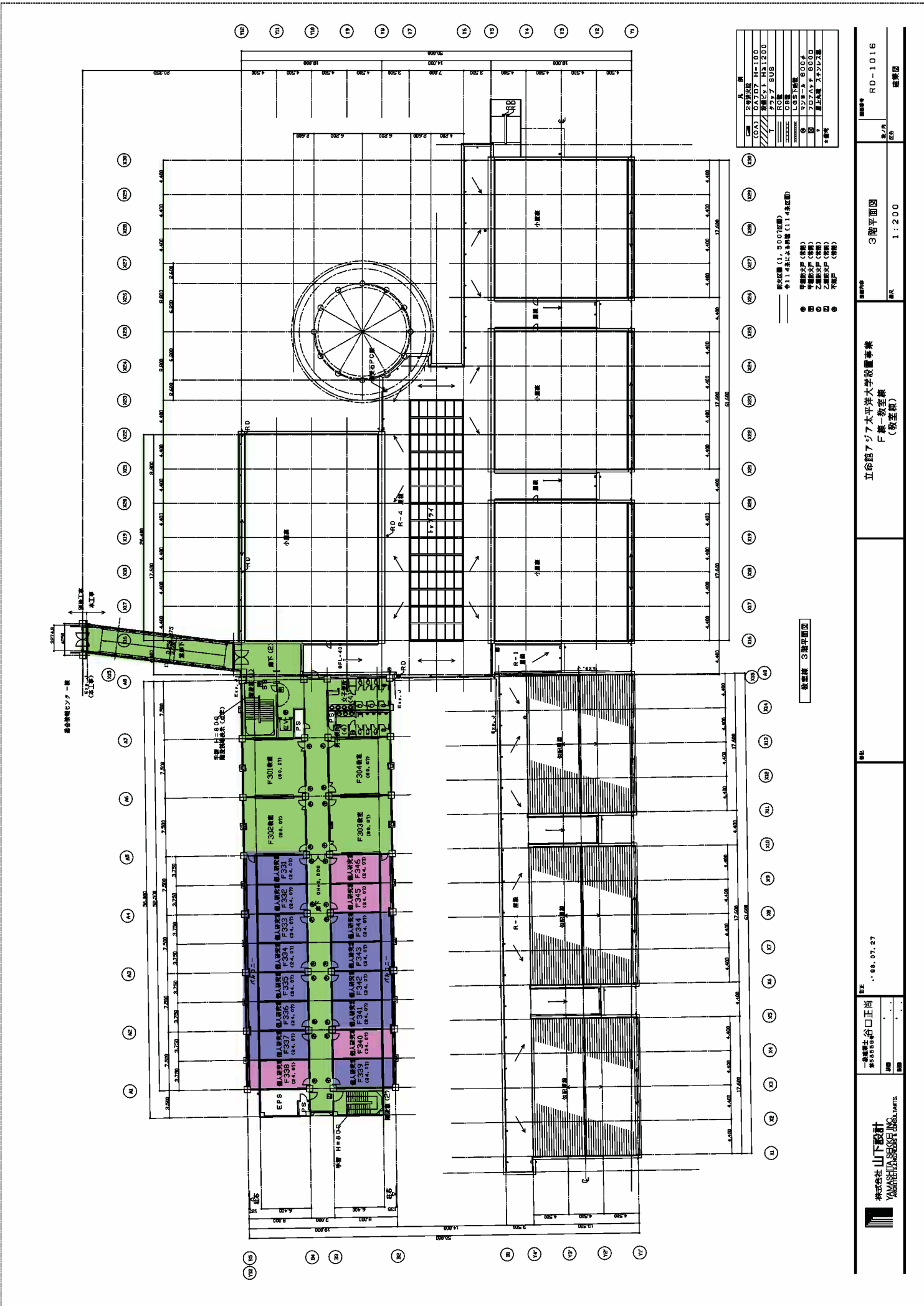
2階平面図

1:200

RD-1015

2008.07.27

株式会社 山下設計
 YAMASHITA DESIGN PARTS



①	24時間換気
②	OA707 H=100
③	断熱ビニル H=1200
④	24時間換気
⑤	24時間換気
⑥	24時間換気
⑦	24時間換気
⑧	24時間換気
⑨	24時間換気
⑩	24時間換気
⑪	24時間換気
⑫	24時間換気
⑬	24時間換気
⑭	24時間換気
⑮	24時間換気
⑯	24時間換気
⑰	24時間換気
⑱	24時間換気
⑲	24時間換気
⑳	24時間換気
㉑	24時間換気
㉒	24時間換気
㉓	24時間換気
㉔	24時間換気
㉕	24時間換気
㉖	24時間換気
㉗	24時間換気
㉘	24時間換気
㉙	24時間換気
㉚	24時間換気
㉛	24時間換気
㉜	24時間換気
㉝	24時間換気
㉞	24時間換気
㉟	24時間換気
㊱	24時間換気
㊲	24時間換気
㊳	24時間換気
㊴	24時間換気
㊵	24時間換気
㊶	24時間換気
㊷	24時間換気
㊸	24時間換気
㊹	24時間換気
㊺	24時間換気
㊻	24時間換気
㊼	24時間換気
㊽	24時間換気
㊾	24時間換気
㊿	24時間換気

- 断熱ビニル (1.5007仕様)
- 断熱ビニル (1.14仕様)
- 中継防火戸 (保冷)
- 遮断防火戸 (保冷)
- 遮断防火戸 (保熱)
- 遮断防火戸 (保熱)
- 不燃戸 (保冷)
- 不燃戸 (保熱)

一級建築士 山下設計
 事務所 山口正尚
 〒565-0855 大阪府吹上区吹上1-1-1
 TEL 06-6541-1111 FAX 06-6541-1112
 E-MAIL info@yamashita-architects.com

1991.07.27

立命館アジア太平洋大学設置事業
 F棟-教室棟
 (教室棟)


3階平面図
 1:200

RD-1016
 建築図

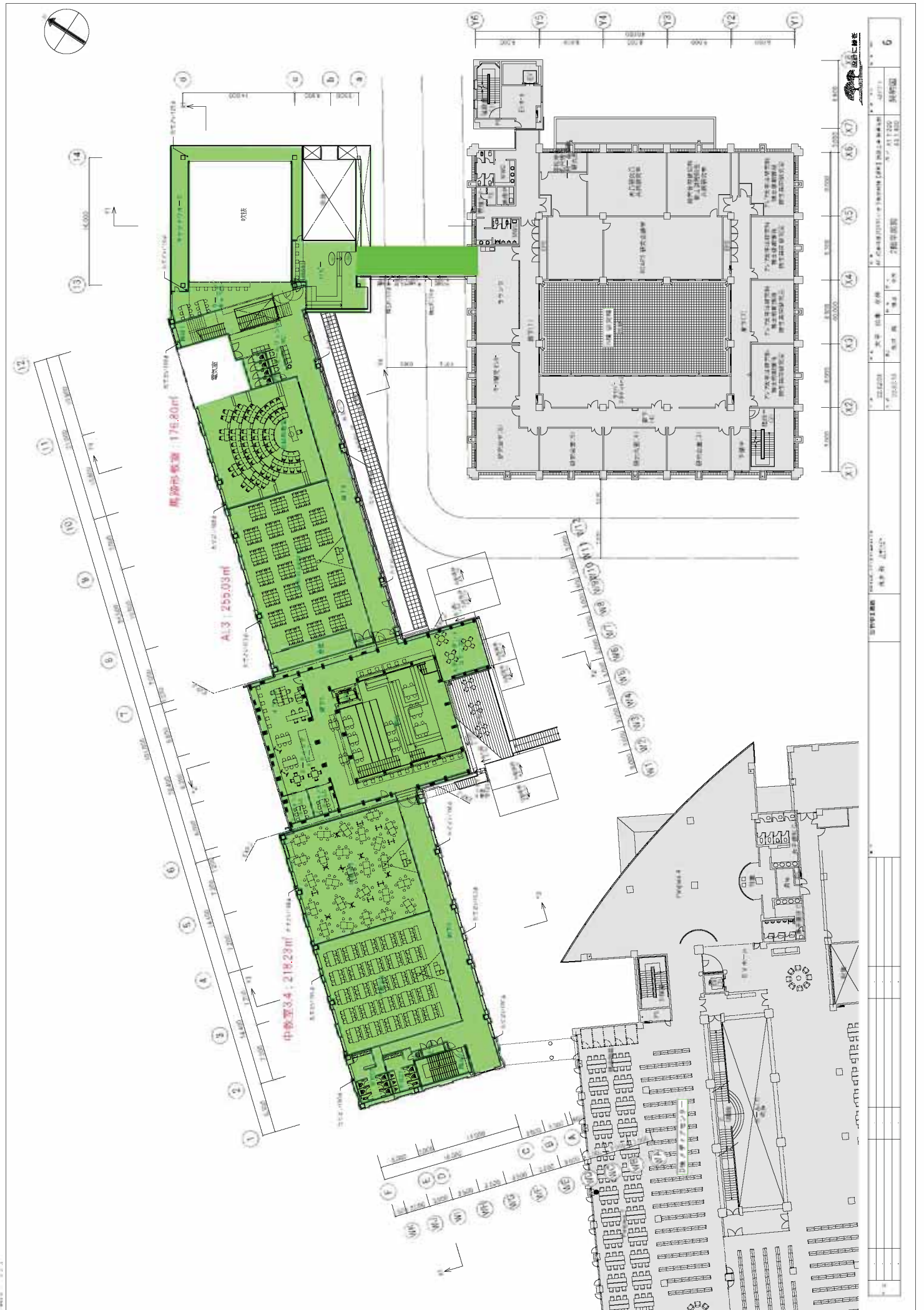
図面 27



10071718-00
 1/200

 株式会社 山下設計 YAMASHITA SEIKEI INC. <small>ARCHITECTURE AND PLANNING</small>	設計者 株式会社 山下設計	図面番号 RL-1011
	設計内容 立命館アジア太平洋大学ニューチャレンジ施設事業に伴う FI棟 教室棟II 建築工事 (新教室棟)	縮尺 1/200

図面 28



图面 33

立命館アジア太平洋大学学則 変更案

[令和5（2023）年4月1日施行]

(令和4（2022）年1月28日 理事会決定)

学校法人 立命館

立命館アジア太平洋大学学則

1999年12月22日

規程第450号

第1章 総則

第1節 目的

(目的)

第1条 本大学は、教育基本法の規定する教育の一般的法則と方法に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深くアジア太平洋に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させることを目的とする。

(自己点検・評価)

第1条の2 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、本大学の目的および社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自己点検および評価を行い、その結果を公表する。

2 本大学は、前項の措置に加え、本大学の教育研究等の総合的な状況について、認証評価機関による認証を受ける。

(情報公開)

第1条の3 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に公開する。

第2節 組織

(学部)

第2条 本大学に、アジア太平洋学部、国際経営学部およびサステイナビリティ観光学部を置く。

2 前項の各学部に置く学科、入学定員、2年次編入学定員、3年次編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	510	5	5	2,065
国際経営学部	国際経営学科	610	5	5	2,465
サステイナビリティ観光学部	サステイナビリティ観光学科	350			1,400

合計	1,470	10	10	5,930
----	-------	----	----	-------

(大学院)

第2条の2 本大学に、大学院アジア太平洋研究科および経営管理研究科を置く。

2 前項の各研究科に置く課程、専攻および入学定員は、次表のとおりとする。

研究科名	専攻名	課程の別	入学定員	収容定員
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士前期課程	15	30
		博士後期課程	10	30
	国際協力政策専攻	博士前期課程	45	90
経営管理研究科	経営管理専攻	修士課程	40	80
合計			110	230

(附属施設および機関)

第3条 本大学に、アジア太平洋研究センター、言語教育センター、総合情報センター、教育開発・学修支援センター、その他の附属施設および機関を置く。

2 各附属施設および機関に関する事項については、立命館アジア太平洋研究センター規程、立命館アジア太平洋大学言語教育センター規程、立命館アジア太平洋大学総合情報センター規程、立命館アジア太平洋大学教育開発・学修支援センター規程に定める。

(学長・副学長・学長特命補佐および学部長・研究科長)

第4条 本大学に、学長および複数名の副学長を置き、各学部学部長、各研究科に研究科長を置く。

2 学長が必要とするときは、学長特命補佐を置くことができる。

3 各学部学部長、各研究科に副研究科長を置くことができる。

(学長・副学長・学長特命補佐および学部長・研究科長の職務および選任等)

第4条の2 学長は、本大学の校務をつかさどり、所属教職員を統督する。

2 副学長は、学長の職務を助ける。副学長は、学長が任命する。任期は3年とし、重任を妨げない。

3 学長に事故あるとき、または学長が欠けたときは、副学長のうち、あらかじめ学長が指名した1人がその職務を代行する。

4 学長特命補佐は、学長が必要と判断する特命業務を担当する。学長特命補佐は、学長が任命する。任期は1年とし、重任を妨げない。

5 学部長は、学部に関する校務をつかさどる。学部長は、学長が任命する。重任を妨げない。

6 学部長に事故あるとき、または学部長が欠けたときは、教授会の構成員の中からあらかじめ

学長が指名した1人がその職務を代行する。

- 7 各学部は、学部長を補佐する副学部長を置くことができる。副学部長は、学長が任命する。任期は3年とし、重任を妨げない。
- 8 研究科長は、大学院研究科に関する校務をつかさどる。研究科長は、学長が任命する。任期は3年とし、重任を妨げない。
- 9 研究科長に事故あるとき、または研究科長が欠けたときは、研究科委員会の構成員の中からあらかじめ学長が指名した1人がその職務を代行する。
- 10 各研究科は、研究科長を補佐する副研究科長を置くことができる。副研究科長は、学長が任命する。
- 11 学長、学部長および研究科長の選任手続は、学校法人立命館寄附行為、立命館アジア太平洋大学教授会規程および立命館アジア太平洋大学大学院研究科委員会規程に定める。

(教職員)

第5条 本大学に、教授、准教授、講師、助教およびその他の職員を置く。

(大学評議会)

第6条 本大学に、大学評議会（本条において以下「評議会」という。）を置く。

2 評議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学長特命補佐
- (4) 学部長
- (5) 研究科長
- (6) 言語教育センター長
- (7) 教育開発・学修支援センター長
- (8) 総合情報センター長
- (9) 立命館アジア太平洋研究センター長
- (10) 教学部長
- (11) 学生部長
- (12) 入学部長
- (13) 就職部長
- (14) 国際協力・研究部長
- (15) 社会連携部長

(16) 事務局長

(17) その他評議会が必要と認める者

- 3 評議会は、必要に応じて前項に掲げる委員以外の教職員を出席させることができる。
- 4 評議会は、学長がこれを招集し、その議長となる。
- 5 評議会は、学長が決定を行うにあたり、次の事項について審議する。
 - (1) 教育、研究、学生支援および大学運営の基本方針に関する事項
 - (2) 本大学の機構、組織および制度に関する事項
 - (3) 教員の人事に関する事項
 - (4) 本大学の内部質保証に関する事項
 - (5) その他、教育、研究、学生支援および大学運営の重要な事項
- 6 評議会の運営等に関する事項については、立命館アジア太平洋大学大学評議会規程に定める。

(教授会)

第7条 本大学に教授会を置く。

- 2 教授会は、教授、准教授、特任講師および助教をもって組織する。
- 3 教授会は、必要に応じて前項に掲げる者以外の教職員を出席させることができる。
- 4 教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学（再入学を除く。）、卒業および学位の授与に関する事項
 - (2) 教育課程の編成に関する事項
 - (3) 教員の雇用および昇任の教育研究業績評価に関する事項
 - (4) 学部、学科等の新設、増設、廃止、変更および学生の定数の変更に関する事項
- 6 教授会は、前項に定める事項のほか、教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じて意見を述べることができる。

7 教授会の運営等に関する事項については、立命館アジア太平洋大学教授会規程に定める。

(研究科委員会)

第7条の2 本大学の各研究科に研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会は、当該研究科において大学院科目担当資格を有し、大学院科目担当資格審査において当該研究科を所属研究科とされた教員をもって組織する。
- 3 研究科委員会は、必要に応じて前項に掲げる者以外の教職員を出席させることができる。
- 4 研究科委員会は、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

5 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 大学院学生の入学（再入学を除く。）、課程の修了および学位の授与
- (2) 教育課程の編成
- (3) 大学院科目担当資格審査の教育研究業績評価
- (4) 研究科、専攻等の新設、増設、廃止、変更および学生の定数の変更

6 研究科委員会は、前項に定める事項のほか、教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じて意見を述べるができる。

7 研究科委員会の運営等に関する事項については、立命館アジア太平洋大学研究科委員会規程に定める。

（教学委員会）

第7条の3 本大学に、教学委員会を置く。

2 教学委員会は、学長が決定を行うにあたり、教学に関する事項を審議する。

3 教学委員会の組織および運営に関する事項は、立命館アジア太平洋大学教学委員会規程に定める。

（学生委員会）

第7条の4 本大学に、学生委員会を置く。

2 学生委員会は、学長が決定を行うにあたり、学生の学籍、賞罰、生活等に関する事項を審議する。

3 学生委員会の組織および運営に関する事項は、立命館アジア太平洋大学学生委員会規程に定める。

（入学試験委員会）

第7条の5 本大学に、入学試験委員会を置く。

2 入学試験委員会は、学長が決定を行うにあたり、入学試験に関する事項を審議する。

3 入学試験委員会の組織および運営に関する事項は、立命館アジア太平洋大学入学試験委員会規程に定める。

第3節 学期および休業日

（学期）

第8条 1年間の学期は次のとおりとする。

春セメスター期 4月1日から9月20日まで

秋セメスター期 9月21日から翌年の3月31日まで

(休業日)

第9条 休業日を次のとおりとする。

- (1) 日曜日および土曜日
- (2) 「国民の祝日に関する法律」で定める日のうち学長が定める日
- (3) 夏期休暇
- (4) 冬期休暇
- (5) 春期休暇

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第2章 正規課程学生

第1節 修業年限および在学年限

(修業年限および標準修業年限)

第10条 学部の修業年限は4年、大学院の博士前期課程および修士課程の標準修業年限は2年、大学院の博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

(在学年限)

第10条の2 学部の在学年限は8年、大学院の博士前期課程および修士課程の在学年限は4年、大学院の博士後期課程の在学年限は6年とする。

2 第14条第1項または第14条の2の規定により入学した学生は、学校教育法第88条に定める修業年限に通算された期間を含めて、前項の在学年限を超えて在学することはできない。

3 第1項において、再入学の場合は退学前の在学期間を通算する。

4 第1項および前項にかかわらず、再入学した大学院博士後期課程の学生の在学年限は、退学から再入学までの期間を含め、6年を上限とする。

第2節 入学

(入学の時期)

第11条 本大学の入学時期は、毎年4月および9月とする。

(入学の資格)

第12条 本大学の学部に入學することができる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、かつ、本大学の入学試験に合格した者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者または通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものと認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で18歳に達した者

第12条の2 本大学大学院の博士前期課程または修士課程に入学することができる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、かつ、本大学の入学試験に合格した者とする。

- (1) 学士の学位を有する者または大学もしくは専門職大学を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 日本において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定した当該教育課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること、および当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって第4号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、22歳に達した者

2 本大学大学院の博士後期課程に入学することができる者は、次の各号の一に該当する資格を有し、かつ、本大学の入学試験に合格した者とする。

- (1) 修士の学位または学位規則に規定する専門職の学位を有する者

- (2) 外国において前号の学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、第1号の学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 日本において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定した当該教育課程を修了し、第1号の学位に相当する学位を授与された者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者
 - (6) 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると学長が認めた者で、24歳に達した者
- (入学志願)

第13条 本大学に入学を志願する者は、入学検定料を納めるとともに、所定の手続を行わなければならない。

(入学試験の合格者の決定)

第13条の2 入学試験の合格者は、教授会の議を経て、学長が決定する。

(入学手続および入学許可)

第13条の3 合格通知を受けた者は、指定された期日までに入学手続書類を提出するとともに、所定の入学金および授業料を納付しなければならない。

2 前項のほか、入学時にAPハウスに入寮する者は、指定された期日までに所定の寮費を納付しなければならない。

3 前2項の入学手続を完了した者に、学長が入学を許可する。

(大学院の志願等)

第13条の4 本大学大学院への志願等については、第13条、第13条の2および第13条の3の規定を準用する。この場合において、第13条の2に「教授会」とあるのは「研究科委員会」に読み替える。

(学部の編入学、転入学および学士入学の資格)

第14条 学長は、本大学の学部に編入学、転入学および学士入学を希望する者がいるときは、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

2 本大学の2年次または3年次に編入学することができる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

- (1) 専門職短期大学を卒業した者、前期課程および後期課程に区分している専門職大学の前期課程を修了した者、または短期大学（外国の短期大学、我が国における、外国の短期大学

相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（短期大学相当）日本校）を含む。）を卒業した者

(2) 高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上、総授業時間数が1,700時間以上または62単位以上であるものに限る。）を終了した者

(4) 修業年限が2年以上その他の文部科学大臣が定める基準を満たす高等学校専攻科修了者

3 本大学の2年次または3年次に転入学することができる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 2年次

大学または専門職大学（外国の大学を含む。）に1年以上在学し、30単位以上修得した者

(2) 3年次

大学または専門職大学（外国の大学を含む。）に2年以上在学し、60単位以上修得した者

4 本大学に学士入学することができる者は、学士の学位を有していなければならない。

（大学院の転入学）

第14条の2 学長は、本大学大学院に転入学、転学を希望する者については、選考のうえ、本大学大学院の相当年次への入学を許可することがある。

（編入学等の志願等）

第14条の3 編入学、転入学および学士入学の志願、選考、入学手続および許可については、第13条、第13条の2および第13条の3の規定を準用する。この場合において、これら規定中「入学」とあるのは「編入学」、「転入学」または「学士入学」に読み替える。

第3節 教育課程および履修方法等

（学部の教育課程の編成方針）

第15条 本大学は、学部および学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程の編成にあたっては、各学部および学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する。

3 この節に定めるもののほか、学部における授業科目の種類および単位数、卒業に必要な単位数等については、各学部別に定める。

（大学院の教育課程の編成方針）

第15条の2 本大学大学院は、研究科および専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程の編成にあたっては、大学院の専攻分野に関する高度の専門的知識および能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的要素を涵養するよう、適切に配慮する。

3 大学院の教育は、授業科目の授業および研究指導によって行う。

4 この節に定めるもののほか、本大学大学院における授業科目、修了に必要な単位数等については、各研究科則で定める。

第15条の3 削除

第15条の4 削除

第15条の5 削除

第15条の6 削除

第15条の7 削除

（授業方法）

第15条の8 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれか、またはこれらの併用により行う。

第15条の9 文部科学大臣が別に定めるところにより、授業科目を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所（外国を含む。）で履修させることができる。

2 前項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えてはならない。

第15条の10 第15条の8の授業を、外国において履修させることができる。

第15条の11 文部科学大臣が別に定めるところにより、第15条の8の授業の一部を、校舎および附属施設以外の場所で行うことができる。

（単位計算方法）

第16条 授業科目の単位数は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ次の基準による。

(1) 講義および演習は、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、言語教育科目は、30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実習、実験および実技は、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。

(3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち二つ以上の方法により行う場合については、その組み合わせに応じて、前2号に規定する基準を考慮して、教

授会の定める時間の授業をもって1単位とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、教授会が単位数を定めることができる。

第16条の2 削除

(単位の授与)

第17条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を授与する。

(他大学等における授業科目の履修等)

第18条 本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学、専門職大学、短期大学または専門職短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前2項の規定は、学生が外国の大学または短期大学（専門職大学または専門職短期大学に相当する外国の大学を含む。）に留学する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第19条 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項および第3項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えてはならない。

(入学前の履修単位等の認定)

第20条 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学、短期大学または専門職短期大学（いずれも外国の大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生制度により修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 本大学が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 編入学、転入学、学士入学および再入学の場合を除き、前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、30単位を超えてはならない。
- 4 編入学、転入学、学士入学および再入学の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第18条および前条第1項、第2項により本大学において修得したものとみなす。

す単位数と合わせて60単位を超えてはならない。

第21条 削除

(大学院の他大学等における授業科目の履修等および入学前の履修単位等の認定)

第21条の2 第18条および第20条の規定は、本大学院においては、授業科目を大学院の授業科目と読み替えて準用する。また、第18条第2項に60単位、第20条第3項に30単位とあるのは15単位と読み替えて準用する。

2 前項の規定により本大学院において修得したものとみなすことのできる単位数は、合わせて20単位を超えないものとする。

(編入学、転入学および学士入学の単位認定)

第21条の3 編入学者、転入学者または学士入学者にあつては、第20条の規定により、入学以前の大学等において修得した単位のうち、2年次入学者にあつては30単位、3年次入学者にあつては62単位を超えない範囲で、本大学において履修し、修得したものとみなすことができる。

第21条の4 本大学院への編入学者、転入学者にあつては、第21条の2の規定により、入学する前に大学院において修得した授業科目のうち、本大学院の修了に必要な単位数の2分の1を超えない範囲で、本大学院において履修し、修得したものとみなすことができる。

第22条 削除

(履修登録上限単位数)

第22条の2 学生が1年間または1セメスターに履修登録できる単位数の上限は、立命館アジア太平洋大学教務規程に定める。

第23条 削除

第4節 休学、復学、退学、再入学、転学、転籍、留学および除籍

(休学)

第24条 病気、経済的事情、海外渡航、その他やむを得ない理由により3か月を超えて学業を継続することができない者は、休学を願い出ることができる。

2 休学を願い出る者は、申請時に休学審査・事務手数料および在籍料を納めなければならない。

3 休学を願い出た者に対して、学長は、学生委員会の議を経て、休学を許可することができる。

4 学長は伝染病またはその他の病気のため、大学での学修が適当でないと認められる者に対しては、休学を命ずることができる。

- 5 休学期間は、セメスター期を単位とする。
- 6 休学期間は、引き続いて4セメスター期を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、引き続きさらに4セメスター期の範囲内で休学を許可することがある。
- 7 休学期間は、在学期間に算入しない。
- 8 休学する者は、休学期間に応じて在籍料を納めなければならない。

(復学)

第24条の2 休学している者が復学を願い出たときは、学長は、学生委員会の議を経て、復学を許可することができる。

(退学の許可)

第24条の3 退学しようとする者は、学長の許可を得なければならない。

(再入学)

第24条の4 退学となった者または第29条第7号で除籍となった者が再入学を願い出たときは、学生委員会の議を経て、学長はこれを許可することができる。ただし、第32条の3により退学処分となった者の再入学は認めない。

- 2 前項にかかわらず、退学日または除籍日を含むセメスター期の最終日の翌日から起算して3年間を経過した以降は、再入学を認めない。
- 3 再入学を願い出る者は、申請時に再入学審査・事務手数料を納めなければならない。
- 4 再入学の許可を受けた者は、指定された期日までに所定の入学金を納付しなければならない。

(転学)

第25条 学生が他の大学または専門職大学に転学を志願するときは、学生委員会の議を経て、学長がこれを許可することができる。

(転籍)

第26条 学部の学生で他の学部で転籍を志願する者については、2回生または3回生から同じ回生への転籍に限り、教学委員会の議を経て、学長がこれを許可することがある。

- 2 大学院の学生で他の専攻に転籍を志願する者については、第2セメスターから同じセメスターへの転籍に限り、教学委員会の議を経て、学長がこれを許可することがある。ただし、他の研究科への転籍は認めない。
- 3 転籍を願い出る者は、申請時に転籍選考手数料を納めなければならない。

(留学)

第26条の2 学生が、日本国内または国外の大学もしくはそれに相当する国外の高等教育機関

で、本大学との協定または合意にもとづき、正規の授業等を受けること（以下「留学」という。）を志願するときは、これを許可することがある。

第27条 留学を志願する者があつたときは、教学委員会の議を経て、学長がこれを許可する。

2 留学期間は、在学期間に算入する。

（二重学籍の禁止）

第28条 学生は、本大学および他の大学において学位を取得することを目的とする課程に同時に在籍することはできない。ただし、本大学と海外の大学との共同学位に係る協定による場合は、この限りではない。

（除籍）

第29条 次の各号のいずれかに該当する学生は、学生委員会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 入学手続完了者のうち就学の意思がないと認められる者
- (2) 第10条の2に定める在学年限を超えた者
- (3) 前条で禁止する二重学籍の者
- (4) 3か月以上行方不明の者
- (5) 死亡した者
- (6) 出入国管理及び難民認定法に定める「留学」の在留資格の入国査証を取得見込みであつた学生のうち、査証の発給が拒否された者
- (7) 授業料または在籍料を納めない者

第5節 卒業、修了および学位

（卒業および学位）

第30条 学長は、本大学の学部第10条に規定する修業年限以上の期間在学し、学部則に定める卒業に必要な単位数を修得した者について卒業を認定する。

2 前項にかかわらず、学長は、本大学の学部第3年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得した者について卒業を認定することができる。

3 学長は、前2項の要件を満たす者に学士の学位を授与する。

第30条の2 削除

第30条の3 削除

（博士前期課程ならびに修士課程の修了および学位）

第31条 学長は、本大学大学院の博士前期課程または修士課程に2年以上在学し、研究科則に定める修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該博士前期課程または修士課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および試験に合

格した者について修了を認定する。

- 2 前項にかかわらず、学長は、優れた業績を上げた者については、本大学大学院の博士前期課程または修士課程に1年以上在学し、研究科則に定める単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該博士前期課程または修士課程の目的に応じ、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査および試験に合格した者について修了を認定する。
- 3 第21条の2の規定により、本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学大学院の博士前期課程または修士課程に入学する前に修得した単位（学校教育法第102条第1項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り。）を、本大学院において修得したものとみなす場合であって、現に在籍している課程の教育課程の一部を修得したものとみなす場合は、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、博士前期課程ならびに修士課程については、当該課程に少なくとも1年以上在学するものとする。
- 4 学長は、第1項または第2項の要件を満たす者に修士の学位を授与する。

（博士後期課程の修了および学位）

第31条の2 学長は、本大学大学院の博士後期課程に3年（専門職大学設置基準第18条第1項の法科大学院の課程を修了した者にあつては2年）以上在学し、研究科則に定める修了に必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格した者について修了を認定する。

- 2 前項にかかわらず、学長は、優れた業績を上げた者については、1年（標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程および専門職学位課程を修了した者にあつては3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間とし、大学院設置基準第16条ただし書の規定による在学期間をもって博士前期課程または修士課程を修了した者にあつては3年から当該課程における在学期間（2年を限度とする）を減じた期間とする。）以上在学し、研究科則に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格した者について修了を認定する。
- 3 第1項にかかわらず、優れた業績により博士前期課程または修士課程を1年以上の在学で修了した者の在学期間については、博士前期課程または修士課程における在学期間に3年を加えた期間とする。ただし、優れた業績を上げた者については、3年（博士前期課程または修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りる。
- 4 第1項にかかわらず、学校教育法施行規則第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した

場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、研究科則に定める単位を修得し必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間については、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りる。

5 学長は、前4項の要件のいずれかを満たす者に、博士の学位を授与する。

第31条の3 学位および学位の授与に関する事項は、立命館アジア太平洋大学学位規程に定める。

第6節 賞罰

第32条 削除

(表彰)

第32条の2 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第32条の3 学生が、次の各号の懲戒の対象となるいずれかの行為を行った場合は、学生委員会の議を経て、学長が懲戒する。

- (1) 立命館アジア太平洋大学教務規程第72条に該当する行為
- (2) 情報倫理、個人情報保護の取扱いに反する行為
- (3) 学生の学習、研究および教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為
- (4) ハラスメント行為
- (5) 社会的秩序に対する侵犯行為（犯罪行為）
- (6) その他本大学等の規則に違反し、または学生の本分に反する行為

2 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程に従う。

3 懲戒は、退学、停学および戒告とする。

4 停学期間は、在学期間に算入し、修業年限に算入しない。ただし、停学期間が3か月以内の場合は、修業年限に算入することができる。

5 懲戒の手続に関する事項は、立命館アジア太平洋大学学生懲戒規程に定める。

第7節 厚生施設

第33条 本大学に居住およびセミナーのための施設としてAPハウスを置く。

2 APハウスに居住する者は、寮費を納めなければならない。

第34条 削除

第35条 削除

第36条 削除

第37条 削除

第3章 非正規生

(非正規生)

第38条 本大学に聴講生、科目等履修生、研修生、研究生および特別聴講学生を受け入れるための制度を置く。

(聴講生)

第39条 本大学の特定科目の聴講を希望する者があるときは、教学委員会の議を経て、学長が聴講生としてこれを許可することがある。

2 聴講生を志願する者は、選考手数料を指定された期日までに納めなければならない。

(科目等履修生)

第40条 本大学の特定科目を履修し、その単位の修得を希望する者があるときは、教学委員会の議を経て、学長が科目等履修生としてこれを許可することがある。

2 科目等履修生を志願する者は、選考手数料を指定された期日までに納めなければならない。

(特別聴講学生)

第41条 他の大学または短期大学の学生で、本大学と当該他大学等との協定または合意に基づき、本大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、学長は、教学委員会の議を経て、特別聴講学生としてこれを許可することがある。

2 特別聴講学生を志願する者は、選考手数料を指定された期日までに納めなければならない。

(研修生、研究生)

第41条の2 本大学において研究を行うことを希望する者があるときは、教学委員会の議を経て、学長が研修生または研究生として研究を許可することがある。

2 研修生および研究生を志願する者は、選考手数料を指定された期日までに納めなければならない。

第41条の3 削除

(非正規生の資格および単位授与等)

第42条 聴講生となることができる者の資格は、これを制限しない。また、単位の授与はこれを行わない。

2 科目等履修生または特別聴講学生となることができる者は、学部にあつては、第12条の入学資格を有する者または学長が特に認めた者、大学院にあつては、第12条の2の入学資格を有する者または当該授業科目を履修するに必要な学力があると学長が認めた者とする。科目等履修生が、当該授業科目を履修し、試験に合格した場合は、所定の単位を授与する。

3 研修生となることができる者は、本大学大学院の修士の学位を授与された者で、さらに本大

学において研究の継続を希望する者、または他大学大学院の修士の学位を取得している者で、本大学において研究の継続を希望し、かつ、本大学大学院の博士後期課程への入学を志望する者とする。

- 4 研究生となることができる者は、本大学大学院の博士後期課程において所定の単位を修得しているが、博士学位論文審査に合格していないために、博士の学位を取得していない者で、さらに本大学で研究の継続を希望し、かつ、博士学位の取得をめざす者とする。

第43条 削除

第4章 奨学生制度

第44条 本大学に奨学生制度を設け、学業、人物ともに優秀な者に奨学金を支給する。

- 2 奨学生に関する規程は、別に定める。

第5章 学生納付金

第45条 削除

(入学金)

第45条の2 入学金は、別表6に定める。

(学部学生の授業料)

第45条の3 学部学生の授業料は、 Semesterごとに、授業料A（固定授業料。別表7—1に定めるとおり。）および授業料B（別表7—2に定めるとおり。）の合計額とする。

- 2 前項にかかわらず、第9 Semester期以上の者の授業料Aは半額とし、授業料Bは履修登録した単位数に別表7—3に定める単位数を乗じた金額とする。

(大学院学生の授業料)

第45条の4 大学院学生の授業料は、 Semesterごとに、アジア太平洋研究科博士前期課程の授業料を別表8—1、アジア太平洋研究科博士後期課程の授業料を別表8—2および経営管理研究科修士課程の授業料を別表8—3のとおりとする。

- 2 前項にかかわらず、標準修業年限を超えて在学する者の授業料は、別表8—1から別表8—3のそれぞれの下記大学院学生以外の最終 Semesterに定める額の半額とする。
- 3 前2項にかかわらず、博士後期課程において、博士論文以外の修了要件を満たした者であって、課程博士学位取得のために標準修業年限を越えて在学する者の授業料は、別表8—4に定める。

(授業料等の納付)

第46条 学生は、 Semester期ごとに定める期日までに授業料を納付しなければならない。

- 2 学費とは、入学金および授業料をいう。

(停学に関わる授業料の納付)

第46条の2 学生は、停学期間中であっても、授業料を納付しなければならない。

- 2 停学処分を受け、卒業日または修了日が延期された学生は、卒業日または修了日を含むセメスター期の授業料を納付しなければならない。

(非正規生の登録料等)

第46条の3 聴講生に許可された者は、指定された期日までに登録料および聴講料を納めなければならない。

- 2 科目等履修生に許可された者は、指定された期日までに登録料および科目等履修料を納めなければならない。
- 3 特別聴講学生に許可された者は、指定された期日までに登録料および科目等履修料を納めなければならない。
- 4 研修生に許可された者は、指定された期日までに登録料および研修生料を納めなければならない。
- 5 研究生に許可された者は、指定された期日までに登録料および研究生料を納めなければならない。

第47条 削除

第48条 削除

第49条 削除

第50条 削除

(授業料、その他学生納付金の返還)

第51条 既に納めた入学検定料、授業料、その他学生納付金は、返還しない。

- 2 前項にかかわらず、次の期日までに入学しないことを申し出た場合は、入学金を除く納付金から返還に必要な実費を差し引いた額を返還する。

(1) 4月に入学を予定する者 3月31日まで

(2) 9月に入学を予定する者 9月20日まで

- 3 第1項にかかわらず、退学または除籍となった者が、退学または除籍となったセメスターより後のセメスターの授業料を前もって納めていた場合、返還に必要な実費を差し引いた額を返還することがある。

- 4 第1項にかかわらず、休学願が不許可になった場合は、休学を申請した学生に在籍料を返還する。

(免除または減免)

第51条の2 入学検定料、授業料その他学生納付金は、免除または減免を行うことがある。

第51条の3 この学則に定めるもののほか、入学検定料、入学金、授業料、その他学生納付金に関する事項は、立命館アジア太平洋大学学費等納付金規程に定める。

第51条の4 この学則に定めるもののほか、入学、休学、復学、退学、再入学、転籍、留学、除籍および非正規生に関する事項は、立命館アジア太平洋大学教務規程に定める。

第51条の5 この学則に定めるもののほか、APハウスに関する事項は、立命館アジア太平洋大学APハウス規程および立命館アジア太平洋大学セミナーハウス利用規程に定める。

第6章 改廃規程

第52条 この学則の改廃は、大学評議会の議を経て、理事会が行う。

附 則

本学則は、2000年4月1日から施行する。ただし、第2条の収容定員は次のとおりとする。

2000年度：アジア太平洋学部—400名、アジア太平洋マネジメント学部—400名

2001年度：アジア太平洋学部—820名、アジア太平洋マネジメント学部—820名

2002年度：アジア太平洋学部—1,300名、アジア太平洋マネジメント学部—1,300名

附 則（2000年5月12日早期卒業制度の実施に伴う一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行し、2000年度入学者から適用する。

附 則（2002年4月5日大学院設置等に伴う一部変更等）

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、第2条の2の収容定員は次のとおりとする。

2003年度：

アジア太平洋研究科

博士前期課程

アジア太平洋学専攻 15名

国際協力政策専攻 45名

博士後期課程

アジア太平洋学専攻 10名

経営管理研究科

修士課程

経営管理専攻 40名

2004年度：

アジア太平洋研究科

博士後期課程

アジア太平洋学専攻 20名

附 則（2002年6月7日大学院開講科目の追加等に伴う一部変更）

この学則は、2003年4月1日から施行する。

附 則（2003年2月4日大学設置基準等の法令の改正等並びに学期の期間変更並びに言語教育センター及びAPハウスの名称の明記並びに大学院開設並びに研修生制度、研究生制度及び大学院科目等履修生制度の設置に伴う一部変更並びに大学院開講科目の追加及び修了要件変更に伴う別表2及び別表4の一部変更）

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、学期期間の変更については2000年度入学者より適用する。

附 則（2004年1月20日2004年度学部カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行する。ただし、2003年度以前の入学生にもその一部を適用する。

附 則（2004年2月3日執行部体制強化に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則（2003年6月17日大学評議会および2004年3月5日文部科学省届出による入学定員および編入学定員の変更に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則（2005年2月1日立命館大学理工系学部との連携プログラム実施に伴う一部変更）

この学則は、2005年4月1日から施行する。

附 則（2005年2月1日大学院経営管理研究科カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2005年4月1日から施行する。

附 則（2006年1月27日学費納付規程に記載されている学費額を立命館アジア太平洋大学学則へ記載変更する。また、立命館アジア太平洋大学の2006年度学費額変更に伴い一部変更する。）

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則（2006年2月7日学校教育法等の一部改正、収容定員増の学則変更の認可、学部カリキュラム改革等に伴う一部変更）

この学則は、2006年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の収容定員は次のとおりとする。

2006年度：

アジア太平洋学部—1,985名

アジア太平洋マネジメント学部—1,935名

2007年度：

アジア太平洋学部—2,190名

アジア太平洋マネジメント学部—2,090名

2008年度：

アジア太平洋学部—2,395名

アジア太平洋マネジメント学部—2,245名

附 則（立命館アジア太平洋大学の2007年度学費額改定及び入学金の取扱いの変更に伴う一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、立命館アジア太平洋大学、立命館大学（両大学各学部および研究科）出身者の入学金については2006年度秋入学者から適用する。

附 則（2006年12月12日 学校教育法等の一部改正に伴う一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則（2007年3月28日 大学院設置基準の一部改正、大学院カリキュラム改革等に伴う一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則（2007年11月30日立命館アジア太平洋大学の2008年度学費額改定に伴う別表の一部変更）

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則（2008年3月11日アジア太平洋マネジメント学部の学部学科名称変更に伴う一部変更）

この学則は、2009年4月1日から施行する。

（アジア太平洋マネジメント学部アジア太平洋マネジメント学科の存続に関する経過措置）

アジア太平洋マネジメント学部アジア太平洋マネジメント学科は、変更後の学則第2条第1項及び同条第2項の規定にかかわらず、2009年3月31日に当該学部学科に在学する者が、当該学部学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則（2008年3月28日立命館アジア太平洋大学2008年度学費額改定に伴う別表の一部変更）

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則（2008年11月28日立命館アジア太平洋大学の2009年度学費額変更に伴う一部変更）

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則（2009年3月10日国際経営学部の学位名称変更に伴う一部変更、学部の教育研究上の目的記載に伴う一部変更、大学院科目の新設に伴う一部変更、メディアを利用した科目の取り扱いについての規定等に伴う一部変更）

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則（2009年5月12日 アジア太平洋学部および国際経営学部における2年次編入学定員および3年次編入学定員の設定に伴う一部変更）

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則（2009年12月8日教務規程からの移行等に伴う一部変更）

この規程は、2010年4月1日から施行する。

附 則（2010年3月26日 2010年度学費額改定に伴う一部変更）

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則（2010年5月11日 アジア太平洋学部および国際経営学部の入学定員および収容定員の変更に伴う一部変更）

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則（2011年3月25日 学部カリキュラム改革等に伴う一部変更）

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則（2011年3月25日 2010年5月11日の定員変更に伴う経過措置の追加）

第2条第2項の完成年度までの収容定員の経過措置は次のとおりとする。

2011年度

アジア太平洋学部—2,585名

国際経営学部—2,439名

2012年度

アジア太平洋学部—2,557名

国際経営学部—2,460名

2013年度

アジア太平洋学部—2,525名

国際経営学部—2,475名

附 則（2011年4月12日 入学定員、編入学定員および収容定員の変更に伴う一部変更）

更)

この学則は、2012年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の収容定員は、次のとおりとする。

2012年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科—2,557名

国際経営学部国際経営学科—2,481名

2013年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科—2,525名

国際経営学部国際経営学科—2,517名

2014年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科—2,490名

国際経営学部国際経営学科—2,543名

附 則 (2012年2月14日 除籍要件の一部変更)

この規程は、2012年4月1日から施行する。

附 則 (2014年3月18日 2014年度大学院教育課程の変更に伴う一部変更)

この学則は、2014年4月1日から施行する。ただし2014年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

附 則 (2015年3月27日 学費等納付金の改正、APハウスの規程改正、学校教育法等改正および上級講師規程廃止等に伴う一部変更)

この学則は、2015年4月1日から施行する。ただし、第45条の3にかかわらず、2014年9月21日までに入学した学部学生の授業料は、次の通りとする。

(1) 学部学生の授業料

授業料 種別	対象	金額 (1 Semester 期)			
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
授業料 A	全学部学生	342,000円	342,000円	342,000円	342,000円
授業料 B	下記学部学生以外	307,500円	307,500円	369,000円	369,000円
	2回生次編入・転 入			369,000円	369,000円
	3回生次編入・転 入				

2回生早期卒業切替	307,500円	307,500円	492,000円	492,000円
3回生早期卒業切替	307,500円	307,500円	369,000円	369,000円
2回生次編入・転入			369,000円	369,000円
3回生早期卒業切替				

授業料種別	対象	金額（1セメスター期）			
		第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
授業料A	全学部学生	342,000円	342,000円	342,000円	342,000円
授業料B	下記学部学生以外	369,000円	369,000円	225,500円	225,500円
	2回生次編入・転入	369,000円	369,000円	225,500円	225,500円
	3回生次編入・転入	369,000円	369,000円	266,500円	266,500円
	2回生早期卒業切替	471,500円	471,500円		
	3回生早期卒業切替	594,500円	594,500円		
	2回生次編入・転入 3回生早期卒業切替	594,500円	594,500円		

(2) 授業料Bは、次の表1の1単位あたりの単位料に、表2のセメスター単位数を乗じた金額

表1

項目	金額
1単位あたりの単位料	20,500円

表2

セメスター	第1セメ スター	第2セメ スター	第3セメ スター	第4セメ スター	第5セメ スター	第6セメ スター	第7セメ スター	第8セメ スター
下記学部学生以外	15	15	18	18	18	18	11	11
2回生次編入・転 入			18	18	18	18	11	11
3回生次編入・転 入					18	18	13	13
2回生早期卒業切 替	15	15	24	24	23	23		
3回生早期卒業切 替	15	15	18	18	29	29		
2回生次編入・転 入 3回生早期卒業切 替			18	18	29	29		

(3) 第9セメスター期以上の者の授業料Aは、第8セメスター期の授業料Aの半額とし、授業料Bは履修登録した単位数分に20,500円を乗じた金額とする。

附 則 (2016年1月22日 入学定員および収容定員の変更に伴う一部変更)

この学則は、2017年4月1日から施行する。ただし、変更後の第2条第2項にかかわらず、2017年度から2019年度までの収容定員は、次のとおりとする。

2017年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科－2,532名

国際経営学部国際経営学科－2,588名

2018年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科－2,592名

国際経営学部国際経営学科－2,648名

2019年度

アジア太平洋学部アジア太平洋学科－2,652名

国際経営学部国際経営学科－2,708名

附 則 (2016年3月25日 研究科委員会の構成員の資格の変更、除籍の対象の変更等に伴う一部変更)

この学則は、2016年4月1日から施行する。

附 則（2017年3月24日 カリキュラム改革等に伴う一部変更）

この学則は、2017年4月1日から施行する。ただし、2017年3月31日以前に入学した者については、変更後の第15条から第15条の4までは変更前の第15条に、変更後の第15条の2および第15条の4別表1は変更前の第15条別表1に、変更後の第30条の2および第30条の3は変更前の第30条および同条別表3に、それぞれ読み替えて適用する。

附 則（2018年11月30日 専門職大学、専門職短期大学の制度化に伴う一部変更）

この学則は2019年4月1日より施行する。

附 則（2019年4月26日 自由科目の追加および科目の新設に伴う一部変更）

- 1 この学則は2019年4月26日より施行し、2019年4月1日から適用する。
- 2 前項にかかわらず、2017年3月31日に在籍する学生については、なお従前の例による。

附 則（2019年10月25日 授業料等納付金の改定に伴う一部変更）

この学則は、2020年4月1日から施行する。ただし、第45条から第45条の4までの規定にかかわらず、2015年4月1日から2020年3月31日までに入学した学部学生および大学院生の入学金および授業料は次のとおりとする。

(1) 入学金

項目	金額
入学、編入学、転入学	130,000円
再入学	13,000円

(2) 学部学生の授業料

授業料 種別	対象	金額（1 Semester 期）			
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
授業料 A	全学部学生	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円
授業料 B	下記学部学生以外	294,000円	294,000円	336,000円	336,000円
	2回生次編入・転 入			336,000円	336,000円
	3回生次編入・転 入				
	2回生早期卒業切 替	294,000円	294,000円	504,000円	504,000円

	3回生早期卒業切替	294,000円	294,000円	336,000円	336,000円
	2回生次編入・転入 3回生早期卒業切替			336,000円	336,000円

授業料種別	対象	金額 (1セメスター期)			
		第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
授業料A	全学部学生	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円
授業料B	下記学部学生以外	336,000円	336,000円	336,000円	336,000円
	2回生次編入・転入	336,000円	336,000円	336,000円	336,000円
	3回生次編入・転入	336,000円	336,000円	336,000円	336,000円
	2回生早期卒業切替	504,000円	504,000円		
	3回生早期卒業切替	672,000円	672,000円		
	2回生次編入・転入 3回生早期卒業切替	672,000円	672,000円		

(3) 授業料Bは、次の表1の1単位あたりの単位料に、表2のセメスター単位数を乗じた金額

表1

項目	金額
1単位あたりの単位料	21,000円

表2

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

下記学部学生以外	14	14	16	16	16	16	16	16
2回生次編入・転入			16	16	16	16	16	16
3回生次編入・転入					16	16	16	16
2回生早期卒業代替	14	14	24	24	24	24		
3回生早期卒業代替	14	14	16	16	32	32		
2回生次編入・転入 3回生早期卒業代替			16	16	32	32		

(4) 第9セメスター期以上の者の授業料Aは、第8セメスター期の授業料Aの半額とし、授業料Bは履修登録した単位数分に21,000円を乗じた金額とする。

(5) アジア太平洋研究科博士前期課程授業料

対象	金額 (1セメスター期)			
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
下記大学院生以外	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円
早期修了 (1.5年)	700,000円	700,000円	1,400,000円	
早期修了 (1年)	700,000円	2,100,000円		

(6) アジア太平洋研究科博士後期課程授業料

対象	金額 (1セメスター期)					
	第1セメスタ ー	第2セメスタ ー	第3セメスタ ー	第4セメスタ ー	第5セメスタ ー	第6セメスタ ー
下記大学 院生以外	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円
早期修了 (2年)	1,400,000円	1,400,000円	700,000円	700,000円		

(7) 経営管理研究科授業料

対象	金額 (1セメスター期)

	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
下記大学院生以外	900,000円	900,000円	900,000円	900,000円
早期修了 (1.5年)	900,000円	900,000円	1,800,000円	

(8) 第45条の4 第3項に関わる博士後期課程の授業料

対象	金額 (1 Semester 期)
標準修業年限を越えて在学し、博士論文以外の修了要件を満たした者の授業料	100,000円

附 則 (2020年1月24日 アジア太平洋学部学則、国際経営学部学則、アジア太平洋研究科研究科則および経営管理研究科研究科則の制定ならびに立命館アジア太平洋大学教務規程、立命館アジア太平洋大学学費等納付金規程および立命館アジア太平洋大学学位規程と学則の整理に伴う一部変更)

この学則は、2020年4月1日より施行する。

附 則 (2021年3月26日 大学院設置基準の一部改正、懲戒の対象とする行為の追加、再入学資格および除籍対象の追加ならびに未納退学の削除に伴う一部変更)

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附 則 (2022年1月28日 大学評議会の審議事項に内部質保証を明記することに伴う一部変更)

この学則は、2022年4月1日から施行する。

附 則 (2022年1月28日 サステイナビリティ観光学部の設置に伴う一部変更)

- 1 この学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 変更後の第2条第2項にかかわらず、2023年度から2025年度までのアジア太平洋学部、国際経営学部およびサステイナビリティ観光学部の収容定員および収容定員の合計は、次表のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	2,542	2,372	2,215
国際経営学部	国際経営学科	2,675	2,582	2,515
サステイナビリティ観光学部	サステイナビリティ観光学科	350	700	1,050
収容定員の合計		5,567	5,654	5,780

別表1 (削除)

別表2—(1) (削除)

別表2—(2) (削除)

別表2—(3) (削除)

別表 3 (削除)

別表 4 (削除)

別表 5 (削除)

別表 6 入学金

項目	金額
入学、編入学、転入学	200,000円
再入学	20,000円

別表 7-1 授業料A (固定授業料)

項目	金額
授業料A	380,000円 (1 Semester期)

別表 7-2 学部学生授業料

授業料 種別	対象	金額 (1 Semester期)			
		第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
授業料 A	全学部学生	380,000円	380,000円	380,000円	380,000円
授業料 B	下記学部学生以外	270,000円	270,000円	370,000円	370,000円
	2回生次編入・転 入			370,000円	370,000円
	3回生次編入・転 入				
	2回生早期卒業切 替	270,000円	270,000円	555,000円	555,000円
	3回生早期卒業切 替	270,000円	270,000円	370,000円	370,000円
	2回生次編入・転 入 3回生早期卒業切 替			370,000円	370,000円

授業料 種別	対象	金額 (1 Semester期)			
		第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester

授業料 A	全学部学生	380,000円	380,000円	380,000円	380,000円
授業料 B	下記学部学生以外	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円
	2回生次編入・転入	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円
	3回生次編入・転入	370,000円	370,000円	370,000円	370,000円
	2回生早期卒業切替	555,000円	555,000円		
	3回生早期卒業切替	740,000円	740,000円		
	2回生次編入・転入 3回生早期卒業切替	740,000円	740,000円		

別表 7-3 1単位あたりの単位料

項目	金額
1単位あたりの単位料	22,500円

別表 8-1 アジア太平洋研究科博士前期課程授業料

対象	金額 (1セメスター期)			
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター
下記大学院学生以外	650,000円	650,000円	750,000円	750,000円
早期修了 (1.5年)	650,000円	650,000円	1,500,000円	
早期修了 (1年)	650,000円	2,150,000円		

別表 8-2 アジア太平洋研究科博士後期課程授業料

対象	金額 (1セメスター期)					
	第1セメスタ ー	第2セメスタ ー	第3セメスタ ー	第4セメスタ ー	第5セメスタ ー	第6セメスタ ー
下記大学 院学生以 外	650,000円	650,000円	750,000円	750,000円	750,000円	750,000円

早期修了 (2年)	1,400,000円	1,400,000円	750,000円	750,000円		
--------------	------------	------------	----------	----------	--	--

別表 8-3 経営管理研究科授業料

対象	金額 (1 Semester 期)			
	第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
下記大学院学生以外	900,000円	900,000円	1,000,000円	1,000,000円
早期修了 (1.5年)	900,000円	900,000円	2,000,000円	

別表 8-4 第45条の4第3項にかかわる博士後期課程の授業料

対象	金額 (1 Semester 期)
標準修業年限を越えて在学し、博士論文以外の修了要件を満たした者の授業料	100,000円

変更事項を記載した書類

下記のとおり立命館アジア太平洋大学学則の一部変更を行う。

1. 変更理由

- (1) サステナビリティ観光学部サステナビリティ観光学科の設置にともなう変更
- (2) アジア太平洋部アジア太平洋学科および国際経営学部国際経営学科の入学定員、2年次編入学定員、3年次編入学定員および収容定員を変更することに伴う変更

2. 変更内容

- (1) サステナビリティ観光学部を追加する（第2条 第1項）。
- (2) アジア太平洋部アジア太平洋学科および国際経営学部国際経営学科の入学定員、2年次編入学定員、3年次編入学定員および収容定員を変更する（第2条 第2項）。
- (3) サステナビリティ観光学部サステナビリティ観光学科の入学定員および収容定員を追加する（第2条 第2項）。

以上

立命館アジア太平洋大学学則新旧対照表

変更前						変更案					
第1条（省略）						第1条（現行どおり）					
（学部）						（学部）					
第2条 本大学に、アジア太平洋学部および国際経営学部を置く。						第2条 本大学に、アジア太平洋学部、 <u>国際経営学部およびサステイナビリティ観光学部</u> を置く。					
2 前項の各学部 に置く学科 、入学定員、2年次編入学定員、3年次編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。						2 前項の各学部 に置く学科 、入学定員、2年次編入学定員、3年次編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。					
学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	660	12	18	2,712	アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	510	5	5	2,065
国際経営学部	国際経営学科	660	22	31	2,768	国際経営学部	国際経営学科	610	5	5	2,465
						<u>サステイナビリティ観光学部</u>	<u>サステイナビリティ観光学科</u>	350			1,400
合計		1,320	34	49	5,480	合計		1,470	10	10	5,930
第2条の2～第52条（省略）						第2条の2～第52条（現行どおり）					
附 則（省略）						附 則（2022年1月28日 <u>サステイナビリティ観光学部の設置に伴う一部変更</u> ）					
						1 この学則は、2023年4月1日から施行する。					
						2 変更後の第2条第2項にかかわらず、2023					

年度から2025年度までのアジア太平洋学部、国際経営学部およびサステイナビリティ観光学部の収容定員および収容定員の合計は、次表のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	<u>2,542</u>	<u>2,372</u>	<u>2,215</u>
国際経営学部	国際経営学科	<u>2,675</u>	<u>2,582</u>	<u>2,515</u>
サステイナビリティ観光学部	サステイナビリティ観光学科	<u>350</u>	<u>700</u>	<u>1,050</u>
収容定員の合計		<u>5,567</u>	<u>5,654</u>	<u>5,780</u>

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	3
(1) 学部・学科設置の趣旨及び必要性	3
(2) 養成する人材像、教育上の目的	6
(3) 中心的な学問分野	8
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	10
(1) 教育課程の変更内容	10
(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容	17
(3) 教員組織の変更内容	20
(4) 大学全体の施設・設備の変更内容	21

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

このたび、立命館アジア太平洋大学（APU）では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2023（令和5）年4月より、サステイナビリティ観光学部（入学定員350人、収容定員1,400人）を新設する。

立命館アジア太平洋大学は、同学部の設置により、大学全体で入学定員を150人、収容定員を450人増加する。

なおサステイナビリティ観光学部の入学定員および収容定員の一部は、既設のアジア太平洋部アジア太平洋学科の入学定員（150人）、2年次編入学定員（7人）、3年次編入学定員（13人）および収容定員（647人）ならびに国際経営学部国際経営学科の入学定員（50人）、2年次編入学定員（17人）、3年次編入学定員（26人）および収容定員（303人）より振り替える。

この収容定員変更の内容および内訳は下表のとおりである（下線部分が変更内容）。

<変更前>

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	<u>660</u>	<u>12</u>	<u>18</u>	<u>2,712</u>
国際経営学部	国際経営学科	<u>660</u>	<u>22</u>	<u>31</u>	<u>2,768</u>
合計		<u>1,320</u>	<u>34</u>	<u>49</u>	<u>5,480</u>

<変更後>

学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	<u>510</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>2,065</u>
国際経営学部	国際経営学科	<u>610</u>	<u>5</u>	<u>5</u>	<u>2,465</u>
サステイナビリティ 観光学部	サステイナビリティ 観光学科	<u>350</u>			<u>1,400</u>
合計		<u>1,470</u>	<u>10</u>	<u>10</u>	<u>5,930</u>

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

立命館アジア太平洋大学では、教育研究や科学技術の動向を踏まえるなかで教育研究組織や教学の改革を行い、豊かな人間性と国際性を備えた多様な人材の養成に努めてきた。さらに教育研究を基本的な使命とする大学として意義を有する教学改革を不断に実行するために、大学の運営体制の充実・整備を行ってきた。こうした教育研究活動の展開に関する評価の一つは、大学全体や各学部に対する志願状況に表れている〔資料1〕。

高等教育機関の社会的な使命に立脚して、教育研究水準の維持・向上や教育研究環境の整備を図りつつ本学への進学を希望する多様な学生を受け入れ、社会に有意な学生を輩出することは、高等教育機関としての基本的な責務である。本学では、このような責務や要請に積極的に応えていく事が必要であると考え、このたび既設のアジア太平洋学部アジア太平洋学科及び国際経営学部国際経営学科から定員を一部振り替えつつ、大学全体の収容定員を増加してサステイナビリティ観光学部を設置する形で学則変更（収容定員変更）を申請することとした。

サステイナビリティ観光学部を新設する趣旨及び必要性は次のとおりである。

(1) 学部・学科設置の趣旨及び必要性

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念とし、「APUは世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、そこで学んだ人たちが世界を変える。」を2030年に向けたビジョンに掲げている。サステイナビリティ観光学部の開設は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問の実務家:Academic-Practitionerの育成を通じて、本学の基本理念の実現とビジョンの達成を目的としている。

ア 持続可能な社会（サステイナビリティ）に関する教育・研究の必要性

産業革命、特に第二次世界大戦以降、地球規模での人口増加および大量生産・大量消費に伴う資源の枯渇や環境汚染・気候変動、南北の経済格差、急速な都市化と地方の衰退など、環境・経済・社会にさまざまな歪みが生じてきており、持続可能な社会の実現が喫緊の課題となっている。

持続可能な社会とは、サステイナビリティ（持続可能性）、すなわち将来の世代がニーズを満たすことを損なうことなく、現在の世代のニーズも満たしうるような社会である。1962年『沈黙の春』、1972年『成長の限界』、1987年国連環境と開発に関する世界委員会によって発表された『我ら共有の未来』およびその後一連の国連による呼びかけによって、人類社会の持続可能性の危機、そして持続可能な開発の必要性が世界の共通の認識になっている。

持続可能な社会を実現するには、今までの社会経済構造および環境への考え方のパラダイムシフトが必要である。SDGs、グリーンディールなど、国際機関、各国政府はさまざまな政策に取り組んでおり、サステイナビリティ学という学問も生まれつつあるが、具体的にどのような社会経済構造や政策により持続可能な社会を実現できるのか、どのようにシフトしていけばよいかについての包括的な政策群は現段階ではまだ模索中である。しかしそうした明確な解がない中でも、少なくとも以下の三点が重要であると言える。

一つ目は、持続可能な社会の実現は「地域」における実践なしには実現し得ないという点である。それぞれの地域社会が資源循環型であり、経済的に豊かであり、社会的に調和的であり、グローバル化の波の中、その地域の個性（歴史・文化・環境）が保たれていれば、世界が持続可能になる。

二点目に、個々の国は経済発展のレベルが異なるため、持続可能な社会の実現は国際的な協力が必要であるという点である。喫緊の課題である気候変動、貧困撲滅がその顕著な例である。

三点目に、このパラダイムシフトを実現していくには、一人一人がそれぞれ所属する企業や組織、コミュニティに関わる持続可能性に対して高い意識を持ち、行動様式を変革していく必要があるという点である。ここに「持続可能な開発のための教育（ESD）」の重要性があり、持続可能な社会の考え方や分析スキルを持った人が、実際の社会問題に取り組んでいかなければならない。

国内外の大学を見渡すと、現在の持続可能性に関する研究・教育は、主に各分野の専門を経た、大学院レベルで行われていることが多い。しかし、持続可能性に対する教育は、そうした専門家育成としての大学院教育だけが担当すべきものではない。持続可能性の考え方や行動様式は、製造、金融、流通、サービスなど様々な業態や公的政策機関（政府・自治体等）での実践が必要となっており、広範な学士課程教育においてこそ、今、必要とされていると考える。また、そうしたESDを取り込んだ広範囲な学士課程教育の上に展開される大学院教育や研究の展開によって、より多様で網羅的な持続可能性に関する研究成果を出していくことも期待される。

イ 持続可能な観光に関する教育・研究の必要性

現代社会は「モビリティ」という性格を強く有しており、今、それは社会を読み解く重要な要素となっている。情報通信技術の進歩やグローバル化の進展を基盤に、現代のモビリティの主体は、人、モノ、資金、情報、イメージ、文化など多岐にわたり、国境を超えて移動している。特に人の移動は、越境労働者、出張旅行者、観光者などの形態をとり、「人」以外の主体（モノ・情報・イメージなど）をも伴う移動である。とりわけビジネスや観光などの短期の人の移動の活発化が現代社会の大きな特徴となっており、デスティネーションの経済・産業や文化に大きな影響を与えている。

国際的な観光人口は増加を続け、2018年には14億人に達した。2018年、世界の旅行・観光産業の成長率は3.9%、世界経済に対する直接寄与額（直接貢献している額）は8兆8000億米ドル（約968兆円）、世界の全雇用者の約10分の1に相当する3億1900万人の雇用に貢献した。現在、COVID-19の影響を大きく受けている観光産業であるが、UNWTO等の分析では国際観光需要がCOVID-19以前の水準に回復する時期は2023年～2024年末と予測されている。また、COVID-19以前を大きく凌駕する観光需要がアジア太平洋地域を筆頭に欧州や北米地域など世界の多くの地域で近い将来に見通されている。

しかし、これまでの人類社会における産業の発展や経済的成長が環境・社会に過度な負荷や不平等をもたらしてきたように、観光も環境・社会に負荷をかけ、時にオーバートーリズムや地域文化の喪失などの弊害をもたらしてきた。また、グローバルなレベルにおけるジェット旅客機などでの移動は温室効果ガスを多く排出している。加えてCOVID-19で明らかになったように、観光の有する脆弱性も大きな課題となっている。こうした課題を乗り越えるために、観光も持続可能

な社会に貢献するような産業に変革していく必要があるという指摘は多い。特に、COVID-19からの回復においては、既存のシステムを変える良い機会であり、責任ある観光を目指すべきであるという議論がなされている。

元々、観光はビジネスとしての参入障壁が低く、今ある地域資源を活かすことができるため、地域の経済活性化の手段として期待されてきた。ここに、環境や社会の持続可能性を加えていくことがこれからの方向性である。近年、このような視点からの観光研究が多く取り組まれており、UNWTOも持続可能な社会に向けて世界観光倫理憲章を定め、企業や教育機関の規範とするよう力を入れている。

現在の観光教育はその多くが経営学もしくは人文科学を基礎としており、サステナビリティと連動した観光教育がおこなわれている学士課程は数が少ない。今後、さらに産業的に成長していくことが予測されている観光を、持続可能な社会に資する方向性で展開できる人材が、今、求められている。

また、観光は「消費するサービス」から「豊かさを生むコンテンツ」へあり方そのものを転換させていくべき時期にある。今後の観光は、地域の資源を発掘し、それを観光魅力に磨き上げていくこと、つまり、観光コンテンツをプロデュースすること、さらに、その地域の生活や文化と「持続可能な」関係を築き、経済的にも循環する形態を目指すことが重要になってくる。そのためには、その地域の理解と持続可能な社会の形成に向けた方法はもちろんのこと、その地域のコンテンツをプロデュースする手法が必要になってくる。こうした持続可能な手法で新たな価値を生み出していくというコンテンツ・プロデューサーのような人材は、従前の活動や行動を無条件に是とせず、絶えず社会の価値観やニーズに対応していかなければならない変化の激しい国際社会において、単に観光という業界のみならず様々な分野においても求められると考える。

ウ 両分野を学ぶ必要性

ア・イで述べたように、今後の観光のあり方としての「持続可能な観光」は、サステナビリティの学問分野と密接な関係にある。また、持続可能な社会の実現のためには、デスティネーションの経済・社会に大きく影響を与え、地域の自然・歴史・文化を保護しながら経済発展に寄与できる「持続可能な観光」は、極めて重要な手法として位置付けられる。

人々が持続可能な社会を実感できるのは、人々が生活を完結できる最小の領域である地域社会においてである。ここで人々は自然環境の悪化（例：川の汚染）、社会的格差（例：貧困地区とゲーテッドコミュニティ）、経済的停滞（例：シャッター街）を実感する。持続可能な観光は、地域社会での経済的持続性をもたらすための有力な手段である。先進国では疲弊した地域の活性化のために観光振興や観光まちづくりが推進され、開発途上国では、貧困削減の為のプロプアー・ツーリズムやコミュニティ・ベース・ツーリズムが実践されつつある。

このように、観光、サステナビリティとも「地域社会」とは不可分であり、地域の様々な課題の解決とともに、地域の自然・歴史・文化の価値を発見し、保護しながら発展させていくための極めて重要な取り組みとして両分野は共通項が多い。

後述の人材育成像、教育方法でも詳述するが、サステナビリティ観光学部がキャンパスの内外における社会と関連した学び、理論と実践の往復を通じて目指す「学問的実務家（Academic-

Practitioner)」は、そうした地域社会における取り組みなしに育成することはできない。サステイナビリティ観光学部が追求する持続可能な観光とサステイナビリティの教学分野は、地域というフィールドを軸に相互に関連し合い、最も相乗効果を発揮すると考えている。

もちろん、90ヶ国を超える国・地域から学生が集まる本学が対象とするのは、世界のあらゆる「地域」となる。今の時代、地域や社会の課題を解決し、価値を創造していくためには、グローバルな視点や考え方、多国籍・多文化な環境における行動様式を身に付けることは必須とあってよい。そうした観点からも、サステイナビリティ観光学部で持続可能な観光とサステイナビリティの教学を展開し、両分野を身に付けた人材を世界の様々な地域に輩出していくことに、重要な意義があると考えられる。

エ 社会からの期待

本学は、大分県、別府市の大型公私協力と、本学の理念に賛同いただいた政財界の協力で2000年に開学した大学として、大分県、別府市はもちろん、その他の自治体、国内外の企業や各種団体との連携を重視してきた。そうした多様なステークホルダーとの意見交換においても、今次開設するサステイナビリティ観光学部の教学分野（持続可能な社会・持続可能な観光）に、極めて大きな期待が寄せられている。大分県、別府市など地方自治体や地域、国内外の企業にとって、サステイナビリティ観光学部が展開する教学分野は、今後の日本および世界の社会経済・産業の成長にとって重要であるとともに、今後ますます厳しく問われる自治体・団体・企業等の組織の社会的責任においても極めて重要な領域であるとの認識である。

添付の設置要望書〔資料2〕は、そうした自治体や企業等からのサステイナビリティ観光学部に対する期待を取りまとめたものである。

(2) 養成する人材像、教育上の目的

サステイナビリティ観光学部では、前述の趣旨及び必要性を鑑みて、学部のミッション及び人材育成目的を以下の通り定める。

学部ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」という APU の基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家：Academic-Practitioner のコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよびキャンパス内外における様々な社会の活動主体と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する基礎的・専門的知識を修得し、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な分析、問題解決および異文化環境におけるコミュニケーション

ョンや協働の力を身に付けることで、様々な社会課題に対処でき、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

さらにサステナビリティ観光学部では、上記の人材育成目的を達成するため、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のように定める。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

サステナビリティ観光学部は、学部則に定めた教育研究上の目的を達するため、卒業要件を定めるとともに、以下を卒業時までには修得すべき学修成果とする。

(卒業要件)

- ・所定の期間在学し、以下に定める履修要件を満たし、要卒科目を合計 124 単位以上修得すること。
- ・共通教育科目 40 単位以上の修得。ただし、以下の要件を満たすこと。
 - ①日本語基準学生は英語科目 24 単位以上、英語基準学生は日本語科目 16 単位以上の修得。
ただし、入学時の言語運用能力によって、英語科目、日本語科目の免除制度を別に設ける。
 - ②学部指定の必修科目 8 単位の修得。
- ・サステナビリティ観光学部専門教育科目 62 単位以上の修得。ただし、以下の要件を満たすこと。
 - ①必修専門教育科目 6 単位の修得。
 - ②観光学分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得。
 - ③持続可能な社会分野科目のうち、5 科目 10 単位以上の修得。
 - ④最終成果科目のうち、2 単位以上の修得。
 - ⑤オフキャンパス・プログラム科目のうち、2 単位以上の修得。
- ・日本語基準国内学生は英語で開講される共通教養科目もしくは専門教育科目 20 単位以上の修得。
- ・なお、詳細な履修要件は、学部則に定める。

(学修成果)

1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する
 - 1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。
 - 1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。
 - 1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。
2. 課題解決のためのリテラシーを修得する
 - 2-a. 論理的・批判的に思考することができる。
 - 2-b. 定性的、定量的に分析することができる。
 - 2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。
 - 2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。
3. 世界市民としての責任感を身に付ける
 - 3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。

3-b. 「世界観光倫理憲章 (GCET)」に沿って、行動することができる。

卒業要件と学修成果の関係

学修成果	卒業要件
1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する	
1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	・オフキャンパス・プログラム科目（専門実習、フィールド・スタディ、専門インターンシップ）のうち、2単位以上修得
1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門）修得
1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	・専門教育科目・観光学分野科目のうち、5科目10単位以上の修得 ・専門教育科目・持続可能な社会分野科目のうち、5科目10単位以上の修得
2. 課題解決のためのリテラシーを修得する	
2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門）修得 ・必修専門教育科目（文献講読Ⅰ・Ⅱ）修得
2-b. 定性的、定量的に分析することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（社会科学のための統計学）修得 ・必修専門教育科目（社会調査法入門）修得
2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。	・最終成果科目（卒業プロジェクト、キャップストーン）のうち、2単位以上修得
2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	・日本語基準学生は英語科目24単位以上、英語基準学生は日本語科目16単位以上の修得 ・オフキャンパス・プログラム科目（専門実習、フィールド・スタディ、専門インターンシップ）のうち、2単位以上修得
3. 世界市民としての責任感を身に付ける	
3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（持続可能な開発入門）修得
3-b. 「世界観光倫理憲章 (GCET)」に沿って、行動することができる。	・共通教育科目学部指定の必修科目（観光学入門）修得

(3) 中心的な学問分野

持続可能な社会を構築するための社会学的視点からのアプローチと持続可能な観光学を教学の基本構造としており、社会学領域に合致した内容として、学位の分野を「社会学」と位置付けて

いる。

なお、大学設置基準の別表に示される学位の分野は「社会学・社会福祉学関係」である。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更（収容定員変更）とあわせて届出を行うサステナビリティ観光学部では、前述した人材育成目的（養成する人材像）にもとづき、以下のとおり教育課程を編成する。このことにより、教育研究水準の維持・向上を積極的に図っていこうとするものである。

なお同学部設置によっても、既設学部等の教育課程に変更はない。

(1) 教育課程の変更内容

ア 新設する学部・学科の機能と特色

サステナビリティ観光学部は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年）の高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化の中で示された大学の7つの機能のうち、主に「社会貢献機能（地域貢献，産学官連携，国際交流等）」「幅広い職業人養成」「高度専門職業人養成」の機能に比重を置くものである。

本学が2030年を見越して策定した中長期計画の中でも、「APUの財産である世界中の卒業生や地域社会のステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働」、「大学を中核とした民官学の新たな地域発展モデルの創出」等の学外との結びつきを本学の重要な使命の一つとして位置付けている。本学では大分県内すべての地方公共団体（19自治体）に加え、県外の自治体、企業、団体などとも連携協定を締結して随時交流や人材育成に取り組んでいる。例えば、地元紙である大分合同新聞社と共催で本学学長による「5000年史」講座（11回シリーズ）、大分市からの委託による「グローバルニッチトップ」をテーマにした市民向けの講座の提供、NHK大分放送局、J:COMおおいたケーブルテレコム㈱と連携した大分の魅力を本学の国際学生の視点で伝える番組「APU×おおいた」の制作・放送、また、大学として初めて環境省の国立公園オフィシャルパートナーとなり、九州地方環境事務所と連携した阿蘇くじゅう国立公園の外国人訪問者の実態調査などがある。

こうして様々な自治体や企業等とも連携しながら、地域の課題解決のための研究に積極的に取り組み、研究結果を地域に還元していくことで産業や地域社会の発展に寄与してきた。サステナビリティ観光学部を機に様々な自治体・企業・団体等から連携の依頼、そして協議が進んでおり、サステナビリティ観光学部は本学の「社会貢献機能」という特徴を特に前面に打ち出す教学の展開となっている。

国際交流については、本学は90以上の国・地域から学生を受け入れてマルチカルチュラル・キャンパスを実現しており、国際的な視野を持って活躍できる人材の育成に取り組んでいる。また、現在は74カ国・地域、493の大学・研究機関等と協定を持ち、コロナ禍以前の水準では、約900名を毎年海外へ派遣している。サステナビリティ観光学部も世界各国・地域から学生を受け入れる予定である。

「幅広い職業人養成」については、サステナビリティ観光学部の教育課程において社会学を基盤としたアカデミック・スキルの教育を重視しており、教学分野の持続可能な社会、持続可能な観光は様々な領域において応用可能であり必要とされることが考えられることから、「幅広い職業人養成」として幅広い分野へ人材を輩出することが可能と考えている。また、これからの人材は

学士課程に続いて大学院（博士課程）も視野に入れていかないといけない知識基盤社会であるので、学士課程では専門性もさることながらしっかりとしたアカデミック・スキルの修得が求められると考えている。サステナビリティ観光学部はその点を重視しており、そうした知的基盤を踏まえて、卒業生は幅広い分野で活躍すると考えている。

他方、「高度専門職業人養成」については、サステナビリティ観光学部が「持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家：Academic-Practitioner のコミュニティを目指す」ことをそのミッションと定めているとおり、専門分野の知識修得とともに、地域や企業等における実習であるオフキャンパス・プログラム科目の履修、様々な課題に対して解決策や提案を深める演習・最終成果科目などを配置し、この教学分野における専門性を身に付けられるような教育課程を構築している。

以上のように、その後の大学院（博士課程）への進学も視野に入れている設計の学士課程においては、「幅広い職業人養成」と「高度専門職業人養成」は両立すると考えている。

なお、前述した人材育成目的に照らした特色としては、以下の3点である。

1つ目に、9つの専門領域から構成される豊富な専門科目群を組み合わせた学修である。後述の通り、「観光学分野科目」「持続可能な社会分野科目」「学部共通科目」の専門科目の中に9つの科目群（「観光学」「観光産業」「ホスピタリティ産業」「環境学」「資源マネジメント」「国際開発」「地域づくり」「社会起業」「データサイエンスと情報システム」）を設定する。学生は、教員のアドバイジングの下で、自身が修得を希望する知識・能力やキャリアに応じて、これらの科目群をまたがって横断的に学ぶことが可能である。

2つ目に、「講義・演習」「現場における実践」「調査・分析スキル」を組み合わせる学修する仕組みである。全ての学生が、低回生時からの理論的な学び（専門講義科目）と、アカデミック・スキル（調査手法、分析手法等）を土台に、キャンパス外での実践的な学修（フィールド・スタディ、インターンシップ、専門実習）に取り組むように教育課程を設計している。

3つ目は、学外での実践的な学びである。前述の通り、新たな学部が設置される以前から、本学の特徴の1つは、社会や地域との連携であった。地元の大分県・別府市はもとより、世界各国との繋がりを有する大学である。本学部では、「現場における実践」を重視し卒業要件として設定する学部であることから、そうした国内外における学外の人や機関等、様々な社会の構成員の抱える“活きた課題”に触れ、ともに解決を目指す学部である。

以上の特色を通じて、持続可能な社会と観光に関わる、現代的な課題や地球規模の問題の解決に実践的に取り組む人材を養成する。

イ 学部・学科等の名称及び学位の名称

(7) 学部・学科の名称

学部・学科名称は、「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性」を踏まえ、今後求められる持続可能な社会の形成と、「モビリティ」の性格を強める社会で益々重要な役割を担う観光について、理論と実践に関する知識やスキルを修得した人材を輩出する学部・学科として名称を定めた。

なお、英語名称は日本語名称と同じ訳としている。

学部学科名称（日本語）	学部学科名称（英語）
サステナビリティ観光学部	College of Sustainability and Tourism
サステナビリティ観光学科	Department of Sustainability and Tourism

(イ) 学位の名称

学位名称は、日本語・英語ともに学部・学科名称と同一としている。

学位名称（日本語）	学位名称（英語）
学士（サステナビリティ観光学）	Bachelor of Sustainability and Tourism

ウ 教育課程の編成の考え方及び特色

(ア) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の編成の体系性

「2. 学則変更（収容定員変更）の必要性（1）学部・学科設置の趣旨及び必要性」「3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容（1）教育課程の変更内容 ア 新設する学部・学科の機能と特色」を踏まえ、以下のカリキュラム・ポリシーに則って教育課程を編成する。

(1) 教育課程編成方針

(科目配置：共通)

- ・ 共通教育科目、専門教育科目に区分し、これを4年間に配当して編成する。

(科目配置：共通教育科目)

- ・ 共通教育科目は言語教育科目および共通教養科目に区分し、言語教育科目は英語科目、日本語科目、AP言語科目(中国語、韓国語、マレー・インドネシア語、スペイン語、タイ語、ベトナム語)および特定講義科目に区分する。
- ・ 共通教養科目は、APUリテラシー分野、学部専門入門分野、世界市民基盤分野から構成される。
- ・ APUリテラシー分野は、本学の学生として必要な国内外の知識を深め、本学の多文化環境を最大限に活用して学びを深めていくための方法論を修得するための科目群とする。
- ・ 学部専門入門分野は、各学部での専門的な学びの導入となる科目群とする。
- ・ 世界市民基盤分野は、学部専門教育の枠組みに収まらない多様な科目群とし、人文科学・社会科学・自然科学の諸領域にわたる豊かな知識・教養を涵養するために配置する。

(科目配置：専門教育科目)

- ・ 専門教育科目は、アカデミック・スキル科目、演習・最終成果科目、オフキャンパス・プログラム科目、学部共通科目、観光学分野科目、持続可能な社会分野科目に区分する。
- ・ アカデミック・スキル科目は、本学部で学修する上で必要となるアカデミック・スキルを修得するための科目群とする。
- ・ 演習・最終成果科目は、学生の興味・関心に基づき演習形式で深めていく科目群とする。
- ・ オフキャンパス・プログラム科目は、学外における実習を含む科目群とする。

- ・学部共通科目は、観光および持続可能な社会の両分野に共通する、課題解決のために重要な分野の科目群とする。
- ・観光学分野科目は、観光学分野の専門科目群とする。
- ・持続可能な社会分野科目は、持続可能な社会分野の専門科目群とする。

(2) 教育課程実施方針

(授業科目の開講)

- ・英語、日本語のどちらかを修得しても入学でき、反対言語を学修しつつ、どちらの言語でも卒業ができるよう、サステナビリティ観光学部学部則記載科目を原則として日英2言語でそれぞれ開講する。
- ・大学および本学部が掲げる方針にしたがって、オフキャンパス・プログラムの開講拡充を進める。
- ・全ての授業科目は、学生の体系的学修を最大限に可能にする学期・曜日時限に開講する。

(授業科目の運営)

- ・全ての授業科目は、大学設置基準、学則および学部則を遵守し、授業科目の方法に応じて、当該授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して運営するものとする。
- ・それぞれの授業科目は、当該授業科目がカリキュラム・マップにおける位置付けを踏まえて、当該授業科目において学生に身につけさせる学修目標(Learning Goals) および学修目的(Learning Objectives) を確実に学生が習得するようにシラバスを設計し、当該授業科目を運営するものとする。
- ・全ての授業科目は、APUの多文化環境を教育に十分に活用して、双方向かつ国際学生・国内学生が協働する「多文化協働学修」を追求する。
- ・授業科目を担当する教員は、授業評価アンケート、成績評価問い合わせ、補講など、授業科目の運営に関して定められた諸制度を遵守しなければならない。

(イ) 教育課程－科目区分の設定

サステナビリティ観光学部の科目区分は下記に示すとおりである。

区分		
共通教育科目	共通教養科目	APU リテラシー
		学部専門入門
		世界市民基盤
	言語教育科目	
専門教育科目	観光学分野科目	観光学
		観光産業
		ホスピタリティ産業
	持続可能な社会分野科目	環境学
		資源マネジメント

		国際開発
	学部共通科目	地域づくり
		社会起業
		データサイエンスと情報システム
		特殊講義
	アカデミック・スキル科目	
	オフキャンパス・プログラム科目	
	演習・最終成果科目	

① 共通教育科目

共通教養科目

「APU リテラシー」、「学部専門入門」、「世界市民基盤」の3分野に分類し、本学の学生として多文化環境を最大限に活用して学びを深めていくための知識やスキルを修得するものや、各学部での専門的な学びの導入、本学の理念を踏まえた多様な教養科目を配置する。

また、初年次教育としては全ての1回生が履修する科目として、大学で学ぶ上で必要となる知識・スキル・姿勢などを学ぶ「スチューデントサクセスワークショップ」と本学の多文化環境を活用し、世界中から集まった学生が協働学修を行う「多文化協働ワークショップ」を設置する。その他、情報リテラシー能力を高めるための情報系科目も体系的に配置している。

なお、サステナビリティ観光学部に関連する科目として、「持続可能な開発入門」、「観光学入門」、「社会学入門」、「社会科学のための統計学」を必修科目として配置する。

言語教育科目

日本語基準学生は英語を、英語基準学生は日本語を配置する。必修として課する科目・単位は入学時のレベル測定により異なる。必修以外には、選択科目としてより高いレベルの英語・日本語科目を置く他、「アジア太平洋言語（AP言語）」と総称して、中国語・韓国語・スペイン語・マレー・インドネシア語・タイ語・ベトナム語を体系的に配置している。

② 専門教育科目

専門教育科目は目的に応じて、「観光学分野科目」、「持続可能な社会分野科目」、「学部共通科目」、「アカデミック・スキル科目」「オフキャンパス・プログラム科目」「演習・最終成果科目」に区分している。

なお、「観光学分野科目」、「持続可能な社会分野科目」、「学部共通科目」は、その下位に5-8科目から成る3つの科目群をそれぞれ設けている。これは網羅する範囲が広い「観光学」「持続可能な社会」などの区分をさらにテーマごとに区分したものであり、学生が学修の目標を定めやすくするために設けている。もちろん、科目群にとらわれない自由な履修も可能である。科目群は卒業要件に定めるものではないが、この科目群を用いて、卒業後のキャリア等を考えた履修計画を立てることができるように学習指導を行っていく。またこうした科目群を活用し、修得内容を説明する証明書(ディプロマサプリメント)の発行なども進めていく。

観光学分野科目

観光学分野の専門科目を配置する。本分野内に、「観光学」「観光産業」「ホスピタリティ産業」の3つの科目群を設ける。観光学分野科目全体から5科目10単位以上を選択必修とする。

持続可能な社会分野科目

持続可能な社会分野の専門科目を配置する。本分野内に、「環境学」「資源マネジメント」「国際

開発」の3つの科目群を設ける。持続可能な社会分野科目全体から5科目10単位以上を選択必修とする。

学部共通科目

観光および持続可能な社会の両方に共通する分野として、課題解決のための手法などの重要な科目を配置する。本分野内に、「地域づくり」「社会起業」「データサイエンスと情報システム」の3つの科目群を設ける他、観光および持続可能な社会の分野における最先端の研究などを教授する「特殊講義」科目を配置する。

アカデミック・スキル科目

サステナビリティ観光学部において学修する上で必要なアカデミック・スキルの科目を配置する。1・2年次に学ぶ必修科目として「社会調査法入門」、「文献講読Ⅰ」、「文献講読Ⅱ」を、選択科目として「質的分析技法」を配置する。

オフキャンパス・プログラム科目

学外における実習を含む科目を配置する。「専門実習」「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」の3科目を配置し、これらのいずれか1科目2単位以上を選択必修とする。

演習・最終成果科目

3年次・4年次の演習科目、および学修の最終的な成果をまとめる科目を配置する。3年次演習の「専門演習」は必ず履修する必要がある履修指定科目とする。最終成果は「卒業プロジェクト」、「キャップストーン」を配置し、どちらかを取る選択必修とする。

(ウ) 入学時期による対応

本学は、 Semester制を採用し、入学時期は4月・9月の2回設けている。必修科目及び履修指定科目や配当年次は、4月入学および9月入学の学生双方の履修を可能とする開講計画としている。

「英語初級」から「英語準中級」へなど、Semester単位で履修プロセスが積み上がっていくものを中心に、4月入学・履修開始、9月入学・履修開始の2通りの開講計画とすることで、教育課程の体系性を保ち、十分な教育体制を構築している。

このような入学時期に対応した受講開講計画と学生の履修計画は、2000年の開学以降、20年以上の十分な実績を有しており、サステナビリティ観光学部においても問題ない計画としている。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

ア 教育方法

年次ごとの段階に基づいて、各科目区分・科目群を関連付けて学修をさせる。

オフキャンパス・プログラム科目においては、学修初期段階においては、教学分野に関わる関心、意欲、態度や基本的な調査法等の実践の場として位置づけ、学修後半段階においては、講義等で得た知識などを活用した課題解決の実践とフィードバックを得る場として位置づける。こうした実践の中で不足していると理解した知識や理論、手法については、さらに適切な講義を選択して学修するという学びのサイクルを構築する。この学びのサイクルが各学年内を通じて体系的に運用されるように各科目を設計するとともに、教員間の指導内容の共有を図り、段階的に学修と実践のレベルを向上させる。この4年間全体を通した学びのサイクルは、学修の集大成となる「卒業プロジェクト」または「キャップストーン」において完成する。

授業形態は、講義、一部実習を組み入れた講義、演習の方法を用いる。講義科目では主に実践に必要な知識や理論、手法の理解を深める。一部実習を組み入れた講義科目では、講義内容を実践的に実習で理解することを通して、内容の理解を深める。また、全ての科目において、多国籍・多文化の学生同士のコミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションを重視した授業「多文化協働学修」を推進する。

授業の効果を高めるため、一部実習を組み入れた講義や演習科目を中心に、ティーチング・アシスタントを活用する。

受講生規模は、一部実習を組み入れた講義科目は実習内容に合わせて最大50名程度、演習科目のうち、専門演習、卒業研究は1クラス最大20名程度、語学科目は1クラス最大25名程度とする。

イ 履修指導方法

前項の「教育方法」で示した学びのサイクルを担保し、サステナビリティ観光学部教育の質を保証するという観点から、サステナビリティ観光学部においては各種の学修支援を行う仕組みを設け、学修の体系化のための「カリキュラム・マップ、履修モデル」[資料3]を活用し、学生一人一人の4年間の学修を支える。

学生に対する学修や履修の支援・指導としては、アカデミック・ライティングを支援する「ライティングセンター」、数学や統計などの学修を支援する「Analytics & Math Center」、言語の自主学習を支援する「言語自主学習センター」、交換留学の相談を受けられる「Student Exchange Advisor」、専門などの学修相談を受けられる「アカデミック・アドバイジング」「オフィス・アワー」などの仕組みを設けている。こうした支援において、学生は専任教員の指導や、時には学生同士のピアサポートを受けることができる。学生は、学部が提供する複数の履修モデルを参照しつつ、そうした学修支援と履修指導を通じて、学びのゴールを見据えて、履修を進める。

ウ 年間履修登録上限単位数

卒業の要件となる単位数の合計は124単位とする。授業内外の学習時間の確保、単位制度の実

質化を目的として、各年次の年間履修登録上限単位数を以下のように設定する。

1年次は、学びの基盤の集中的な学修を促すと共に、大学における学修習慣を形成するという視点から、登録上限単位数は36単位（前期18単位・後期18単位）とする。学びの展開期となる2年次は、語学科目、また後期から始まる展開科目があることから、登録上限単位数は40単位（前期20単位・後期20単位）とする。3年次は、幅広い学修を促すために、2年次に引き続き40単位（前期20単位・後期20単位）とする。4年次は、3年次までの精選された科目による体系的な学修に加え、「卒業プロジェクト」「キャップストーン」に必要な知識を身に付け、進路を展望した学びを広げられるように48単位（前期24単位・後期24単位）とする。

1年次	2年次	3年次	4年次
36単位 (前期18単位・ 後期18単位)	40単位 (前期20単位・ 後期20単位)	40単位 (前期20単位・ 後期20単位)	48単位 (前期24単位・ 後期24単位)

エ 卒業プロジェクト

4年間の学修の集大成として、大学設置基準第二十一条第三項に定める学修の成果評価に基づく単位授与科目として、卒業論文やアクティビティ・レポート等の成果物を作成する卒業プロジェクトを開設する。学生は、基本的には4年次に、それまでの学修を踏まえた上で、自らの問題意識に基づき研究目標を設定し、研究計画を具体化し、教員の指導により卒業プロジェクトを作成する。また、研究活動は基本的には個人活動となるが、学び合いという視点から、同一演習の学生間で共有する機会を設け、積極的に研究内容の相互理解を行う。卒業プロジェクトは成果物による単位授与を行うが、単位数は、成果物の完成に必要な学修時間や取り組み内容等を考慮し、4単位とする。

オ 卒業要件

サステナビリティ観光学部においては、先に示したディプロマ・ポリシーにもとづき、履修の系統性を明示するために、前述の科目区分を踏まえた上で、科目区分ごとの所定単位数及びその内の必修単位数を以下のとおり設定する。

卒業要件と学修成果の関係については、「2.学則変更（収容定員変更）の必要性（2）養成する人材像、教育上の目的」に記載の通りである。

区分		必要単位数			
共通教育科目	共通教養科目	16 単位以上選択必修 内、以下の 4 科目 8 単位必修 持続可能な開発入門、観光学入門、 社会学入門、社会科学のための統計学 (他、全学共通履修指定科目：以下の 2 科目 4 単位) スチューデントサクセスワークショップ 多文化協働ワークショップ		40 単位 以上	
	言語教育科目	日本語(英語基準学生) 16 単位必修 英語(日本語基準学生) 24 単位必修			
専門教育科目	アカデミック・スキル科目	以下の 3 科目 6 単位必修 社会調査法入門、文献講読Ⅰ、文献講読Ⅱ		62 単位 以上	
	演習・最終成果科目	以下の 1 科目 2 単位以上選択必修 卒業プロジェクト、キャップストーン 以下の 2 科目 4 単位履修指定 専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ			
	オフキャンパス・プログラム科目	以下の内、1 科目 2 単位以上選択必修 専門実習、フィールド・スタディ、 専門インターンシップ			
	学部共通科目	地域づくり			
		社会起業			
		データサイエンスと 情報システム			
		特殊講義			
	観光学 分野科目	観光学	5 科目 10 単位以上選択必修		
		観光産業			
		ホスピタリティ産業			
持続可能な社会 分野科目	環境学	5 科目 10 単位以上選択必修			
	資源マネジメント				
	国際開発				
合計				124 単位	

カ 他大学における授業科目の履修

本学では、「大学コンソーシアムおおいた」の加盟大学や学校法人立命館が設置する立命館大学、また本学協定校への交換留学派遣等、学生の多様な学修ニーズに応えるために他大学における授業科目の履修を 60 単位までを上限として認めており、サステナビリティ観光学部でも同様の取り扱いとする。

なお、本学は「単位互換制度の運用に係る基本的な考え方」（令和元年 8 月 13 日付け元文科高第 328 号）に準拠して、あらかじめ協議等により定められた範囲、および個々の学生の学修ニーズに基づいて行われた学修について、教学委員会で定められたプロセスにしたがい、教育上有益と認められることを前提に、必修/選択/自由の別に留意した上で単位認定を行っており、サステ

イナビリティ観光学部でも同様の取り扱いとする。

(3) 教員組織の変更内容

サステイナビリティ観光学部における教員編成の基本的な考え方は次のとおりであって、収容定員の増加に対応できる。

ア 教員規模

学部の人材育成目的を達成するために、学部の理念やコンセプト、教育手法を正しく共有する事に留意し、教育・研究のさらなる高度化・活性化に資する教員編成とする。

観光学分野、持続可能な社会分野、学部共通分野の各分野に適正な人員を配置する。

アカデミック・スキル科目および演習・最終成果科目は全て専任教員を配置し、観光学分野科目、持続可能な社会分野科目、学部共通分野科目、オフキャンパス・プログラム科目を中心に専任教員を配置する。専任教員の数は、完成年度の2026（令和8）年度時点で、アジア太平洋学部、国際経営学部、教育開発・学修支援センターからの移籍教員19名、新規任用教員4名である。なお、教員の任用や昇任については、「立命館アジア太平洋大学教員任用および昇任規程」を踏まえた内規を定め、これに基づき行う。

完成年度において、専任教員の博士号取得率は約91.3%であり、十分な研究業績を有する教員を配置している。科目の担当体制については、「立命館アジア太平洋大学教員責任時間規程」に基づき、担当科目時間数が過大とならないように配置する。

イ 年齢・職位の構成

完成年度末（2027年3月31日）時点において、専任教員の年齢構成は、29歳以下0名（0%）、30歳代1名（4.3%）、40歳代4名（17.4%）、50歳代12名（52.2%）、60歳代6名（26.1%）、70歳以上0名（0%）である（小数点第2位を四捨五入している）。完成年度終了までに定年もしくは任期満了を迎える教員の後任について、科目担当の計画は以下の通りである。任期を定めない教員における本学の定年は、「立命館アジア太平洋大学教職員就業規則」に定める通り、教授65歳であり、それを超える場合は「立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程」[資料4]に基づき再雇用する。70歳の教員は以降任用しないため、後任を任用する。

また、サステイナビリティ観光学部の日本国籍保有者は10名（43.5%）であり、その内、海外で学位を取得した教員は7名となっている。全体で日本を含め11ヶ国・地域出身の教員組織となっており、世界中から集まる学生を教育するに相応しい多様性を有する。

年度	定年・任期満了を迎える教員数	科目担当計画
令和5（2023）年度	1名	令和6（2024）年度以降、同一人物を特別雇用教員として雇用

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

ア 校地、運動場の整備計画

本学のキャンパスは大分県別府市に位置し、サステナビリティ観光学部も同キャンパスに設置する。校地は約 35 万㎡（寄宿舍等除く）の面積を有し、十分な空地を有している。また、メイグラウンド、多目的グラウンドの運動場（合計 41,810 ㎡）と、ジムやアリーナ等から構成される体育館（G 棟：延べ床面積 2,950 ㎡）を有しており、学生の休息や心身の健康維持に必要なスペースや施設を有している。

イ 校舎等施設の整備計画

教室は、教室棟（F 棟）、教室棟Ⅱ（FⅡ棟）、メディアセンター（D 棟）、大学院棟（H 棟）、研究棟（B 棟）に配置されており、新たな教室棟（名称未定）を 2023 年 2 月完成予定で建設をしている。新たな教室棟を含めて、教室は定員 200 名以上の大教室：21 室、50－199 名の中教室：24 室、49 名以下の小教室：99 室が整備され、時間割シミュレーション [資料 5] からも、授業の実施に十分な数を備えている。

教員研究室は、言語教育を担う特任講師は 2 名で 1 室、同じく言語教育を担う嘱託講師は共同研究室を整備している。それ以外の専任教員は個室の研究室を整備している。

学生の学習施設としては、後述の図書館内のラーニング・コモンズの他、言語自主学习のための施設（316 ㎡）、新たな教室棟のコモンズスペース（1,430 ㎡）がある。

その他、食堂、学生の課外活動のための施設、ホールなどを整備している。

ウ 図書等の資料及び図書館の整備計画

(7) 図書および雑誌等の整備状況

2022 年 3 月現在で、蔵書数は図書 236,758 冊、雑誌 2,788 タイトル、オンラインデータベース・電子ジャーナル 32,374 種類、視聴覚資料 4,684 点であり、本学の教育・研究分野構成にふさわしいバランスと特色ある蔵書構成となっている。なお、同一法人の立命館大学との共同利用制度による利用可能冊数を加えると、蔵書数は図書 3,622,131 冊となる。受入れる図書は、教員の推薦する参考書・テキストであるシラバス掲載図書、学生からの購入希望図書、講義等の専門分野に関連する学術書を中心に、学際分野や教養書等も広く収書を行っている。

雑誌の 2,788 タイトルの内訳は、和雑誌 1,837 タイトル、洋雑誌 951 タイトルとなっており、本学の多様な学生・教職員の構成や日・英二言語教育を考慮し、洋雑誌を充実させている。閲覧可能なデータベース・電子ジャーナルは 32,374 種類となっており、これらは学内からはもとより、学外からも VPN 接続の手続きを行えば利用可能である。文献複写、図書館間相互貸借（ILL）申し込み、予約・取り寄せについてもウェブを通じて行うことができ、利便性の高い学術情報提供を図っている。

これらの図書・雑誌・電子情報については、立命館学術情報システム（RUNNERS）により、本学の図書館ならびに同一法人の立命館大学の図書館（計 7 館）との間で、所蔵資料の情報検索、電

子資料の横断検索、予約・取り寄せといった相互利用が可能となっている。また、国立国会図書館や国立情報学研究所を始め、国内外の大学と ILL による相互協力により、広く学術情報や目録情報を共有している。

また、上記のうち、2022年3月現在、大学全体ではサステナビリティ観光学部の教育に関する図書が6,398冊（うち外国書4,118冊）、雑誌が362タイトル（うち外国雑誌337タイトル）である。さらに、サステナビリティ観光学部として必要な図書資料を新たに購入・整備する。新たに整備する際の選書・収集は、授業科目概要や教員の推薦等にもとづくとともに、持続可能な社会分野、観光学分野を学ぶためのものを中心に行い、完成年度には図書8,000冊（うち外国書5,600冊）、学術雑誌500タイトルを予定している。

① 図書整備計画

分野	整備予定冊数
観光分野	600冊
開発分野	400冊
環境分野	300冊
ICT分野	300冊
計	1,600冊

② すでに整備されている主な学術雑誌

タイトル	ISSN
Sociologia ruralis	1467-9523
Community Development Journal	1468-2656
Rural Sociology	1549-0831
Voluntas: International Journal of Voluntary and Nonprofit Organizations	1573-7888
Journal of heritage tourism	1747-6631
Nature Climate Change	1758-6798
World development	1873-5991
Community Development: Journal of the Community Development Society	1944-7485
Nature Energy	2058-7546

③ 整備予定の主な学術雑誌

タイトル	ISSN
Economic Development and Cultural Change	0013-0079
Cities	0264-2751
Building and Environment	0360-1323
Current Issues in Tourism	1747-7603

Review of Environmental Economics and Policy	1750-6816
Cambridge Journal of Regions, Economy and Society	1752-1386
Journal of environmental sociology	2434-0618

(イ) 閲覧席、ラーニング・コモンズ

ライブラリーの開館時間は、授業開講期の月～金曜は8時30分～24時00分、土日祝日および長期休暇期間は10時00分～18時00分としており、毎年、約340日開館している。ライブラリーは収納可能冊数289,700冊、総座席数1,037席である。

また、ライブラリーには一般図書の他に当該科目開講期間中にテキスト・参考文献を一箇所にまとめて配架するリザーブ・コーナー、逐次刊行物・雑誌等の配架コーナー、視聴覚コーナー、情報検索コーナー、グループ学習室、マルチメディアルーム等を設置している。

ライブラリー1階フロアはラーニング・コモンズとして協働学修スペースを置くほか、プレゼンテーションルームやグループ学習室、ライティングセンター（日本語／英語）、数学や統計学の学修サポートを提供する「Analytics and Math Center」を設置している。

(ウ) 外部の図書館との相互協力

他機関との協力に関わっては、Online Computer Library Center, Inc. (OCLC) や国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILLの図書館間ネットワーク等に参加するとともに、私立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）等の加盟図書館として、国内外を問わず他大学、他機関と図書館間相互協力（文献複写や相互現物貸借）を推進している。

(エ) 検索手法の指導等による利用者支援

ライブラリー利用者への支援は、司書資格を持った委託職員等を窓口およびレファレンスカウンターに配置してサービスを行っている。また、学生スタッフが配架やクイックリファレンス、広報活動等でライブラリー運営に参画している。レファレンス担当職員や学生スタッフは、初年次学生全員が履修する共通教養科目におけるリテラシー教育の授業コンテンツとして情報・資料収集等を行う事や、個別教員からの要請に応じてレファレンス・ガイダンス、実際にライブラリーを利用して蔵書や情報検索を行う課外セッション等を実施している。

以上により、施設・設備において、収容定員の変更後でも、これまでと同等以上の教育研究を展開することができる。

以上

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）

目次

資料 1	立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移 . . .	2
資料 2	サステナビリティ観光学部を設置要望する機関一覧と要望書 . . .	3
資料 3	カリキュラム・マップ、履修モデル	14
資料 4	立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程	29
資料 5	時間割シミュレーション	31
資料 6	教育課程等の概要（別記様式第 2 号）	33

[資料1 立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移]

学部名	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	
アジア太平洋学部	志願者数	1,899	2,923	3,590	3,138	2,500
	合格者数	1,200	1,195	1,163	1,144	1,047
	入学者数(A)	694	656	660	603	586
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	1.05	0.99	1.00	0.91	0.88
国際経営学部	志願者数	1,868	2,697	3,210	2,661	2,209
	合格者数	1,163	1,163	1,221	1,129	1,122
	入学者数(A)	641	640	641	566	599
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	0.97	0.96	0.97	0.85	0.90
大学合計	志願者数	3,767	5,620	6,800	5,799	4,709
	合格者数	2,363	2,358	2,384	2,273	2,169
	入学者数(A)	1,335	1,296	1,301	1,169	1,185
	入学定員(B)	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
	A/B	1.01	0.98	0.98	0.88	0.89

○差し替えが必要な書類等について

1) 書類等の題名

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）について（【資料2】3ページから13ページ）

2) 書類等の内容

サステイナビリティ観光学部を設置要望する機関一覧と要望書

カリキュラム・マップ

科目区分		授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由	ディプロマポリシー（卒業時まで）に修得すべき学修成果								
					1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する	2. 課題解決のためのリテラシーを修得する	3. 世界市民としての責任感を身に付ける						
共通教育科目	共通教育科目	観光学入門	1前・後	必修	1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	2-b. 定性的・定量的に分析することができる。	2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題を解決能力を発揮することができる。	2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	3-b. 「世界観光倫理憲章(GGET)」に沿って、行動することができる。
	共通教育科目	持続可能な開発入門 社会学入門 社会科学のための統計学	1前・後 1前・後 1前・後	必修 必修 必修									
観光学分野科目	観光社会学	観光社会学	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	観光文化論	観光文化論	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	遺産観光論	遺産観光論	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	観光経済学	観光経済学	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	文化人類学	文化人類学	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	観光とメディア	観光とメディア	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	ツーリズム・オペレーション	ツーリズム・オペレーション	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	観光地マーケティング	観光地マーケティング	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	MICE産業論	MICE産業論	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	スペシャライズド・ツーリズム	スペシャライズド・ツーリズム	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	ヘルス&ウェルネスツーリズム	ヘルス&ウェルネスツーリズム	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
	ホスピタリティ・オペレーション	ホスピタリティ・オペレーション	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓
サービスマネジメント	サービスマネジメント	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓	
リゾート・マーケティング	リゾート・マーケティング	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓	
フード&ビバレッジ・オペレーション	フード&ビバレッジ・オペレーション	2・3前・後	選択	✓		✓		✓				✓	
レベニュー・マネジメント	レベニュー・マネジメント	3・4前・後	選択	✓		✓		✓				✓	
環境と社会	環境と社会	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
環境政策とガバナンス	環境政策とガバナンス	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
環境経済学	環境経済学	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
環境教育	環境教育	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
気候変動	気候変動	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
生物多様性	生物多様性	1・2前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
公園と保護地域	公園と保護地域	3・4前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
環境汚染と防止	環境汚染と防止	1・2前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	
資源マネジメント	資源マネジメント	2・3前・後	選択	✓		✓		✓			✓	✓	

カリキュラム・マップ

科目区分		授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由	ディプロマポリシー (卒業時まで) に修得すべき学修成果)								
					1. 持続可能な社会の形成と観光に関する専門知識を修得する		2. 課題解決のためのリテラシーを修得する			3. 世界市民としての責任感を身に付ける			
					1-a. 社会と地域について学問横断的に理解することができる。	1-b. 持続可能な社会と観光についての基礎知識を身につけている。	1-c. 持続可能な社会と観光についての専門知識を身につけている。	2-a. 論理的・批判的に思考することができる。	2-b. 定性的・定量的に分析することができる。	2-c. 持続可能な社会と観光に関する問題解決能力を発揮することができる。	2-d. 異文化環境においてコミュニケーションや協働ができる。	3-a. 持続可能な開発に関する規範に沿って、行動することができる。	3-b. 「世界観光倫理憲章(GCET)」に沿って、行動することができる。
		NPO/NGO論	3・4前・後	選択	✓		✓			✓			
		特殊講義 (専門教育科目)	1・2・3・4前・後	選択		✓		✓					
		社会調査法入門	1前・後	必修		✓			✓				
		質的分析技法	1・2前・後	選択		✓			✓				
		文献講読 I	2前	必修			✓						
		文献講読 II	2後	必修			✓						
		専門実習	1・2・3・4前・後	選択		✓					✓		
		フィールド・スタディ	1・2・3・4前・後	選択		✓					✓		
		専門インターンシップ	2・3・4前・後	選択		✓					✓		
		専門演習	3前・後	選択			✓		✓				
		卒業研究	4前	選択			✓			✓			
		卒業プロジェクト	4後	選択			✓			✓			
		キャリアアセスメント	4前・後	選択			✓			✓			
		最終成果科目											

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
		英語初級A			4		✓				
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
		中国語Ⅰ	196	または	4						
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA		日本語 16単位 (英語 基準学 生)	2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(スペイン語)			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						
	言語教育科目										24

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位		
共通教育 科目		言語グローバルラーニング（タイ語）A	40単位 以上		2								
		言語グローバルラーニング（タイ語）B			2								
		ベトナム語Ⅰ			4								
		ベトナム語Ⅱ			4								
		ベトナム語Ⅲ			2								
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）A			2								
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）B			2								
		日本語教育のための日本語学			2								
		日本語教授法			2								
		アジア太平洋言語入門			2								
		集中言語研修			2								
		特殊講義（言語教育科目）			2								
		共通教 養科目			APUリテラシー 分野科目	スチューデントサクセスワークショップ	130	16単位 以上	2			✓	
多文化協働ワークショップ	2					✓							
平和・ヒューマニティ・民主主義	2												
異文化間コミュニケーション入門	2												
異文化フィールドワークⅠ	2												
異文化フィールドワークⅡ	2												
多文化比較論	2												
グローバルリーダーシップの基礎	2												
海外学習デザイン	2												
ブリッジプログラム	2												
異文化間コミュニケーションの応用と実践	2										✓		
グローバルリーダーシップのためのスキルと実践	2											✓	
ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ	2										✓		
アジア太平洋の言語	2												
アジア太平洋の宗教	2									✓			
アジア太平洋の地理	2												
アジア太平洋の文化と社会	2												
アジア太平洋の歴史	2												
日本の政治と社会	2												
日本のポピュラーカルチャー	2												
日本の歴史	2												
日本国憲法	2												
特殊講義（日本学）	2												
茶道	2												
華道	2												
日本の伝統芸能	2												
学部専門入門 分野科目	観光学入門		2							✓			
	持続可能な開発入門		2							✓			
	社会学入門		2							✓			
	社会科学のための統計学		2							✓			
	政策学入門		2										
	メディア学入門		2										
	国際関係論入門		2										
	比較政治学入門		2										
	政治学入門		2										
	世界経済とグローバル課題		2										
	経済学入門	2						✓					
	基礎数学	2											
上級数学	2												
共通教 養科目		法学	130	16単位 以上	2								
		心理学			2								
		生命倫理			2								
		ウェルネス			2								
		AIと社会			2								
		西洋哲学			2								
		中国哲学			2								
		西洋美術			2								
		近現代の科学技術			2								
		ネゴシエーションスキル			2						✓		

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位				
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング				2		✓							
		キャリア形成のための自己分析				2		✓							
		キャリア形成のための多様な視点				2									
		キャリア形成のためのキャリア分野分析				2									
		特殊講義（共通教養科目）				2									
		ウェブデザイン				2									
		情報処理入門				2									
		プログラミング入門				2									
		情報リテラシー				2									
		メディア制作ラボ				2									
		AIとデータサイエンス				2									
		GIS入門				2									
		データベースシステム				2									
		特殊講義（ICT）				2									
		情報システムプログラミング				2									
インターンシップ	2														
観光学 分野科目	観光学	観光社会学	32	10単位 以上		2						10			
		観光文化論				2									
		遺産観光論				2				✓					
		観光経済学				2									
		文化人類学				2									
		観光とメディア				2				✓					
	観光産業	ツーリズム・オペレーション				2									
		観光地マーケティング				2							✓		
		MICE産業論				2									
		スペシャルインタレスト・ツーリズム				2									
	ホスピタリ ティ産業	ヘルス&ウェルネスツーリズム				2					✓				
		ホスピタリティ・オペレーション				2									
		サービス・エクスペリエンス				2									
		リゾート・マーケティング				2							✓		
		フード&ビバレッジ・オペレーション				2									
レベニュー・マネジメント	2														
持続可 能な社 会分野 科目	環境学	環境と社会	36	10単位 以上		2				✓		10			
		環境政策とガバナンス				2									
		環境経済学				2									
		環境教育				2									
		気候変動				2									
		生物多様性				2			✓						
	資源マネジメ ント	公園と保護地域				2							✓		
		環境汚染と防止				2									
		資源マネジメント				2									
		循環型社会論				2									
	国際開発	エネルギーマネジメント				2									
		サステイナブルビジネス				2							✓		
		開発社会学・人類学				2							✓		
		開発政治論				2									
		紛争と開発				2									
国際開発	国際開発協力	2													
	開発政策	2													
	開発と経済	2													
	開発と経済	2													
専門科目	地域づくり	サステイナブルツーリズム	44	62単位 以上		2				✓		26			
		観光地開発と計画				2				✓					
		農村開発と観光				2			✓						
		サステイナブル都市開発と計画				2		✓							
		都市デザイン				2									
		レジリエント都市論				2			✓						
		コミュニティ開発論				2					✓				
		GISとリモートセンシング				2					✓				
	データサイエ ンスと情報シ ステム	インターネット技術とアプリケーション				2									
		ビッグデータ分析				2									
		システムモデリング				2									

履修モデル1

持続可能な地域・社会の形成に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

官公庁、DMO（観光地域づくり法人）、NGO/NPO 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位			
	通科目	応用統計分析	20		2						20			
		ニューテクノロジーと未来社会			2									
		社会起業			会計入門	2						✓		
					組織行動論	2								
					経営学入門	2				✓				
					マーケティング入門	2						✓		
					経営戦略	2								
					ソーシャルアントレプレナーシップ	2								✓
					プロジェクトマネジメント	2						✓		
					NPO/NGO論	2							✓	
	特殊講義	特殊講義（専門教育科目）	2											
	アカデミック・スキル	社会調査法入門	8	6単位 以上	2	◎		✓						
		質的分析技法			2									
		文献講読Ⅰ			2	◎			✓					
		文献講読Ⅱ			2	◎			✓					
	オフキャンパス・プログラム	専門実習	6	2単位 以上	2	△		✓						
		フィールド・スタディ			2	△		✓	✓					
		専門インターンシップ			2	△			✓					
	演習・最終成果	専門演習	10	2単位 以上	2	■			✓	✓				
		卒業研究			2					✓				
卒業プロジェクト		4			△					✓				
キャップストーン		2			△					✓				
			462	124単位以上	◎：必修科目					計：124				

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
		英語初級A			4		✓				
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
	言語教育科目	中国語Ⅰ	196	または	4						24
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA		日本語 16単位 (英語 基準学 生)	2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(スペイン語)			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位		
共通教育 科目		言語グローバルラーニング（タイ語）A	40単位 以上		2								
		言語グローバルラーニング（タイ語）B			2								
		ベトナム語Ⅰ			4								
		ベトナム語Ⅱ			4								
		ベトナム語Ⅲ			2								
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）A			2								
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）B			2								
		日本語教育のための日本語学			2								
		日本語教授法			2								
		アジア太平洋言語入門			2								
		集中言語研修			2								
		特殊講義（言語教育科目）			2								
		共通教 養科目			APUリテラシー 分野科目	スチューデントサクセスワークショップ	130	16単位 以上	2		✓		
	多文化協働ワークショップ		2			✓							
	平和・ヒューマニティ・民主主義		2										
	異文化間コミュニケーション入門		2										
	異文化フィールドワークⅠ		2										
	異文化フィールドワークⅡ		2										
	多文化比較論		2										
	グローバルリーダーシップの基礎		2										
	海外学習デザイン		2										
	ブリッジプログラム		2										
	異文化間コミュニケーションの応用と実践		2										
	グローバルリーダーシップのためのスキルと実践		2										
	ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ		2										
	アジア太平洋の言語		2										
	アジア太平洋の宗教		2										
アジア太平洋の地理	2												
アジア太平洋の文化と社会	2												
アジア太平洋の歴史	2												
日本の政治と社会	2												
日本のポピュラーカルチャー	2												
日本の歴史	2												
日本国憲法	2												
特殊講義（日本学）	2												
茶道	2												
華道	2												
日本の伝統芸能	2												
学部専門入門 分野科目	観光学入門		2							✓			
	持続可能な開発入門		2							✓			
	社会学入門		2							✓			
	社会科学のための統計学		2							✓			
	政策学入門		2										
	メディア学入門		2										
	国際関係論入門		2										
	比較政治学入門		2										
	政治学入門	2											
	世界経済とグローバル課題	2						✓					
	経済学入門	2											
	基礎数学	2						✓					
	上級数学	2							✓				
共通教 養科目	学部専門入門 分野科目	法学	130	16単位 以上	2								
		心理学			2								
		生命倫理			2								
		ウェルネス			2								
		AIと社会			2								
		西洋哲学			2								
		中国哲学			2								
		西洋美術			2								
		近現代の科学技術			2								
		ネゴシエーションスキル			2						✓		

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング			2				✓		
		キャリア形成のための自己分析									
		キャリア形成のための多様な視点									
		キャリア形成のためのキャリア分野分析									
		特殊講義（共通教養科目）									
		ウェブデザイン									
		情報処理入門									
		プログラミング入門									
		情報リテラシー									
		メディア制作ラボ									
		AIとデータサイエンス									
		GIS入門									
		データベースシステム									
		特殊講義（ICT）									
		情報システムプログラミング									
インターンシップ											
	観光学 分野科目	観光社会学	32	10単位 以上	2				✓		10
		観光文化論									
		遺産観光論									
		観光経済学									
		文化人類学									
		観光とメディア									
		観光産業									
		ツーリズム・オペレーション									
		観光地マーケティング									
		MICE産業論									
		スペシャルインタレスト・ツーリズム									
		ヘルス&ウェルネスツーリズム									
		ホスピタリティ産業									
		ホスピタリティ・オペレーション									
		サービス・エクスペリエンス									
リゾート・マーケティング											
フード&ビバレッジ・オペレーション											
レベニュー・マネジメント											
	持続可能な社会 分野科目	環境と社会	36	10単位 以上	2					✓	26
		環境政策とガバナンス									
		環境経済学									
		環境教育									
		気候変動									
		生物多様性									
		公園と保護地域									
		資源マネジメント									
		環境汚染と防止									
		資源マネジメント									
		循環型社会論									
		エネルギーマネジメント									
		サステイナブルビジネス									
		国際開発									
		開発社会学・人類学									
開発政治論											
紛争と開発											
国際開発協力											
開発政策											
開発と経済											
専門科目	学部共	地域づくり	44	62単位 以上	2					✓	14
		サステイナブルツーリズム									
		観光地開発と計画									
		農村開発と観光									
		サステイナブル都市開発と計画									
		都市デザイン									
		レジリエント都市論									
		コミュニティ開発論									
		データサイエンスと情報システム									
		GISとリモートセンシング									
		インターネット技術とアプリケーション									
		ビッグデータ分析									
		システムモデリング									

履修モデル2

国際開発を軸に、平等で豊かな社会の実現に向けて課題解決に取り組む

想定する進路

国際機関、国際金融機関、総合商社 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位		
	通科目	応用統計分析			2				✓				
		ニューテクノロジーと未来社会			2								
		社会起業			会計入門	2							
					組織行動論	2							
					経営学入門	2			✓				
					マーケティング入門	2							
					経営戦略	2							
					ソーシャルアントレプレナーシップ	2							✓
					プロジェクトマネジメント	2						✓	
					NPO/NGO論	2							
	特殊講義	特殊講義（専門教育科目）	2										
	アカデミック・スキル	社会調査法入門	8	6単位 以上	2	◎	✓					8	
		質的分析技法			2			✓					
		文献講読Ⅰ			2	◎		✓					
		文献講読Ⅱ			2	◎		✓					
	オフキャンパス・プログラム	専門実習	6	2単位 以上	2	△	✓				8		
		フィールド・スタディ			2	△		✓	✓				
		専門インターンシップ			2	△			✓				
	演習・最終成果	専門演習	10	2単位 以上	2	■			✓	✓	10		
		卒業研究			2					✓			
		卒業プロジェクト			4	△				✓			
		キャップストーン			2	△							
				462	124単位以上	◎：必修科目					計：124		

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
		英語初級A			4		✓				
		英語初級B			2		✓				
		英語準中級A			4		✓				
		英語準中級B			2		✓				
		英語中級A			4			✓			
		英語中級B			2			✓			
		英語準上級A			4			✓			
		英語準上級B			2			✓			
		ジャーナリズムのための英語			2						
		ホスピタリティ・観光の英語			2						
		英語コミュニケーション・スキル			2						
		英語ディスカッションとディベート			2						
		ビジネス英語A			2						
		英語上級1A			4						
		英語上級1B			2						
		英語上級2A			4						
		英語上級2B			2						
		ビジネス英語B			2						
		英語小説講読			2						
		メディアのなかの英語			2						
		TESOL			2						
		英語検定試験対策講座Ⅰ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅱ			2						
		英語検定試験対策講座Ⅲ			2						
		日本語初級Ⅰ			4						
		日本語初級Ⅱ			4						
		日本語初級Ⅲ			4						
		日本語中級			4						
		日本語中上級			4						
		日本語上級			4						
		日本語・日本文化			2						
		日本語・日本社会			2						
		キャリア日本語			4						
		漢字・語彙スキルアップ			2						
		自己表現のための日本語			2						
		日本語コミュニケーションスキル			2						
		中国語Ⅰ	196	または	4						
		中国語Ⅱ			4						
		中国語ⅢA		日本語 16単位 (英語 基準学 生)	2						
		中国語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(中国語)B			2						
		韓国語Ⅰ			4						
		韓国語Ⅱ			4						
		韓国語Ⅲ			2						
		韓国語Ⅳ			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)A			2						
		言語グローバルラーニング(韓国語)B			2						
		マレー・インドネシア語Ⅰ			4						
		マレー・インドネシア語Ⅱ			4						
		マレー・インドネシア語ⅢA			2						
		マレー・インドネシア語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(マレー・インドネシ			2						
		スペイン語Ⅰ			4						
		スペイン語Ⅱ			4						
		スペイン語ⅢA			2						
		スペイン語ⅢB			2						
		言語グローバルラーニング(スペイン語)			2						
		タイ語Ⅰ			4						
		タイ語Ⅱ			4						
		タイ語Ⅲ			2						
	言語教育科目										30

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位		
共通教育 科目		言語グローバルラーニング（タイ語）A	40単位 以上		2								
		言語グローバルラーニング（タイ語）B			2								
		ベトナム語Ⅰ			4								
		ベトナム語Ⅱ			4					✓			
		ベトナム語Ⅲ			2					✓			
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）A			2								
		言語グローバルラーニング（ベトナム語）B			2								
		日本語教育のための日本語学			2								
		日本語教授法			2								
		アジア太平洋言語入門			2								
		集中言語研修			2								
		特殊講義（言語教育科目）			2								
		共通教 養科目			APUリテラシー 分野科目	スチューデントサクセスワークショップ	130	16単位 以上	2		✓		
	多文化協働ワークショップ		2			✓							
	平和・ヒューマニティ・民主主義		2										
	異文化間コミュニケーション入門		2										
	異文化フィールドワークⅠ		2										
	異文化フィールドワークⅡ		2										
	多文化比較論		2										
	グローバルリーダーシップの基礎		2										
	海外学習デザイン		2										
	ブリッジプログラム		2										
	異文化間コミュニケーションの応用と実践		2										
	グローバルリーダーシップのためのスキルと実践		2										
	ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ		2										
			学部専門入門 分野科目	アジア太平洋の言語	130	16単位 以上	2						
				アジア太平洋の宗教			2						
アジア太平洋の地理				2				✓					
アジア太平洋の文化と社会				2									
アジア太平洋の歴史				2									
日本の政治と社会				2									
日本のポピュラーカルチャー				2									
日本の歴史				2									
日本国憲法				2									
特殊講義（日本学）				2									
茶道				2									
華道			2										
日本の伝統芸能			2										
学部専門入門 分野科目			観光学入門	130	16単位 以上	2		✓					
			持続可能な開発入門			2		✓					
			社会学入門			2		✓					
			社会科学のための統計学			2		✓					
			政策学入門			2							
			メディア学入門			2							
			国際関係論入門			2							
			比較政治学入門			2							
	政治学入門	2											
	世界経済とグローバル課題	2											
学部専門入門 分野科目	経済学入門	130	16単位 以上	2									
	基礎数学			2			✓						
	上級数学			2									
	法学			2				✓					
	心理学			2				✓					
	生命倫理			2									
	ウェルネス			2									
	AIと社会			2									
	西洋哲学			2									
	中国哲学			2									
学部専門入門 分野科目	西洋美術	130	16単位 以上	2									
	近現代の科学技術			2									
	ネゴシエーションスキル			2				✓					

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位
	世界市民基盤 分野科目	論理とクリティカルシンキング			2				✓		
		キャリア形成のための自己分析									
		キャリア形成のための多様な視点									
		キャリア形成のためのキャリア分野分析									
		特殊講義（共通教養科目）									
		ウェブデザイン									
		情報処理入門									
		プログラミング入門									
		情報リテラシー									
		メディア制作ラボ									
		AIとデータサイエンス									
		GIS入門									
		データベースシステム									
		特殊講義（ICT）									
		情報システムプログラミング									
インターンシップ											
	観光学	観光社会学	32	10単位 以上	2				✓		
		観光文化論									
		遺産観光論									
		観光経済学									
		文化人類学									
		観光とメディア									
	観光産業	ツーリズム・オペレーション									
		観光地マーケティング									
		MICE産業論									
		スペシャルインタレスト・ツーリズム									
	ホスピタリ ティ産業	ヘルス&ウェルネスツーリズム									
		ホスピタリティ・オペレーション									
		サービス・エクスペリエンス									
		リゾート・マーケティング									
		フード&ビバレッジ・オペレーション									
レベニュー・マネジメント											
	環境学	環境と社会	36	10単位 以上	2						
		環境政策とガバナンス									
		環境経済学									
		環境教育									
		気候変動									
		生物多様性									
	公園と保護地域										
	資源マネジメ ント	環境汚染と防止									
		資源マネジメント									
		循環型社会論									
		エネルギーマネジメント									
	国際開発	サステイナブルビジネス									
		開発社会学・人類学									
		開発政治論									
		紛争と開発									
国際開発協力											
専門科目	地域づくり	開発政策									
		開発と経済									
		サステイナブルツーリズム									
		観光地開発と計画									
		農村開発と観光									
	データサイエ ンスと情報シ ステム	サステイナブル都市開発と計画									
		都市デザイン									
		レジリエント都市論									
		コミュニティ開発論									
		GISとリモートセンシング									
	学部共	インターネット技術とアプリケーション	44		2			✓			
		ビッグデータ分析									
		システムモデリング									
		GISとリモートセンシング									
		インターネット技術とアプリケーション									
		ビッグデータ分析									
		システムモデリング									
		環境と社会									
		環境政策とガバナンス									
		環境経済学									
		環境教育									
		気候変動									
		生物多様性									
		公園と保護地域									
		環境汚染と防止									
資源マネジメント											
循環型社会論											
エネルギーマネジメント											
サステイナブルビジネス											
開発社会学・人類学											
開発政治論											
紛争と開発											
国際開発協力											
開発政策											
開発と経済											
サステイナブルツーリズム											
観光地開発と計画											
農村開発と観光											
サステイナブル都市開発と計画											
都市デザイン											
レジリエント都市論											
コミュニティ開発論											
GISとリモートセンシング											
インターネット技術とアプリケーション											
ビッグデータ分析											
システムモデリング											

履修モデル3

ホスピタリティ産業を通じて、持続可能な観光のための課題解決に取り組む

想定する進路

ホテル、航空会社、フードサービス、その他観光関連業 等

※認定科目を除く

✓：履修回数（専門演習は前期・後期で複数回受講）

科目区分1	科目区分2	科目名	全開講 単位数	卒業要件	単位	必修	1年次	2年次	3年次	4年次	取得 単位			
	通科目	応用統計分析	4		2				✓		12			
		ニューテクノロジーと未来社会			2									
		社会起業			会計入門	2								
					組織行動論	2								
					経営学入門	2						✓		
					マーケティング入門	2						✓		
					経営戦略	2								
					ソーシャルアントレプレナーシップ	2							✓	
					プロジェクトマネジメント	2							✓	
					NPO/NGO論	2								
	特殊講義	特殊講義（専門教育科目）	2											
	アカデミック・スキル	社会調査法入門	8	6単位 以上	2	◎	✓					8		
		質的分析技法			2		✓							
		文献講読Ⅰ			2	◎		✓						
		文献講読Ⅱ			2	◎		✓						
	オフキャンパス・プログラム	専門実習	6	2単位 以上	2	△						4		
		フィールド・スタディ			2	△	✓							
		専門インターンシップ			2	△			✓					
	演習・最終成果	専門演習	10	2単位 以上	2	■			✓	✓		10		
		卒業研究			2					✓				
		卒業プロジェクト			4	△				✓				
		キャップストーン			2	△								
				462	124単位以上	◎：必修科目					計：124			

○立命館アジア太平洋大学特別雇用教員規程

2016年12月7日

規程第1098号

(趣旨)

第1条 この規程は、特別雇用教員について、必要な事項を定めることを目的とする。

2 立命館アジア太平洋大学有期雇用教員就業規則その他の規程に定めのない事項については、日本国の労働基準法その他の法令の定めるところによる。

(定義)

第2条 特別雇用教員とは、本大学の教授職にあった者のうち優れた教育研究実績もしくは大学運営に関する経験を持つものについて、教育研究上または大学運営上の特別の必要から定年到達後に継続して任用する者をいう。

(職位)

第3条 特別雇用教員の職位は、教授とする。

(所属)

第4条 特別雇用教員の所属は、定年退職時と同一とする。

(任用基準および手続)

第5条 特別雇用教員の任用基準および手続は、立命館アジア太平洋大学教員任用および昇任規程による。

(職務)

第6条 特別雇用教員は、所属長の指示を受け、次に定める職務を遂行する。

- (1) 学則に定める授業科目の担当およびこれに付随する業務
- (2) 正課外の教育の担当およびこれに付随する業務
- (3) 研究および本大学のネットワークの充実発展に必要な業務
- (4) 学生の生活および課外活動の援助
- (5) 入学試験およびこれに関連する業務の補助
- (6) その他本大学の教学の実施に関し、必要とされる業務

(個人研究費等)

第7条 特別雇用教員に対する個人研究費等の取り扱いは、立命館アジア太平洋大学個人研究費等取扱規程に定める。

(個人研究室)

第8条 特別雇用教員には個人研究室を貸与する。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、大学評議会の議を経て、常任理事会が行う。

附 則

この規程は、2017年4月1日から施行する。

時間割シミュレーション

前期

時限	配当年次	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
		科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態
1	1	言語科目	S	言語科目	S	ステューデントサクセスワークショップ	S	言語科目	S	言語科目	S
	2	言語科目	S	言語科目	S	国際開発協力	Q	言語科目	S	言語科目	S
	3・4	遺産観光論	Q	循環型社会論	Q	経営戦略	Q	観光地マーケティング	Q	循環型社会論	Q
2	1	言語科目	S	生物多様性	S	多文化協働ワークショップ	S	言語科目	S	生物多様性	Q
	2	言語科目	S	ツーリズム・オペレーション	Q	国際開発協力	Q	言語科目	S	ツーリズム・オペレーション	Q
	3・4	遺産観光論	Q	環境と社会	Q	経営戦略	Q	観光地マーケティング	Q	環境と社会	Q
3	1	サステイナブル都市開発と計画 会計入門	Q	スペシャルインタレスト・ツーリズム	Q	観光学入門	S	サステイナブル都市開発と計画 会計入門	Q	スペシャルインタレスト・ツーリズム	Q
	2	文化人類学	Q	環境経済学	Q	応用統計分析	S	文化人類学	S	環境経済学	Q
	3・4	気候変動	Q	観光社会学	Q	専門インターンシップ	S	気候変動	S	観光社会学	Q
4	1	社会調査法入門	S	GISとリモートセンシング	Q	持続可能な開発入門	S	社会学入門	S	社会学入門	S
	2	開発社会学・人類学	Q	ホスピタリティ・オペレーション	Q			開発社会学・人類学	Q	プロジェクトマネジメント	Q
	3・4	都市デザイン	Q	ビッグデータ分析	Q	キャップストーン	S	都市デザイン	Q	観光地開発と計画	Q
5	1	情報リテラシー	S	GISとリモートセンシング	Q						
	2	文獻講読I	S	ホスピタリティ・オペレーション ビッグデータ分析	Q					プロジェクトマネジメント 観光地開発と計画	Q
	3・4	リゾート・マーケティング	Q	専門演習	S			リゾート・マーケティング	Q		Q
6	1	特殊講義(専門教育科目)	S	経営学入門	S			社会科学のための統計学	S	専門実習	S
	2	文獻講読II	S	開発政治論	Q					開発政治論	Q
	3・4	開発政策	Q	卒業研究	S			開発政策	Q		Q

開講形態は、S：セメスター開講、Q：クォーター開講を表す

時間割シミュレーション

後期

時限	配当年次	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
		科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態	科目名	開講形態
1	1	言語科目	S	言語科目	S	スチューデントサクセスワークショップ	S	言語科目	S	言語科目	S
	2	言語科目	S	言語科目	S	サステイナブルツールズム	Q	言語科目	S	言語科目	S
	3・4	観光経済学 公園と保護地域	Q	サステイナブルビジネス	Q	システムモデリング	Q	サービス・エクスベリエンス	Q	サステイナブルビジネス	Q
2	1	言語科目	S	環境汚染と防止	S	多文化協働ワークショップ	S	言語科目	S	環境汚染と防止	Q
	2	言語科目	S	MICE産業論	Q	サステイナブルツールズム	Q	言語科目	S	MICE産業論	Q
	3・4	観光経済学 公園と保護地域	Q	環境政策とガバナンス	Q	システムモデリング	Q	サービス・エクスベリエンス	Q	環境政策とガバナンス	Q
3	1	レジリエント都市論	Q			観光学入門	S	レジリエント都市論	Q		
	2	観光文化論	Q	ヘルス&ウェルネスツールズム	Q	専門インターンシップ	S	観光文化論	Q	ヘルス&ウェルネスツールズム	Q
	3・4	資源マネジメント	Q	環境教育	Q			資源マネジメント	Q	環境教育	Q
4	1	社会調査法入門	S	インターネット技術とアプリケーション	Q	持続可能な開発入門	S	質的分析技法	S	社会学入門	S
	2	観光とメディア	Q	フード&ビバレッジ・オペレーション	Q			観光とメディア	Q	組織行動論	Q
	3・4	農村開発と観光 NPO/NGO論	Q	エネルギーマネジメント	Q	キャップストーン	S	農村開発と観光 NPO/NGO論	Q		
5	1	情報リテラシー	S	インターネット技術とアプリケーション	Q						
	2	文庫講読I	S	フード&ビバレッジ・オペレーション	Q					組織行動論	Q
	3・4	レバニユュー・マネジメント コミュニケーション開発論	Q	エネルギーマネジメント	Q	専門演習	S	レバニユュー・マネジメント コミュニケーション開発論	Q		
6	1			マーケティング入門	S			社会科学のための統計学	S	専門実習	S
	2	文庫講読II	S	紛争と開発	Q					紛争と開発	Q
	3・4	開発と経済	Q	ニューテクノロジーと未来社会 卒業研究	Q	卒業研究	S	開発と経済	Q	ニューテクノロジーと未来社会	Q

開講形態は、S：セメスター開講、Q：クォーター開講を表す

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	英語初級A	1・2前・後		4				○						兼2
	英語初級B	1・2前・後		2				○						兼2
	英語準中級A	1・2前・後		4				○						兼2
	英語準中級B	1・2前・後		2				○						兼2
	英語中級A	1・2前・後		4				○						兼2
	英語中級B	1・2前・後		2				○						兼2
	英語準上級A	1・2前・後		4				○						兼2
	英語準上級B	1・2前・後		2				○						兼2
	英語上級1A	1・2前・後		4				○						兼1
	英語上級1B	1・2前・後		2				○						兼1
	英語上級2A	1・2前・後		4				○						兼1
	英語上級2B	1・2前・後		2				○						兼1
	英語ディスカッションとディベート	2・3前・後		2				○						兼1
	英語検定試験対策講座Ⅰ	2・3・4前・後		2				○						兼1
	英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2				○						兼1
	英語検定試験対策講座Ⅲ	2・3・4前・後		2				○						兼1
	メディアのなかの英語	2・3前・後		2				○						兼1
	ジャーナリズムのための英語	2・3前・後		2				○						兼1
	TESOL	2・3・4前・後		2				○						兼1
	ビジネス英語A	2・3前・後		2				○						兼1
	ビジネス英語B	2・3前・後		2				○						兼1
	ホスピタリティ・観光の英語	2・3前・後		2				○						兼1
	英語コミュニケーション・スキル	2・3前・後		2				○						兼1
	英語小説講読	2・3前・後		2				○						兼1
	日本語初級Ⅰ	1・2前・後		4				○						兼3
	日本語初級Ⅱ	1・2前・後		4				○						兼4
	日本語初級Ⅲ	1・2前・後		4				○						兼4
	日本語中級	1・2前・後		4				○						兼4
	日本語中上級	2・3前・後		4				○						兼3
	日本語上級	2・3前・後		4				○						兼2
	キャリア日本語	3・4前・後		4				○						兼1
	日本語・日本文化	2・3前・後		2				○						兼1
	日本語・日本社会	2・3前・後		2				○						兼1
	漢字・語彙スキルアップ	2・3前・後		2				○						兼1
	自己表現のための日本語	2・3前・後		2				○						兼1
	日本語コミュニケーションスキル	2・3前・後		2				○						兼1
	日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2				○						兼1
	日本語教授法	2・3・4前・後		2				○						兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	中国語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
中国語ⅢA	1・2・3前・後		2				○						兼1	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	中国語ⅢB	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(中国語)A	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(中国語)B	1・2・3前・後		2				○						兼1
	韓国語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	韓国語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	韓国語Ⅲ	1・2・3前・後		2				○						兼1
	韓国語Ⅳ	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(韓国語)A	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(韓国語)B	1・2・3前・後		2				○						兼1
	マレー・インドネシア語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	マレー・インドネシア語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	マレー・インドネシア語ⅢA	1・2・3前・後		2				○						兼1
	マレー・インドネシア語ⅢB	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(マレー・インドネシア語)	1・2・3前・後		2				○						兼1
	スペイン語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	スペイン語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	スペイン語ⅢA	1・2・3前・後		2				○						兼1
	スペイン語ⅢB	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(スペイン語)	1・2・3前・後		2				○						兼1
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(タイ語)A	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(タイ語)B	1・2・3前・後		2				○						兼1
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○						兼1
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(ベトナム語)A	1・2・3前・後		2				○						兼1
	言語グローバルラーニング(ベトナム語)B	1・2・3前・後		2				○						兼1
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2			○							兼1
	集中言語研修	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
	特殊講義(言語教育科目)	1・2・3・4前・後		2				○						兼1
言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8						1					
小計(74科目)		—	0	204	0		—		1	0	0	0	0	兼28
共通教養科目	観光学入門	1前・後		2			○			1			1	
	持続可能な開発入門	1前・後		2			○			1				
	社会学入門	1前・後		2			○			1			1	
	社会科学のための統計学	1前・後		2			○				2			
	スチューデントサクセスワークショップ	1前・後		2			○							兼10
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○				1			兼7
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2			○							兼1

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2		○								兼1	※実習	
	異文化フィールドワーク I	1前・後		2		○								兼1		
	異文化フィールドワーク II	1・2前・後		2		○								兼1		
	多文化比較論	1・2前・後		2		○								兼2		
	グローバルリーダーシップの基礎	1・2前・後		2		○								兼1		
	海外学習デザイン	1・2前・後		2		○								兼1		
	ブリッジプログラム	1・2前・後		2		○								兼1		
	異文化間コミュニケーションの応用と実践	2・3前・後		2		○								兼1		
	グローバルリーダーシップのためのスキルと実践	2・3前・後		2			○							兼1		
	ソーシャルインパクトのためのグローバルリーダーシップ	2・3前・後		2			○							兼1		
	アジア太平洋の言語	1・2前・後		2		○								兼1		
	アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2		○								兼1		
	アジア太平洋の地理	1・2前・後		2		○								兼1		
	アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2		○								兼1		
	アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2		○								兼1		
	日本の政治と社会	1・2前・後		2		○								兼2		
	日本のポピュラーカルチャー	1・2前・後		2		○								兼1		
	日本の歴史	1・2前・後		2		○								兼1		
	日本国憲法	1・2前・後		2		○								兼1		
	特殊講義(日本学)	1・2前・後		2		○								兼1		
	茶道	2・3前・後		2		○								兼1		※演習
	華道	2・3前・後		2		○								兼1		※演習
	日本の伝統芸能	2・3前・後		2		○								兼1		※演習
	政策学入門	1・2前・後		2		○								兼1		
	メディア学入門	1・2前・後		2		○								兼1		
	国際関係論入門	1・2前・後		2		○								兼3		
	比較政治学入門	1・2前・後		2		○								兼1		
	政治学入門	1・2前・後		2		○								兼2		
	世界経済とグローバル課題	1・2前・後		2		○								兼1		
	経済学入門	1・2前・後		2		○								兼3		
	基礎数学	1・2前・後		2		○								兼1		
	上級数学	2・3前・後		2		○								兼1		
	法学	1・2前・後		2		○								兼1		
心理学	1・2前・後		2		○				1							
生命倫理	1・2前・後		2		○								兼1			
ウェルネス	2・3前・後		2		○				1				兼1			
AIと社会	1・2前・後		2		○								兼1			
西洋哲学	1・2前・後		2		○								兼1			
中国哲学	1・2前・後		2		○								兼1			
西洋美術	1・2前・後		2		○								兼1			
近現代の科学技術	1・2前・後		2		○								兼1			

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要																
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	共通教養科目	ネゴシエーションスキル	1・2前・後	2		○									兼1	
		論理とクリティカルシンキング	1・2前・後	2		○										兼1
		キャリア形成のための自己分析	1・2前・後	2		○										兼1
		キャリア形成のための多様な視点	1・2前・後	2		○										兼1
		キャリア形成のためのキャリア分野分析	2・3前・後	2		○										兼1
		特殊講義(共通教養科目)	1・2・3・4前・後	2		○										兼2
		ウェブデザイン	1・2前・後	2				○								兼1
		情報処理入門	1・2前・後	2				○			1					兼1
		プログラミング入門	1・2前・後	2				○			1					兼3
		情報リテラシー	1・2前・後	2				○			1					
		メディア制作ラボ	2・3前・後	2				○								兼1
		AIとデータサイエンス	2・3前・後	2			○				1					
		GIS入門	2・3前・後	2				○			1					
		データベースシステム	2・3前・後	2				○								兼1
		特殊講義(ICT)	2・3・4前・後	2				○			1	1				兼1
情報システムプログラミング	2・3前・後	2				○								兼1		
インターンシップ	2・3・4前・後	2						○						兼1	※講義	
共通教養科目分野	1・2・3・4前・後	8				○			1							
小計(66科目)		—	8	130	0	—			6	4	0	2	0	兼43	—	
専門教育科目	観光学分野科目	観光社会学	2・3前・後	2		○								1		
		観光文化論	2・3前・後	2		○				1						
		遺産観光論	3・4前・後	2		○				1				1		
		観光経済学	3・4前・後	2		○				1						
		文化人類学	2・3前・後	2		○										兼2
		観光とメディア	2・3前・後	2		○								1		兼1
		ツーリズム・オペレーション	2・3前・後	2		○								1		
		観光地マーケティング	3・4前・後	2		○					1			1		
		MICE産業論	2・3前・後	2		○				2						
		スペシャルインタレスト・ツーリズム	2・3前・後	2		○								1		
		ヘルス&ウェルネスツーリズム	2・3前・後	2		○				1						
		ホスピタリティ・オペレーション	2・3前・後	2		○					1			1		
		サービス・エクスペリエンス	3・4前・後	2		○					1			1		
		リゾート・マーケティング	3・4前・後	2		○					1			1		
		フード&ビバレッジ・オペレーション	2・3前・後	2		○								1		
レベニュー・マネジメント	3・4前・後	2		○				1						兼1		
専門教育科目分野(観光学)	1・2・3・4前・後	8				○			1							
小計(17科目)		—	0	40	0	—			5	1	0	3	0	兼3	—	
		環境と社会	2・3前・後	2		○			1							
		環境政策とガバナンス	2・3前・後	2		○			1							
		環境経済学	2・3前・後	2		○			1							
		環境教育	2・3前・後	2		○									兼1	

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
持続可能な社会分野科目	気候変動	2・3前・後		2		○			1	1					
	生物多様性	1・2前・後		2		○			1						
	公園と保護地域	3・4前・後		2		○			1						
	環境汚染と防止	1・2前・後		2		○			1						
	資源マネジメント	2・3前・後		2		○				1					
	循環型社会論	3・4前・後		2		○			1						
	エネルギーマネジメント	2・3前・後		2		○				1					
	サステイナブルビジネス	3・4前・後		2		○				1					
	開発社会学・人類学	2・3前・後		2		○			1						
	開発政治論	2・3前・後		2		○								兼1	
	紛争と開発	2・3前・後		2		○								兼1	
	国際開発協力	2・3前・後		2		○			1						
	開発政策	3・4前・後		2		○			1						
	開発と経済	3・4前・後		2		○			2						
	専門教育科目分野(持続可能な社会)	1・2・3・4前・後		8		○			1						
	小計(19科目)		—	0	44	0	—			6	2	0	0	0	兼3
専門教育科目	サステイナブルツーリズム	2・3前・後		2		○			1						
	観光地開発と計画	2・3前・後		2		○			1			1			
	農村開発と観光	2・3前・後		2		○			1						
	サステイナブル都市開発と計画	1・2前・後		2		○				1					
	都市デザイン	2・3前・後		2		○			1						
	レジリエント都市論	1・2前・後		2		○				1					
	コミュニティ開発論	3・4前・後		2		○			1						
	GISとリモートセンシング	1・2前・後		2			○		1						
	インターネット技術とアプリケーション	1・2前・後		2			○		1	1					
	ビッグデータ分析	2・3前・後		2			○			1					
	システムモデリング	2・3前・後		2			○		1						
	応用統計分析	2・3前・後		2			○			1					
	ニューテクノロジーと未来社会	2・3前・後		2		○			1	1					
	会計入門	1・2前・後		2		○				1					
	組織行動論	2・3前・後		2		○								兼2	
	経営学入門	1・2前・後		2		○								兼1	
	マーケティング入門	1・2前・後		2		○								兼2	
経営戦略	2・3前・後		2		○				1		1				
ソーシャルアントレプレナーシップ	3・4前・後		2		○				1		1				
プロジェクトマネジメント	2・3前・後		2		○				1						
NPO/NGO論	3・4前・後		2		○				2						
特殊講義(専門教育科目)	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
専門教育科目分野(学部共通)	1・2・3・4前・後		8		○				1						
小計(23科目)		—	0	52	0	—			6	4	0	3	0	兼6	—

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	・アカデミック科目	社会調査法入門	1前・後	2				○		2						
		質的分析技法	1・2前・後		2			○		1						
		文献講読Ⅰ	2前	2				○		5			2			
		文献講読Ⅱ	2後	2				○		5			2			
		小計(4科目)	—	6	2	0		—		9	0	0	2	0	兼0	—
	・オフキャンパスプログラム科目	専門実習	1・2・3・4前・後		2			○		5	1					※実習
		フィールド・スタディ	1・2・3・4前・後		2			○		4	1				兼1	※実習
		専門インターンシップ	2・3・4前・後		2				○						兼1	※講義
		小計(3科目)	—	0	6	0		—		7	1	0	0	0	兼1	—
	・最終成果科目	専門演習	3前・後		2			○		12	5		3			
		卒業研究	4前		2			○		12	5		3			
		卒業プロジェクト	4後		4			○		12	5		3			
		キャップストーン	4前・後		2			○		3						
		小計(4科目)	—	0	10	0		—		13	5	0	3	0	兼0	—
	合計(210科目)		—	14	488	0		—		14	6	0	3	0	兼74	—
学位又は称号		学士(サステナビリティ観光学)	学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ①共通教養科目において、以下の4科目8単位を含む合計16単位以上を修得する。 持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門、社会科学のための統計学 ②言語教育科目において、日本語基準学生は英語24単位以上、英語基準学生は日本語16単位以上を修得する。 (2)専門教育科目において、以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計62単位以上を修得する。 ①アカデミック・スキル科目のうち、以下の3科目6単位を修得する。 社会調査法入門、文献講読Ⅰ、文献講読Ⅱ ②演習・最終成果科目のうち、以下の科目から1科目2単位以上を修得する。 卒業プロジェクト、キャップストーン ③オフキャンパス・プログラム科目のうち、1科目2単位以上を修得する。 ④観光学分野科目のうち、5科目10単位以上を修得する。 ⑤持続可能な社会分野科目のうち、5科目10単位以上を修得する。 履修科目の登録の上限：1年次36単位(前期18単位・後期18単位)、2年次40単位(前期20単位・後期20単位)、3年次40単位(前期20単位・後期20単位)、4年次48単位(前期24単位・後期24単位)							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		14週							
							1時限の授業時間		100分							

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要												
(サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科)												
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 言語教育科目	英語初級A	1・2前・後		4				○							兼5
	英語初級B	1・2前・後		2				○							兼4
	英語準中級A	1・2前・後		4				○							兼11
	英語準中級B	1・2前・後		2				○							兼12
	英語中級A	1・2前・後		4				○							兼17
	英語中級B	1・2前・後		2				○							兼13
	英語準上級A	1・2前・後		4				○							兼14
	英語準上級B	1・2前・後		2				○							兼14
	ジャーナリズムのための英語	3・4前・後		2				○							兼1
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4前・後		2				○							兼1
	英語ディスカッションとディベート	3・4前・後		2				○							兼1
	英語上級1A	1・2前・後		4				○							兼3
	英語上級1B	1・2前・後		2				○							兼3
	英語上級2A	1・2前・後		4				○							兼4
	英語上級2B	1・2前・後		2				○							兼4
	ビジネス英語2	2・3前・後		2				○							兼1
	英語多読	2・3前・後		2				○							兼1
	メディアのなかの英語	2・3前・後		2				○							兼1
	英語プロジェクト2	3・4前・後		2				○							兼1
	日本語初級I	1・2前・後		4				○							兼16
	日本語初級II	1・2前・後		4				○							兼13
	日本語初級III	1・2前・後		4				○							兼14
	日本語中級	1・2前・後		4				○							兼12
	日本語中上級	2・3前・後		4				○							兼11
	日本語上級	2・3前・後		4				○							兼9
	日本語プロジェクトA	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語プロジェクトC	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語プロジェクトD	2・3前・後		2				○							兼1
	日本語プロジェクトF	2・3前・後		2				○							兼1
	講義の日本語	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語・日本文化	2・3前・後		2				○							兼1
	日本語・日本社会	2・3前・後		2				○							兼1
	キャリア日本語	3・4前・後		4				○							兼2
	日本語ビジネスコミュニケーションA	3・4前・後		2				○							兼1
	中国語I	1・2・3前・後		4				○							兼6
	中国語II	1・2・3前・後		4				○							兼5
	中国語III	1・2・3前・後		4				○							兼4
	中国語IV	1・2・3前・後		4				○							兼2
	韓国語I	1・2・3前・後		4				○							兼6
	韓国語II	1・2・3前・後		4				○							兼3
	韓国語III	1・2・3前・後		4				○							兼2
	韓国語IV	1・2・3前・後		4				○							兼2
	マレー語・インドネシア語I	1・2・3前・後		4				○							兼5
	マレー語・インドネシア語II	1・2・3前・後		4				○							兼4
	マレー語・インドネシア語III	1・2・3前・後		4				○							兼2
マレー語・インドネシア語IV	1・2・3前・後		2				○							兼1	
スペイン語I	1・2・3前・後		4				○							兼6	
スペイン語II	1・2・3前・後		4				○							兼4	
スペイン語III	1・2・3前・後		4				○							兼2	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語教育科目	スペイン語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼2	
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3	
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1	
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼1	
	タイ語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○		1					兼2	
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	ベトナム語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	TESOL	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	海外集中言語研修	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
	特殊講義（言語教育科目）	1・2・3・4前・後		2			○							兼4	
	日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語教授法	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2			○		1						
言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8				○	1							
小計（66科目）		—	0	204	0	—			2	0	0	0	0	兼40	—
共通教育科目	スタディスキル・アカデミックライティング	1前・後		2			○		2	3		2		兼13	
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○		2	1		1		兼10	
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2			○		1					兼1	
	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2			○							兼3	
	多文化比較論	1・2前・後		2			○		4	1					
	海外学習デザイン	1・2前・後		2			○							兼1	
	異文化フィールドワークⅠ	1前・後		2			○							兼2	※実習
	APSブリッジプログラム	1・2前・後		2			○							兼1	
	ピアリーダートレーニング入門	1・2前・後		2			○							兼2	
	ピアリーダートレーニングⅠ	1・2前・後		2			○							兼2	
	ピアリーダートレーニングⅡA	2・3前・後		2			○							兼3	
	ピアリーダートレーニングⅡB	2・3前・後		2			○							兼3	
	アジア太平洋の言語	1・2前・後		2			○		1					兼1	
	アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の地理	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2			○		2					兼1	
	アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の経済	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本の地理	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本の文化と社会	1・2前・後		2			○		2					兼2	
	日本の歴史	1・2前・後		2			○			1				兼1	
	日本の経済	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本国憲法	1・2前・後		2			○		1					兼1	
	茶道	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	華道	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	日本の伝統芸能	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	法学	1・2前・後		2			○		1					兼2	
心理学	1・2前・後		2			○		1					兼1		
生命倫理	1・2前・後		2			○		1					兼1		
環境科学	2・3前・後		2			○			1				兼1		

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	ウェルネス	2・3前・後		2		○			2						兼1
	文化・社会学入門	1・2前・後		2		○			2						兼2
	メディア入門	1・2前・後		2		○			2						
	国際関係論入門	1・2前・後		2		○			1	2					兼1
	政治学入門	1・2前・後		2		○			1	1					
	開発学入門	1・2前・後		2		○			2			1			
	環境学入門	1・2前・後		2		○				2					兼1
	観光学入門	1・2前・後		2		○				1			2		兼1
	経済学入門	1・2前・後		2		○			1						兼4
	統計学	1・2前・後		2		○									兼5
	ネゴシエーションスキル	1・2前・後		2		○			1						
	ロジカルシンキングとフレームワーク	1・2前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅠ	1・2前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅡ	2・3前・後		2		○									兼2
	キャリア・デザインⅢ	3・4前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅣ	3・4前・後		2		○									兼1
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○	1						※講義
	メディア制作ラボ	2・3前・後		2				○	2						兼2
	インターネット入門	1・2前・後		2				○	1						兼1
	コンピューターリテラシー	1・2前・後		2				○							兼3
	プログラミング	1・2前・後		2				○	1						兼5
	データマイニング	2・3前・後		2				○							兼3
	GIS入門	2・3前・後		2				○	1						兼1
インターネット技術統合	2・3前・後		2				○	1							
データベースシステム	3・4前・後		2				○							兼3	
特殊講義 (ICT)	3・4前・後		2				○	2						兼2	
特殊講義 (共通教養科目)	1・2・3・4前・後		2			○								兼12	
共通教養科目分野	1・2・3・4前・後		8			○		1							
小計 (58 科目)		—	0	122	0	—			23	8	0	2	0	兼45	—
専門教育科目	APS入門	1前・後		2		○			2	2					
	地域研究入門	1前・後		2		○				1					兼1
	調査研究入門	2・3前・後		2			○		2						兼1
	専門演習Ⅰ	3・4前・後		2			○		19	8		3			兼3
	専門演習Ⅱ	3・4前・後		2			○		23	8		4			兼3
	卒業研究Ⅰ	4前		2			○		23	8		4			兼4
	卒業研究Ⅱ	4後		4			○		22	8		3			兼5
	特殊講義 (専門教育科目)	2・3・4前・後		2		○			5	1		2			兼2
	APSフィールド・スタディ	2・3前・後		2		○			2			1			※実習
	地域研究	2・3前・後		2		○			2	1					兼1
	プロジェクト研究	3・4前・後		2		○			1						※演習
	都市環境と開発	2・3前・後		2		○									兼2
	地球環境問題	2・3前・後		2		○			2						兼1
	開発社会学・人類学	2・3前・後		2		○			2						
	環境と社会	2・3前・後		2		○				1					兼1
	生物多様性	2・3前・後		2		○				1					兼1
	紛争と開発	2・3前・後		2		○			1						
国際協力論	2・3前・後		2		○			1							
開発政治論	2・3前・後		2		○									兼2	
エコ・ツーリズム論	2・3前・後		2		○			2							

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	基礎演習（環境・開発）	2前・後		2				○							兼2 兼1	※実習
	コミュニティ・ベース・ツーリズム	2・3前・後		2			○		1							
	環境・開発フィールド・スタディ	2・3前・後		2			○		2							
	NPO/NGO研究	3・4前・後		2			○		2							
	環境コミュニケーション	3・4前・後		2			○								兼2	
	コミュニティー開発論	3・4前・後		2			○		1							
	開発のプロジェクト・マネジメント	3・4前・後		2			○								兼2	
	開発政策	3・4前・後		2			○					1				
	環境経済学	3・4前・後		2			○		1						兼2	
	環境政策	3・4前・後		2			○		1							
	産業生態学	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	環境モデリング	3・4前・後		2			○		1							
	資源マネジメント	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	GISとリモートセンシング	3・4前・後		2				○		1						※演習
	国際経済学	3・4前・後		2			○								兼2	
	開発経済学	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	国際機構論	3・4前・後		2			○			1						
	環境・開発 特殊講義	3・4前・後		2			○			1	1					
	ホスピタリティ・マーケティング	2・3前・後		2			○					1			兼1	
	ホスピタリティ・マネジメント	2・3前・後		2			○				1		1			
	観光社会学	2・3前・後		2			○								兼2	
	イベントマネジメント	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	旅行産業論	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	遺産観光論	2・3前・後		2			○			1			1			
	観光文化論と観光史	2・3前・後		2			○			1					兼1	
	文化人類学	2・3前・後		2			○			1	1					
	基礎演習（観光学）	2前・後		2				○		2						
	観光開発と計画	3・4前・後		2			○			1						
	観光・ホスピタリティと法	3・4前・後		2			○								兼2	
	健康とウェルネスツーリズム	3・4前・後		2			○								兼2	
	観光とソーシャルメディア	3・4前・後		2			○			1			1			
	観光地マーケティングとマネジメント	3・4前・後		2			○			1			1			
	農業遺産とツーリズム	3・4前・後		2			○			1					兼1	
	MICE産業論	3・4前・後		2			○			1						
	リゾート開発	3・4前・後		2			○			1	1					
	観光経済学	3・4前・後		2			○								兼2	
	オペレーションズ・リサーチ	3・4前・後		2			○								兼2	
	人材マネジメント（上級）	3・4前・後		2			○								兼1	
	観光学 特殊講義	3・4前・後		2			○			2					兼2	
	組織行動論（上級）	3・4前・後		2			○								兼2	
	国際問題と政策	2・3前・後		2			○			1	1					
	国際法	2・3前・後		2			○						1		兼1	
グローバル化と地域主義	2・3前・後		2			○			1	1						
平和学	2・3前・後		2			○			1					兼1		
政治理論	2・3前・後		2			○								兼2		
アジア太平洋の比較政治経済	2・3前・後		2			○					1			兼1		
国際関係理論	2・3前・後		2			○					1			兼1		
国際政治史	2・3前・後		2			○					1			兼1		
人権論	2・3前・後		2			○						1				
基礎演習（国際関係）	2前・後		2				○		1							
グローバル化と規範	3・4前・後		2			○						1		兼1		

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	冷戦後の紛争と地政学	3・4前・後		2		○									兼2
	アイデンティティと政治	3・4前・後		2		○			1						兼1
	国際紛争解決	3・4前・後		2		○									兼1
	国際政治経済学	3・4前・後		2		○			1						
	アジア太平洋における国際関係	3・4前・後		2		○			1						兼1
	戦略分析と意思決定	3・4前・後		2		○			1	1					
	暴力とテロリズム	3・4前・後		2		○									兼2
	アジア太平洋地域システム論	3・4前・後		2		○									兼2
	メディアと政治	3・4前・後		2		○			1						
	日本の外交政策	3・4前・後		2		○									兼2
	エスニシティと国民国家	3・4前・後		2		○				1					兼1
	グローバルメディアと紛争	3・4前・後		2		○			2						
	日本の対外関係史	3・4前・後		2		○				1					兼1
	社会理論	2・3前・後		2		○									兼2
	国際社会学	2・3前・後		2		○				1					兼1
	社会階層論	2・3前・後		2		○			1	1					
	メディアと文化	2・3前・後		2		○			1						兼2
	カルチュラルスタディーズ	2・3前・後		2		○			1						
	メディアと法	2・3前・後		2		○			1						兼1
	ニューメディアと社会	2・3前・後		2		○			1						兼2
	グローバル・ヒストリー	2・3前・後		2		○				1					
	人文学と近代	2・3前・後		2		○									兼1
	社会心理学	2・3前・後		2		○									兼2
	言語と社会	2・3前・後		2		○				1					兼1
	基礎演習（文化・社会・メディア）	2前・後		2			○			2					
	多文化社会論	3・4前・後		2		○				1					兼1
	組織社会学	3・4前・後		2		○				1					兼1
	ジェンダー研究	3・4前・後		2		○									兼2
教育と社会	3・4前・後		2		○				1					兼1	
メディアと歴史	3・4前・後		2		○				1	1				兼1	
宗教と信仰	3・4前・後		2		○				1					兼1	
文化・社会・メディア 特殊講義	3・4前・後		2		○				1	1					
専門教育科目分野	1・2・3・4前・後		8		○				1						
小計（104科目）		—	0	216	0	—			23	11	0	2	0	兼51	—
合計（228科目）		—	0	542	0	—			23	11	0	2	0	兼106	—
学位又は称号	学士（アジア太平洋学）		学位又は学科の分野				社会学・社会福祉学関係								

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
(アジア太平洋学部アジア太平洋学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1) 共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ① 共通教養科目において、選択した学修分野で指定された1科目2単位を含む合計16単位以上を修得する。 ② 言語教育科目において、日本語基準学生は英語科目24単位以上、英語基準学生は日本語科目16単位以上を修得する。 (2) 専門教育科目において、選択した学修分野で指定された28単位を含む合計62単位以上を修得する。 履修科目の登録の上限：1年次36単位（前期18単位・後期18単位）、2年次40単位（前期20単位・後期20単位）、3年次40単位（前期20単位・後期20単位）、4年次48単位（前期24単位・後期24単位）						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			14週					
						1 時限の授業時間			100分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

別記様式第2号(その2の1)

(用紙 日本産業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(国際経営学部国際経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 言語教育科目	英語初級A	1・2前・後		4				○							兼5
	英語初級B	1・2前・後		2				○							兼4
	英語準中級A	1・2前・後		4				○							兼11
	英語準中級B	1・2前・後		2				○							兼12
	英語中級A	1・2前・後		4				○							兼17
	英語中級B	1・2前・後		2				○							兼13
	英語準上級A	1・2前・後		4				○							兼14
	英語準上級B	1・2前・後		2				○							兼14
	ジャーナリズムのための英語	3・4前・後		2				○							兼1
	英語ビジネス・プレゼンテーション	3・4前・後		2				○							兼1
	英語ディスカッションとディベート	3・4前・後		2				○							兼1
	英語上級1A	1・2前・後		4				○							兼3
	英語上級1B	1・2前・後		2				○							兼3
	英語上級2A	1・2前・後		4				○							兼4
	英語上級2B	1・2前・後		2				○							兼4
	ビジネス英語2	2・3前・後		2				○							兼1
	英語多読	2・3前・後		2				○							兼1
	メディアのなかの英語	2・3前・後		2				○							兼1
	英語プロジェクト2	3・4前・後		2				○							兼1
	日本語初級Ⅰ	1・2前・後		4				○							兼16
	日本語初級Ⅱ	1・2前・後		4				○							兼13
	日本語初級Ⅲ	1・2前・後		4				○							兼14
	日本語中級	1・2前・後		4				○							兼12
	日本語中上級	2・3前・後		4				○							兼11
	日本語上級	2・3前・後		4				○							兼9
	日本語プロジェクトA	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語プロジェクトC	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語プロジェクトD	2・3前・後		2				○							兼1
	日本語プロジェクトF	2・3前・後		2				○							兼1
	講義の日本語	2・3前・後		2				○							兼2
	日本語・日本文化	2・3前・後		2				○							兼1
	日本語・日本社会	2・3前・後		2				○							兼1
	キャリア日本語	3・4前・後		4				○							兼2
	日本語ビジネスコミュニケーションA	3・4前・後		2				○							兼1
	中国語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○							兼6
	中国語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○							兼5
	中国語Ⅲ	1・2・3前・後		4				○							兼4
	中国語Ⅳ	1・2・3前・後		4				○							兼2
	韓国語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○							兼6
	韓国語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○							兼3
	韓国語Ⅲ	1・2・3前・後		4				○							兼2
	韓国語Ⅳ	1・2・3前・後		4				○							兼2
マレー語・インドネシア語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○							兼5	
マレー語・インドネシア語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○							兼4	
マレー語・インドネシア語Ⅲ	1・2・3前・後		4				○							兼2	
マレー語・インドネシア語Ⅳ	1・2・3前・後		2				○							兼1	
スペイン語Ⅰ	1・2・3前・後		4				○							兼6	
スペイン語Ⅱ	1・2・3前・後		4				○							兼4	
スペイン語Ⅲ	1・2・3前・後		4				○							兼2	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(国際経営学部国際経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
言語教育科目	スペイン語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼2	
	タイ語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3	
	タイ語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼1	
	タイ語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼1	
	タイ語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	ベトナム語Ⅰ	1・2・3前・後		4			○							兼3	
	ベトナム語Ⅱ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	ベトナム語Ⅲ	1・2・3前・後		4			○							兼2	
	ベトナム語Ⅳ	1・2・3前・後		2			○							兼1	
	TESOL	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	英語検定試験対策講座Ⅱ	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	海外集中言語研修	1・2・3・4前・後		2			○							兼2	
	特殊講義（言語教育科目）	1・2・3・4前・後		2			○							兼4	
	日本語教育のための日本語学	2・3前・後		2			○							兼1	
	日本語教授法	2・3・4前・後		2			○							兼1	
	アジア太平洋言語入門	1・2前・後		2			○							兼1	
言語教育科目分野	1・2・3・4前・後		8				○						兼1		
小計（66科目）		—	0	204	0	—			0	0	0	0	0	兼41	—
共通教育科目	スタディスキル・アカデミックライティング	1前・後		2			○		2	4		1		兼13	
	多文化協働ワークショップ	1前・後		2			○			1				兼13	
	平和・ヒューマニティ・民主主義	1・2前・後		2			○							兼2	
	異文化間コミュニケーション入門	1・2前・後		2			○							兼3	
	多文化比較論	1・2前・後		2			○							兼5	
	海外学習デザイン	1・2前・後		2			○							兼1	
	異文化フィールドワークⅠ	1前・後		2			○							兼2	※実習
	APMブリッジプログラム	1前・後		2			○							兼1	
	ピアリーダートレーニング入門	1・2前・後		2			○							兼2	
	ピアリーダートレーニングⅠ	1・2前・後		2			○							兼2	
	ピアリーダートレーニングⅡA	2・3前・後		2			○							兼3	
	ピアリーダートレーニングⅡB	2・3前・後		2			○							兼3	
	アジア太平洋の言語	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の宗教	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の地理	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の文化と社会	1・2前・後		2			○							兼3	
	アジア太平洋の歴史	1・2前・後		2			○							兼2	
	アジア太平洋の経済	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本の地理	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本の文化と社会	1・2前・後		2			○							兼4	
	日本の歴史	1・2前・後		2			○							兼2	
	日本の経済	1・2前・後		2			○			1				兼1	
	日本国憲法	1・2前・後		2			○							兼2	
	茶道	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	華道	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	日本の伝統芸能	2・3前・後		2			○							兼1	※演習
	法学	1・2前・後		2			○							兼3	
心理学	1・2前・後		2			○							兼2		
生命倫理	1・2前・後		2			○							兼2		
環境科学	2・3前・後		2			○							兼2		

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
(国際経営学部国際経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目 共通教養科目	ウェルネス	2・3前・後		2		○									兼3
	文化・社会学入門	1・2前・後		2		○									兼4
	メディア入門	1・2前・後		2		○									兼2
	国際関係論入門	1・2前・後		2		○									兼4
	政治学入門	1・2前・後		2		○									兼2
	開発学入門	1・2前・後		2		○									兼3
	環境学入門	1・2前・後		2		○									兼3
	観光学入門	1・2前・後		2		○									兼4
	経済学入門	1・2前・後	2			○			1	2					兼2
	統計学	1・2前・後	2			○			2						兼3
	ネゴシエーションスキル	1・2前・後		2		○									兼1
	ロジカルシンキングとフレームワーク	1・2前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅠ	1・2前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅡ	2・3前・後		2		○			1						兼1
	キャリア・デザインⅢ	3・4前・後		2		○									兼1
	キャリア・デザインⅣ	3・4前・後		2		○									兼1
	インターンシップ	2・3・4前・後		2				○							兼1
	メディア制作ラボ	2・3前・後		2				○							兼4
	インターネット入門	1・2前・後		2				○							兼2
	コンピューターリテラシー	1・2前・後		2				○		1					兼2
	プログラミング	1・2前・後		2				○		2	1				兼3
	データマイニング	2・3前・後		2				○		1					兼2
	GIS入門	2・3前・後		2				○							兼2
	インターネット技術統合	2・3前・後		2				○							兼1
	データベースシステム	3・4前・後		2				○		2					兼1
	特殊講義 (ICT)	3・4前・後		2				○		1					兼3
	特殊講義 (共通教養科目)	1・2・3・4前・後		2			○								兼12
共通教養科目分野	1・2・3・4前・後		8			○								兼1	
小計 (58 科目)		—	4	118	0	—			7	6	0	1	0	兼51	—
専門教育科目	経営学入門	1前・後	2			○			1	1					兼3
	基礎数学	1前・後		2		○				1					兼3
	会計学Ⅰ	1前・後	2			○			1	3					
	マーケティング入門	1前・後	2			○			2	1		1			兼1
	上級数学	2・3前・後		2		○			1	1					兼1
	金融論	2・3前・後	2			○			2	1		1			
	人材と組織行動のマネジメント	2・3前・後	2			○			2	2					
	生産管理論	2・3前・後	2			○			2						
	ビジネス法務戦略	2・3前・後	2			○			1	1					兼1
	ビジネスエシックス	3・4前・後	2			○			2	2					兼1
	グローバルマネジメント (Capstone)	4前・後	2			○			1	4		1			
	専門演習Ⅰ	3・4前・後		2				○	19	9		2			兼7
	専門演習Ⅱ	3・4前・後		2				○	19	10		2			兼8
	卒業研究	4前		2				○	19	10		2			兼9
	卒業論文	4後		4				○	19	9		2			兼5
	ソーシャルアントレプレナーシップ	2・3前・後		2			○		1	1					
	ビジネスデータ分析	2・3前・後		2			○			1		1			
	特殊講義 (専門教育科目)	2・3・4前・後		2			○			1					兼4
	ビジネスケース分析・コミュニケーション	3・4前・後		2			○			1					兼1
	経営情報システム	3・4前・後		2			○		2						

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要															
（国際経営学部国際経営学科）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	ビジネスインターンシップ	3・4前・後		2		○				1					※実習
	会計学Ⅱ	2・3前・後		2		○			1	1					
	財務会計論Ⅰ	2・3前・後		2		○			1	2					
	財務会計論Ⅱ	2・3前・後		2		○			1	1					
	原価会計	2・3前・後		2		○			1	1					
	コーポレート・ファイナンス	2・3前・後		2		○						1			兼1
	金融市場と金融制度	3・4前・後		2		○						1			兼1
	国際金融論	3・4前・後		2		○			1						兼1
	投資・証券分析	3・4前・後		2		○			2						
	投資戦略	3・4前・後		2		○						1			
	管理会計論	3・4前・後		2		○			1	1					
	上級会計	3・4前・後		2		○				1					兼1
	国際会計	3・4前・後		2		○				2					
	監査	3・4前・後		2		○			1	1					
	会計 特殊講義	3・4前・後		2		○									兼1
	ファイナンス 特殊講義	3・4前・後		2		○									兼1
	Eコマース	2・3前・後		2		○									兼3
	マーケティング・リサーチ	2・3前・後		2		○			2			1			
	ブランドマネジメント	2・3前・後		2		○			1						兼1
	消費者行動論	2・3前・後		2		○			1	1					
	販売・プロモーションマネジメント	2・3前・後		2		○			2						
	サプライ・チェーン・マネジメント	2・3前・後		2		○			2						
	国際物流論	3・4前・後		2		○			1	1					
	国際マーケティング論	3・4前・後		2		○			2						
	サービスマネジメント	3・4前・後		2		○			1	1					
	製品開発論	3・4前・後		2		○			2						
	経営戦略論	2・3前・後		2		○			1						兼1
	国際取引	3・4前・後		2		○									兼1
	ファミリービジネス	3・4前・後		2		○									兼1
	人材マネジメント（上級）	3・4前・後		2		○									兼1
	組織行動論（上級）	3・4前・後		2		○			1						兼1
	アントレプレナーシップ	2・3前・後		2		○			1						兼1
	マクロ経済学	2・3前・後		2		○			2						
ミクロ経済学	2・3前・後		2		○			3							
技術経営	3・4前・後		2		○			2						兼1	
オペレーションズ・リサーチ	3・4前・後		2		○			2							
アジア経済論	3・4前・後		2		○			1						兼1	
国際経済学	3・4前・後		2		○			1	1						
国際政治経済学	3・4前・後		2		○									兼1	
開発経済学	3・4前・後		2		○				1					兼1	
イノベーション 特殊講義	3・4前・後		2		○			1			1			兼1	
専門教育科目分野	1・2・3・4前・後		8		○			1							
小計（62科目）		—	18	114	0	—		20	10	0	3	0	兼30	—	
合計（186科目）		—	22	436	0	—		20	10	0	3	0	兼97	—	
学位又は称号	学士（経営学）		学位又は学科の分野				経済学関係								

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要														
(国際経営学部国際経営学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
卒業必要単位数124単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1) 共通教育科目において、以下の①②を満たす40単位以上を修得する。 ① 共通教養科目において、以下の2科目4単位を含む合計16単位以上を修得する。 経済学入門、統計学 ② 言語教育科目において、日本語基準学生は英語科目24単位以上、英語基準学生は日本語科目16単位以上を修得する。 (2) 専門教育科目において、以下の9科目18単位を含む合計62単位以上を修得する。 経営学入門、会計学Ⅰ、マーケティング入門、金融論、人材と組織行動のマネジメント、生産管理論、ビジネス法務戦略、ビジネスエッセンス、グローバルマネジメント (Capstone) 履修科目の登録の上限：1年次36単位（前期18単位・後期18単位）、2年次40単位（前期20単位・後期20単位）、3年次40単位（前期20単位・後期20単位）、4年次48単位（前期24単位・後期24単位）						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			14週					
						1 時限の授業時間			100分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....	2
① 学生の確保の見通し.....	2
ア 定員充足の見込み.....	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....	2
ウ 学生納付金の設定の考え方.....	11
② 学生確保に向けた具体的な取組状況.....	11
③ 学生確保について.....	13
(2) 人材需要の動向等社会の要請.....	15
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要).....	15
② 上記①が社会的、地域的な人材需要動向等を踏まえていることの客観的な根拠.....	15

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

1) 入学定員設定の考え方

サステナビリティ観光学部は、既設のアジア太平洋学部を基礎とした学部である。アジア太平洋学部と同様に、社会学を基盤としている。社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する基礎的・専門的知識を修得し、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な分析、問題解決および異文化環境におけるコミュニケーションや協働の力を身に付けることで、様々な社会課題に対処でき、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材の育成を目的とした学部である。

サステナビリティ観光学部の入学定員設定の検討にあたって、(i) 新設する学部と教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況 (ii) 日本の18歳人口動態および私立大学における志願者動向 (iii) 世界規模での留学生・大学進学者の動向 (iv) 本学の既設学部であるアジア太平洋学部・国際経営学部（以下、両学部を総称して既設学部という）の過年度入試結果 (v) 本学が独自に行ったアンケート調査の5点を確認した結果、新設する学部が定員を充足する見込みが十分にあると確認できたため、国内学生（日本人学生）・国際学生（留学生）合わせて入学定員350名、収容定員1,400名の定員を設定する。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

(i) 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況

定員充足の根拠として、教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況を確認した。本学部は上述のとおり、社会学を基盤とした学部であり、教育課程の編成では観光学分野科目と持続可能な社会分野科目、学部共通科目の3つを科目区分として設定している。今次、本学部と教学内容が同じ分野は「国際観光・観光・ツーリズム」「持続可能性・サステナビリティ」と定義し、本学部と教学内容が同じ分野であることに加えて、設置区分や大学規模も勘案した上で他大学の学部・学科を選定し入学定員および志願状況を確認した。

なお、本学は主に9月に入学する国際学生が約半数在籍する大学のため、直近の入試結果が2021年度入試であること、また、2022年度入試結果が公表されていない他大学の学部・学科もあるため、今回は2021年度入試の結果を確認した〔資料1〕。

その結果、本学が今回確認した大学全てで入学定員を大きく上回る志願者を確保し、「国際観光・観光・ツーリズム」「持続可能性・サステナビリティ」の学びへの需要の高さがうかがえた。

(ii) 日本の18歳人口動態および私立大学における志願者動向

本学部は、国内学生（日本人学生）・国際学生（留学生）を合わせて入学者の受け入れを行う。このうち、国内学生の動向についてここでは確認を行う。

「リクルート進学総研マーケットリポート（2021年3月号, vol. 82）」〔資料2〕によれば、18歳人口は2020年の116.7万人から経年的に減少し、2032年には102.4万人になると予測されている。その減少スピードは地域によって差があるが、18歳人口は東京と沖縄を除く全ての都道府県で減少が見込まれる。また、私立大学の志願者動向に関して河合塾が行った調査「特集2021年度

大学入試を振り返る (Guideline, 2021 年 6 月号) [資料 3] によると、2021 年度入試での 18 歳人口は 2020 年度入試と比較して 2.6 万人減少している。この 18 歳人口減少に加えて 2021 年度入試は大学入学共通テスト導入初年度であり、同時に各大学の入試改革や COVID-19 など受験生・大学共に非常に大きな影響があった。さらに、系統を問わず私立大学全体で 2021 年度入試 (一般+共通テスト) の志願者数は 2020 年度入試比で 86%に留まり、地元志向も高まり、本学部の学問分野である観光学や社会学などが含まれる社会・国際系統では 2020 年度入試の志願者数 380,887 人から 2021 年度入試では志願者数が 321,052 人へと減少している [資料 4]。

そのような厳しい状況下にあつて、本学では 2017 年度入試から 2021 年度入試までの直近 5 年間で、国内学生入試では入学定員の 2.9 倍~5.2 倍の志願者を安定して確保している。

さらに、本学の国内学生は大学所在地である大分県や近県を含む九州地方に限らず、日本全国から集められている。立命館東京キャンパス等を活用し首都圏での学生募集活動を強化した結果、本学の国内学生は、南関東 (埼玉、千葉、東京、神奈川) 出身者が約 27%、九州・沖縄地方出身者が約 34%となっており、18 歳人口減少率が高くない地域から学生を多く集めている (出身地域比率は、2021 年 5 月時点) [資料 2、資料 2-1]。

本学は、これまでの実績を踏まえ、首都圏や関西圏 (関西圏出身学生は国内学生の約 11%) など人口集中地区からもこうした人口動向を踏まえた戦略的な学生募集をさらに強化することで、今後も長期的に安定して学生を確保できると見込んでいる。

(iii) 世界規模での留学生・大学進学者の動向

上述の通り、本学部は国内学生 (日本人学生)・国際学生 (留学生) を合わせて入学者の受け入れを行う。このうち、国際学生の動向についてここでは確認を行う。

現在、COVID-19 の影響もあり、世界では国境を跨ぐ移動が困難になっている。留学生や海外留学を検討する生徒・学生にとっては苦しい状況が続き、学生は留学を通じて得られる異文化間能力の向上や国際的な雇用機会など様々な形の個人的・職業的成長の機会を失った。しかし、専門家・専門機関の見通しでは、海外留学は中長期的には増加傾向にあり (2015 : 478 万人→2019 : 606 万人 出展 : UNESCO Institute of Statistics)、コロナ前の推計ではあるが 2025 年には 800 万人に達するとの分析もあった (OECD, 2017)。また、コロナ禍でも留学生の数を堅調に獲得している国など、受入れ国や受入れ機関等の個別事情において状況は異なるため、留学生市場は一律に悲観的なものにはなっていない [資料 5] [資料 6]。本学は世界の留学生の大部分を占める英語ベースのカリキュラムを全面的に取り入れている。この留学生の中長期的な増加傾向は、本学の学生獲得のマーケットの中長期的な拡大が見込めるということの意味する。引き続き、世界各国・地域から留学生を獲得できることが期待できる。

本学は 2000 年の開学以来、約 20 年の間に、世界各国から学生を受け入れてきた。2021 年 10 月 1 日時点で在籍する国際学生の人数は、韓国・中国・インドネシア・ベトナムの順に多く、出身国・地域は計 95 ヶ国にのぼり、本学の開学以来約 20 年間で、国際学生を受け入れた国・地域は 159 ヶ国にのぼる。

本学の国際学生募集活動は、現在 COVID-19 の影響下であり、国外への渡航が難化するなど大きな制限を受けているが、60%以上の国際学生が入学する主要な海外 6 ヶ国 (中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム) に学生募集拠点・海外事務所を設置しており、コロナ禍の中でも

現地職員が高校への訪問や、オンラインを活用した募集活動を行っている。事務所を設置していない国においても、現地の協力者やエージェントを配置して国際学生の募集活動を行っている。その結果、[資料7]に示した入学定員の充足状況に明らかとおり、コロナ禍においても安定して留学生を受け入れている。こうした実績を踏まえ、本学は本学部においても安定して長期的に学生を確保できると見込んでいる。

(iv) 本学既設学部の過年度入試結果

上述のとおり、本学は国内学生・国際学生共に安定的に学生を確保し、直近5年間（2017年度入試から2021年度入試まで）の入試結果では、国内学生入試では入学定員の2.9倍～5.2倍、国際学生入試では1.8倍～2.2倍の志願者を安定して確保している。また、直近の入試結果（2021年度入試結果）では、国内学生・国際学生合わせた既設学部の入学定員1,320名に対して志願者4,709名、合格者2,159名、入学者1,185名、志願倍率は3.6倍であった。そのうち、本学部の基礎となるアジア太平洋学部の入試結果は、入学定員660名に対して志願者2,500名、合格者1,047名、入学者586名、志願倍率は3.8倍であり、COVID-19による不安定な情勢の中でも安定して志願者および入学者を確保している[資料7]。この志願者数は、本学部の基礎となったアジア太平洋学部の新しい入学定員（510名）に本学部の入学定員（350名）を加えた860名を大きく超えており、十分な志願者を集める基盤があることが分かる。

なお、同資料7の通り、この間、既設学部の定員充足率（入学定員超過率＝入学者数／入学定員）は1.00以下で推移している。

これは、学生全体の半数を占める国際学生（留学生）の新入生が、2020年4月からほぼ入国できない状況が約2年間続き、入学定員を厳守する必要がある中、合格者の内、どの程度入学するかという見通しが極めて難しかったためである。これは、本学の約半分を占める国際学生（留学生）のほとんどが直接、海外から入学する構造になっているため、2年間の入国制限が大きく影響した結果である。それでもこの2年間に入学した1,000名を超える国際学生は、母国に居ながらオンライン授業を受講し、入国できる日を待ち続けてきた。本年3月末頃より入国できるようになり、すでに1,037名の国際学生が日本に入国をしている（2022年7月8日時点）。

なお、こうした状況においても、志願者数自体は2017年度の水準を大きく超えている。また、後述の「学生確保の具体的な取り組み」にある通り、現地事務所の取り組みやオンラインの工夫を進めており、入国制限などの状況が改善されれば、確実な入学者数を確保することは可能である。

(v) 本学が独自に行ったアンケート調査

サステナビリティ観光学部の新設に伴い、学生確保の見通しを立てるため、アンケート調査を実施し分析を行った。前述の通り、本学部は国内学生だけでなく国際学生も正規生として受け入れるため、以下の通り、国内・国際の両方に関してアンケート計5種類を実施した。

【概要】

対象者	既存調査（2021年11月～2022年1月実施）	追加調査（2022年6月～7月実施）
①国内高校生（一般高校生）	既存調査 a	追加調査 a-1
②国内高校生（附属高校生）	既存調査 b	
③海外高校生（既卒含む）	既存調査 d（d-1 に差替）	追加調査 d-1

※ その他、既存調査として海外事務所・エージェントへの調査（c）、海外の高校教員・カウンセラーへの調査（e）も実施。

【本学部への入学意向が明らかとなった者】

対象者	既存調査（2021年11月～2022年1月実施）	追加調査（2022年6月～7月実施）	合計
①国内高校生（一般高校生）	160人	140人	300人
②国内高校生（附属高校生）	2人		2人
③海外高校生（既卒含む）		142人	142人
合計			444人

a) 一般高校生を対象としたアンケート [資料8]

調査概要	学校法人立命館附属高等学校以外の高等学校において2023（令和5）年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校2年生（2023（令和5）年3月卒業予定者）を対象としたアンケート
調査対象	立命館アジア太平洋大学への志願者が多い、全国の実績校にアンケート調査の実施依頼を行い、実施期日（2022（令和4）年1月末日）までに協力を得た18都府県の67校
調査期間	2021（令和3）年11月～2022（令和4）年1月
回答	10,602人
調査方法	事前にアンケート実施の了承が得られた高校にアンケート用紙を必要部数送付し各校の教職員から調査対象者（高校2年生）にアンケート用紙を配布の上、10分程度の回答時間を設けその場で回収した
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所（アクセス）、学生納付金、問い合わせ先

（既存調査 a：別添資料 P31～）

一般高校生を対象としたアンケート調査（既存調査 a）において、サステイナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路（大学を選択）、希望分野（社会科学）、受験希望（本学部）、入学意向（本学部に入学したい）をクロス集計した結果、160人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。

内訳は、高校卒業後の進路では9,378人が「大学」と回答し、その内4,211人が希望分野を

「社会科学」と回答した。その中で 534 人が本学部の受験を希望し、その受験希望の中から 160 人が合格した場合に入学するという回答を示した。

なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 367 人となった。(以上、数値は別添資料 P40 に整理)

a-1) 一般高校生を対象とした追加アンケート [資料 8]

調査概要	2023 (令和 5) 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校 3 年生 (2023 (令和 5) 年 3 月卒業予定者) を対象としたアンケート
調査対象者	既実施のアンケート調査対象 67 校および学校法人立命館附属高等学校以外の高校の高校 3 年生
調査期間	2022 (令和 4) 年 6 月 24 日～7 月 8 日
回答	1, 432 人 (紙ベース回答 238 人、Web ベース回答 1, 194 人)、252 校
調査方法	(A) アンケート実施の了承が得られた高校 (既実施のアンケート調査対象 67 校を除く) に以下の方法で実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・本学部の資料とアンケート用紙を高校へ送付、高校 3 年生の生徒へ配布し、回答をその場で回収。 ・アンケート用紙と同じ内容の調査のための Web サイトを構築。本学部の資料と回答のための Web サイトを高校へ送付、高校 3 年生の生徒が Web にて回答。 (B) オープンキャンパスや大学説明会などへ参加し、本学がメールアドレスを把握している高校生 3 年生 (4, 260 人) へ、本学部の資料を送付の上、前出の調査のための Web サイトへの回答を依頼。 ※ 既存調査と (A) (B) の重複は除外している。
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所 (アクセス)、学生納付金、問い合わせ先

(追加調査 a-1 : 別添資料 P42～)

長期的かつ安定的な学生の確保の見通しを得るべく、追加のアンケート調査 (追加調査 a-1) を実施した。サステイナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路 (大学を選択)、希望分野 (社会科学)、受験希望 (本学部)、入学意向 (本学部に入りたい) をクロス集計した結果、140 人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。

内訳は、高校卒業後の進路では 1, 310 人が「大学」と回答し、その内 676 人が希望分野を「社会科学」と回答した。その中で 227 人が本学部の受験を希望し、その受験希望の中から 140 人が本学部合格した場合に入学するという回答を示した。

なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 87 人となった。(以上、数値は別添資料 P50-51 に整理)

※ (A) は、既存調査 a で依頼した 67 校以外に本学に入学実績がある高校を中心に調査を依頼

した。(B) は、様々な入試関連イベントで本学と接点があり連絡先を登録した高校3年生(本学からのアンケートなどを了承してくれた高校生)を対象とした。

※ 既存調査 a と追加調査 a-1 において、重複は取り除いている。具体的には、追加調査 a-1 においては、既存調査 a の調査対象の高校(67校)および附属高校(4校)の回答を全て除外した。

b) 学校法人立命館附属高校生を対象としたアンケート [資料8]

調査概要	附属高校4校において2023(令和5)年度に大学へ進学する予定の高校2年生(2023(令和5)年3月卒業予定者)の生徒を対象としたアンケート
調査対象	立命館宇治高等学校、立命館慶祥高等学校、立命館高等学校、立命館守山高等学校
調査期間	2021(令和3)年11月～2022(令和4)年1月
回答	854人
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人立命館の立命館高等学校を除く附属高校3校：調査会社が作成したフォーマットを用いて各校Webにて実施 ・立命館高等学校：アンケート用紙を必要部数送付し、教職員から調査対象者(高校2年生)にアンケート用紙を配布の上、10分程度の回答時間を設けその場で回収した
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所(アクセス)、学生納付金、問い合わせ先

(既存調査 b : 別添資料 P53～)

本学を設置する学校法人立命館の附属高校生(計4校)を対象としたアンケート調査(既存調査 b)では、サステイナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路(大学を選択)、希望分野(社会科学)、学内進学希望(本学部)、入学意向(本学部に入りたい)をクロス集計した結果、2人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。

内訳は、高校卒業後の進路では829人が「大学」と回答し、その内408人が希望分野を「社会科学」と回答した。その中で11人が本学部の学内進学を希望し、その学内進学希望の中から2人が合格した場合に入学するという回答を示した。

なお、参考までに、「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は8人となった。(以上、数値は別添資料 P61-62 に整理)

(国内高校生調査のまとめ : a、a-1、b)

以上から、国内においては、合計302人の入学意向を持つ高校生を確認することができた(併願結果により入学する意向を持つ者を除く)。

また、「併願結果により入学する意向を持つ者」は、合計462人となった。この462人の一部の入学も期待ができると考えている。

c) 本学の海外事務所、現地協力者、海外エージェントを対象としたアンケート調査 [資料9]

調査対象：	本学の海外事務所6カ国（中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム）の職員、海外で本学の学生募集活動を担う現地協力者、海外で学生募集活動を専門とするエージェント関係者
調査期間	2021（令和3）年12月～2022（令和4）年1月
回答	33人
調査方法	サステイナビリティ観光学部に関する詳細な説明資料を提示した上でWebにて実施
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所、2023年度以降の既設学部に関する情報

本学は、6カ国（中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム）に海外事務所を設置し、開学以来国際学生を積極的に受け入れてきた。本学の国際学生のほとんどは、①海外事務所経由：海外事務所を配置する国で本学の入試を受験もしくは受験生の居住地が海外事務所配置国②エージェント経由：受験生が願書でエージェント経由であると申告したもの③個人出願：前述の①と②以外、のいずれかで入学している。[資料10]が示す通り、国際学生の海外事務所経由での入学は経年的に60%以上であり、エージェント経由も含めると入学経路の70%前後を占めている。このことから分かる通り、海外事務所、現地協力者およびエージェントは本学の国際学生募集活動の基盤である。

今次の海外事務所・現地協力者・エージェントを対象としたアンケート調査では、サステイナビリティ観光学部に関する詳細な資料を配布、説明の上で本学部の必要性や各担当地域における志願者確保の見込みについて調査を実施した。本学部の必要性について、24人（72.7%）が「必要だと思う」と回答、7人（21.2%）が「どちらかというが必要だと思う」と回答し、合計して31人（93.9%）が本学部の必要性を認識している結果となった。

本学部を「受験生に薦めたいか」については、17人（51.5%）が「ぜひ薦めたい」と回答、15人（45.5%）が「ある程度薦めたい」と回答し、1人（3.0%）が「どちらともいえない」と回答した。回答者の1人が「どちらともいえない」と回答した理由について、回答者が募集活動で担当している地域が発展途上国であり経済やビジネスに重点を置いているため、と回答を得た。33人中32人（97.0%）が「ぜひ薦めたい」「ある程度薦めたい」と回答していることから国や地域を問わず幅広く本学部の学びが必要とされていることが分かる。

d) 海外の高校生・高校既卒者を対象としたアンケート調査 [資料11]

調査対象	過去に本学へ問い合わせ等を行い氏名、メールアドレス、居住地など何らかの個人情報を得ている海外の高校生、高校既卒者を対象とした調査
調査期間	2021（令和3）年11月～2022（令和4）年1月
回答	40人
調査方法	海外の高校生、高校既卒者へサステイナビリティ観光学部の詳細資料

	および Web アンケートへの遷移先を記載したメールを送り、任意で実施
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所、学生納付金、2023 年度以降の既設学部に関する情報

(既存調査 d : 別添資料 P107)

海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査（既存調査 d）では、サステイナビリティ観光学部に関する詳細な資料を提示の上で本学部への受験意欲・進学意欲について回答を求めたところ、22 人（55.0%）が「受験したい」と回答した。「受験したい」と回答した 22 人に合格した場合の入学意欲について回答を求めたところ、10 人（45.5%）が「入学したい」と回答し、12 人（54.5%）が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した 12 人のうち 4 人が「興味・関心はあるが詳細を知った上で検討したい」と回答していることから今後の広報活動を通じて本学部への進学希望者になりえる層と推察される。

なお、後述のように追加調査を行ったので、本調査（既存調査 d）の結果は本文の「入学意向者」の人数には算入していない。

d-1) 海外の高校生・高校既卒者を対象とした追加アンケート調査 [資料 1 1-1]

調査概要	海外の高校 3 年生および高校卒業生（以下、高校生（既卒含む））を対象としたアンケート
調査対象者	(A) 説明会出席者対象調査 2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学を希望し、かつ、本学を受験する意向を持つ者を対象としたオンライン説明会へ参加した高校生（既卒含む） (B) 連絡先を把握する高校生（既卒含む）を対象としたメール調査 本学がメールアドレスを把握している、2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学の意向を持つ高校生（既卒含む）
調査期間	2022（令和 4）年 6 月 19 日～7 月 8 日
回答	241 人
調査方法	(A) 説明会出席者対象調査 2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学の意向を示し、本学を受験する意向を持つ者に対するオンライン説明会において、本学部の資料をオンライン説明会で提示し、その上で、本学部の受験意向および、本学部合格した場合の入学意向などを調査した。調査方法は、説明会の場における調査実施および説明会後のメールアンケート調査となった。対象説明会は 4 回。回答者数 71 人 (B) 連絡先を把握する高校生（既卒含む）を対象としたメール調査 2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学の意向を示している者に

	対して、本学部の資料をメールに添付し、本学部の内容への関心、本学部の受験意向および、合格した場合の入学意向などを調査した。調査送付先 5,400 人。回答者数 170 人
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所（アクセス）、学生納付金、問い合わせ先

(追加調査 d-1：別添資料 P123～)

2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学意向を示している海外の高校生、高校既卒者を対象とした追加アンケート調査（追加調査 d-1）では、サステナビリティ観光学部の概要を示した上で、希望入学時期（2023（令和 5）年の春もしくは秋）をあらためて確認した上で、本学部への関心（あり）、本学部への受験意向（あり）、本学部への入学意向（あり）をクロス集計した結果、142 人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。

回答者 241 人の内訳は、入学時期を 2023（令和 5）年の春もしくは秋と回答した者が 203 人、本学部への関心があると回答した者が 160 人、その内 143 人が本学部の受験を希望し、その内 142 人が合格した場合に入学するという回答を示した。（以上、数値は別添資料 P124 に整理）

※ 調査は、説明会出席者への調査、および、本学入学サイトの登録、各種企画（高校説明会・留学説明会など）への出席などで収集した海外留学もしくは本学に関心を寄せる層へのメールアンケート調査であり、かつ、「2023（令和 5）年春もしくは秋の進学希望」、「本学部の内容への関心」、「本学部の受験意向」、「本学部合格した場合の入学意向」の項目をすべて満たす調査方法とした。適切な調査対象および調査方法であると考えている。また、統合データベースによるチェックにより、これらの集計において回答の重複はないことを確認している。（後述の「学生確保に向けた具体的な取組状況＜国際学生（留学生）募集＞参照」）

e) 海外の高校教員・学校カウンセラーを対象としたアンケート調査 [資料 1 2]

調査対象	立命館アジア太平洋大学と入試や学生募集活動に何らかの関わりがあり、本学からのメール配信を承諾している海外の高校教員、学校カウンセラー
調査期間	2021（令和 3）年 11 月～2022（令和 4）年 1 月
回答	42 人
調査方法	サステナビリティ観光学部の詳細資料および Web アンケートへの遷移先を記載したメールを送り、任意でアンケートを実施
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所、2023 年度以降の既設学部に関する情報

海外の高校教員、学校カウンセラーを対象としたアンケート調査では、世界 19 カ国 42 人から回答を得た。サステナビリティ観光学部に関する詳細な資料を提示した上で、本学部の必要性

について回答を求めたところ、32人(76.1%)が「必要だと思う」と回答し、8人(19.0%)が「どちらかという必要と思う」と回答した。回答者が「必要だと思う」「どちらかという必要と思う」と回答した理由として、観光産業は経済維持のための最良の産業であるという回答やサステナビリティは時代のニーズであり進むべき道である等の回答が挙げられ、海外の高校教員や学校カウンセラーは国や地域を問わず本学部の学びに対して関心が高いことが判明した。

以上の通り、適切なクロス集計を行い、追加調査を実施した結果、国内の高校生では302人、海外の高校生では142人、合計444人の入学意向が示されているため、サステナビリティ観光学部の入学定員350人を上回り、十分に定員を充足できる見込みがあることを確認できた。

なお、追加調査は期間が限られたため、適切な広報により高校生に本学部を周知できれば、実際はさらに入学意向者を獲得できると考えている。また、加えて国内の高校生の場合、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」という層も462人確認することができ、これらの層の一部からの入学も期待できる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学は、開学約20年の到達点として、2021年度の「THE世界大学ランキング日本版」で全国22位、4年連続西日本私立大学で1位、教育充実度では全国3位になるなど国際性だけでなく、人材育成成果においても一定の評価を得ている。

一方、学生確保における国内外での競争環境は激化し、本学が魅力ある大学として国内外の優秀な学生を確保し続けるためには積極的な留学生の受け入れを継続するとともに、開学以来の特徴である多文化協働学修の進化、学生の学修満足度の向上が必要不可欠である。

今次、本学が新設を計画するサステナビリティ観光学部では、地域や企業等様々な機関でのオフキャンパス・プログラム科目や様々な社会課題に対して解決策や提案を行う演習・最終成果科目等を配置し、理論と実践の接続によって専門性を深める教育課程を構想している。本学部は、基礎となるアジア太平洋学部からサステナビリティ観光学部へ移籍する教員に加え、教員の新規任用によって教員体制を補強整備する。さらに、教員体制の補強整備と並行して教学新棟および国際教育寮を新設することで教学条件を大きく向上させる計画である。こうした教学条件整備および他大学の学生納付金を参照し[資料13]、本学部の学生納付金は既設学部と同額の初年度入学金200,000円、授業料1,300,000円、2年次以降授業料1,500,000円とする。

なお、先述した国内高校生を対象としたアンケート調査(追加調査含む)[資料8]にて、大学進学希望、社会科学に関心がある高校生の中で、サステナビリティ観光学部を「受験しない」と回答した4,447人の生徒へその理由について回答を求めたところ、「学費が高いから」と回答した生徒は368人(8.3%)であり、学生納付金は本学部への進学を敬遠する理由にはなりにくいと考えている。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学部のアドミッション・ポリシーに適う学生の確保に向けて、教職員一体となって広報・学生募集活動を展開し学生確保に努める。

以下に具体的な活動内容を国内学生募集・国際学生募集それぞれについて記載する。

<国内学生（日本人学生）募集>

本学では、受験生が具体的な目標を持って学部選択を行うことができるように、あらゆる方法で教育内容や学修環境を中心とした情報を提供している。具体的には、大学案内や入試ガイドなど紙媒体広報物の作成、公式ホームページでの大学・入試情報や各種イベント情報の提供、校内でのオープンキャンパスやキャンパス見学会の実施、オンラインでのオープンキャンパス等を通じて、受験生が本学への進学に対してより具体的なイメージをもてるように努めている。

上記に加えて本学部の広報・学生募集活動では、特設サイトの開設、本学への志願者・入学者の多い九州・首都圏・関西を中心としてCOVID-19の状況を鑑みつつ高等学校への訪問や高等学校教員・生徒の本学への招聘、受験生の進路希望状況の情報収集等を行い、本学および本学部の認知度向上と学生確保を目指す。既に本学への志願者・入学者の実績がある高等学校については、生徒の進路選択に役立つように本学部の情報を定期的に伝え、生徒が大学の授業を体験できる場として着任予定の専任教員による出張講義や模擬授業の実施を検討する。併せて、本学への進学実績を問わず、オープンキャンパスやキャンパス見学に訪れる高等学校の教員や生徒に対する模擬授業の実施も検討する。本学への進学を希望する生徒には、教職員や在学生・卒業生の協力を得て対面やオンラインで面談を行う予定である。なお、各種広報活動に関しては、「2023（令和5）年設置構想中」である旨を明示しており、内容は予定であり変更する可能性についても周知徹底している。

<国際学生（留学生）募集>

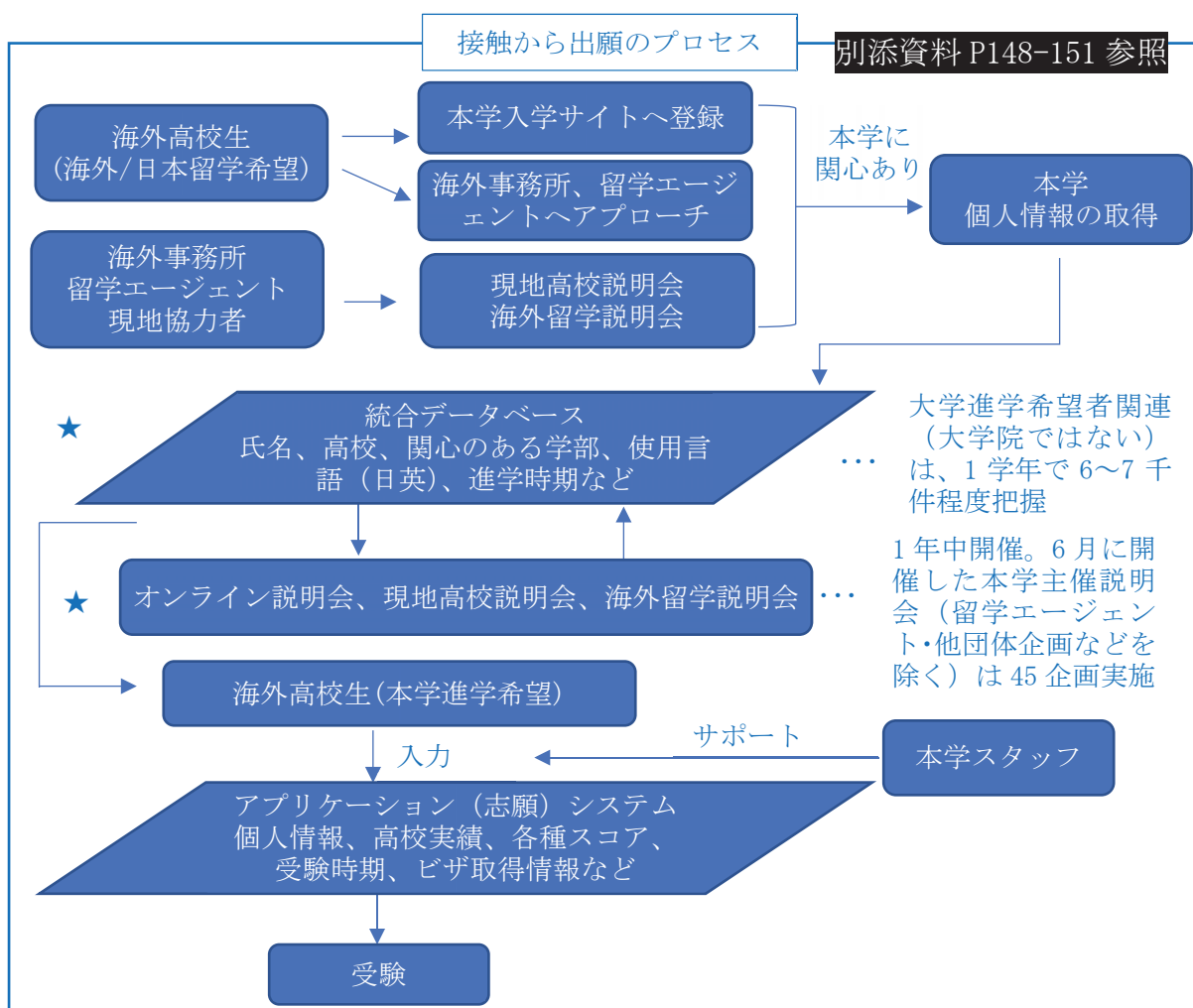
本学の国際学生の募集活動は、本学職員および海外事務所（中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム）が中心となって高校への訪問、現地の留学フェアへの参加、本学進学希望者や父母への面談等を行い、本学が海外事務所を設置していない国については、広報・学生募集活動に関する現地協力者やそれらを専門とする現地のエージェントを通じて募集活動を行っている。また全ての受験は居住国で可能としている。

具体的には、下図のフローの通り、様々なアプローチを通じて把握した本学への進学に関心を寄せる高校生（既卒含む）の情報をデータベースへ統合し、様々な説明会（学部説明会、奨学金・学費説明会、ビザ説明会など）の案内・参加を通じて、当該高校生の進学意向の詳細を把握し、次のステップのアプリケーション（志願）システムの入力へと進むこととなる。留学の出願は膨大な情報入力が必要となるので、本学スタッフがサポートをしている。具体的には、アプリケーション（志願）システムでは入力開始から入力（出願）完了までのプロセスが分かるようになっており、それぞれの段階において、適切なサポートを行っている。本学部はまだ構想中のため、アプリケーションシステム入力はできないようになっているが、設置構想中との説明の下、各種説明会を実施し、統合データベースにより本学部に強い関心を持つ高校生の情報を蓄積している。

以上の仕組みにより、全世界の志願者をシステムによって総合的・包括的に管理・可視化し、適切な説明会等の企画や実施および出願へのサポートを行うことで、本学の半数を占める国際学生の入学を実現している。

また、本学では、受験生が具体的な目標を持って日本への留学や大学選択、学部選択ができるように大学の特徴や学修環境、教育内容、学生生活に関する情報を提供してきた。その他にも、国際寮や住居、生活で必要となる費用、本学の授業料減免制度を含む各種制度の情報提供を行う

ことで日本留学を検討する生徒の不安軽減に努めている。これらの情報提供に加えて本学部の広報活動では、本学部の特色や独自の学びに関する情報を対面、オンライン、ホームページ、SNSなど多様な手段を通じて引き続き提供していく。具体的には、特設サイトの開設、在学生・卒業生による出身国・地域の高等学校訪問、大学の学修環境・学部概要・学生生活を紹介する動画、SNSを通じたりアルタイムでの情報提供、大学案内やパンフレットなど紙媒体広報物、公式ホームページでの大学・入試情報や各種イベント情報の提供によって、直接キャンパスを見ることのできない生徒にできる限り分かりやすく伝えられるように工夫する。なお、各種広報活動に関しては、「2023（令和5）年設置構想中」である旨を明示しており、内容は予定であり変更する可能性についても周知徹底している。



③ 学生確保について

以上のように、本学が行ったアンケート調査により、入学定員を上回る入学意向を持つ高校生（既卒含む）を確認することができた。このデータを踏まえ、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しについて、以下の通り整理する。

本申請書において、以下のデータについて取りまとめた。

【定員充足の根拠となる客観的なデータの概要】

- ・ 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況

- ・日本の18歳人口動態および私立大学における志願者動向
- ・世界規模での留学生・大学進学者の動向
- ・本学既設学部の過年度入試結果
- ・本学が独自に行ったアンケート調査

【学生納付金の設定の考え方】

本学部と同じ構成の教学内容を擁する国内の学部はほぼないが、「国際観光・観光・ツーリズム」「持続可能性・サステナビリティ」の教学内容を持つ学部において、入学定員を大きく超えて志願者を集めていることが確認できた [資料1]。

また、日本の18歳人口は減少が続くが、本学は特定の地域のみを学生確保の基盤とせず全国から志願者を集めており、人口が集中する都市部や人口減少率が低いもしくは増加する地域から多くの志願者を集めていることが確認された [資料2-1]。特に人口増加地域の東京にはオフィスを置き、本学の入試担当者を配置している。

また、志願者の基調として、本学部の基礎となっているアジア太平洋学部（観光や開発・環境などの教学を擁する）の過去5年の志願数は、1,899～3,500人となっており、本学部および定員変更後のアジア太平洋学部の合計の入学定員（350+510=860人）を大きく超えていることが確認できた [資料7]。

他方、世界の留学生動向は拡大を続けており（2015：478万人→2019：606万人 出展：UNESCO Institute of Statistics）、コロナ前の推計ではあるが2025年には800万人に達するとの分析もあった（OECD, 2017）。また、コロナ禍からの回復基調も確認できている [資料5、6]。本学は世界の留学生の大部分を占める英語ベースのカリキュラムを全面的に取り入れているため、引き続き、世界各国・地域から留学生を獲得できることが期待できる。

加えて、本学部の必要性などについて、各国・地域の高校生を獲得する事務所・現地協力者・エージェント等から好意的な見解が出されている [資料9]。

なお、国内においても新型コロナウイルスの影響で停滞した留学生の行き来を回復させるため、文部科学省は5年後の2027年をめどに外国人留学生の受け入れ数をコロナ前の30万人超、海外に出る学生数を10万人超に戻す支援強化策を検討している（2022年6月21日日本経済新聞）。

学生納付金については、本学が行ったアンケート調査においてその金額を明示しており、それを理解した上での回答を得ている。また、学費が高いことを理由に受験しないと回答した者は8.3%に限られていることが確認できた（複数回答）。

本学が行ったアンケート調査により、入学定員350人を上回る444人の入学意向を持つ高校生（既卒含む）を確認することができた。また、加えて「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」という層も462人確認することができた。

本学が行った直接的なアンケート調査に加え、以上の重層的な分析より、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しを得られたと考える。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念とし、「APUは世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、そこで学んだ人たちが世界を変える。」を2030年に向けたビジョンに掲げている。今次新設するサステナビリティ観光学部が取り組む「世界を変える人」は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題に対処でき、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材と定義し、その育成を目的とする学部である。

21世紀は、環境・経済・社会にさまざまな歪みが生じてきており、持続可能な社会の実現が人類に共通する喫緊の課題となっている。持続可能な社会とは、将来の世代がニーズを満たすことを損なうことなく、現在の世代のニーズも満たしうる社会であり、その実現には、今までの社会経済構造および環境への考え方のパラダイムシフトが必要である。さらに、現代社会は「モビリティ」という性格を強く有しており、その主体は、人、モノ、資金、情報、イメージ、文化など多岐にわたり、国境を超えて移動している。中でもビジネスや観光など短期の人の移動が大きな特徴であり、デスティネーションの経済・産業や文化に大きな影響を与えている。

今後の観光のあり方としての「持続可能な観光」は、サステナビリティの学問分野と密接な関係にあり、地域の自然・歴史・文化を保護しながら経済発展に寄与できるため極めて重要な手法として位置付けられる。サステナビリティ観光学部が追求する持続可能な観光とサステナビリティの教学分野は、地域というフィールドを軸に相互に関連し合い、最も相乗効果を発揮すると考えている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要動向等を踏まえていることの客観的な根拠

本学部の新設に伴い、人材需要の動向など社会的、地域的なニーズを明らかにするために、以下の通り、学外アンケート調査を実施した。

a) マクロミルモニター調査 [資料14]

- 調査対象： マクロミルのリサーチモニター
従業員規模50名以上の会社に勤務する採用業務に携わる業務従事者
- 実施時期： 2022（令和4）年1月7日～2022（令和4）年1月9日
- 回答： 515人
- 調査方法： サステナビリティ観光学部の概要資料を提示の上で、本学部の教育研究の必要性、企業の採用意識、企業で必要な人材像と学部の育成像の関係等についてWebアンケートを実施
- 対象企業： 観光・環境等に偏らない幅広い業種（以下、業種ごとの回答数参照）

対象企業の内訳

業種	件数	業種	件数	業種	件数
建設	28	輸送機器卸	1	通信	6
食品・飲料	18	その他卸	13	電気・ガス・水道	7
繊維工業	1	百貨店	3	賃貸・リース	1
衣料・繊維	5	スーパー・コンビニエンスストア	3	宿泊所・ホテル	2
木材・木製品	1	衣服・履物小売	1	娯楽	6
家具・装備品	2	食品・飲料小売	1	放送	1
パルプ・紙	1	医薬品・化粧品小売	1	出版・印刷	3
化学・化学品・化粧品	12	その他小売	7	広告・調査	1
薬剤・医薬品	4	銀行・信託	6	SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー	5
プラスチック製品	2	証券・先物	4	情報サービス	6
鉄鋼・非鉄	1	保険	9	ソフトウェア	11
金属製品	7	その他金融	3	病院・医療	20
機械器具	3	不動産	11	老人福祉・介護	14
電気機器	8	鉄道	4	教育	14
輸送用機器	18	道路輸送	16	その他サービス	62
精密機器／情報通信機器	12	航空輸送	1	官庁・自治体	72
その他製造	25	倉庫	8	その他団体	16
衣服繊維卸	1	郵便・運輸サービス	7	その他	8
食料飲料卸	3	飲食店	4		
電気機器卸	4	旅行	1		

マクロミルモニターを対象としたアンケート調査では、本学部の必要性について 301 人 (58.4%) が「必要性だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答した。さらに、「必要性だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答した 301 人のうち、回答者を採用の主担当者 169 人に限定したところ 117 人 (69.2%) が本学部の設置は必要だと回答した。また、今次の調査で業務上採用への関与度が高い回答者ほど本学部が必要だと認識していることが判明した。

さらに、本学部を卒業した学生を社員として採用することについて回答を求めたところ、162 人 (31.5%) が「是非採用したい」「採用を検討したい」と回答し、「人柄・採用条件さえ合えば採用を検討したい」の回答まで含めると 376 人 (73.0%) が本学部の卒業生に対して採用意欲を示した。

本学部を必要と回答した理由については、「今後の持続可能な日本社会や世界全体に役立つ」「シンプルな観光科であれば他大学にも複数存在するが『観光』『持続可能性』『国際機関』といったファクターを横断的に学修する学科は他大学には無い」などが回答者より挙げられ、本学部の社会的必要性および人材需要は十分に高いことが分かる。

b) 本学重点企業採用担当者調査 [資料 15]

調査対象： 本学でオンキャンパス・リクルーティングに参加した企業および本学卒業生の採用実績が多い企業の採用担当者

実施時期： 2021 (令和 3) 年 12 月 8 日～2021 (令和 3) 年 12 月 24 日

回答： 95 人

調査方法： 本学部の概要資料を提示の上、本学部の教育研究の必要性、企業の採用意識、企業で必要な人材像と学部の育成像の関係等について Web アンケートを実施

対象企業： 観光・環境等に偏らない幅広い業種（以下、業種ごとの回答数参照）

対象企業の内訳

業種	件数	業種	件数	業種	件数
水産・農林・漁業	1	輸送用機器	6	電気・ガス・水道	1
建設	1	精密機器／情報通信機器	3	宿泊所・ホテル	2
食品・飲料	4	その他製造	7	放送	1
衣料・繊維	1	化学医薬卸	2	出版・印刷	2
化学・化学品・化粧品	5	衣服繊維卸	1	広告・調査	2
薬剤・医薬品	1	電気機器卸	2	SIer/NIer、システムコンサルティング、ベンダー	5
ゴム製品	1	その他卸	7	情報サービス	6
プラスチック製品	2	その他小売	2	ソフトウェア	1
鉄鋼・非鉄	2	銀行・信託	3	病院・医療	1
金属製品	2	道路輸送	1	教育	1
機械器具	5	航空輸送	1	その他サービス	3
電気機器	6	郵便・運輸サービス	2	その他	2

本学では、就職活動の一形態として、本学に企業の人事担当者や採用担当者を招き、本学学生のみを対象にした企業説明会・採用選考会等を行う「オンキャンパス・リクルーティング」を実施している。今次アンケートを実施したオンキャンパス・リクルーティング参加対象の企業は、本学の輩出する人材像と企業の求める人材像に親和性が高いなど、本学が重点を置く企業約 350 社の採用担当者である。

そうしたオンキャンパス・リクルーティング対象企業の採用担当者を対象として、人材需要の動向を掴むためのアンケート調査を行った。「本学部が養成する人材はニーズが高いと思うか」について回答を求めた設問では、66 人 (69.5%) が「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と回答した。さらに、本学部を卒業した学生を社員として採用することについて回答を求めたところ、約 70%が「是非採用したい」「採用を検討したい」と回答した。また、本学部卒業生へ期待できる能力・スキルについて、「物事に自ら進んで取り組もうとする力が身についている 66 人 (69.5%)」「コミュニケーション能力が身についている 65 人 (68.4%)」「多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身についている 63 人 (66.3%)」等が挙げられた（いずれも複数回答の結果）。今次のアンケート調査で回答を得た企業が求める人材像については、「チャレンジ精神 29 人 (30.5%)」、「主体性 16 人 (16.8%)」、「問題発見・解決能力 15 人 (15.8%)」、「コミュニケーション能力 12 人 (12.6%)」との回答が示され、企業で求める人材に求められる能力・スキルが本学部での学びによって身につくと期待されていることが分かる。

またこの調査では、本学部を卒業する日本人学生・国際学生（留学生）のそれぞれについての採用意向を尋ねたが、日本人学生の採用について「是非採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは 66 人 (69.5%)、同様に国際学生の採用について「是非採用したい」「採用を検討したい」

と回答したのは68人(71.6%)と、日本人学生・国際学生ともに、いずれも高いニーズが示される結果となった。

以上 a)および b)より、本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであり、人材ニーズが高いと判断する。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

資料1	教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況	…	2
資料2	リクルート進学総研マーケットリポート（vol. 82, 2021年3月号）	…	3
資料2-1	在籍者の出身高校の都道府県（2021.5）	…	6
資料3	特集 2021年度大学入試を振り返る（河合塾Guideline, 2021年6月号）		7
資料4	2021年度入試結果 私立大学 河合塾	…	8
資料5	John Ross, “Pandemic to redistribute international student flows: report”. Times Higher Education. June 24, 2020. https://www.timeshighereducation.com/news/pandemic-redistribute-international-student-flows-report , (参照 2022-3-4)	…	10
資料6	ICEF Monitor, “Mapping COVID-19’s impact on global student mobility”. September 1, 2021. https://monitor.icef.com/2021/09/mapping-covid-19s-impact-on-global-student-mobility/ , (参照 2022-3-4)	…	14
資料7	立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移	…	22
資料8	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」設置構想に係る学生確保の見通し調査報告書（2022年6-7月追加調査反映版）	…	23
資料9	立命館アジア太平洋大学 海外事務所・現地協力者・エージェントを対象としたアンケート調査報告書	…	89
資料10	立命館アジア太平洋大学 国際学生の入学経路の推移	…	106
資料11	立命館アジア太平洋大学 海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査報告書	…	107
資料11-1	立命館アジア太平洋大学 海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査報告書（2022年6-7月追加調査）		123
資料12	立命館アジア太平洋大学 海外の高校教員、学校カウンセラーを対象としたアンケート調査報告書	…	152
資料13	教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科 学生納付金	…	167
資料14	大学新学部設立に向けた調査（採用担当者）調査報告書	…	168
資料15	本学重点企業採用担当者調査報告書（2022年6-7月再調査反映版）	…	209

資料1 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況

[資料1 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況]

設置区分	大学名	学部・学科	入学定員	2021年度入試一般選抜志願者数*	
私立	立教大学	観光学部・観光学科	195	2,128	
私立	東洋大学	国際観光学部・国際観光学科	366	3,225	
私立	東海大学	観光学部・観光学科	200	1,231	
私立	東海大学	教養学部・人間環境学科	120	719	
私立	法政大学	人間環境学部・人間環境学科	343	4,109	
公立	東京都立大学	都市環境学部・観光科学科	30	183	
公立	長野大学	環境ツーリズム学部・環境ツーリズム学科	95	424	
国立	和歌山大学	観光学部	120	129	
私立	國學院大學	観光まちづくり学部・観光まちづくり学科	300	-	※2022年4月設置予定
私立	大阪成蹊大学	国際観光学部国際観光コース	80	-	※2022年4月設置予定

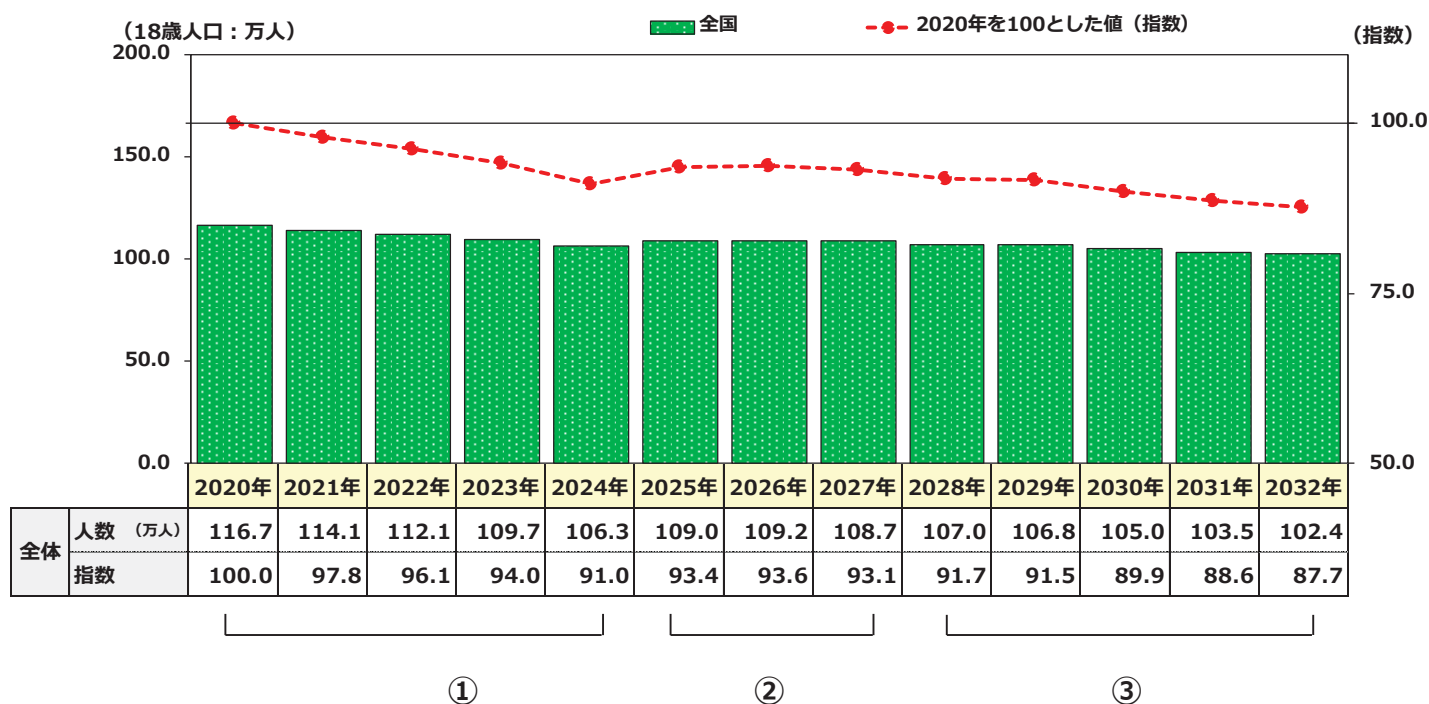
*河合塾 Kei-Net 「一般入試結果（国公立大学）」および「一般入試結果（私立大学）」より2021年度入試部分を参照

18歳人口予測（全体：全国：2020～2032年）

■ 2020年116.7万人→2032年102.4万人（14.3万人減少）

・全体の18歳人口は、以下の3段階を経て経年的に減少する。

- ① 2020年～2024年：4年連続減少（116.7万人から106.3万人、10.4万人減少）。特に2023～2024年の1年で3.4万人と大きく減少する。
- ② 2025年～2027年：2025年に109.0万人と前年106.3万人に対し2.7万人増加に転じ、2027年は108.7万人とほぼ変わらず。
- ③ 2028年～2032年：2028年は107.0万人と前年108.7万に対し1.7万人と再び減少し、2032年は102.4万人となる。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男女別：全国：2020～2032年）

■男女ともに12年間で約12%の減少

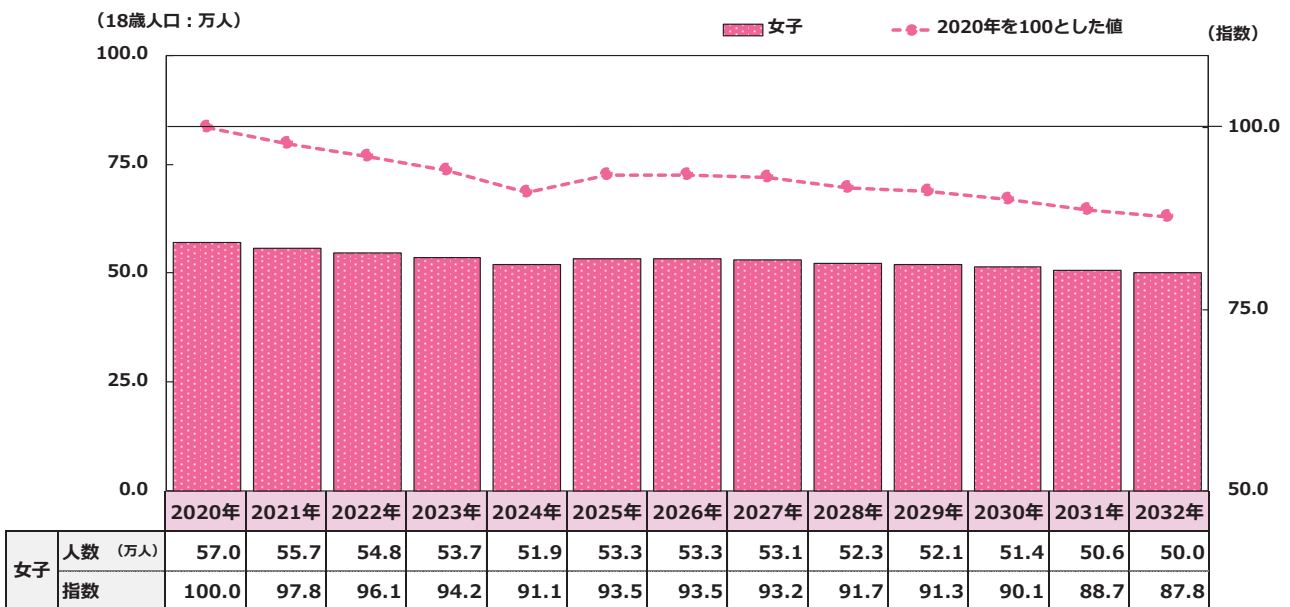
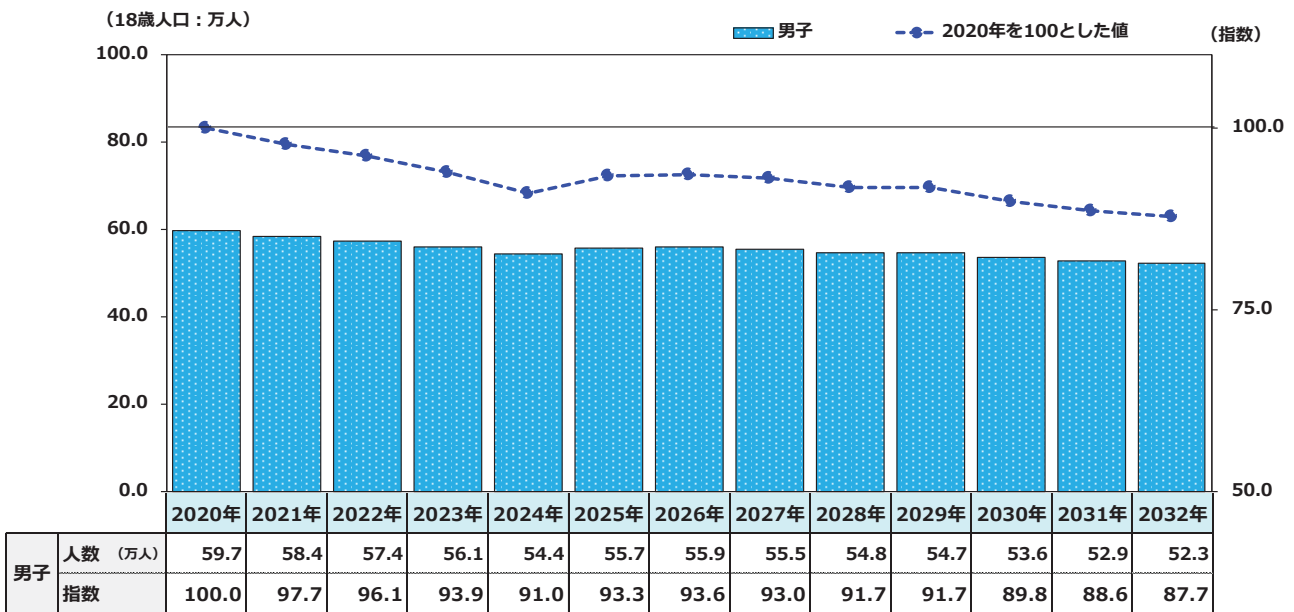
減少のスピード・時期は男女差がほとんどない。

男子

- ・2020年59.7万人から2032年52.3万人、12年間で7.4万人減少。
- ・2026年で減少は落ち着くが、2027年から再び減少傾向となり2032年までに3.2万人減少している。

女子

- ・2020年57.0万人から2032年50.0万人、12年間で7.0万人減少。
- ・男子と同様2026年で減少が落ち着くが、2027年から2032年にかけて3.1万人減少している。

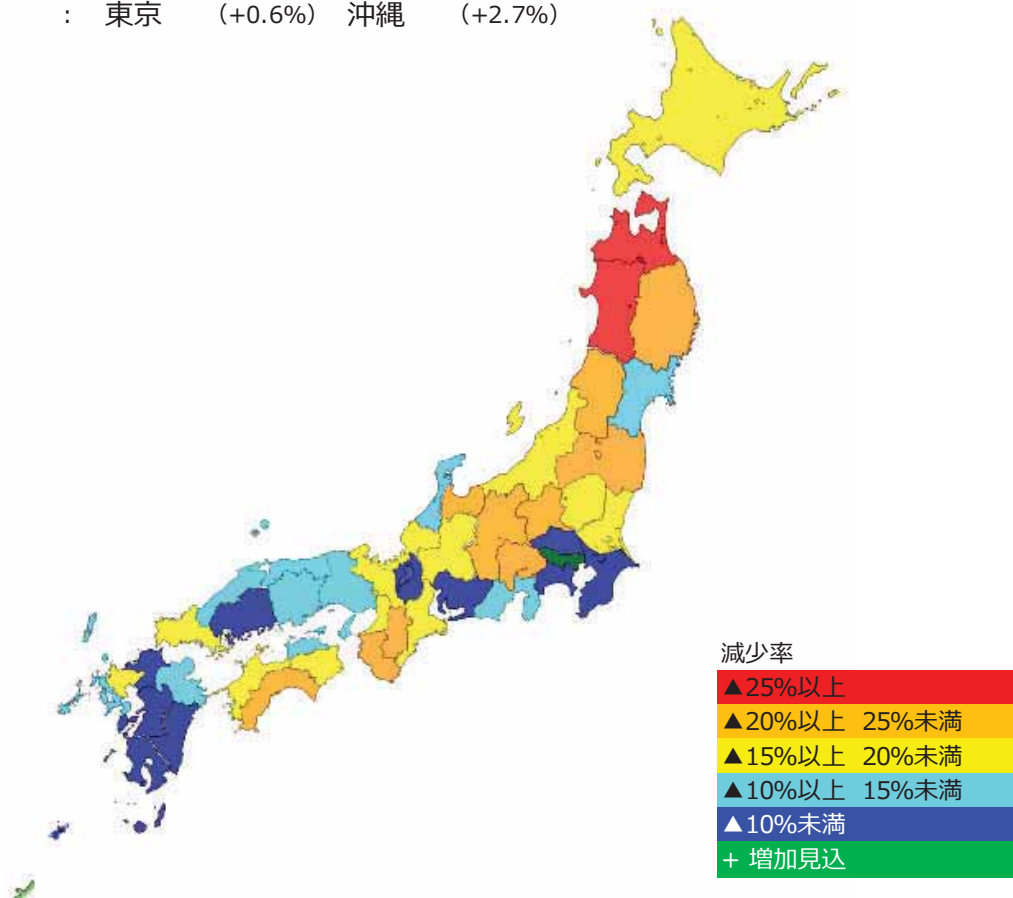


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口の予測（全体：都道府県別:2020→2032年）

■東北の減少率が高く、6県中5県で減少率20%以上、東京・沖縄が増加する見込み。

・減少率25%以上	：	青森	(28.3%)	秋田	(27.9%)		
・減少率20%以上25%未満	：	岩手	(23.5%)	山形	(23.8%)	福島	(21.0%)
		山梨	(22.7%)	長野	(20.5%)	富山	(22.8%)
		和歌山	(24.1%)	高知	(21.5%)	奈良	(20.0%)
・減少率15%以上20%未満	：	北海道	(16.8%)	茨城	(18.2%)	栃木	(18.3%)
		福井	(18.4%)	岐阜	(17.7%)	三重	(17.3%)
		大阪	(15.6%)	山口	(17.8%)	徳島	(19.7%)
		佐賀	(15.7%)			新潟	(19.4%)
						京都	(15.0%)
						愛媛	(16.2%)
・減少率10%以上15%未満	：	宮城	(13.9%)	石川	(14.9%)	静岡	(14.8%)
		鳥取	(11.2%)	島根	(12.7%)	岡山	(14.3%)
		長崎	(14.6%)	大分	(11.7%)	兵庫	(12.9%)
						香川	(12.9%)
・減少率10%未満	：	埼玉	(9.2%)	千葉	(9.9%)	神奈川	(7.4%)
		滋賀	(9.3%)	広島	(9.7%)	福岡	(2.8%)
		宮崎	(9.8%)	鹿児島	(9.6%)	愛知	(9.1%)
						熊本	(6.7%)
・増加する見込み。	：	東京	(+0.6%)	沖縄	(+2.7%)		



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

在籍者の出身高校の都道府県(2021.5)

出身地域の18歳人口予測*	在籍者数	構成比
① 人口増加	446	14.6%
② 人口減少率10%未満	996	32.7%
③ 大分県	295	9.7%
④ 人口減少率10%以上	1,038	34.1%
⑤ その他	272	8.9%
計	3,047	100.0%

*資料2をもとに、各都道府県を人口予測に基づき区分

各区分の内訳・都道府県

- ① 人口増加 :
東京都、沖縄県
- ② 人口減少率10%未満 :
千葉県, 埼玉県, 神奈川県, 愛知県, 滋賀県, 広島県, 福岡県, 宮崎県,
熊本県, 鹿児島県
- ③ 大分県 :
大分県
- ④ 人口減少率10%以上 :
北海道, 青森県, 秋田県, 岩手県, 山形県, 福島県, 宮城県, 茨城県, 群馬県, 新潟県, 長野県, 栃木県, 山梨県, 静岡県, 富山県, 福井県, 石川県, 三重県, 岐阜県, 京都府, 和歌山県, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 岡山県, 鳥取県, 島根県, 山口県, 徳島県, 香川県, 高知県, 愛媛県, 佐賀県, 長崎県
- ⑤ その他 :
専修学校・認定など 36人
インターナショナルスクール、海外教育機関 236人

特集

2021年度 大学入試を振り返る

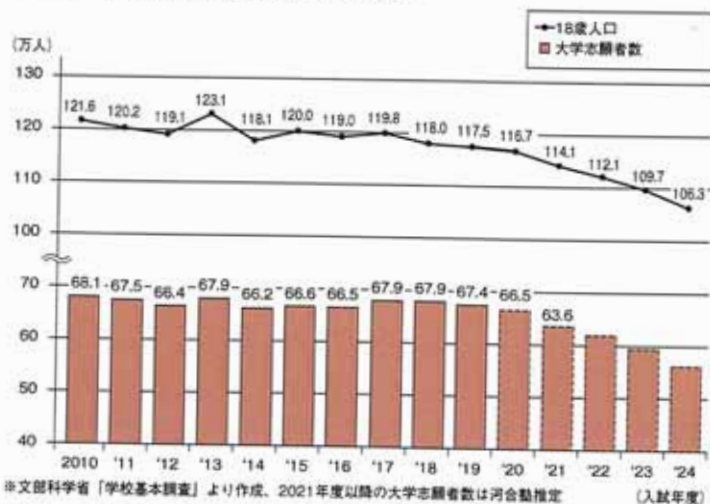
本誌4・5月号では、2021年度入試の速報として大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

このたび、全国の高等学校の先生方にご協力いただき、約183万件の貴重な入試結果調査(合否)データを集めることができた。また、各大学からも最終的な入試結果資料を送付いただいている。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2021年度入試を総括する。なお、個々の大学の入試結果については14ページ以降に掲載しているので是非ご活用いただきたい。

受験人口の変化

●18歳人口は本格的な減少期に突入

【図表1】18歳人口と大学志願者数の推移



【図表1】は18歳人口と大学志願者数の推移をみたもの。2017年度まで18歳人口は120万人前後、大学志願者数は67万人前後で推移してきた。2018年度から18歳人口は減少期に入っており、2021年度は前年から約2万6千人、率にして2%減少した。現役生の大学志願者数も連動して減少したものと推測する。また、2020年度入試では、国公立大、私立大ともに競争が緩和されたこと、新入試を控えた受験生の安全志向が強まり入学率が高まったことから既卒生の大学志願者数も大きく減少していると考えられる。河合塾では、今春の大学志願者数は、現卒あわせて前年から3万人減少し、約63万6千人(前年比94%)と推定している。

なお、今後も18歳人口の減少は続き、2024年度には106万人まで減少していく。近年大学志願率(大学進学をめざす人の割合)は頭打ちとなっており、大学志願者数も連動した減少が見込まれる。大学入試は競争緩和の時代に入っていく。

国公立大学

●志願者数は全日程で減少 中期日程は合格者数増加で競争緩和

【図表2】は国公立大の直近3年の入試結果。国公立大一般選抜のメインである前期日程の志願者数は前年比

私立大入試結果(全体)(7/20現在)

※数値は7/20現在、私立568大学の集計

※2019～21年度の志願者数・合格者数公表大学を集計(合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

①全体概況

	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)			
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	
全体	3,876,476	3,774,540	3,228,254	97%	86%	922,935	994,601	1,055,803	106%	106%	4.2	3.8	3.1	
方式別	一般	2,551,739	2,576,723	2,153,108	101%	84%	554,589	623,921	659,012	113%	106%	4.6	4.1	3.3
	共通テスト	1,324,737	1,197,817	1,075,146	90%	90%	368,346	370,680	396,791	101%	107%	3.6	3.2	2.7
期別	一期	3,528,558	3,443,277	2,990,733	98%	87%	846,629	903,193	976,909	107%	108%	4.2	3.8	3.1
	二期	347,918	331,263	237,521	95%	72%	76,306	91,408	78,894	120%	86%	4.6	3.6	3.0

私立大入試結果(地区別)(7/20現在)

※数値は7/20現在、私立568大学の集計

※2019～21年度の志願者数・合格者数公表大学を集計(合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

①全体(一般+共通テスト)

地区	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
北海道	35,184	40,435	34,095	115%	84%	20,877	21,495	18,981	103%	88%	1.7	1.9	1.8
東北	37,576	38,656	35,778	103%	93%	17,505	18,194	18,218	104%	100%	2.1	2.1	2.0
関東・甲信越(首都圏除く)	47,158	50,673	45,583	107%	90%	17,120	17,632	17,637	103%	100%	2.8	2.9	2.6
首都圏	2,232,585	2,139,294	1,844,394	96%	86%	467,803	499,697	537,139	107%	107%	4.8	4.3	3.4
北陸	25,979	30,706	25,394	118%	83%	11,784	11,943	12,347	101%	103%	2.2	2.6	2.1
東海	336,935	339,066	282,602	101%	83%	102,902	111,378	115,093	108%	103%	3.3	3.0	2.5
近畿	955,196	913,369	766,956	96%	84%	202,651	228,942	247,999	113%	108%	4.7	4.0	3.1
中国	51,505	56,785	50,502	110%	89%	24,760	25,821	25,972	104%	101%	2.1	2.2	1.9
四国	11,258	10,602	9,215	94%	87%	5,975	6,428	6,975	108%	109%	1.9	1.6	1.3
九州	143,100	154,954	133,735	108%	86%	51,558	53,071	55,442	103%	104%	2.8	2.9	2.4
全体	3,876,476	3,774,540	3,228,254	97%	86%	922,935	994,601	1,055,803	108%	106%	4.2	3.8	3.1

②一般方式

地区	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
北海道	20,104	23,606	19,257	117%	82%	11,636	12,283	10,307	106%	84%	1.7	1.9	1.9
東北	24,240	25,439	23,629	105%	93%	10,368	11,091	11,167	107%	101%	2.3	2.3	2.1
関東・甲信越(首都圏除く)	30,260	33,395	32,571	110%	98%	9,987	10,667	11,370	107%	107%	3.0	3.1	2.9
首都圏	1,438,670	1,448,916	1,208,885	101%	83%	278,877	312,485	330,544	112%	106%	5.2	4.6	3.7
北陸	16,197	19,617	16,368	121%	83%	6,431	6,559	6,692	102%	102%	2.5	3.0	2.4
東海	196,301	208,682	173,949	106%	83%	52,493	61,491	64,098	117%	104%	3.7	3.4	2.7
近畿	696,520	674,296	554,582	97%	82%	134,477	155,652	169,835	116%	109%	5.2	4.3	3.3
中国	35,905	40,200	35,703	112%	89%	16,960	18,255	18,070	108%	99%	2.1	2.2	2.0
四国	9,027	8,451	6,665	94%	79%	4,479	5,169	5,626	115%	109%	2.0	1.6	1.2
九州	84,515	94,121	81,499	111%	87%	28,881	30,269	31,303	105%	103%	2.9	3.1	2.6
全体	2,551,739	2,576,723	2,153,108	101%	84%	554,589	623,921	659,012	113%	106%	4.6	4.1	3.3

③共通テスト利用方式

地区	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
北海道	15,080	16,829	14,838	112%	88%	9,241	9,212	8,674	100%	94%	1.6	1.8	1.7
東北	13,336	13,217	12,149	99%	92%	7,137	7,103	7,051	100%	99%	1.9	1.9	1.7
関東・甲信越(首都圏除く)	16,898	17,278	13,012	102%	75%	7,133	6,965	6,267	98%	90%	2.4	2.5	2.1
首都圏	793,915	690,378	635,509	87%	92%	188,926	187,212	206,595	99%	110%	4.2	3.7	3.1
北陸	9,782	11,089	9,026	113%	81%	5,353	5,384	5,655	101%	105%	1.8	2.1	1.6
東海	140,634	130,384	108,653	93%	83%	50,409	49,887	50,995	99%	102%	2.8	2.6	2.1
近畿	258,676	239,073	212,374	92%	89%	68,174	73,290	78,164	108%	107%	3.8	3.3	2.7
中国	15,600	16,585	14,799	106%	89%	7,800	7,566	7,902	97%	104%	2.0	2.2	1.9
四国	2,231	2,151	2,550	96%	119%	1,496	1,259	1,349	84%	107%	1.5	1.7	1.9
九州	58,585	60,833	52,236	104%	86%	22,677	22,802	24,139	101%	106%	2.6	2.7	2.2
全体	1,324,737	1,197,817	1,075,146	90%	90%	368,346	370,680	396,791	101%	107%	3.6	3.2	2.7

私立大入試結果(系統別)(7/20現在)

※数値は7/20現在、私立568大学の集計

※2019～21年度の志願者数・合格者数公表大学を集計(合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く)

※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

※「全体」の数値が他の集計と一致しないのは、入試方式により大学計しか公表しない大学があるため

①全体(一般+共通テスト)

学部系統	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
文・人文	729,508	698,774	572,295	96%	82%	178,003	187,465	198,217	105%	106%	4.1	3.7	2.9
社会・国際	421,992	380,887	321,052	90%	84%	86,258	97,076	105,048	110%	108%	4.8	3.9	3.1
法・政治	295,450	267,023	229,041	90%	86%	65,838	74,325	81,162	113%	109%	4.5	3.6	2.8
経済・経営・商	815,767	786,716	664,739	96%	84%	158,109	179,949	197,531	114%	110%	5.2	4.4	3.4
理	138,617	143,167	123,934	103%	87%	43,820	44,818	47,821	102%	107%	3.2	3.2	2.6
工	678,775	724,470	650,029	107%	90%	178,707	191,954	210,676	107%	110%	3.8	3.8	3.1
農	98,223	102,844	82,753	105%	80%	31,469	36,308	33,168	115%	91%	3.1	2.8	2.5
医・歯・薬・保健	346,508	338,411	301,618	98%	89%	87,531	89,646	87,472	102%	98%	4.0	3.8	3.4
医	102,897	100,610	91,225	98%	91%	6,851	6,862	6,792	100%	99%	15.0	14.7	13.4
歯	8,216	7,356	5,856	90%	80%	2,847	2,866	2,588	101%	90%	2.9	2.6	2.3
薬	75,081	68,514	60,434	91%	88%	24,611	25,090	25,248	102%	101%	3.1	2.7	2.4
看護	88,701	85,674	77,634	97%	91%	27,480	28,222	27,035	103%	96%	3.2	3.0	2.9
医療技術・他	71,613	76,257	66,469	106%	87%	25,742	26,606	25,809	103%	97%	2.8	2.9	2.6
生活科学	76,671	71,434	57,784	93%	81%	29,834	29,586	27,015	99%	91%	2.6	2.4	2.1
芸術・スポーツ科学	108,244	111,786	94,200	103%	84%	28,996	30,682	32,757	106%	107%	3.7	3.6	2.9
総合・環境・情報・人間	166,721	149,028	130,809	89%	88%	32,370	32,792	34,936	101%	107%	5.2	4.5	3.7
全体	3,876,476	3,774,540	3,228,254	97%	86%	922,935	994,601	1,055,803	106%	106%	4.2	3.8	3.1

②一般方式

学部系統	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
文・人文	481,803	484,253	385,819	101%	80%	106,309	118,464	125,008	111%	106%	4.5	4.1	3.1
社会・国際	275,938	266,194	216,574	96%	81%	51,927	60,326	66,854	116%	111%	5.3	4.4	3.2
法・政治	192,056	181,834	151,814	95%	83%	38,169	45,427	51,176	119%	113%	5.0	4.0	3.0
経済・経営・商	550,265	555,778	463,569	101%	83%	97,434	116,867	129,497	120%	111%	5.6	4.8	3.6
理	87,443	92,267	78,397	106%	85%	26,538	27,900	29,478	105%	106%	3.3	3.3	2.7
工	419,414	453,837	391,629	108%	86%	99,851	110,366	117,584	111%	107%	4.2	4.1	3.3
農	66,804	70,101	53,756	105%	77%	18,407	22,345	19,039	121%	85%	3.6	3.1	2.8
医・歯・薬・保健	252,459	251,231	226,936	100%	90%	60,734	63,608	61,253	105%	96%	4.2	3.9	3.7
医	85,488	84,428	79,922	99%	95%	5,940	5,954	6,000	100%	101%	14.4	14.2	13.3
歯	5,648	5,124	4,388	91%	86%	1,922	1,976	1,877	103%	95%	2.9	2.6	2.3
薬	49,936	46,317	40,332	93%	87%	16,281	17,209	16,740	106%	97%	3.1	2.7	2.4
看護	62,436	61,416	55,066	98%	90%	19,286	20,121	19,044	104%	95%	3.2	3.1	2.9
医療技術・他	48,951	53,946	47,128	110%	87%	17,305	18,348	17,592	106%	96%	2.8	2.9	2.7
生活科学	50,456	48,403	39,258	96%	81%	18,483	19,059	17,504	103%	92%	2.7	2.5	2.2
芸術・スポーツ科学	69,085	73,428	60,183	106%	82%	18,397	20,084	21,086	109%	105%	3.8	3.7	2.9
総合・環境・情報・人間	106,216	99,397	85,273	94%	86%	18,340	19,475	20,533	106%	105%	5.8	5.1	4.2
全体	2,551,739	2,576,723	2,153,108	101%	84%	554,589	623,921	659,012	113%	106%	4.6	4.1	3.3

③共通テスト利用方式

学部系統	志願者数(A)					合格者数(B)					倍率(A/B)		
	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度	20/19	21/20	19年度	20年度	21年度
文・人文	247,705	214,521	186,476	87%	87%	71,694	69,001	73,209	96%	106%	3.5	3.1	2.5
社会・国際	146,054	114,693	104,478	79%	91%	36,331	36,750	38,194	101%	104%	4.0	3.1	2.7
法・政治	103,394	85,189	77,227	82%	91%	27,669	28,898	29,886	104%	104%	3.7	2.9	2.6
経済・経営・商	265,502	230,938	201,170	87%	87%	60,675	63,082	68,034	104%	108%	4.4	3.7	3.0
理	51,174	50,900	45,537	99%	89%	17,282	16,918	18,343	98%	108%	3.0	3.0	2.5
工	259,361	270,633	258,400	104%	95%	78,856	81,588	93,092	103%	114%	3.3	3.3	2.8
農	31,619	32,743	28,997	104%	89%	13,062	13,963	14,129	107%	101%	2.4	2.3	2.1
医・歯・薬・保健	94,049	87,180	74,782	93%	86%	26,797	26,038	26,219	97%	101%	3.5	3.3	2.9
医	17,409	16,182	11,303	93%	70%	911	908	792	100%	87%	19.1	17.8	14.3
歯	2,568	2,232	1,468	87%	66%	925	890	711	96%	80%	2.8	2.5	2.1
薬	25,145	22,197	20,102	88%	91%	8,330	7,881	8,508	95%	108%	3.0	2.8	2.4
看護	26,265	24,258	22,568	92%	93%	8,194	8,101	7,991	99%	99%	3.2	3.0	2.8
医療技術・他	22,662	22,311	19,341	98%	87%	8,437	8,258	8,217	98%	100%	2.7	2.7	2.4
生活科学	26,215	23,031	18,526	88%	80%	11,351	10,527	9,511	93%	90%	2.3	2.2	1.9
芸術・スポーツ科学	39,159	38,358	34,017	98%	89%	10,599	10,598	11,671	100%	110%	3.7	3.6	2.9
総合・環境・情報・人間	60,505	49,631	45,536	82%	92%	14,030	13,317	14,403	95%	108%	4.3	3.7	3.2
全体	1,324,737	1,197,817	1,075,146	90%	90%	368,346	370,680	396,791	101%	107%	3.6	3.2	2.7

○著作権者の許諾が得られない書類等について

1) 書類等の題名

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）について（【資料5】10ページから13ページ）

2) 出典

John Ross, 著、"Pandemic to redistribute international student flows: report."
Times Higher Education.

3) 参考範囲

「Pandemic to redistribute international student flows: report」 (Times Higher Education) (全文)
<https://www.timeshighereducation.com/news/pandemic-redistribute-international-student-flows-report>

4) その他

- ・10～12ページに全文を掲載。
- ・13ページに全文の仮訳を付けた。

○著作権者の許諾が得られない書類等について

1) 書類等の題名

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）について（【資料 6】 14 ページから 21 ページ）

2) 出典

ICEF GmbH、” Mapping COVID-19’s impact on global student mobility.”

3) 参考範囲

「Mapping COVID-19’s impact on global student mobility.」 (ICEF Monitor) (全文)

<https://monitor.icef.com/2021/09/mapping-covid-19s-impact-on-global-student-mobility/>

4) その他

- ・ 14～18 ページに全文を掲載。
- ・ 19～21 ページにその仮訳を付けた。

[資料7 立命館アジア太平洋大学の志願者・合格者・入学者数の推移]

学部名		2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
アジア太平洋学部	志願者数	1,899	2,923	3,590	3,138	2,500
	合格者数	1,200	1,195	1,163	1,144	1,047
	入学者数(A)	694	656	660	603	586
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	1	1	1	1	1
国際経営学部	志願者数	1,868	2,697	3,210	2,661	2,209
	合格者数	1,163	1,163	1,221	1,129	1,122
	入学者数(A)	641	640	641	566	599
	入学定員(B)	660	660	660	660	660
	A/B	1	1	1	1	1
大学合計	志願者数	3,767	5,620	6,800	5,799	4,709
	合格者数	2,363	2,358	2,384	2,273	2,169
	入学者数(A)	1,335	1,296	1,301	1,169	1,185
	入学定員(B)	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
	A/B	1	1	1	1	1

[上記のうち国際学生(留学生)数]

区分		2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
国際学生 (留学生)	志願者数	1,231	1,436	1,475	1,357	1,103
	合格者数	1,035	1,004	979	874	854
	入学者数	653	618	601	477	509

立命館アジア太平洋大学

「サステナビリティ観光学部(仮称)」

設置構想に係る学生確保の見通し調査

設置構想についての高校生アンケート調査

設置構想についての附属高校生アンケート調査

報告書

(2022年6-7月追加調査反映版)

2022年7月

株式会社 高等教育総合研究所、立命館アジア太平洋大学

設置構想に係る学生確保の見通し調査
(設置構想についての高校生アンケート調査・附属高校生アンケート調査)
報告書

目次

学生確保の見通し調査 調査結果のまとめ (国内)	2
a 全国の高校生対象のアンケート調査 (高校生アンケート調査)	8
1. 高校生アンケート調査 概要	
2. 高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果	
3. 高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析	
a-1 全国の高校生対象のアンケート調査 (高校生アンケート調査) ※追加調査	19
1. 高校生アンケート調査 概要	
2. 高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果	
3. 高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析	
b 学校法人立命館の附属高校生対象のアンケート調査 (附属高校生アンケート調査)	31
1. 附属高校生アンケート調査 概要	
2. 附属高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果	
3. 附属高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析	
添付資料	41
資料1 「サステナビリティ観光学部(仮称)」概要資料(全アンケート調査共通)	
資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙(紙方式のみ)	
資料3 設置構想についての高校生アンケート調査用紙 ※追加調査(紙方式)	
資料4 設置構想についての高校生アンケート調査用紙 ※追加調査(WEB方式)	
資料5 設置構想についての附属高校生アンケート調査用紙(紙方式)	
資料6 設置構想についての附属高校生アンケート調査用紙(WEB方式/立命館宇治の場合)	

国内学生確保の見通し調査 調査結果のまとめ (国内)

既存調査 a、追加調査 a-1、既存調査 b

立命館アジア太平洋大学が 2023 (令和 5) 年度に設置を予定する「サステナビリティ観光学部(仮称)」の学生確保の見通し調査として、高校生を対象としたアンケート調査を実施した。高校生アンケート調査は以下①②③の通りそれぞれ別の対象に実施し、回答を得た。

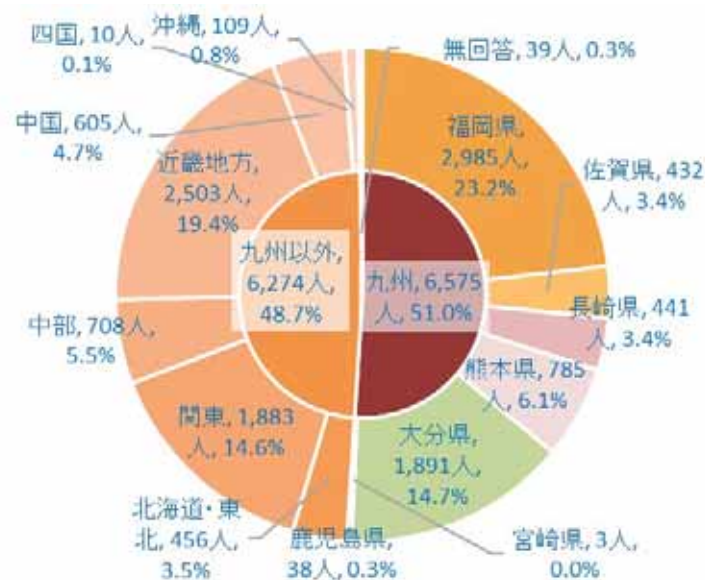
対象	実施時期	高校数	回答数
① 全国の高校 (高2生)	2021年11月～2022年1月	67校	計 10,602人
② 全国の高校 (高3生) ※追加調査	2022年6月～2022年7月	252校	計 1,432人
③ 学校法人立命館の附属高校 (高2生)	2021年11月～2022年1月	4校	計 854人
	計	323校	計 12,888人

※以下、①のアンケート調査は「既存調査 a」、②のアンケート調査は「追加調査 a-1」、③のアンケート調査は「既存調査 b」とする

◆ 回答を得た高校生の基本情報 (a、a-1、b 合計)

今回、323校を対象に実施した「設置構想についての高校生(附属高校生)アンケート調査」において、回答者の居住する都道府県として、最も回答数が多かったのは「福岡県」で2,985人(全体の23.2%)であった。「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置予定地である大分県を含む九州地方の居住者の合計は、6,575人(全体の51.0%)であった。また、九州地方以外の地域(関東地方、近畿地方等)の居住者の合計は6,274人(同48.7%)であった。このように九州地方をはじめ、全国の幅広い地域の高校生から回答を得た。[グラフ/表1]

[グラフ/表1]



立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

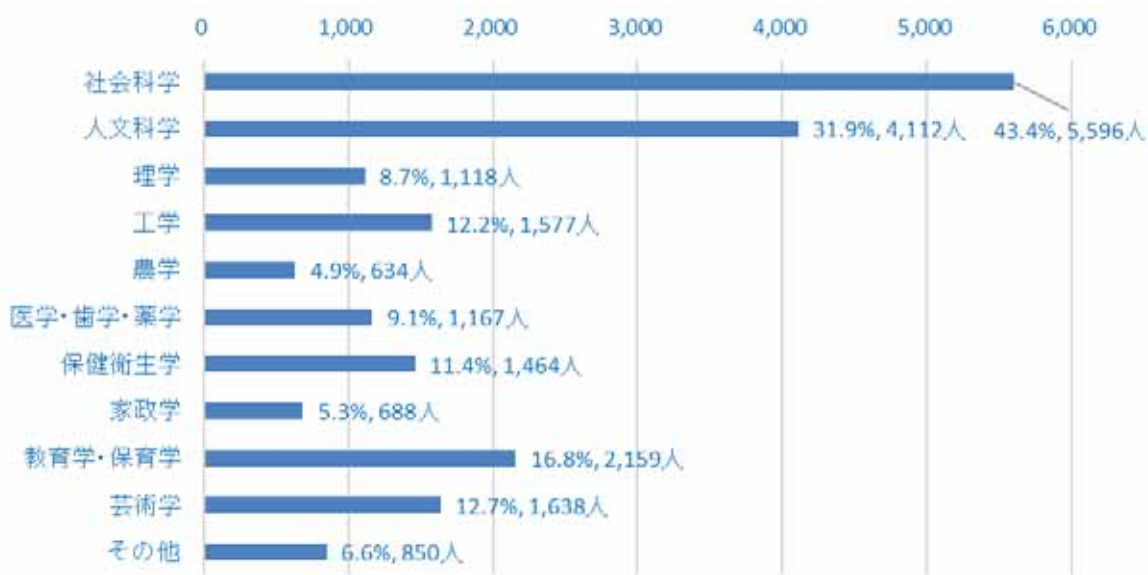
回答者が希望する高校卒業後の希望進路として、最も回答数が多かったのは「進学(大学)」で11,517人(同89.4%)であった。[グラフ/表2]

[グラフ/表2]



回答者の関心のある学問分野として、最も回答数が多かったのは「社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)」で5,596人(同43.4%)であった。(※複数回答の結果)[グラフ/表3]

[グラフ/表3]



◆「サステイナビリティ観光学部(仮称)」への受験・進学意向等(a、a-1、b 合計)

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」の概要を示した上で、a 調査及び a-1 調査は受験意向、b 調査は内部進学意向について回答を求めた。

「高校卒業後の進路：進学(大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で、a 調査で「受験したい」と受験意志を示した回答は 534 人であった。a-1 調査で「受験したい」と受験意志を示した回答は 227 人であった。b 調査で「希望する」と内部進学意志を示した回答は、11 人であった。

以上の結果から、当該学部へ受験・内部進学意志を示した者の合計は、772 人であった。当該学部は入学定員を 350 名と予定しており、「サステイナビリティ観光学部(仮称)」を受験または内部進学希望を示した者は入学定員の 2 倍以上という結果となった。[グラフ/表 4]

[グラフ/表 4]

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	a 調査	a-1 調査	b 調査	計
進学(大学)	社会科学	受験したい/希望する	534 人	227 人	11 人	772 人
		受験しない/希望しない	3,615 人	448 人	384 人	4,447 人
		無回答	62 人	1 人	13 人	76 人
		計	4,211 人	676 人	408 人	5,295 人

◆「サステナビリティ観光学部(仮称)」への入学意向(a、a-1、b 合計)

「高校卒業後の進路：進学(大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で、入学意向を把握するために、「受験意向：受験したい」・「入学意向：はい/併願次第」と回答した数を集計したところ、下表の結果となった。[グラフ/表5]

全体で772人が「受験したい」と答え、その受験者の中から302人が合格した場合に「入学したい」という回答を示した。

なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は462人となった。

[グラフ/表5]

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	入学意向	調査			合計
				a 調査	a-1 調査	b 調査	
進学(大学)	社会科学	受験したい	入学したい	160人	140人	2人	302人
			併願次第	367人	87人	8人	462人
			無回答	7人	0人	1人	8人
			計	534人	227人	11人	772人
	社会科学	受験しない	—	3,615人	448人	384人	4,447人
			無回答	62人	1人	13人	76人
	社会科学		計	4,211人	676人	408人	5,295人
	社会科学		その他	5,167人	634人	421人	6,222人
社会科学		計	9,378人	1,310人	829人	11,517人	
社会科学		その他	1,224人	122人	25人	1,371人	
社会科学		全体 計	10,602人	1,432人	854人	12,888人	

◆ 「サステナビリティ観光学部(仮称)」を受験しない／学内進学を希望しない理由 (a、a-1、b 合計)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」について、「受験しない／学内進学を希望しない」と回答した者の内、さらに「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」と回答した4,447人にその理由を尋ねた結果、以下となった。最も回答が多いのは、「他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)」であった。〔グラフ/表6〕

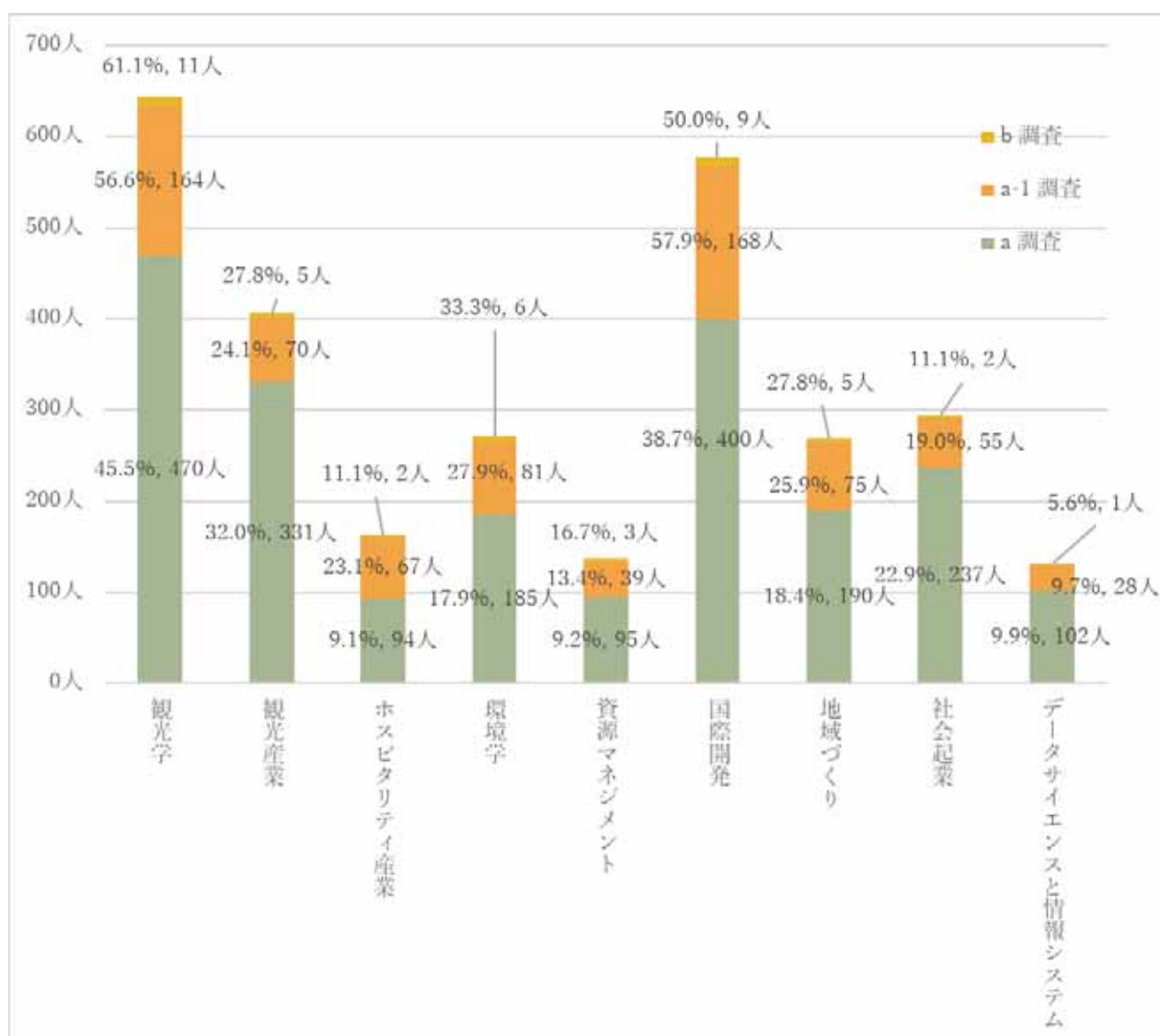
[グラフ/表 6]

	選択項目 (回答対象者数)	内、「大学進学希望」 且つ「社会科学希望」 (4,447人)	構成比
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、 詳細を知った上で検討したいから	398	8.9%
2	立命館アジア太平洋大学への進学を希望しているから b 調査のみ実施	298	—
3	立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから b 調査のみ実施	9	—
4	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	1,203	27.1%
5	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	1,693	38.1%
6	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	189	4.3%
7	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	334	7.5%
8	進路は未定だから	523	11.8%
9	通学に時間がかかりそうだから	500	11.2%
10	学費が高いから	368	8.3%
11	卒業後の進路がイメージできないから	324	7.3%
12	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	87	2.0%
13	その他	100	2.2%

◆【参考】「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容についての興味(a、a-1、b 合計)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」へ受験または内部進学希望を示した回答者・合計に、当該学部の9つの専門内容のなかで興味があるもの(あてはまるものすべてを選択)について質問したところ、「観光学」が最も多く、全調査を合わせて合計645人であった。次いで、「国際開発」が多く、合計577人という結果となった。[グラフ/表7]

[グラフ/表7]



a 全国の高校生対象のアンケート調査（高校生アンケート調査）

既存調査 a

1. 高校生アンケート調査 概要

調査目的	2023（令和5）年4月設置予定の立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」（入学定員350名を予定）の学生確保の見通しを測定するために高校生を対象としたアンケート調査を実施した（学校法人立命館の附属高校生以外の高校生が対象）。
調査時期	2021年11月～2022年1月
調査対象者	2021年度時点の高校2年生（2023年度に大学進学時期を迎える者）
調査内容	<p>選択肢式で以下の内容（7問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答者の基本情報（居住地、希望進路、関心のある学問分野） ■ 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」の受験意向、興味がある専門内容、入学意向等。
調査方法	アンケート実施の了承が得られた高校に高校生アンケート用紙（必要部数）を送付。各校の教職員から調査対象者にアンケート用紙を配布の上、10分程度の回答時間を設け、その場で回収いただいた。
有効回答件数	<p>10,602件</p> <p>実施67校：所在地別の高校数・実施人数は次頁参照</p>

所在地別の高校数

	公立	私立	合計	割合
北海道	1	1	2	3.0%
茨城県	0	2	2	3.0%
埼玉県	0	1	1	1.5%
千葉県	0	1	1	1.5%
東京都	0	10	10	14.9%
関東地方 計	0	14	14	20.9%
愛知県	0	3	3	4.5%
中部地方 計	0	3	3	4.5%
京都府	1	2	3	4.5%
大阪府	1	2	3	4.5%
兵庫県	0	2	2	3.0%
近畿地方 計	2	6	8	11.9%
岡山県	0	1	1	1.5%
広島県	0	2	2	3.0%
山口県	0	1	1	1.5%
中国地方 計	0	4	4	6.0%
福岡県	5	10	15	22.4%
佐賀県	1	1	2	3.0%
長崎県	1	1	2	3.0%
熊本県	2	2	4	6.0%
大分県	9	3	12	17.9%
鹿児島県	1	0	1	1.5%
九州地方 計	19	17	36	53.7%
合計	22	45	67	100.0%
割合	32.8%	67.2%	100.0%	

高校所在地別の実施人数

	公立	私立	合計	割合
北海道	290	34	324	3.0%
茨城県	0	136	136	1.3%
埼玉県	0	150	150	1.4%
千葉県	0	108	108	1.0%
東京都	0	1,277	1,277	12.0%
関東地方 計	0	1,671	1,671	15.8%
愛知県	0	542	542	5.1%
中部地方 計	0	542	542	5.1%
京都府	115	291	406	3.8%
大阪府	187	461	648	6.1%
兵庫県	0	260	260	2.5%
近畿地方 計	302	1,012	1,314	12.4%
岡山県	0	176	176	1.7%
広島県	0	278	278	2.6%
山口県	0	62	62	0.6%
中国地方 計	0	516	516	4.9%
福岡県	686	2,297	2,983	28.1%
佐賀県	229	182	411	3.9%
長崎県	184	247	431	4.1%
熊本県	488	286	774	7.3%
大分県	1,237	362	1,599	15.1%
鹿児島県	37	0	37	0.3%
九州地方 計	2,861	3,374	6,235	58.8%
合計	3,453	7,149	10,602	100.0%
割合	32.6%	67.4%	100.0%	

2. 高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」 設置構想についての高校生アンケート調査	10,602件

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

※無回答であった選択肢(都道府県)は、掲載していない

選択項目	回答数	構成比
1 北海道	328	3.1%
2 青森県	1	0.0%
4 宮城県	2	0.0%
8 茨城県	106	1.0%
9 栃木県	3	0.0%
11 埼玉県	270	2.5%
12 千葉県	243	2.3%
13 東京都	951	9.0%
14 神奈川県	92	0.9%
15 新潟県	1	0.0%
16 富山県	1	0.0%
17 石川県	1	0.0%
19 山梨県	1	0.0%
21 岐阜県	4	0.0%
22 静岡県	2	0.0%
23 愛知県	511	4.8%
24 三重県	29	0.3%
25 滋賀県	32	0.3%
26 京都府	359	3.4%
27 大阪府	655	6.2%
28 兵庫県	256	2.4%
29 奈良県	7	0.1%
30 和歌山県	1	0.0%
31 鳥取県	1	0.0%
32 島根県	2	0.0%
33 岡山県	167	1.6%
34 広島県	268	2.5%
35 山口県	91	0.9%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

37	徳島県	1	0.0%
38	愛媛県	3	0.0%
39	高知県	1	0.0%
40	福岡県	2,917	27.5%
41	佐賀県	424	4.0%
42	長崎県	431	4.1%
43	熊本県	771	7.3%
44	大分県	1,594	15.0%
45	宮崎県	1	0.0%
46	鹿児島県	37	0.3%
47	沖縄県	5	0.0%
	無回答	32	0.3%
合計		10,602	100.0%

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

選択項目		回答数	構成比
1	進学(大学)	9,378	88.5%
2	進学(短期大学)	151	1.4%
3	進学(専門学校)	483	4.6%
4	就職	127	1.2%
5	現時点では未定	405	3.8%
	無回答	58	0.5%
合計		10,602	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)	4,478	42.2%
2	人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	3,375	31.8%
3	理学(数学、物理学、化学、生物学など)	902	8.5%
4	工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)	1,294	12.2%
5	農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)	545	5.1%
6	医学・歯学・薬学	978	9.2%
7	保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)	1,265	11.9%
8	家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	554	5.2%
9	教育学・保育学	1,852	17.5%
10	芸術学(音楽、デザイン、美術など)	1,358	12.8%
11	その他	784	7.4%

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるものの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	1,034	9.8%
2	受験しない	9,402	88.7%
	無回答	166	1.6%
合計		10,602	100.0%

次の問5・問6は、問4で「受験したい」を選択した高校生(1,034人)が回答対象

問5 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答対象者 1,034人のうち、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	観光学	470	45.5%
2	観光産業	331	32.0%
3	ホスピタリティ産業	94	9.1%
4	環境学	185	17.9%
5	資源マネジメント	95	9.2%
6	国際開発	400	38.7%
7	地域づくり	190	18.4%
8	社会起業	237	22.9%
9	データサイエンスと情報システム	102	9.9%

問6 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に進学が内定した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	321	31.0%
2	合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい	698	67.5%
	無回答	15	1.5%
合計		1,034	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

次の問7は、問4で「受験しない」を選択した高校生(9,402人)または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」を選択した高校生(698人)が回答対象

あなたが問4で立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」、または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

●問4で「受験しない」と回答した 9,402 人

※回答率は、回答対象者 9,402 人のうち、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	685	7.3%
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	3,284	34.9%
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	3,382	36.0%
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	331	3.5%
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	475	5.1%
6	進路は未定だから	1,295	13.8%
7	通学に時間がかかりそうだから	942	10.0%
8	学費が高いから	884	9.4%
9	卒業後の進路がイメージできないから	793	8.4%
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	200	2.1%
11	その他	392	4.2%

●問6で「合格した場合、併願大学の結果によって入学したい」と回答した 698 人

※回答率は、回答対象者 698 人のうち、各項目を挙げたものの割合

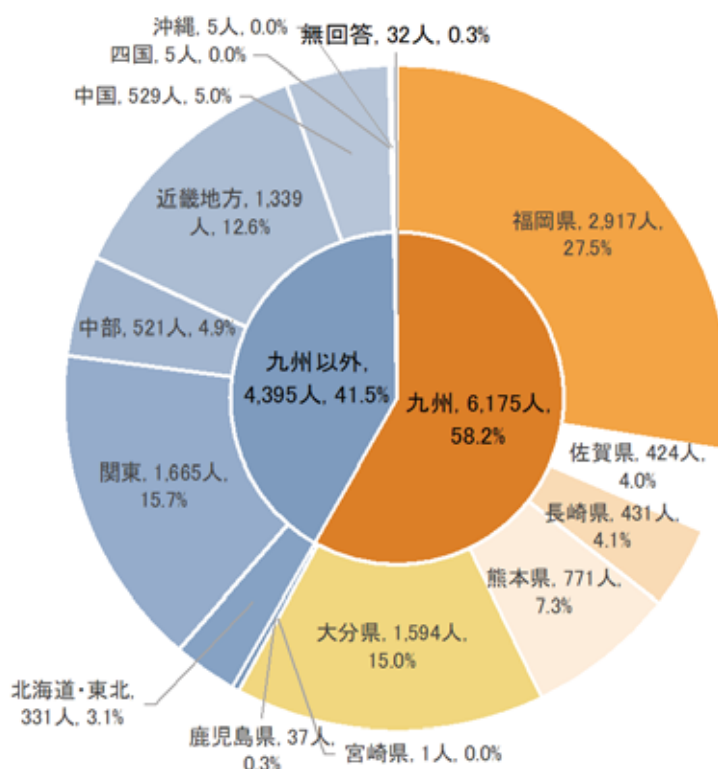
	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	155	22.2%
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	185	26.5%
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	213	30.5%
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	67	9.6%
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	67	9.6%
6	進路は未定だから	92	13.2%
7	通学に時間がかかりそうだから	71	10.2%
8	学費が高いから	105	15.0%
9	卒業後の進路がイメージできないから	49	7.0%
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	28	4.0%
11	その他	17	2.4%

3. 高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

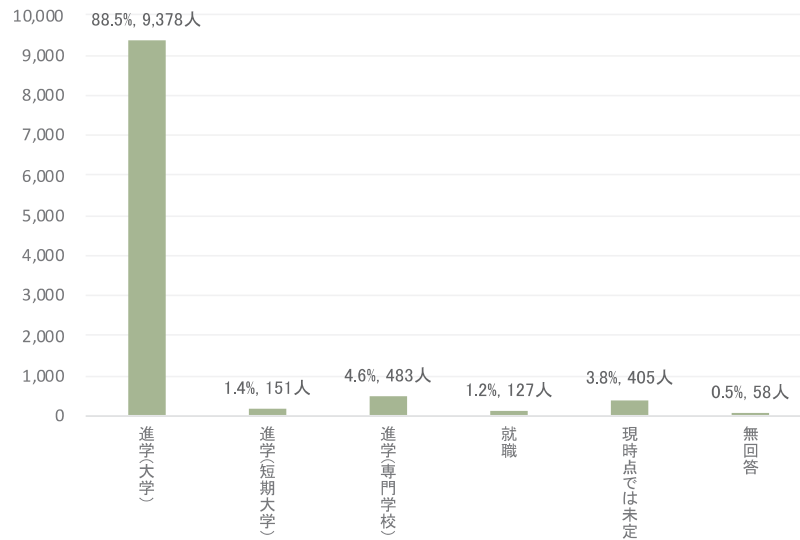
1) 回答者の 58.2%が設置予定地である大分県を含む九州地方に居住（既存調査 a）

回答者の居住する都道府県として、最も回答数が多かったのは「福岡県」で 2,917 人（全体の 27.5%）であった。次いで、「大分県」が 1,594 人（同 15.0%）であり、「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置予定地である大分県を含む九州地方から 6,175 人（同 58.2%）、九州地方以外から 4,395 人（同 41.5%）の回答を得た。



2) 回答者の88.5%が、高校卒業後に大学へ進学を希望する(既存調査 a)

回答者の希望する高校卒業後の進路について質問したところ、最も回答が多かったのが「進学(大学)」で9,378人(同88.5%)であった。次いで、「進学(専門学校)」が483人(4.6%)の順であった。



3) 534人が「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験したい」と回答(既存調査 a)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」の受験意向について質問した。「高校卒業後の進路：進学(大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で集計したところ、対象者4,211人のうち、534人(同12.7%)が当該学部を「受験したい」と回答した。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	回答数
進学(大学)	社会科学	受験したい	534人
		受験しない	3,615人
		無回答	62人
		計	4,211人
その他		受験したい	500人
		受験しない	5,787人
		無回答	104人
		計	6,391人
全体		受験したい	1,034人
		受験しない	9,402人
		無回答	166人
		計	10,602人

4) 160人が「サステナビリティ観光学部(仮称)」に強い入学意志を示す(既存調査 a)

「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」・「受験意向：受験したい」と答えた者534人の内、「入学したい」と回答した160人(同30.0%)が強い入学意志を示した。「併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのは、367人(同68.7%)であった。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	入学意向	回答数
進学(大学)	社会科学	受験したい	入学したい	160人
			併願次第	367人
			無回答	7人
			計	534人

5) 受験しない理由(既存調査 a)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」と回答した9,402人の内、「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」と回答した3,615人にその理由を尋ねた結果、以下となった。

選択項目 (回答対象者数)		全体 (9,402人)	内、「大学進学希望」 且つ「社会科学希望」 (3,615人)
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	685	377
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	3,284	1,101
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	3,382	1,496
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	331	167
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	475	290
6	進路は未定だから	1,295	457
7	通学に時間がかかりそうだから	942	442
8	学費が高いから	884	323
9	卒業後の進路がイメージできないから	793	279
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	200	81
11	その他	392	96

a-1 全国の高校生対象のアンケート調査（高校生アンケート調査）追加調査

1. 高校生アンケート調査 概要

調査目的	2023（令和5）年4月設置予定の立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」（入学定員350名を予定）の学生確保の見通しを測定するために高校生を対象としたアンケート調査を実施した（学校法人立命館の附属高校生以外の高校生が対象）。
調査時期	2022年6月24日～2022年7月8日
調査対象者	2022年度時点の高校3年生（2023年度に大学進学時期を迎える者） *既実施のアンケート調査（a調査及びb調査）を除く全国の高校生
調査内容	選択肢式で以下の内容（7問） <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答者の基本情報（居住地、希望進路、関心のある学問分野） ■ 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」の受験意向、興味がある専門内容、入学意向等。
調査方法	(A) アンケート実施の了承が得られた高校（既実施のアンケート調査対象67校を除く）に以下の方法で実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート用紙を送付、調査対象者に本学部の資料とアンケート用紙を高校へ送付、高校3年生の生徒へ配布し、回答をその場で回収。 ・アンケート用紙と同じ内容の調査のためのWebサイトを構築。本学部の資料と回答のためのWebサイトを高校へ送付、高校3年生の生徒がWebにて回答。 (B) 本学から連絡が可能なオープンキャンパスや大学説明会などへ参加し、本学がメールアドレスを把握している高校生3年生（4,260人）へ、本学部の資料を送付の上、前出の調査のためのWebサイトへの回答を依頼。 ※ 既存調査と（A）（B）の重複は除外している。
有効回答件数	1,432件 （その内、紙：238件、WEB：1,194件） 実施252校：所在地別の高校数・実施人数は次頁参照

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

所在地別の高校数

	公立	私立	合計	割合
北海道	2	4	6	2.4%
青森県	0	0	0	0.0%
岩手県	1	0	1	0.4%
宮城県	0	3	3	1.2%
秋田県	0	0	0	0.0%
山形県	0	0	0	0.0%
福島県	1	1	2	0.8%
北海道・東北 計	4	8	12	4.8%
茨城県	2	4	6	2.4%
栃木県	1	0	1	0.4%
群馬県	1	2	3	1.2%
埼玉県	3	4	7	2.8%
千葉県	3	5	8	3.2%
東京都	5	52	57	22.6%
神奈川県	9	10	19	7.5%
関東 計	24	77	101	40.1%
新潟県	3	0	3	1.2%
富山県	0	1	1	0.4%
石川県	0	1	1	0.4%
福井県	1	1	2	0.8%
山梨県	0	1	1	0.4%
長野県	1	1	2	0.8%
岐阜県	0	2	2	0.8%
静岡県	3	7	10	4.0%
愛知県	4	4	8	3.2%
中部 計	12	18	30	11.9%
三重県	0	0	0	0.0%
滋賀県	1	0	1	0.4%
京都府	3	5	8	3.2%
大阪府	3	13	16	6.3%
兵庫県	5	5	10	4.0%
奈良県	1	4	5	2.0%
和歌山県	0	2	2	0.8%
近畿 計	13	29	42	16.7%
鳥取県	0	0	0	0.0%
島根県	1	0	1	0.4%
岡山県	1	1	2	0.8%
広島県	1	2	3	1.2%
山口県	1	2	3	1.2%
中国 計	4	5	9	3.6%
香川県	1	1	2	0.8%
徳島県	0	0	0	0.0%
愛媛県	1	0	1	0.4%
高知県	0	0	0	0.0%
四国 計	2	1	3	1.2%
福岡県	15	10	25	9.9%
佐賀県	1	1	2	0.8%
長崎県	2	2	4	1.6%
熊本県	1	2	3	1.2%
大分県	10	1	11	4.4%
宮崎県	2	0	2	0.8%
鹿児島県	1	1	2	0.8%
九州 計	32	17	49	19.4%
沖縄県	3	3	6	2.4%
合計	94	158	252	100.0%
割合	37.3%	62.7%	100.0%	

高校所在地別の実施人数

	公立	私立	合計	割合
北海道	3	6	9	0.6%
青森県	0	0	0	0.0%
岩手県	1	0	1	0.1%
宮城県	0	5	5	0.3%
秋田県	0	0	0	0.0%
山形県	0	0	0	0.0%
福島県	1	2	3	0.2%
北海道・東北 計	5	13	18	1.3%
茨城県	2	59	61	4.3%
栃木県	1	0	1	0.1%
群馬県	1	2	3	0.2%
埼玉県	4	5	9	0.6%
千葉県	5	11	16	1.1%
東京都	18	111	129	9.0%
神奈川県	11	12	23	1.6%
関東 計	42	200	242	16.9%
新潟県	3	0	3	0.2%
富山県	0	95	95	6.6%
石川県	0	1	1	0.1%
福井県	1	1	2	0.1%
山梨県	0	1	1	0.1%
長野県	2	1	3	0.2%
岐阜県	0	33	33	2.3%
静岡県	3	29	32	2.2%
愛知県	4	12	16	1.1%
中部 計	13	173	186	13.0%
三重県	0	0	0	0.0%
滋賀県	1	0	1	0.1%
京都府	26	184	210	14.7%
大阪府	9	83	92	6.4%
兵庫県	5	34	39	2.7%
奈良県	1	21	22	1.5%
和歌山県	0	33	33	2.3%
近畿 計	42	355	397	27.7%
鳥取県	0	0	0	0.0%
島根県	1	0	1	0.1%
岡山県	1	1	2	0.1%
広島県	1	55	56	3.9%
山口県	2	18	20	1.4%
中国 計	5	74	79	5.5%
香川県	1	1	2	0.1%
徳島県	0	0	0	0.0%
愛媛県	1	0	1	0.1%
高知県	0	0	0	0.0%
四国 計	2	1	3	0.2%
福岡県	16	16	32	2.2%
佐賀県	1	20	21	1.5%
長崎県	2	8	10	0.7%
熊本県	1	13	14	1.0%
大分県	288	18	306	21.4%
宮崎県	2	0	2	0.1%
鹿児島県	1	7	8	0.6%
九州 計	311	82	393	27.4%
沖縄県	4	110	114	8.0%
合計	424	1,008	1,432	100.0%
割合	29.6%	70.4%	100.0%	

2. 高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想についての高校生アンケート調査	1,432件

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

※無回答は掲載せず

選択項目	回答数	構成比
1 北海道	10	0.7%
2 青森県	0	0.0%
3 岩手県	1	0.1%
4 宮城県	5	0.3%
5 秋田県	0	0.0%
6 山形県	1	0.1%
7 福島県	3	0.2%
8 茨城県	49	3.4%
9 栃木県	2	0.1%
10 群馬県	3	0.2%
11 埼玉県	15	1.0%
12 千葉県	31	2.2%
13 東京都	83	5.8%
14 神奈川県	35	2.4%
15 新潟県	3	0.2%
16 富山県	93	6.5%
17 石川県	3	0.2%
18 福井県	3	0.2%
19 山梨県	0	0.0%
20 長野県	6	0.4%
21 岐阜県	23	1.6%
22 静岡県	33	2.3%
23 愛知県	23	1.6%
24 三重県	1	0.1%
25 滋賀県	32	2.2%
26 京都府	169	11.8%
27 大阪府	109	7.6%
28 兵庫県	55	3.8%
29 奈良県	30	2.1%
30 和歌山県	26	1.8%
31 鳥取県	0	0.0%
32 島根県	1	0.1%
33 岡山県	7	0.5%
34 広島県	52	3.6%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

35	山口県	16	1.1%
36	香川県	2	0.1%
37	徳島県	0	0.0%
38	愛媛県	3	0.2%
39	高知県	0	0.0%
40	福岡県	68	4.7%
41	佐賀県	8	0.6%
42	長崎県	10	0.7%
43	熊本県	14	1.0%
44	大分県	297	20.7%
45	宮崎県	2	0.1%
46	鹿児島県	1	0.1%
47	沖縄県	104	7.3%
	無回答	0	0.0%
合計		1,432	100.0%

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

	選択項目	回答数	構成比
1	進学(大学)	1,310	91.5%
2	進学(短期大学)	25	1.7%
3	進学(専門学校)	60	4.2%
4	就職	20	1.4%
5	現時点では未定	17	1.2%
	無回答	0	0.0%
合計		1,432	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)	701	49.0%
2	人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	479	33.4%
3	理学(数学、物理学、化学、生物学など)	82	5.7%
4	工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)	140	9.8%
5	農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)	55	3.8%
6	医学・歯学・薬学	108	7.5%
7	保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)	142	9.9%
8	家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	54	3.8%
9	教育学・保育学	195	13.6%
10	芸術学(音楽、デザイン、美術など)	166	11.6%
11	その他	15	1.0%

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	290	20.3%
2	受験しない	1,138	79.5%
	無回答	4	0.3%
合計		1,432	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

次の問5・問6は、問4で「受験したい」を選択した高校生(290人)が回答対象

問5 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、回答対象者290人のうち、各項目を挙げたものの割

選択項目		回答数	回答率
1	観光学	164	56.6%
2	観光産業	70	24.1%
3	ホスピタリティ産業	67	23.1%
4	環境学	81	27.9%
5	資源マネジメント	39	13.4%
6	国際開発	168	57.9%
7	地域づくり	75	25.9%
8	社会起業	55	19.0%
9	データサイエンスと情報システム	28	9.7%

問6 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に進学が内定した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	170	58.6%
2	合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい	119	41.0%
	無回答	1	0.3%
合計		290	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

次の問7は、問4で「受験しない」を選択した高校生(1138人)または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」を選択した高校生(119人)が回答対象

問7 あなたが問4で立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」、または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

●問4で「受験しない」と回答した1138人

※回答率は、回答対象者1138人のうち、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	18	1.6%
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	351	30.8%
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	438	38.5%
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	38	3.3%
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	72	6.3%
6	進路は未定だから	81	7.1%
7	通学に時間がかかりそうだから	65	5.7%
8	学費が高いから	81	7.1%
9	卒業後の進路がイメージできないから	61	5.4%
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	1	0.1%
11	その他	7	0.6%

●問6で「合格した場合、併願大学の結果によって入学したい」と回答した119人

※回答率は、回答対象者119人のうち、各項目を挙げたものの割合

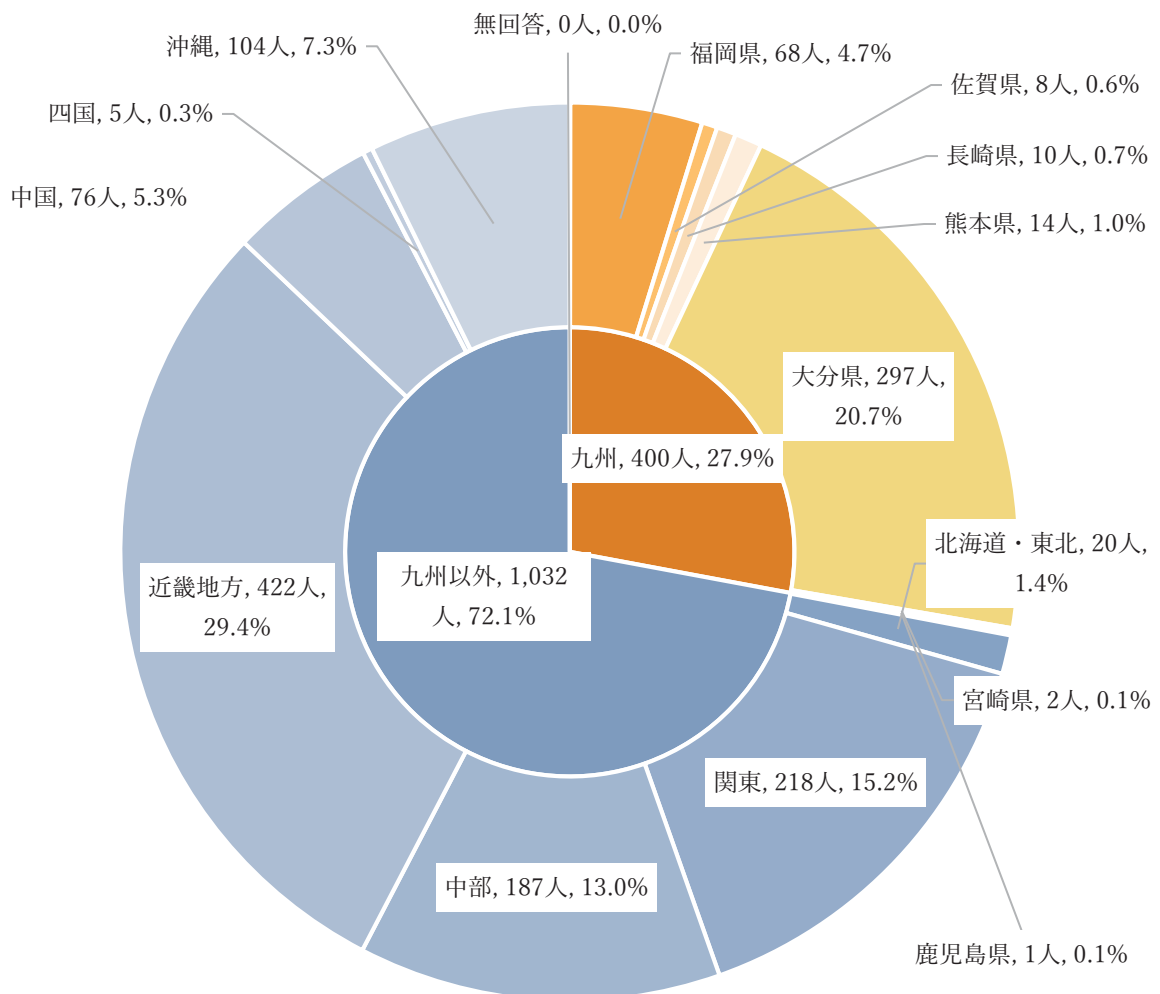
	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	9	7.6%
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	14	11.8%
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	25	21.0%
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	15	12.6%
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	22	18.5%
6	進路は未定だから	6	5.0%
7	通学に時間がかかりそうだから	11	9.2%
8	学費が高いから	11	9.2%
9	卒業後の進路がイメージできないから	5	4.2%
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	0	0.0%
11	その他	2	1.7%

3. 高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

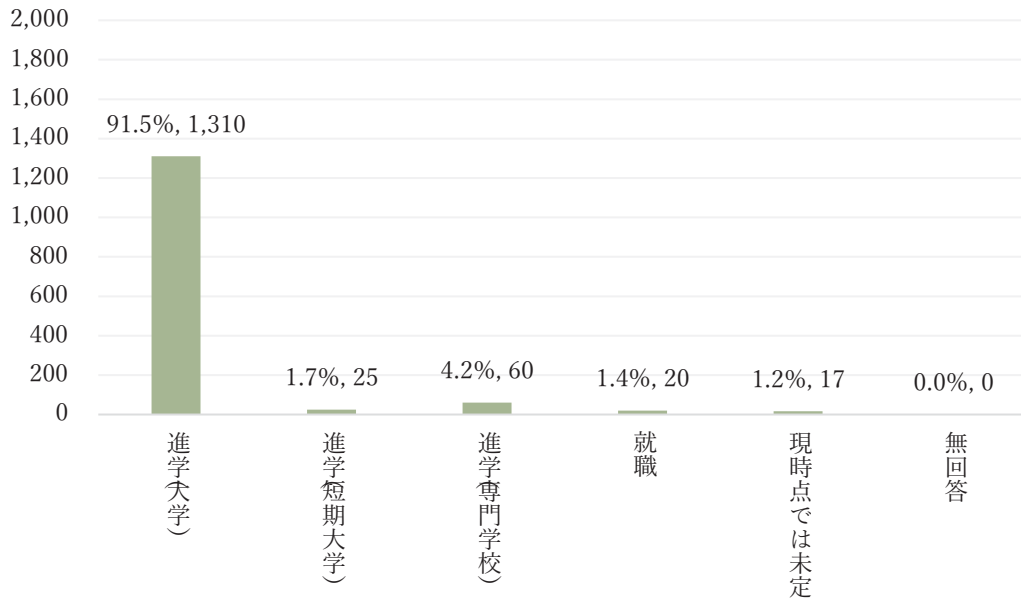
1) 回答者の 72.1%が九州地方以外に居住（追加調査 a-1）

回答者の居住する都道府県として、最も回答数が多かったのは「大分県」で 297（全体の 20.7%）であった。「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置予定地である大分県を含む九州地方から 400 人（同 27.9%）、九州地方以外から 1,032 人（同 72.1%）の回答を得た。



2) 回答者の91.5%が、高校卒業後に大学へ進学を希望する(追加調査 a-1)

回答者の希望する高校卒業後の進路について質問したところ、最も回答が多かったのが「進学(大学)」で1,310人(同91.5%)であった。次いで、「進学(専門学校)」が60人(4.2%)の順であった。



3) 227人が「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験したい」と回答(追加調査 a-1)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」の受験意向について質問した。「高校卒業後の進路：進学(大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で集計したところ、対象者676人のうち、227人(同33.6%)が当該学部を「受験したい」と回答した。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	回答数
進学(大学)	社会科学	受験したい	227人
		受験しない	448人
		無回答	1人
		計	676人
その他		受験したい	63人
		受験しない	690人
		無回答	3人
		計	756人
全体		受験したい	290人
		受験しない	1,138人
		無回答	4人
		計	1,432人

4) 140人が「サステナビリティ観光学部(仮称)」に強い入学意志を示す(追加調査 a-1)

「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」・「受験意向：受験したい」と答えた者227人の内、「入学したい」と回答した140人(同61.7%)が強い入学意志を示した。「併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのは、87人(同38.3%)であった。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	入学意向	回答数
進学(大学)	社会科学	受験したい	入学したい	140人
			併願次第	87人
			無回答	0人
			計	227人

5) 受験しない理由(追加調査 a-1)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」と回答した1,138人の内、「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」と回答した448人にその理由を尋ねた結果、以下となった。

選択項目 (回答対象者数)		全体 (1,138人)	内、「大学進学希望」 且つ「社会科学希望」 (448人)
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、 詳細を知った上で検討したいから	18	9
2	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	351	97
3	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	438	187
4	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	38	20
5	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	72	41
6	進路は未定だから	81	30
7	通学に時間がかかりそうだから	65	30
8	学費が高いから	81	27
9	卒業後の進路がイメージできないから	61	19
10	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	1	1
11	その他	7	3

b 学校法人立命館の附属高校生対象のアンケート調査（附属高校生アンケート調査）

既存調査 b

1. 附属高校生アンケート調査 概要

調査目的	2023（令和5）年4月設置予定の立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」（入学定員350名を予定）の学生確保の見通しを測定するために学校法人立命館の附属高校生を対象としたアンケート調査を実施した。
調査時期	2021年11月～2022年1月
調査対象者	2021年度時点の高校2年生（2023年度に大学進学時期を迎える者）
調査内容	<p>選択肢式で以下の内容（8問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答者の基本情報（居住地、希望進路、関心のある学問分野、所属） ■ 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部（仮称）」の希望、興味がある専門内容、入学意向等。
調査方法	<p>1. <紙方式>高校生アンケート用紙（必要部数）を送付。各校の教職員から調査対象者にアンケート用紙を配布の上、10分程度の回答時間を設け、その場で回収いただいた。</p> <p>2. <WEB方式>インターネット上にWEBアンケート回答サイトを作成の上、各校の教職員を通してURLをQRコードで案内。各自の保有端末で回答いただいた。</p>
有効回答件数	<p>854件（紙方式・WEB方式の合計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立命館高等学校（紙方式で実施） 302件 ・立命館宇治高等学校（WEB方式で実施） 192件 ・立命館慶祥高等学校（WEB方式で実施） 105件 ・立命館守山高等学校（WEB方式で実施） 255件

2. 附属高校生アンケート調査 全質問項目の回答結果

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」 設置構想についての附属高校生アンケート調査	854件

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	北海道	105	12.3%
2	滋賀県	173	20.3%
3	京都府	373	43.7%
4	大阪府	139	16.3%
5	兵庫県	21	2.5%
6	奈良県	36	4.2%
7	和歌山県	0	0.0%
8	その他	0	0.0%
	無回答	7	0.8%
合計		854	100.0%

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

選択項目		回答数	構成比
1	進学(大学)	829	97.1%
2	進学(短期大学)	0	0.0%
3	進学(専門学校)	3	0.4%
4	就職	3	0.4%
5	現時点では未定	16	1.9%
	無回答	3	0.4%
合計		854	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

※回答率は、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)	417	48.8%
2	人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	258	30.2%
3	理学(数学、物理学、化学、生物学など)	134	15.7%
4	工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)	143	16.7%
5	農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)	34	4.0%
6	医学・歯学・薬学	81	9.5%
7	保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)	57	6.7%
8	家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	80	9.4%
9	教育学・保育学	112	13.1%
10	芸術学(音楽、デザイン、美術など)	114	13.3%
11	その他	51	6.0%

問4 あなたの所属をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

※回答率は、各項目を挙げたものの割合

【立命館高等学校】=302名

	選択項目	回答数	回答率
1	CEコース	114	37.7%
2	SSコース	145	48.0%
3	GLコース	38	12.6%
4	MSコース(理系)	1	0.3%
5	MSコース(文系)	2	0.7%
	無回答	2	0.7%
合計		302	100.0%

【立命館宇治高等学校】=192名

	選択項目	回答数	回答率
1	IBコース	0	0.0%
2	IMコース	1	0.5%
3	IGコース	191	99.5%
	無回答	0	0.0%
合計		192	100.0%

【立命館慶祥高等学校】=105名

	選択項目	回答数	回答率
--	------	-----	-----

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

1	3年次立命館コース	96	91.4%
2	3年次難関大コース	8	7.6%
3	3年次SPコース	1	1.0%
	無回答	0	0.0%
合計		105	100.0%

【立命館守山高等学校】=255名

選択項目		回答数	回答率
1	アカデミアコース(理系)	70	27.5%
2	アカデミアコース(文系)	105	41.2%
3	グローバルコース(理系)	40	15.7%
4	グローバルコース(文系)	40	15.7%
5	フロンティアコース(理系)	0	0.0%
6	フロンティアコース(文系)	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		255	100.0%

問5 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」への学内進学を希望しますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	希望する	18	2.1%
2	希望しない	808	94.6%
	無回答	28	3.3%
合計		854	100.0%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

次の問6・問7は、問5で「希望する」を選択した高校生(18人)が回答対象

- 問6 立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)
- ※複数回答項目のため、回答数は延べ
- ※回答率は、回答対象者18人のうち、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	観光学	11	61.1%
2	観光産業	5	27.8%
3	ホスピタリティ産業	2	11.1%
4	環境学	6	33.3%
5	資源マネジメント	3	16.7%
6	国際開発	9	50.0%
7	地域づくり	5	27.8%
8	社会起業	2	11.1%
9	データサイエンスと情報システム	1	5.6%

- 問7 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」に進学が内定した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	内定した場合、入学したい	5	27.8%
2	内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい	12	66.7%
	無回答	1	5.6%
合計		18	100.0%

次の問8は、問5で「希望しない」を選択した 808 人、
または問7で「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」を選択した高校生(12 人)が回答対象

問8

あなたが問5で立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「希望しない」、または問7で「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答項目のため、回答数は延べ

●問5で「希望しない」と回答した 808 人

※回答率は、回答対象者 808 人のうち、各項目を挙げたものの割合

	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	24	3.0%
2	立命館アジア太平洋大学への進学を希望しているから	598	74.0%
3	立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから	11	1.4%
4	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	23	2.8%
5	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	27	3.3%
6	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	5	0.6%
7	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	6	0.7%
8	進路は未定だから	83	10.3%
9	通学に時間がかかりそうだから	53	6.6%
10	学費が高いから	30	3.7%
11	卒業後の進路がイメージできないから	55	6.8%
12	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	15	1.9%
13	その他	2	0.2%

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査 報告書

●問7で「内定した場合、併願大学の結果によって入学したい」と回答した 12 人

※回答率は、回答対象者 12 人のうち、各項目を挙げたものの割合

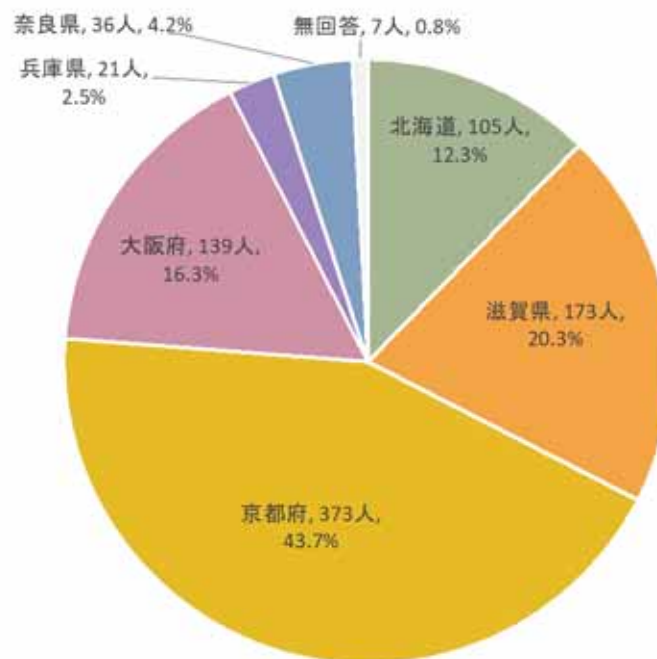
	選択項目	回答数	回答率
1	立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、 詳細を知った上で検討したいから	5	41.7%
2	立命館アジア太平洋大学への進学を希望しているから	4	33.3%
3	立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから	3	25.0%
4	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	0	0.0%
5	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	0	0.0%
6	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	2	16.7%
7	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	0	0.0%
8	進路は未定だから	2	16.7%
9	通学に時間がかかりそうだから	2	16.7%
10	学費が高いから	1	8.3%
11	卒業後の進路がイメージできないから	4	33.3%
12	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	1	8.3%
13	その他	0	0.0%

3. 附属高校生アンケート調査 集計結果のポイント・多重クロス集計分析

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも100.0%とは一致しない。

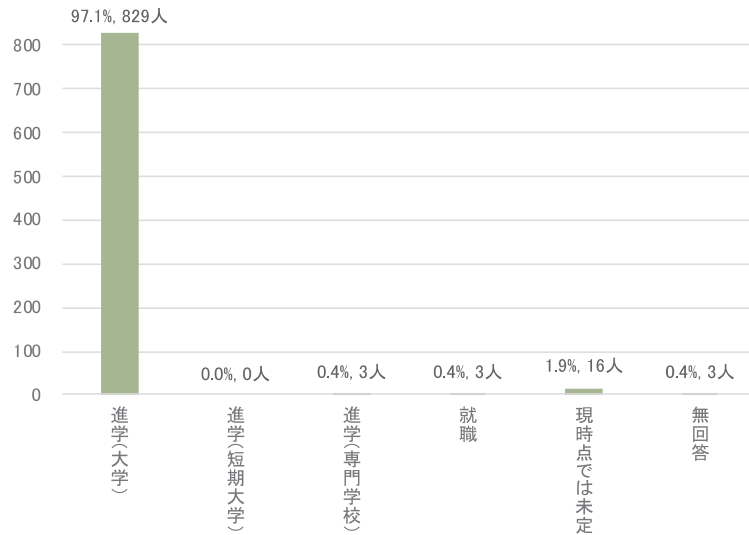
1) 回答者の43.7%が「京都府」に居住（既存調査b）

回答者の居住する都道府県として、最も回答数が多かったのは「京都府」で373人（全体の43.7%）であった。次いで、「滋賀県」が173人（同20.3%）、「大阪府」が139人（同16.3%）、「北海道」が105人（同12.3%）の順であった。



2) 回答者の97.1%が、高校卒業後に大学へ進学を希望する(既存調査 b)

回答者の希望する高校卒業後の進路について質問したところ、最も回答が多かったのが「進学(大学)」で829人(同97.1%)であった。次いで、「現時点では未定」が16人(同1.9%)、「進学(専門学校)」と「就職」が3人(同0.4%)の順であった。



3) 11人が、「サステナビリティ観光学部(仮称)」への学内進学を希望する(既存調査 b)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」への学内進学意向について質問した。「高校卒業後の進路：進学(大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で集計したところ、対象者408人のうち、11人(同14.6%)が当該学部への学内進学を「希望する」と回答した。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	学内進学意向	回答数
進学(大学)	社会科学	希望する	11人
		希望しない	384人
		無回答	13人
		計	408人
その他		希望する	7人
		希望しない	424人
		無回答	15人
		計	446人
全体		希望する	18人
		希望しない	808人
		無回答	28人
		計	854人

4) 2人が「サステナビリティ観光学部(仮称)」に強い入学意志を示す(既存調査b)

「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」・「学内進学意向：受験したい」と答えた者11人の内、「入学したい」と回答した2人(同18.2%)が強い入学意志を示した。「併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのは、8人(同72.7%)であった。

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	学内進学意向	入学意向	回答数
進学(大学)	社会科学	希望する	入学したい	2人
			併願次第	8人
			無回答	1人
			計	11人

5) 学内進学を希望しない理由 (既存調査 b)

「サステナビリティ観光学部(仮称)」への「学内進学を希望しない」と回答した808人の内、「高校卒業後の進路：進学(大学)」・「希望する学問分野：社会科学」と回答した384人にその理由を尋ねた結果、以下となった。

選択項目 (回答対象者数)		全体 (808人)	内、「大学進学希望」 且つ「社会科学希望」 (384人)
1	立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	24	12
2	立命館アジア太平洋大学への進学を希望しているから	598	298
3	立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから	11	9
4	国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	23	5
5	他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)	27	10
6	国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	5	2
7	他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)	6	3
8	進路は未定だから	83	36
9	通学に時間がかかりそうだから	53	28
10	学費が高いから	30	18
11	卒業後の進路がイメージできないから	55	26
12	新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから	15	5
13	その他	2	1

添 付 資 料

資料1 「サステナビリティ観光学部(仮称)」概要資料(全アンケート調査共通)

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

立命館アジア太平洋大学(APU) サステナビリティ観光学部

持続可能なグローバル社会の実現
グローバル・最先端・サステイナブルな観光

「APUで学んだ人たちが世界を変える」
2023年4月、このビジョン実現のため、
世界の課題に応えるため、
APUは新たな学部を設置する予定です。

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism / Department of Sustainability and Tourism

令和5年度／2023年4月開設予定
設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更になる場合があります

立命館アジア太平洋大学

立命館アジア太平洋大学(APU)には、約6,000人の学生が在籍しその半数は世界100か国から集まる留学生(国際学生)です。さまざまな国・地域から集った学生たちが、国や文化、宗教、政治、価値観等の違いを乗り越え、共に暮らし、世界が直面する複雑な課題の解決を目指し学んでいます。



APUサステナビリティ観光学部は、地球規模から地域レベルまで様々な課題に対応する以下の能力と意志を持った人材を育てます。

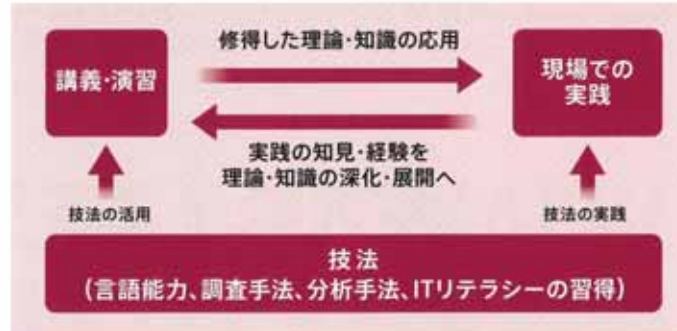
- ❶ 持続可能な社会と観光に関する専門知識
- ❷ 課題解決のための問題発見・分析・解決スキル・リテラシー
- ❸ 世界市民としての志向性と責任感



サステナビリティ観光学部の学びの特徴

理論と実践を
併せ持った人材を
育成するための
特徴的な学び方

全ての学生が、「講義・演習」
「スキル(調査分析技法)」
「現場での実践」を
組み合わせて学びます。



9つの専門領域から、学生自身が希望する
キャリア・修得したい知識・能力に応じて、
組み合わせて学んでいきます

- 1 観光学
- 2 観光産業
- 3 ホスピタリティ産業
- 4 環境学
- 5 資源マネジメント
- 6 国際開発
- 7 地域づくり
- 8 社会起業
- 9 データサイエンスと情報システム

卒業後の進路

[進路の例]

- ・ホテル・旅館、飲食などの観光業および卸売、小売などのサービス業
- ・循環型社会形成、地球温暖化防止、自然環境保全に関連する産業および一般企業・組織のCSRやESG部門
- ・まちづくり、地域開発に関する企業・団体
- ・国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- ・大学院進学、起業



入学定員 / 350名

学費 / 初年度納入金 : 1,500,000円

2年次以降 : 1,500,000円

学位 / 学士 (サステナビリティ観光学)

Bachelor of Sustainability and Tourism

ACCESS

立命館アジア太平洋大学 (APU) へのアクセス

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1



APU
別府



Oita Expressway 大分自動車道
 Beppu-wan SA 別府湾 SA
 JR Nippo Main Line JR 日豊本線
 National Beppu Hospital 国立別府病院
 Beppu Station 別府駅
 Beppu City Hall 別府市役所
 Beppu IC 別府 IC
 Beppu Plaza 別府広場
 To Oita Airport 大分空港方面
 To Oita city 大分市方面

・別府駅からバスで約40分
 ・亀川駅からバスで約15分







CONTACT

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

[問い合わせ先]

立命館アジア太平洋大学 企画課

0977-78-1183

公式サイトはこちら



資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙(紙方式のみ)



立命館アジア太平洋大学
「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査
(対象：2021年度現在、高校2年生の皆さん)

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市十文字原1-1)は2023(令和5)年度、「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称/以降、学部名のみ記載)」(入学定員350名)を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2023年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学科(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いたします。

※このアンケート調査は立命館アジア太平洋大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。



問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県
 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県
 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県
 香川県 徳島県 愛媛県 高知県
 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

- 進学(大学) 進学(短期大学) 進学(専門学校) 就職 現時点では未定

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)
 人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など) 理学(数学、物理学、化学、生物学など)
 工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など) 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)
 医学・歯学・薬学 保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)
 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など) 教育学・保育学
 芸術学(音楽、デザイン、美術など) その他



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問4以降は別紙・立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」リーフレットをご覧ください、お答えください。

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 受験したい ⇒ 以下の問5・問6および回答内容により問7にお答えください。
 受験しない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問4で「受験したい」と回答した方は、以下の問5・問6および回答内容により問7にお答えください。

問5 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

- 観光学 観光産業 ホスピタリティ産業 環境学 資源マネジメント
 国際開発 地域づくり 社会起業 データサイエンスと情報システム

問6 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい ⇒ 質問は以上となります。
 合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい ⇒ さらに以下の問7にお答えください。

問4で「受験しない」、問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって～」と回答した方は、以下の問7にお答えください。


問7 あなたが問4で立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」、または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)
 国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)
 進路は未定だから 通学に時間がかかりそうだから 学費が高いから
 卒業後の進路がイメージできないから 新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから
 その他


質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料3 設置構想についての高校生アンケート調査用紙 ※追加調査(紙方式)





高校名



立命館アジア太平洋大学
「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」
設置構想についての高校生アンケート調査
(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市「文字原1-1」)は2023(令和5)年度、「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称/以降、学部名のみ記載)」(入学定員350名)を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通じて、2023年度に大学進学時期を迎える現・高校3年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。
アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

正しい回答   誤った回答

記入例を参考にご回答ください。

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)


<input type="radio"/> 北海道	<input type="radio"/> 青森県	<input type="radio"/> 岩手県	<input type="radio"/> 宮城県	<input type="radio"/> 秋田県	<input type="radio"/> 山形県	<input type="radio"/> 福島県
<input type="radio"/> 茨城県	<input type="radio"/> 栃木県	<input type="radio"/> 群馬県	<input type="radio"/> 埼玉県	<input type="radio"/> 千葉県	<input type="radio"/> 東京都	<input type="radio"/> 神奈川県
<input type="radio"/> 新潟県	<input type="radio"/> 富山県	<input type="radio"/> 石川県	<input type="radio"/> 福井県	<input type="radio"/> 山梨県	<input type="radio"/> 長野県	
<input type="radio"/> 岐阜県	<input type="radio"/> 静岡県	<input type="radio"/> 愛知県	<input type="radio"/> 三重県			
<input type="radio"/> 滋賀県	<input type="radio"/> 京都府	<input type="radio"/> 大阪府	<input type="radio"/> 兵庫県	<input type="radio"/> 奈良県	<input type="radio"/> 和歌山県	
<input type="radio"/> 鳥取県	<input type="radio"/> 島根県	<input type="radio"/> 岡山県	<input type="radio"/> 広島県	<input type="radio"/> 山口県		
<input type="radio"/> 香川県	<input type="radio"/> 徳島県	<input type="radio"/> 愛媛県	<input type="radio"/> 高知県			
<input type="radio"/> 福岡県	<input type="radio"/> 佐賀県	<input type="radio"/> 長崎県	<input type="radio"/> 熊本県	<input type="radio"/> 大分県	<input type="radio"/> 宮崎県	<input type="radio"/> 鹿児島県 <input type="radio"/> 沖縄県

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

進学(大学)
 進学(短期大学)
 進学(専門学校)
 就職
 現時点では未定

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

<input type="radio"/> 社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)	<input type="radio"/> 理学(数学、物理学、化学、生物学など)
<input type="radio"/> 人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	<input type="radio"/> 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)
<input type="radio"/> 工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)	<input type="radio"/> 保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)
<input type="radio"/> 医学・歯学・薬学	<input type="radio"/> 教育学・保育学
<input type="radio"/> 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> 芸術学(音楽、デザイン、美術など)	



1

本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問4以降は別紙・立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」リーフレットをご覧ください、お答えください。

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 受験したい ⇒ 以下の問5・問6および回答内容により問7にお答えください。
 受験しない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問4で「受験したい」と回答した方は、以下の問5・問6および回答内容により問7にお答えください。

問5 立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

- 観光学 観光産業 ホスピタリティ産業 環境学 資源マネジメント
 国際開発 地域づくり 社会起業 データサイエンスと情報システム

問6 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい ⇒ 質問は以上となります。
 合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい ⇒ さらに以下の問7にお答えください。

問4で「受験しない」、問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって～」と回答した方は、以下の問7にお答えください。

問7 あなたが問4で立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」、または問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 国立大学進学を希望しているから(別分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)
 国立大学進学を希望しているから(同分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)
 進路は未定だから 通学に時間がかかりそうだから 学費が高いから
 卒業後の進路がイメージできないから 新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから
 その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料4 設置構想についての高校生アンケート調査用紙 ※追加調査(WEB方式)

2022/07/07 20:14 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査
(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

1ページ目 (全4ページ)

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市十文字原1-1)は2023(令和5)年度、「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称/以降、学部名のみ記載)」(入学定員350名)を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2023年度に大学進学時期を迎える現・高校3年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は立命館アジア太平洋大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

[次へ](#)

<https://form.nunl/apu-st2>

2022/07/07 20:15

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」設置構想に係る学生確保の見通し調査

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査

(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

2ページ目 (全4ページ)

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。必須

選択してください▼

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。必須

現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください

選択してください▼

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。必須

社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)

人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)

理学(数学、物理学、化学、生物学など)

工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)

農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)

医学・歯学・薬学

保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)

家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)

教育学・保育学

芸術学(音楽、デザイン、美術など)

その他

<https://form.nun/@apu-st2>

2022/07/07 20:15

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部 サステイナビリティ観光学科(仮称)」

立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部 サステイナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査

(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

3ページ目 (全4ページ)

問4以降は、立命館アジア太平洋大学「サステイナビリティ観光学部(仮称)」リーフレットをご覧ください、お答えください。

<https://form.run/@apu-st2>

※以下、資料1と同じ概要が表示。

2022/07/07 20:16 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査
(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

4ページ目 (全4ページ)

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いますか。必須

受験したい

受験しない

あなたの在籍する高等学校名をお答えください。必須

〇〇高等学校

私はロボットではありません

reCAPTCHA
プライバシーポリシー

ご協力いただきありがとうございます 戻る

<https://form.nun/@apu-st2>

「受験したい」「受験しない」の選択によって、異なる設問を表示

2022/07/7 20:16

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」

設置構想についての高校生アンケート調査

(対象：2022年度現在、高校3年生の皆さん)

4ページ目 (全4ページ)

問4 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を受験したいと思いませんか。必須

受験したい

受験しない

あなたが立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。必須

立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから

国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)

他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)

国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)

他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)

進路は未定だから

通学に時間がかかりそうだから

学費が高いから

卒業後の進路がイメージできないから

新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから

その他

あなたの在籍する高等学校名をお答えください。必須

私はロボットではありません

ません

hCAPTCHA

プライバシーポリシー

ご協力いただきありがとうございます

戻る

<https://form.nuvi@apu-st2>

資料5 設置構想についての附属高校生アンケート調査用紙(紙方式/立命館高等学校のみ)




立命館アジア太平洋大学
「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)」
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象：2021年度現在、立命館附属高校2年生の皆さん)

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市十文字原1-1)は2023(令和5)年度、「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称/以降、学部名のみ記載)」(入学定員350名)を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2023年度に大学進学時期を迎える高2生の皆さんから様々なご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたく考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は立命館アジア太平洋大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。    

問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

北海道 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県

その他

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク/専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください)

進学(大学) 進学(短期大学) 進学(専門学校) 就職 現時点では未定

問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

<input type="radio"/> 社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)	<input type="radio"/> 理学(数学、物理学、化学、生物学など)
<input type="radio"/> 人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)	<input type="radio"/> 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)
<input type="radio"/> 工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)	<input type="radio"/> 保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)
<input type="radio"/> 医学・歯学・薬学	<input type="radio"/> 教育学・保育学
<input type="radio"/> 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	<input type="radio"/> その他
<input type="radio"/> 芸術学(音楽、デザイン、美術など)	

問4 あなたの所属をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

【立命館高等学校】

CEコース SSコース GLコース MSコース(理系) MSコース(文系)



1

本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問5以降は別紙・立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」リーフレットをご覧ください。

問5 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」への学内進学を希望しますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 希望する ⇒ 以下の問6・問7および回答内容により問8にお答えください。
 希望しない ⇒ 以下の問8にお答えください。

問5で「希望する」と回答した方は、以下の問6・問7および回答内容により問8にお答えください。

問6 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

- 観光学 観光産業 ホスピタリティ産業 環境学 資源マネジメント
 国際開発 地域づくり 社会起業 データサイエンスと情報システム

問7 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に進学が内定した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 内定した場合、入学したい ⇒ 質問は以上となります。
 内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい ⇒ さらに以下の問8にお答えください。

問5で「希望しない」、問7で「内定した場合、併願大学等の結果によって～」と回答した方は、以下の問8にお答えください。

問8 あなたが問5で立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「希望しない」、または問7で「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 立命館大学への進学を希望しているから 立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから
 国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)
 国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部) 他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)
 進路は未定だから 通学に時間がかかりそうだから 学費が高いから
 卒業後の進路がイメージできないから 新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから
 その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料6 設置構想についての附属高校生アンケート調査用紙(WEB方式/立命館宇治高等学校の場合)

立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象: 2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

立命館アジア太平洋大学(大分県別府市十文字原1-1)は2023(令和5)年度、「サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称/以降、学部名のみ記載)」(入学定員350名)を設置構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、2023年度に大学進学時期を迎える高2生の皆さんから様々なご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いたします。
※本アンケートは立命館アジア太平洋大学より委託された第三者機関の株式会社高等教育総合研究所が実施しています。
※一人につき、回答は一回のみとなります。

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

1/7 ページ

次へ フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

[編集権限をリクエスト](#)

立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象: 2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須


問1 あなたがお住まいの都道府県をお答えください。*

- 北海道
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県
- その他: _____

問2 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)*

例: 専門職大学は大学、専門職短期大学は短期大学としてお答えください

- 進学(大学)
- 進学(短期大学)
- 進学(専門学校)
- 就職
- 現時点では未定



問3 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)*

- 社会科学(社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学など)
- 人文科学(文学、史学、哲学、心理学、外国語学など)
- 理学(数学、物理学、化学、生物学など)
- 工学(機械工学、電気電子工学、応用化学、建築学など)
- 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)
- 医学・歯学・薬学
- 保健衛生学(看護学、リハビリ医学、歯科衛生学など)
- 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)
- 教育学・保育学
- 芸術学(音楽、デザイン、美術など)
- その他

2/7 ページ

戻る 次へ フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。 [不正行為の報告](#)

Google フォーム



立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象：2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細
***必須**

問4 あなたの所属をお答えください(あてはまるもの1つにチェック)

立命館宇治高等学校*

選択

3/7 ページ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム



※以下、資料1と同じ概要が表示。

立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象: 2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問5 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」への学内進学を希望しますか。*

希望する

希望しない

5/7 ページ

戻る 次へ フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは株式会社高等教育総合研究所 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム

立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象：2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問6 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」の9つの専門内容のなかで、興味があるものを3つまでお答えください。*

- 観光学
- 観光産業
- ホスピタリティ産業
- 環境学
- 資源マネジメント
- 国際開発
- 地域づくり
- 社会起業
- データサイエンスと情報システム

問7 あなたは立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に進学が内定した場合、入学したいと思いますか。*

- 内定した場合、入学したい
- 内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい

6/7 ページ

戻る 次へ フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

立命館アジア太平洋大学 2023年度設置構想中

サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科(仮称)
設置構想についての附属高校生アンケート調査
(対象: 2021年度現在 立命館附属高校2年生の皆さん)

設置構想についての附属高校生アンケート調査

Google にログインすると作業内容を保存できます。詳細

*必須

問8 あなたが立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」を「希望しない」、または「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。*

- 立命館アジア太平洋大学「サステナビリティ観光学部(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 立命館大学への進学を希望しているから
- 立命館アジア太平洋大学の他学部への進学を希望しているから
- 国公立大学進学を希望しているから(別分野の学部)
- 他の私立大学進学を希望しているから(別分野の学部)
- 国公立大学進学を希望しているから(同分野の学部)
- 他の私立大学進学を希望しているから(同分野の学部)
- 進路は未定だから
- 通学に時間がかかりそうだから
- 学費が高いから
- 卒業後の進路がイメージできないから
- 新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから
- その他: _____

7/7ページ

戻る 送信 フォームをクリア

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

[資料 9] 立命館アジア太平洋大学
海外事務所・現地協力者・エージェントを対象としたアンケート調査報告書

1) 調査概要

- 調査対象 : 本学の海外事務所 6 カ国（中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム）の職員、海外で本学の学生募集活動を担う現地協力者、海外で学生募集活動を生業とするエージェント関係者
- 調査期間 2021（令和 3）年 12 月～2022（令和 4）年 1 月
- 回答 33 人
- 調査方法 サステナビリティ観光学部に関する詳細な説明資料を提示した上で Web にて実施
- 調査時に明示した事項 開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所
- 使用言語 日本語、英語
* 質問項目は日英で提示し、回答者が言語を選択して回答。
本報告書は英語での回答は仮訳して集計を行った。
- 質問項目
 - 問 1：あなたの属性をお答えください。
 - 問 2：あなたの氏名をお答えください。
 - 問 3：あなたの国や、学生募集地域では、各学部概要に示す学部が必要であると思いますか。
 - 問 4：新学部概要をみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか
 - 問 5：問 4 でそのように回答された理由について教えてください。
 - 問 6：新学部の概要をみて、現在ご担当のエリア/国の受験生において設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。
 - 問 7：新学部の設置によって、現在ご担当のエリア/国の受験生において、アジア太平洋学部・国際経営学部の志願者数に影響があると思いますか。
 - 問 8：問 7 でそのように回答された理由について教えてください。
 - 問 9：現在ご担当のエリア/国の受験生に APU を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外にどのような工夫が必要と思われますか。
 - 問 10：現在ご担当のエリア/国の受験生に新学部を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外でどのような工

夫が必要と思われませんか。

問 11：現在ご担当のエリア/国の受験生における with/after コロナでの受験動向全般について特徴的な動きや傾向があれば教えてください。

問 12：その他、自由にご意見をお寄せください。

2) 調査結果のまとめ

◆回答を得た海外事務所・現地協力者・エージェントの基本情報

今回、「海外事務所・現地協力者・エージェント対象調査」において、事務所を設置する6カ国（中国・韓国・台湾・タイ・インドネシア・ベトナム）を含む20の国・地域の居住者33人から回答を得た。33人の内訳は、海外事務所職員18人、エージェント12人、その他3人である。対象者に、事前に既設学部を含む3学部の編成について資料の提示や説明を行い、教学内容や特色について一定の理解を深めた上で質疑応答を経てアンケート調査を実施した。

[20の国・地域の内訳（順不同）]

バングラデシュ	カンボジア	中国
インドネシア	インド	韓国
日本	マレーシア	パキスタン
フィリピン	ロシア	スリランカ
タイ	アメリカ	ウズベキスタン
モーリシャス	ミャンマー	ベトナム
香港	台湾	

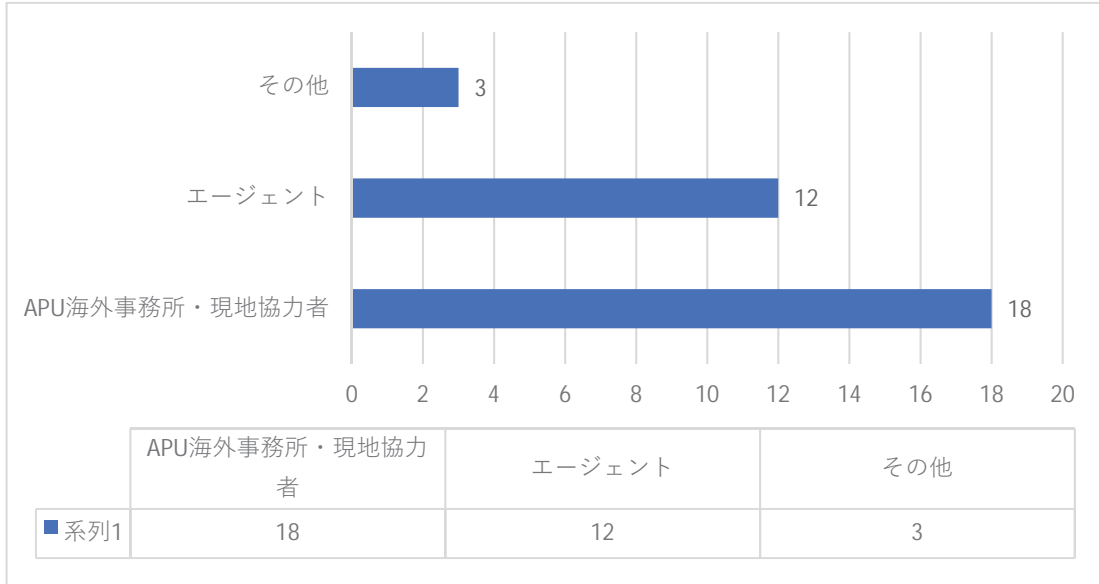
◆新学部の必要性×受験生に新学部を薦めたいか

新学部の必要性について「必要だと思う」「どちらかというとも必要と思う」と回答し、かつ受験生に新学部を「ぜひ薦めたい」「ある程度薦めたい」と回答した回答者は下表のとおり17カ国31人にのぼった。その理由は、本学部の教学内容が社会から必要とされているという意見が大半を占め、その他には学部が増えることによって生徒の選択肢が増えることを評価する意見であった。本学部は先進国や途上国を問わず幅広い国・地域から必要とされている教学内容であることがわかる。

	ぜひ薦めたい	ある程度薦めたい	どちらともいえない	合計
必要だと思う	13	11		24
どちらかというとも必要と思う	4	3		7
どちらかと言うとも必要ないと思う			1	1
必要ではないと思う		1		

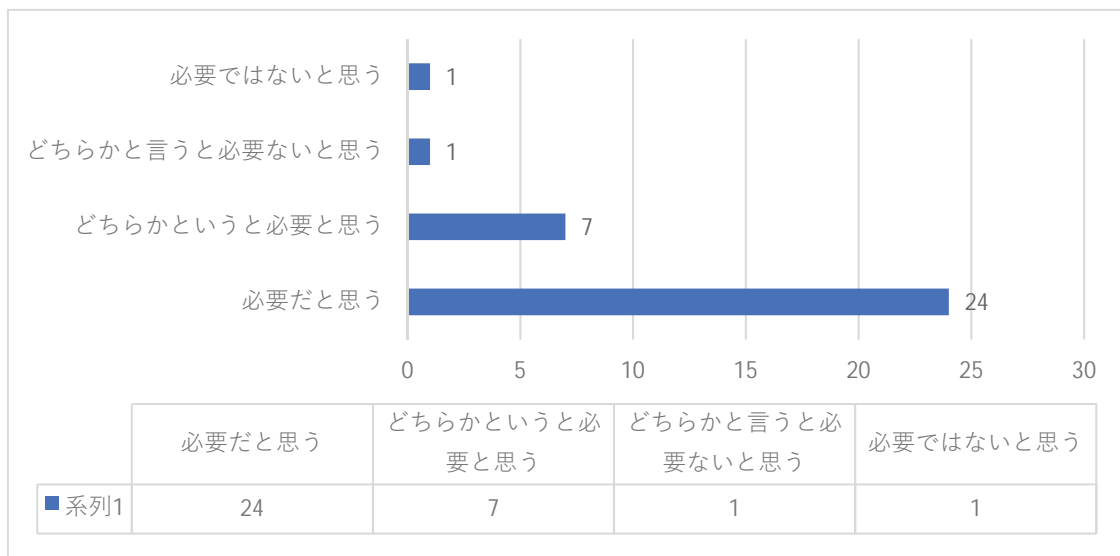
3) 集計結果

問1. あなたの属性をお答えください。

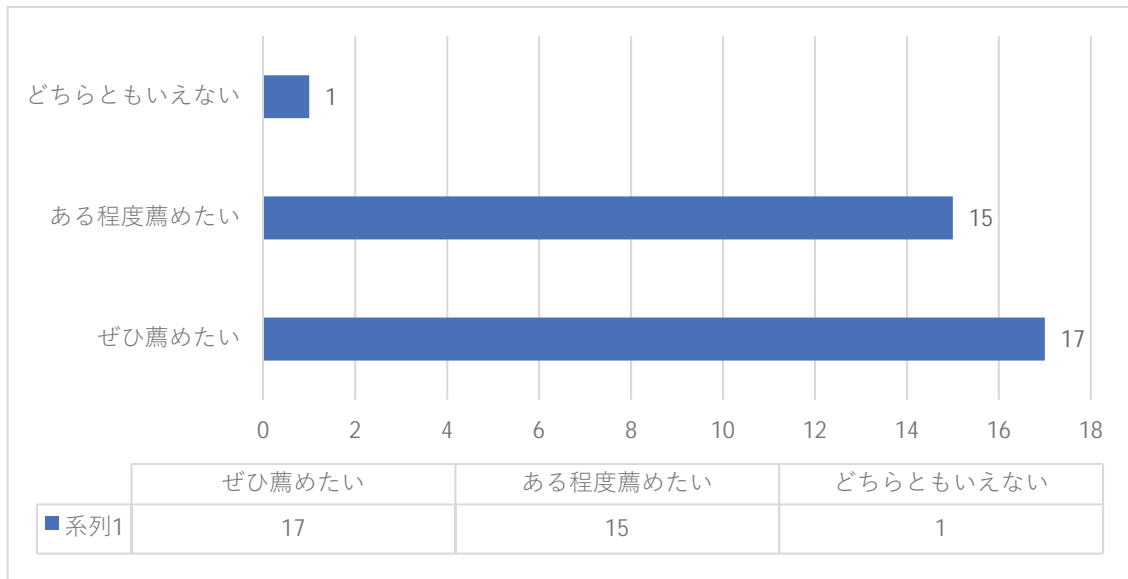


問2. あなたの氏名をお答えください。 ※個人情報のため報告書への記載はしない

問3. あなたの国や、学生募集地域では、各学部概要に示す学問が必要であると思いますか？ (①アジア太平洋学部 ②国際経営学部 ③サステイナビリティ観光学部それぞれについて質問) ※③のサステイナビリティ観光学部のみ記載



問4. 新学部概要をみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか



問5. 問4でそのように回答された理由について教えてください。(一部抜粋)

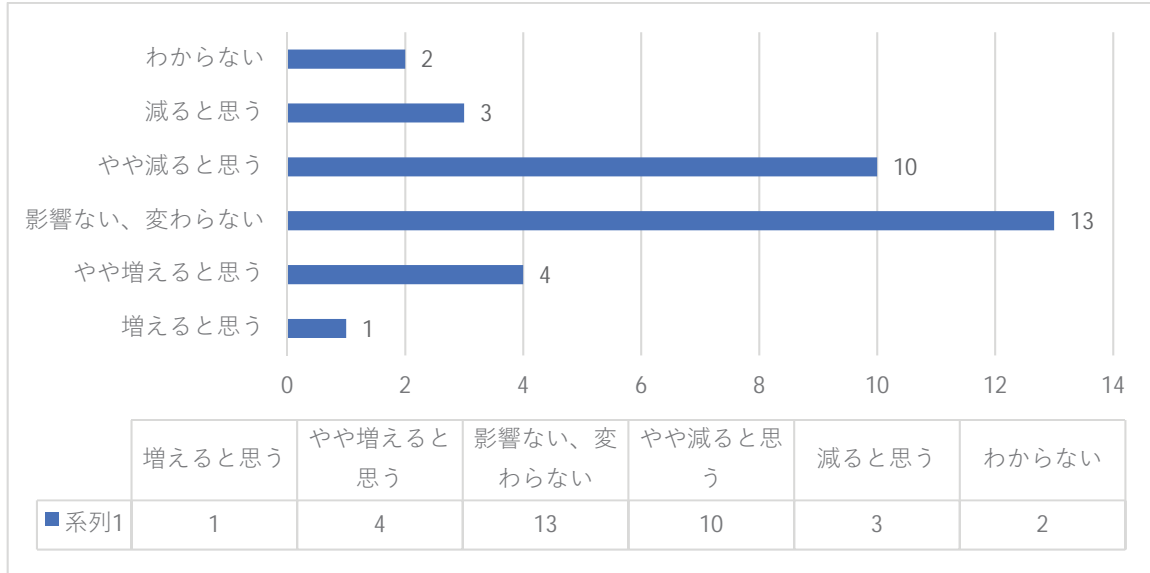
- ・現在、そして未来において必要不可欠な学問である
- ・担当地域では、観光は未組織のセクターであり、持続可能性が緊急の課題である
- ・担当地域は発展途上国のため、経済やビジネスに関する事柄に重点を置いていません。観光は現在優先される分野ではないから

問6. 新学部の概要をみて、現在ご担当のエリア/国の受験生において設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。(一部抜粋)

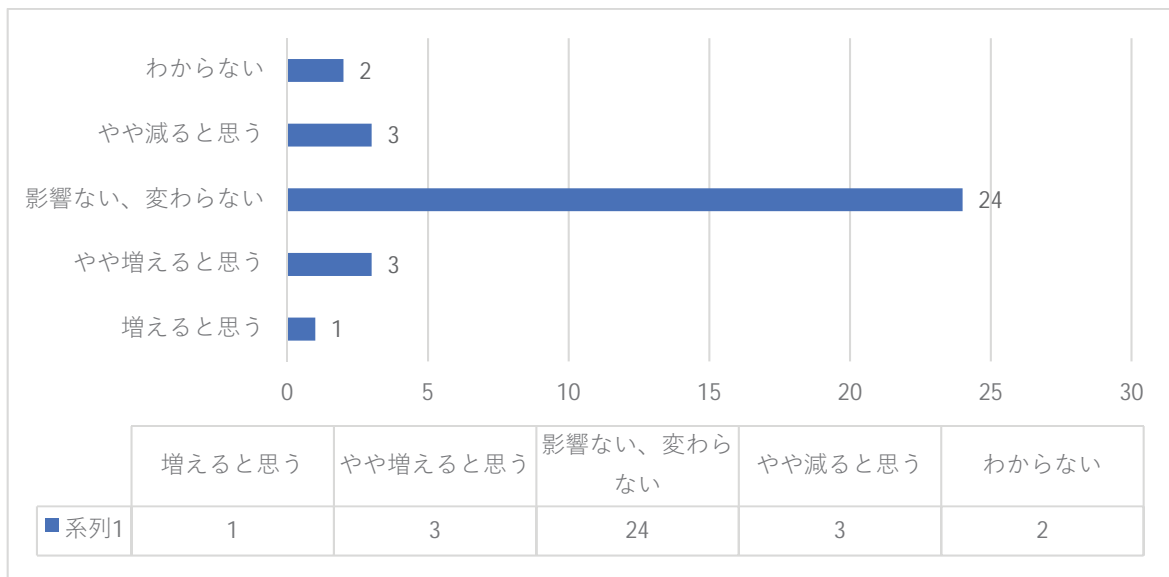
- ・今の時代に不可欠な ICT から、観光産業、国際開発まで幅広く学べる点
- ・観光と同時にサステナビリティを重視している点
- ・観光に加えて皆の共通認識にもなっている SDG s に関する学びができる点

問8. 新学部の設置によって、現在ご担当のエリア/国の受験生において、アジア太平洋学部・国際経営学部の志願者数に影響があると思いますか。

(アジア太平洋学部)



(国際経営学部)



問9. 問7でそのように回答された理由について教えてください。(一部抜粋)

- ・(担当国では) 環境や観光を選択する生徒が多いため影響は少ないと思われる
- ・サステナビリティと観光に興味を持つ生徒が新学部を選択することで最初は出願数が減少する可能性があるが、時間が経てば全体的に増加すると思われる
- ・経営学を学びたい生徒が新学部を志望することは考えにくいいため

問10. 現在ご担当のエリア/国の受験生に APU を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外にどのような工夫が必要と思われますか。(一部抜粋)

- ・国内での他大学との提携、海外大学とのダブルディグリー制度などを増やす
- ・日本での学修や APU に対して早い段階で生徒に意識してもらうこと
- ・教学新棟や国際寮の新設以外の学修環境や施設設備の向上

問11. 現在ご担当のエリア/国の受験生に 新学部を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外にどのような工夫が必要と思われますか。(一部抜粋)

- ・新学部教員による模擬講義の実施や科目選択の自由度を高めること
- ・大学全体でのサステイナブルな取り組みの推進
- ・アジア太平洋学部との明確な差別化

問12. 現在ご担当のエリア/国の受験生における with/after コロナでの受験動向全般について特徴的な動きや傾向があれば教えてください。(一部抜粋)

- ・ COVID-19 発生以降、国の政治情勢が混乱し経済状態が悪化した。若者はより良い機会を求めて海外に留学する「海外移住」のトレンドが高まっている (タイ)
- ・保護者は、COVID-19 の感染防止の対策だけではなく、家族から離れて暮らしているため感染した場合の国や大学の対応に関心がある (スリランカ)
- ・生徒は、医療制度が整っていて就職に困らない国を選ぶ傾向にある (インド)

問13. その他、自由にご意見をお寄せください。(一部抜粋)

- ・大学進学に関して競争が激化しているため、APU はより迅速な対応が求められている
- ・ COVID-19 が収束したら、日本への留学者は増えると思う
- ・生徒に新生 APU を強くアピールし、印象づける必要がある

海外事務所・現地協力者・エージェントを対象としたアンケート調査：質問項目

質問内容/Questions
Q1. What is your affiliation? (single-select) APU overseas office APU overseas representatives Student recruitment agency Other: _____
Q2. Please tell us your name:
Q3. With respect to your country or region, do you think that the disciplines shown in each college outline are needed? (single-select) 1 : Necessary 2 : Rather necessary 3 : Not very necessary 4 : Not necessary 5 : Neither/I don't know 6 : Other
Q4. How likely are you to recommend such a new college to students? (single-select) 1: Highly likely 2: Would recommend to some extent 3: Rather not recommend 4: Would not recommend 5: None of the above/I don't know 6: Other: _____
Q5. Please share a reason for your above answer:
Q6. Looking at the overview of the new college, what do you think is its most attractive feature for students from your region/country?
Q7. How do you think establishing a new college will affect the application trends of the already existing colleges (APM and APS)? (single-select) 1: Increase 2: Increase slightly

<p>3: No change 4: Decrease slightly 5: Decrease 6: I don't know 7: Other: _____</p>
<p>Q8. Please share a reason for your above answer:</p>
<p>Q9. Apart from location and scholarships, what do you think APU needs to do in the future to attract students from your current area and country to apply to APU?</p>
<p>Q10. Apart from location and scholarships, what do you think APU needs to do to attract students from your current area and country to apply for the new college?</p>
<p>Q11. Please tell us about any during/post-pandemic application trends in your region/country:</p>
<p>Q12. Please feel free to write any further comments below:</p>

質問内容/Questions
<p>●あなたの属性をお答えください。 務所職員・現地協力者・エージェント関係者・その他 ()</p>
<p>●あなたの氏名をお答えください。</p>
<p>●あなたの国や、学生募集地域では、各学部概要に示す学問が必要であると思いますか？ ① APS ② APM ③新学部それぞれに以下の選択肢を設定 1：必要だと思う 2：どちらかという必要と思う 3：どちらかと言う必要ないと思う 4：必要ではないと思う 5：どちらともいえない・わからない 6：その他</p>
<p>●新学部概要をみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか 1：ぜひ薦めたい 2：ある程度薦めたい 3：どちらともいえない 4：あまり薦めない 5：薦めない 6：その他</p>
<p>●問4でそのように回答された理由について教えてください。 .</p>
<p>●新学部の概要をみて、現在ご担当のエリア/国の受験生において設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。</p>
<p>●新学部の設置によって、現在ご担当のエリア/国の受験生において、アジア太平洋学部・国際経営学部の志願者数に影響があると思いますか。 (APS) 1：増えると思う 2：やや増えると思う 3：影響ない/変わらない 4：やや減ると思う 5：減ると思う 6：わからない 7：その他 ()</p>

<p>(APM)</p> <p>1：増えると思う</p> <p>2：やや増えると思う</p> <p>3：影響ない/変わらない</p> <p>4：やや減ると思う</p> <p>5：減ると思う</p> <p>6：わからない</p> <p>7：その他 ()</p>
<p>問7でそのように回答された理由について教えてください。</p>
<p>●現在ご担当のエリア/国の受験生に APU を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外にどのような工夫が必要と思われますか。</p>
<p>●現在ご担当のエリア/国の受験生に新学部を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外でどのような工夫が必要と思われますか。</p>
<p>●現在ご担当のエリア/国の受験生における with/after コロナでの受験動向全般について特徴的な動きや傾向があれば教えてください。</p>
<p>●その他、自由にご意見をお寄せください。</p>

Purpose for establishing the new college

World-level and community-level challenges

- Sustainability issues for human society, such as resource depletion, environmental pollution, and climate change
- Social changes due to the growth of the tourism industry, environmental and social burdens due to over tourism, etc.
- Regional revitalization in globalization

To respond to social conditions

- Education and research on sustainable society
- Education and research on sustainable tourism
- Theory and practice to form a sustainable community with the three pillars of environment, society, and economy
- Building a society that can meet the needs of future generations and those living in the present at the same time is a need for young people and is a "realistic goal."

Taking advantage of APU's strengths, responding as a new college

Taking advantage of APU's features, including achievements in education and research in environmental studies, development studies, tourism studies, etc. the location of Beppu, and students from 95 countries/regions, APU will respond to social demands by developing a new college

*Planned for April 2023. °

Responding to social conditions as well as academic reforms to strengthen fields where APU's strengths can be utilized.

38

New College Concept

Mission

Our college adheres to APU's core values of freedom, peace, humanity and international understanding towards shaping the future of the Asia Pacific region. Our faculty and students form the **community of scholars-practitioners**, who employ scholarly knowledge and innovative research to solve contemporary issues and global challenges in sustainable development and tourism.

Human Resource Development Goals

The purposes of the College of Sustainability and Tourism is to develop human resources who can **cope with various challenges** and act responsibly as a global citizen by gaining a **cross-disciplinary understanding of society and regions, acquiring basic and specialized knowledge on the sustainable society and tourism**, and learning logical and critical thinking, qualitative and quantitative analysis, problem solving, and communication and collaboration in a cross-cultural environment through curriculum based on sociology in **collaboration with various social actors** both on and off campus.

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. °



40

College of Sustainability and Tourism

*Planned for April 2023. Since the plan is underway, it is subject to change. The college name is tentative. °

37

Name

サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

Degree

学士 (サステイナビリティ観光学)
Bachelor of Sustainability and Tourism

Intake
Capacity 350

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. The installation plan is subject to change. The name of the faculty is tentative. °

39

New College Overview

Teaching Content Specialized subject group of social sciences

With 9 concentrations, curriculum that corresponds to the careers that students want to pursue and the knowledge and skills they want to acquire

Concentration	Contents
環境学 Environmental Studies	Scientific fundamentals such as nature, society, economy, and education
資源マネジメント Resource Management	Focuses on a recycling-oriented society, energy, and climate change
国際開発 International Development	Top level learning of international development available in Japan, with sustainable development covered alongside with environment.
観光学 Tourism Studies	Fundamental tourism related to the economy and society as well as history and culture
観光産業 Tourism Industry Operations	Tourism industry analysis, new product creation, and marketing
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	Focuses on hotels and resorts
地域づくり Regional Development	Sustainable development and tourist area design
社会起業 Social Entrepreneurship	Social entrepreneurship and project management
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICT and its applications

Teaching Methods Evolving from lecture-based education

- Developing Academic-Practitioners (Scholar-Practitioners) equipped with an understanding of both theory and practice
- All students will engage their studies through a combination of lectures and seminars, practice in the field, and the acquisition of skills.



System course, skill requirement, small class

Category	Point of View
Liberal Arts	To acquire the knowledge and methodology that are the basis of the specialty, and to provide subjects that enable the acquisition of a wide range of viewpoints, ways of thinking and knowledge necessary for the human resources development that this university is aiming for.
Common Education Subjects	As subjects related to this college, Introductions to Sustainable Development, Tourism, Sociology, and Statistics for Social Science will be assigned as compulsory subjects.
Language	Japanese basis students are assigned English and English basis students are assigned Japanese. The subjects and credits required differ depending on the level of the students at the time of entrance. In addition to compulsory subjects, higher-level subjects will be allocated as elective subjects.
Academic Skills	The subjects of academic skills necessary for studying this department will be allocated. Introduction to Research Methods and Critical Reading / II are placed as required subjects, and Qualitative Research Methodology is placed as an elective subject.
Seminar, Final Results	Subjects for three-year and four-year seminars, and subjects for achieving final results are allocated. The major Seminars are automatically registered. The Final Result will be a graduation project or a capstone.
Off-Campus Program	Courses including practical training outside the school. Students have to complete at least 1 subject with 2 credits.
Major Subjects	Assign subjects in areas of importance as a means to solve problems common to both tourism and sustainable society.
Common	Introduce courses that teach cutting-edge research in the fields of tourism and sustainable society.
Tourism	Tourism Industry Operations Major subjects in the field of tourism are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.
Sustainable Society	Environmental Studies Resource Management International Development Major subjects in the field of sustainable society are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.

Teaching Method Off-Campus Study

Three types of off-campus studies are available, “field study”, “specialized internship”, and “specialized training” depending on the purpose and period. Students studying in the new faculty are required to do one of these.

Examples of Field Studies

- Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (Italy, Spain)
- Roles and activities of international organizations (Switzerland, France, Tokyo)
- Sustainable Regional Value Creation: Survey in Iida City, Nagano Prefecture (Nagano Prefecture)

Collaborations with institutions and companies

Performance-based (planned to be further developed in the future)

- International Organizations (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAO, etc.)
- Corporate collaboration (InterContinental Hotel, Suginoi Hotel, Japan Airlines, All Nippon Airways, Oita Godo Shinbun, Oita Bank, etc.)
- Fieldwork in Japan and overseas (Shanghai, Seoul, Stockholm, Canada, Vancouver, Oita/Beppu, National East World Agricultural Heritage, Kitakyushu, Arita Town, Saga Prefecture, Aso Kuju National Park, Ministry of the Environment, etc.)



Possible career paths

- CSR and ESG divisions from industries, general companies, and organizations related to forming a recycling-oriented society, preventing global warming, and conserving natural environment
- Tourist businesses (i.e. hotels, inns, and restaurants), and service businesses (i.e. wholesalers and retailers)
- Companies and organizations involved in community and regional development
- International, public, and non-governmental organizations
- Starting a business after going to graduate school

学生確保(資料)

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept.⁴⁵

Planned Schedule

October 2021	MEXT procedure (Consultation for new college)
↓	
Late March 2022	MEXT procedure (Receive Approval to change school rules related to capacity)
Late April 2022 establishment)	MEXT procedure (Notification of college)
End of June 2022	Receive MEXT results
April 2023	College of Sustainability and Tourism

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept.⁴⁶





新学部開設の趣旨

世界レベルやコミュニティレベルの課題

- 資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- 観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- グローバリゼーションの中の地域再生

社会のニーズ

- 持続可能な社会に関する教育・研究
- 持続可能な観光に関する教育・研究
- 環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な地域社会を形成する理論と実践
- 将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは若者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かして、新学部として対応

これまで培った環境学、開発学、観光学等の教育研究実績、別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

38

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む**学問的実務家** (Scholar-practitioner) のコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよび**キャンパス内外**における様々な社会と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な**分析・問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身に付けることで、様々な**社会課題に対処**でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

*2023年4月設置構想中。



新学部の概要

学部・学科名称
サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

学位名称
学士（サステイナビリティ観光学）
Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

39

カリキュラム設計－系統履修、スキル必修、小人数クラス

科目区分	
共通教育科目	<p>日本語教育科目</p> <p>言語教育科目</p> <p>アカデミック・スキル科目</p> <p>演習・最終成果科目</p> <p>コアキヤンパス・プログラム科目</p> <p>学部共通科目</p> <p>観光学分野科目</p> <p>持続可能な社会分野科目</p>
専門科目	<p>地域づくり</p> <p>社会起業</p> <p>観光学</p> <p>観光学</p> <p>観光学</p> <p>ホスピタリティ産業</p> <p>観光学</p> <p>国際開発</p>

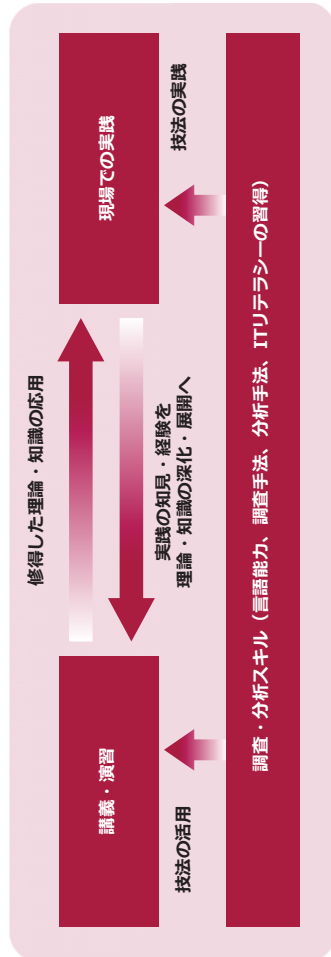
9つの専門領域から、学生自身が希望するキャリア・修得したい知識・能力に応じて、組み合わせさせて学ぶ

教育内容－文理融合の専門科目群

科目群 (コンセンストレーション)	内容
環境学 Environmental Studies	自然、社会、経済、教育など、学術基礎
資源マネジメント Resource Management	循環型社会、エネルギー・気候変動などを中心
国際開発 International Development	学部教育では国内でもトップレベルの国際開発が学べる環境と組み合わせることで持続可能な開発をカバー
観光学 Tourism Studies	経済、社会、歴史、文化などに関係する観光の基礎
観光産業 Tourism Industry Operations	観光産業の分析、新製品創出、マーケティング
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	ホテルやリゾートにフォーカス
地域づくり Regional Development	観光地を中心とした地域の持続可能な開発・デザイン
社会起業 Social Entrepreneurship	社会起業、プロジェクトマネジメント
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICTとその応用

教育方法－特徴的な学び方

- 「理論」と「実践」を併せ持つ「Scholar-Practitioner」の育成
- 教育手法：すべての学生が、「講義・演習」「現場での実践」「調査・分析スキル」を組み合わせて学ぶ



*2023年4月設置構想中。

教育方法－学外での学び Off-Campus Study

目的や期間に応じて、「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」「専門実習(プラクティカム)」という3種類の学外学修を用意。新学部で学ぶ学生は、この内のいずれかを必修。

フィールドスタディの事例

- ・ Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (実習地: イタリア、スペイン)
- ・ 「国際機関の役割と活動」 (実習地: スイス、フランス、東京)
- ・ 「持続可能な地域の価値づくり: 長野県飯田市における調査」 (実習地: 長野県)

機関・企業との連携事例・活動事例 ※実績ベース (今後さらに開拓予定)

- ・ 国際機関 (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAOなど)
- ・ 企業連携 (インターコンチネンタルホテル、杉乃井ホテル、日本航空、全日空、大分合同新聞社、大分銀行など)
- ・ 国内外のフィールドワーク (上海、ソウル、ストックホルム、カナダ、バンクーバー、大分・別府、国東世界農業遺産、北九州、佐賀県有田町、阿蘇くじゅう国立公園・環境省など)

*2023年4月設置構想中。



想定する進路・就職

- 環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- 観光産業やサービス業
- まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- 国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- 大学院進学、社会起業

学生確保(資料)

*2023年4月設置構想中。⁴⁵

今後のスケジュール

2021年10月	文部科学省手続き (学部設置 事前相談)
↓ 今後	
2022年3月下旬	文部科学省手続き (収容定員に係る学則変更の認可申請) < 予定 >
2022年4月下旬	文部科学省手続き (学部設置 届出) < 予定 >
2022年6月末	文部科学省手続き結果判明 < 予定 >
2023年4月	サステイナビリティ観光学部 設置 < 予定 >

*2023年4月設置構想中。⁴⁶



[資料10 立命館アジア太平洋大学 国際学生の入学経路の推移]

< 本学における国際学生の入学経路の定義 >

- ①海外事務所経由：海外事務所を配置する国で本学の入試を受験、もしくは受験生の居住地が海外事務所配置国
- ②エージェント経由：受験生が願書でエージェント経由であると申告したもの
- ③個人出願：前述の①と②以外

[件数]	※年は入試年度					
	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	総計
海外事務所経由	820	973	948	856	717	4,314
エージェント経由	147	169	162	125	108	711
個人出願	312	332	385	441	369	1,839
総計	1,279	1,474	1,495	1,422	1,195	6,864

[各入学経路における割合] (小数点二位を四捨五入)

	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和1)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	総計
海外事務所経由 (A)	64.1%	66.0%	63.4%	60.2%	60.0%	62.8%
エージェント経由 (B)	11.5%	11.5%	10.8%	8.8%	9.0%	10.4%
個人出願	24.4%	22.5%	25.8%	31.0%	30.9%	26.8%
(A) + (B)	75.6%	77.5%	74.2%	69.0%	69.0%	73.2%

[資料 11] 立命館アジア太平洋大学
海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査報告書
既存調査d

1) 調査概要

- 調査対象： 過去に本学へ問い合わせ等を行い氏名、メールアドレス、居住地など何らかの個人情報を得ている海外の高校・高校既卒者
- 調査期間 2021（令和3）年11月～2022（令和4）年1月
- 回答 40人
- 調査方法 海外の高校生、高校既卒者へサステナビリティ観光学部の詳細資料および Web アンケートへの遷移先を記載したメールを送り、任意でアンケートを実施
- 調査時に明示した事項 開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所、学生納付金
- 使用言語 日本語、英語
*質問項目は日英で提示し、回答者が言語を選択して回答。
本報告書は英語での回答は仮訳して集計を行った。
- 質問項目 問1：あなたの入学希望年度を教えてください。
問2：想定する今後の希望進路を教えてください。
問3：あなたが関心のある学問分野をお答えください。
問4：新学部を受験したいと思いますか（複数選択可）
問5：サステナビリティ観光学部（仮称）の学問分野で現在最も興味があるものを1つお答えください。
問6：あなたはサステナビリティ観光学部（仮称）に合格した場合、入学したいと思いますか。
問7：問4で「受験しない」とした理由をお答えください。
問8：問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。

2) 調査結果のまとめ

◆回答を得た海外の高校生、高校既卒者の基本情報

今回、「海外の高校生、高校既卒者を対象とした調査」では40人から回答を得た。回答者の関心のある学問分野では、複数名が観光やホスピタリティ、ビジネス、心理学等を挙げ本学部での学びが支持される結果となった。

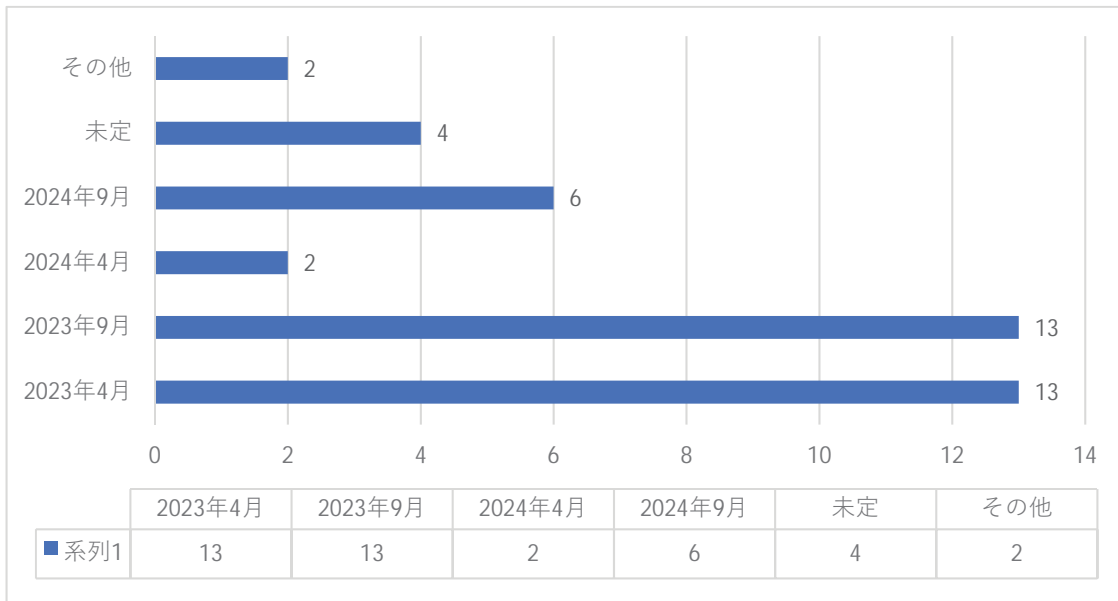
◆本学部への進学希望者層

本アンケート調査では本学志願者層の一部である40人から回答を得た。本学部への進学希望者になりえる層は、①「合格した場合、入学したい」と回答 ②「合格した場合、併願大学や奨学金等の結果によって入学したい」と回答 ③「受験しない×興味・関心はあるが詳細を知った上で検討したい」と回答 ④「受験しない×本学部と教学内容が同じ分野の国内外他大学を希望」と回答した者と考えられる。

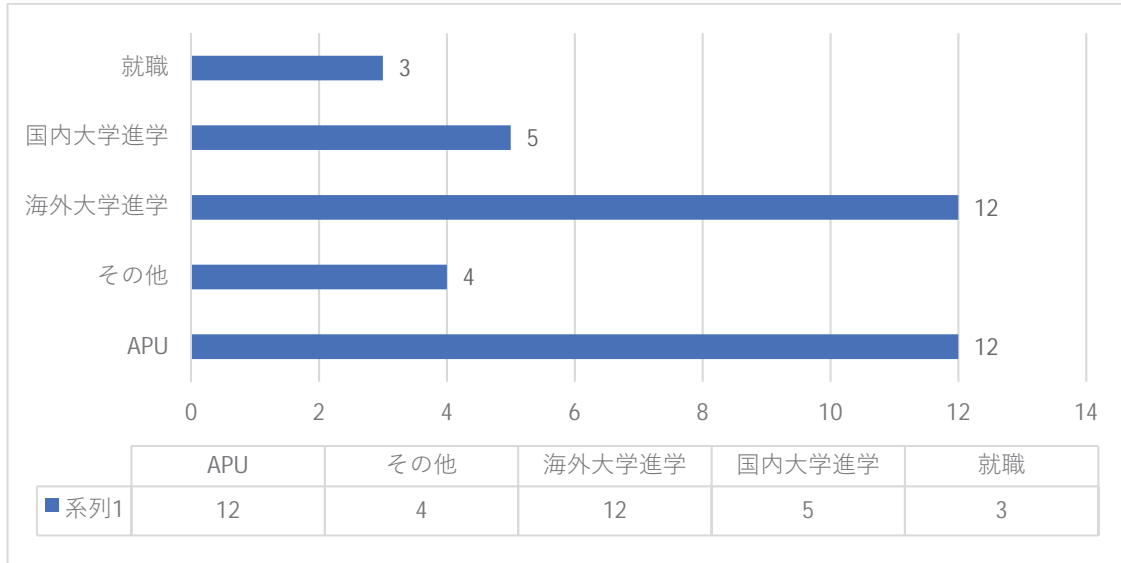
- ・②は本学部の受験希望者であり、本学部への興味・関心はあることから広報・募集活動を通じて本学部の情報を届けることで進学希望者になりえる可能性がある
- ・③は現時点で本学部の受験希望はないが②と同じく今後の広報・募集活動で進学希望者になりえる可能性がある
- ・④は現時点で本学部の受験希望はないが、教学内容が同じ分野の他大学進学を希望していることから学修以外の情報提示によって進学希望者になりえる可能性がある

3) 集計結果

問1. あなたの入学希望年度を教えてください。



問2. 想定する今後の希望進路を教えてください。



問3. あなたが関心のある学問分野をお答えください。(複数回答可、人数はのべ人数)

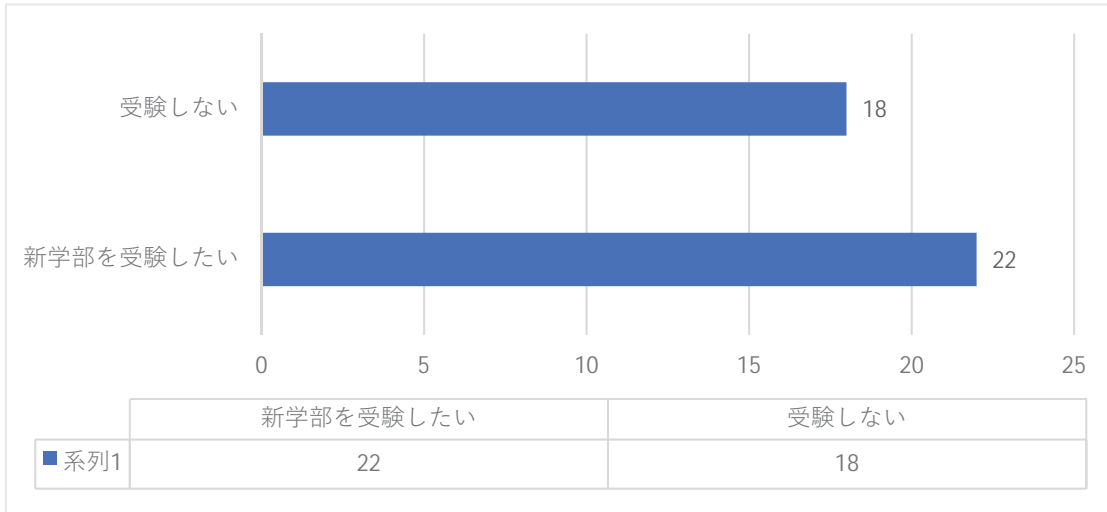
分野名	人数
観光	3
ホスピタリティ	3
ビジネス	3
心理学	3
医学	3
国際関係論	3
IT	2
科学技術	2
経済学	2
経営学士	1
生物学	1
機械工学	1
芸術	1
地質学的採掘技術	1
犯罪心理学	1
ファッション	1

分野名	人数
国際安全保障	1
文化的・社会的知識	1
人間科学	1
心理学	1
公共政策	1
国際通信ビジネス	1
地質鉱山技術	1
国際コミュニケーション	1
ジャーナリズム	1
会計	1
ファイナンス	1
工学	1
数学	1
健康管理	1
財務会計	1
SDGs	1

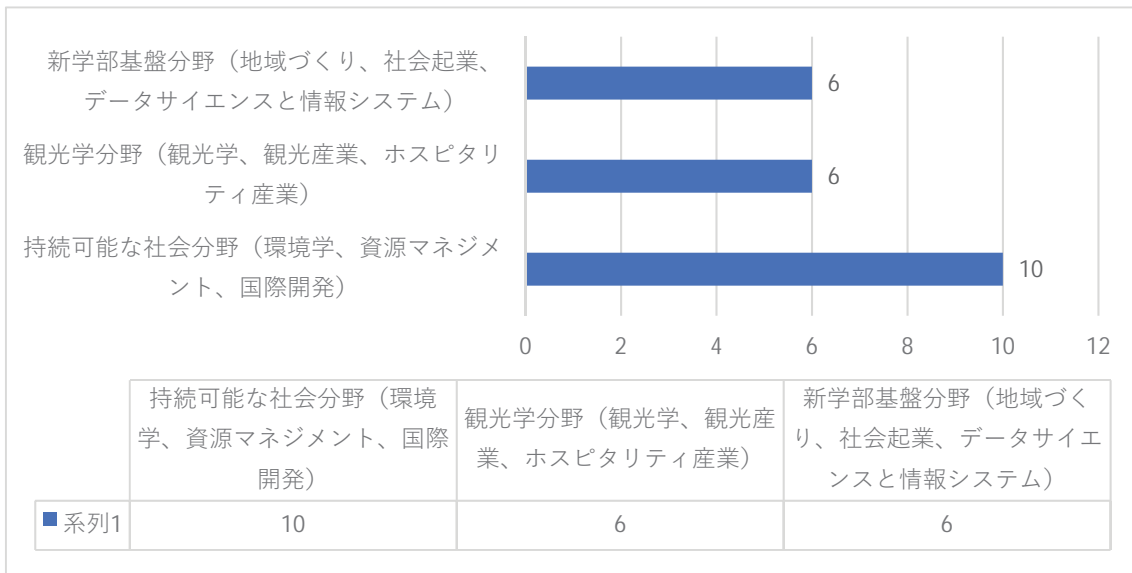
言語学	1
政治学	1

マスコミュニケーション	1
-------------	---

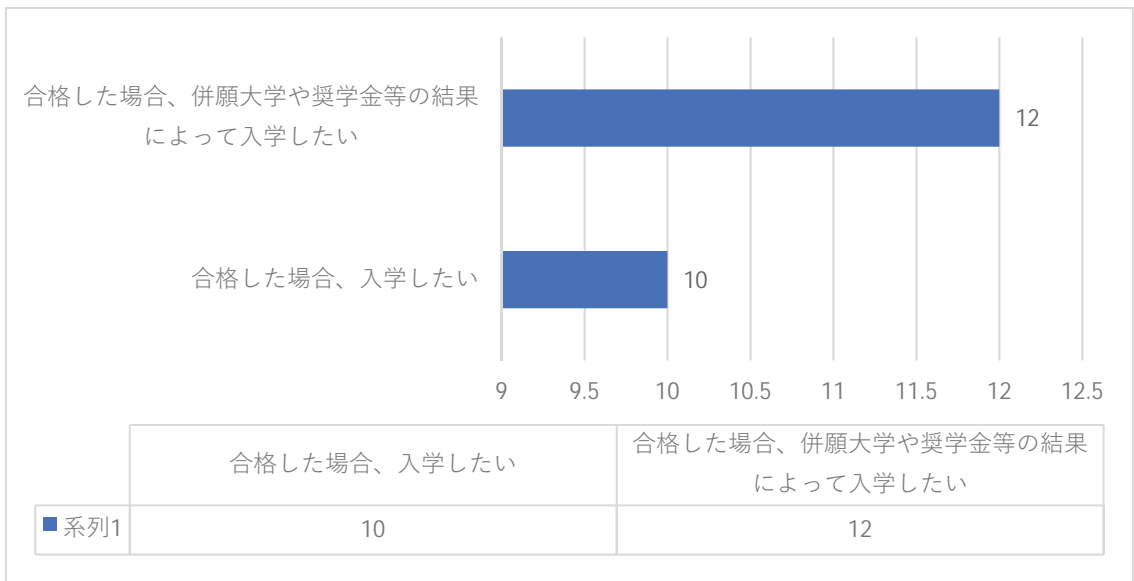
問4. 新学部を受験したいと思いますか。



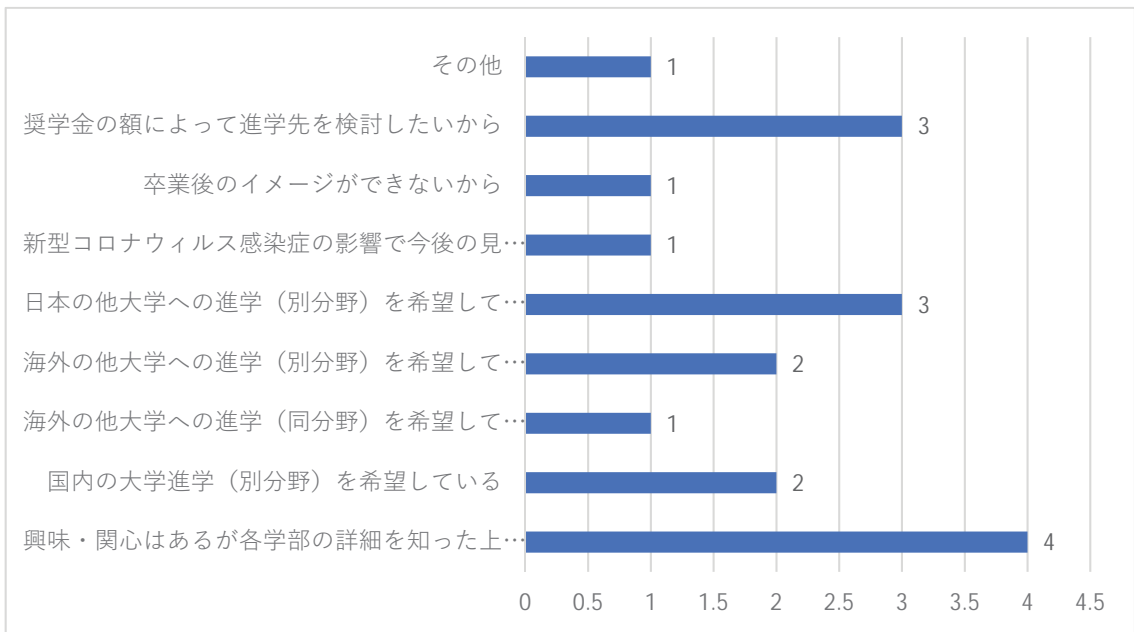
問5. サステナビリティ観光学部（仮称）の学問分野で現在最も興味があるものを1つお答えください。



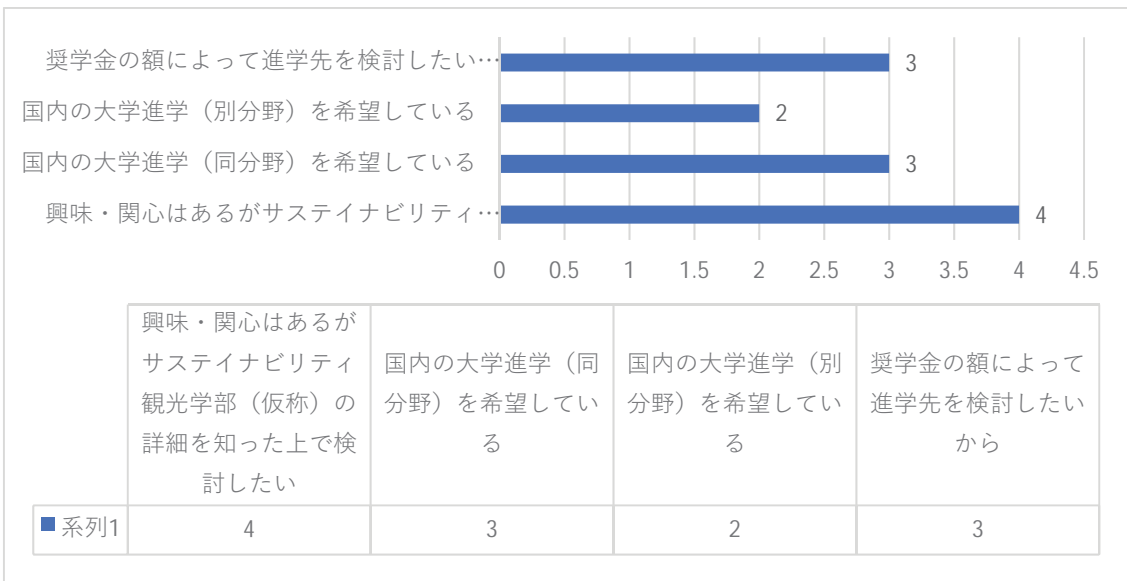
問6. あなたはサステナビリティ観光学部（仮称）に合格した場合、入学したいと思いますか。



問7. 問4で「受験しない」とした理由をお答えください。



問8. 問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした理由をお答えください。



海外高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査：質問項目

質問内容/Questions
<p>Q1. Please tell us about yourself.</p> <ul style="list-style-type: none"> Interested Enrollment Semester <p>April 2023 September 2023 April 2024 September2024 Not sure yet</p> <p>Other: _____</p>
<p>Q2. What do you expect to do next in your academic or professional career?</p> <p>Attend APU Attend University in your country Attend Overseas Universities Find work</p> <p>Other: _____</p>
<p>Q3. What academic field are you interested in?</p> <p>_____</p>
<p>Q4. Do you think that you would like to apply to APU's new college?</p> <ul style="list-style-type: none"> I want to apply for the College of Sustainability and Tourism ⇒Please answer Q5 and Q6, and Q8 depending on your answer I would not apply. ⇒Proceed to Q7
<p>Q5. Select the area of study that interests you most.</p> <p>Tourism (Tourism, Tourism Industry Operations, Hospitality)</p> <p>Sustainable Society (Environmental Studies, Resource Management, International Development)</p> <p>Commons (Regional Development, Social Entrepreneurship, Data Science & Information Systems)</p>
<p>Q6. If you are accepted to the College of Sustainability and Tourism, would you like to enroll?</p> <ul style="list-style-type: none"> If I am accepted, I would like to enroll. ⇒End of questionnaire. I will choose whether or not to enroll depending on the result of my application to other universities, scholarship offers, etc. ⇒Please answer Question 8.
<p>Q7. Please answer why you have chosen not to apply at this time.</p> <p>I am interested but would like to learn more about each college before considering it.</p> <p>I want to go to university in my home country or region (in the same field).</p> <p>I want to go to university in my home country or region (in a different field).</p> <p>I want to go to a different overseas university (in the same field).</p>

<p>I want to go to a different overseas university (in a different field)</p> <p>I want to go to a different university in Japan (in the same field).</p> <p>I want to go to a different university in Japan (in a different field).</p> <p>It is difficult to predict the future due to COVID-19.</p> <p>I am not sure what I want to do after graduation.</p> <p>I want to choose where to go based on the amount of scholarship money offered.</p> <p>Other</p>
<p>Q8. Please tell us the reason why you have answered, " I will choose whether or not to enroll depending on the result of my application to other universities, scholarship offers, etc." to Question 6 above.</p> <p>I am interested but would like to learn more about each college before considering it.</p> <p>I want to go to university in my home country or region (in the same field).</p> <p>I want to go to university in my home country or region (in a different field).</p> <p>I want to go to a different overseas university (in the same field).</p> <p>I want to go to a different overseas university (in a different field)</p> <p>I want to go to a different university in Japan (in the same field).</p> <p>I want to go to a different university in Japan (in a different field).</p> <p>It is difficult to predict the future due to COVID-19.</p> <p>I am not sure what I want to do after graduation.</p> <p>I want to choose where to go based on the amount of scholarship money offered.</p> <p>Other</p>

質問内容/Questions
<p>問1. あなたの入学希望年度を教えてください。</p> <p>2023SP 2023FA 2024SP 2024FA 未定 その他 ()</p>
<p>問2. 想定する今後の希望進路を教えてください。</p> <p>APU 国内大学進学、海外大学進学、就職、その他</p>
<p>問3. あなたが関心のある学問分野をお答えください。</p> <p>()</p>
<p>問4. 新学部を受験したいと思いますか（複数選択可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験したい⇒問5、問6 および回答内容によって問8にお答えください。 ・受験しない⇒問7をお答えください
<p>問5. サステナビリティ観光学部（仮称）の学問分野で現在最も興味が あるものを1つお答えください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光学分野（観光学、観光産業、ホスピタリティ産業） ・持続可能な社会分野（環境学、資源マネジメント、国際開発） ・新学部基盤分野（地域づくり、社会起業、データサイエンスと情報システム）
<p>問6. あなたはサステナビリティ観光学部（仮称）に合格した場合、入学したいと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格した場合、入学したい⇒質問は以上です。 ・合格した場合、併願大学や奨学金等の結果によって入学したい ⇒問8にお答えください。
<p>問7. 問4で「受験しない」とした理由をお答えください。</p> <p>興味・関心はあるが各学部の詳細を知った上で検討したい</p> <p>国内の大学進学（同分野）を希望している</p> <p>国内の大学進学（別分野）を希望している</p> <p>海外の他大学への進学（同分野）を希望している</p> <p>海外の他大学への進学（別分野）を希望している</p> <p>日本の他大学への進学（同分野）を希望している</p> <p>日本の他大学への進学（別分野）を希望している</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから</p> <p>卒業後のイメージができないから</p> <p>奨学金の額によって進学先を検討したいから</p> <p>その他 ()</p>
<p>問8. 問6で「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」とした</p>

理由をお答えください。

興味・関心はあるがサステイナビリティ観光学部（仮称）の詳細を知った上で
検討したい

国内の大学進学（同分野）を希望している

国内の大学進学（別分野）を希望している

海外の他大学への進学（同分野）を希望している

海外の他大学への進学（別分野）を希望している

日本の他大学への進学（同分野）を希望している

日本の他大学への進学（別分野）を希望している

新型コロナウイルス感染症の影響で今後の見通しが立てにくいから

卒業後のイメージができないから

奨学金の額によって進学先を検討したいから

その他（ ）



College of Sustainability and Tourism

*Planned for April 2023. Since the plan is underway, it is subject to change. The college name is tentative.

1

Purpose for establishing the new college

World-level and community-level challenges

- Sustainability issues for human society, such as resource depletion, environmental pollution, and climate change
- Social changes due to the growth of the tourism industry, environmental and social burdens due to over tourism, etc.
- Regional revitalization in globalization

To respond to social conditions

- Education and research on sustainable society
- Education and research on sustainable tourism
- Theory and practice to form a sustainable community with the three pillars of environment, society, and economy
- Building a society that can meet the needs of future generations and those living in the present at the same time is a need for young people and is a "realistic goal."

Taking advantage of APU's strengths, responding as a new college

Taking advantage of APU's features, including achievements in education and research in environmental studies, development studies, tourism studies, etc. the location of Beppu, and students from 95 countries/regions, APU will respond to social demands by developing a new college

2

*Planned for April 2023.。

New College Concept

Mission

Our college adheres to APU's core values of freedom, peace, humanity and international understanding towards shaping the future of the Asia Pacific region. Our faculty and students form the **community of scholars-practitioners**, who employ scholarly knowledge and innovative research to solve contemporary issues and global challenges in sustainable development and tourism.

Human Resource Development Goals

The purposes of the College of Sustainability and Tourism is to develop human resources who can **cope with various challenges** and act responsibly as a global citizen by gaining a **cross-disciplinary understanding of society and regions, acquiring basic and specialized knowledge on the sustainable society and tourism**, and learning logical and critical thinking, qualitative and quantitative analysis, problem solving, and communication and collaboration in a cross-cultural environment through curriculum based on sociology in **collaboration with various social actors** both on and off campus.

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept.



4

New College Overview

Name

サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

Degree

学士 (サステイナビリティ観光学)
Bachelor of Sustainability and Tourism

Intake Capacity

350

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. The installation plan is subject to change. The name of the faculty is tentative.

3

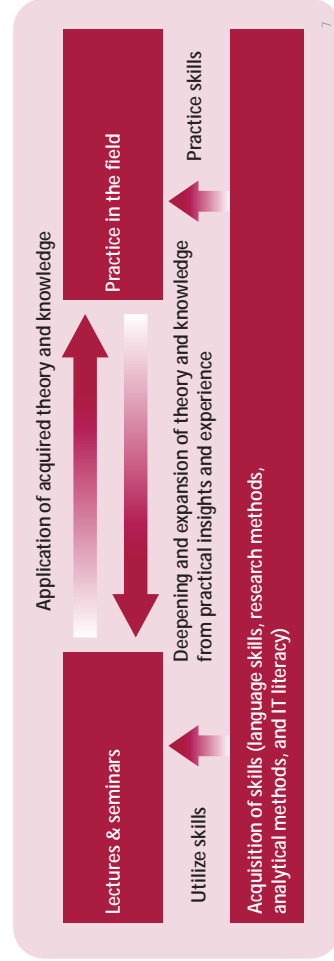
Teaching Content Specialized subject group of social sciences

With 9 concentrations, curriculum that corresponds to the careers that students want to pursue and the knowledge and skills they want to acquire

Concentration	Contents
環境学 Environmental Studies	Scientific fundamentals such as nature, society, economy, and education
資源マネジメント Resource Management	Focuses on a recycling-oriented society, energy, and climate change
国際開発 International Development	Top level learning of international development, available in Japan, with sustainable development covered alongside with environment.
観光学 Tourism Studies	Fundamental tourism related to the economy and society as well as history and culture
観光産業 Tourism Industry Operations	Tourism industry analysis, new product creation, and marketing
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	Focuses on hotels and resorts
地域づくり Regional Development	Sustainable development and tourist area design
社会起業 Social Entrepreneurship	Social entrepreneurship and project management
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICT and its applications

Teaching Methods Evolving from lecture-based education

- Developing Academic-Practitioners (Scholar-Practitioners) equipped with an understanding of both theory and practice
- All students will engage their studies through a combination of lectures and seminars, practice in the field, and the acquisition of skills.



System course, skill requirement, small class

Category	Point of View
Liberal Arts	To acquire the knowledge and methodology that are the basis of the specialty, and to provide subjects that enable the acquisition of a wide range of viewpoints, ways of thinking and knowledge necessary for the human resources development that this university is aiming for.
Common Education Subjects	As subjects related to this college, Introductions to Sustainable Development, Tourism, Sociology, and Statistics for Social Science will be assigned as compulsory subjects.
Language	Japanese basis students are assigned English and English basis students are assigned Japanese. The subjects and credits required differ depending on the level of the students at the time of entrance. In addition to compulsory subjects, higher-level subjects will be allocated as elective subjects.
Academic Skills	The subjects of academic skills necessary for studying this department will be allocated. Introduction to Research Methods and Critical Reading / II are placed as required subjects, and Qualitative Research Methods is placed as an elective subject.
Seminar, Final Results	Subjects for three-year and four-year seminars, and subjects for achieving final results are allocated. The major Seminars are automatically registered. The Final Result will be a graduation project or a capstone.
Off-Campus Program	Courses including practical training outside the school. Students have to complete at least 1 subject with 2 credits.
Major Subjects	Assign subjects in areas of importance as a means to solve problems common to both tourism and sustainable society.
Common	Introduce courses that teach cutting-edge research in the fields of tourism and sustainable society.
Tourism	Major subjects in the field of tourism are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.
Sustainable Society	Major subjects in the field of sustainable society are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.

Teaching Method Off-Campus Study

Three types of off-campus studies are available, “field study”, “specialized internship”, and “specialized training” depending on the purpose and period. Students studying in the new faculty are required to do one of these.

Examples of Field Studies

- Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (Italy, Spain)
- Roles and activities of international organizations (Switzerland, France, Tokyo)
- Sustainable Regional Value Creation: Survey in Iida City, Nagano Prefecture (Nagano Prefecture)

Collaborations with institutions and companies

Performance-based (planned to be further developed in the future)

- International Organizations (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAO, etc.)
- Corporate collaboration (InterContinental Hotel, Suginoi Hotel, Japan Airlines, All Nippon Airways, Oita Godo Shinbun, Oita Bank, etc.)
- Fieldwork in Japan and overseas (Shanghai, Seoul, Stockholm, Canada, Vancouver, Oita/Bepu, National East World Agricultural Heritage, Kitakyushu, Arita Town, Saga Prefecture, Aso Kuju National Park, Ministry of the Environment, etc.)



Possible career paths

- CSR and ESG divisions from industries, general companies, and organizations related to forming a recycling-oriented society, preventing global warming, and conserving natural environment
- Tourist businesses (i.e. hotels, inns, and restaurants), and service businesses (i.e. wholesalers and retailers)
- Companies and organizations involved in community and regional development
- International, public, and non-governmental organizations
- Starting a business after going to graduate school

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. ⁹

【Tuition fees and APU Tuition Reduction Scholarship】

■ First Year Students Tuition Reduction Scholarships for 2022 enrollment

Tuition Reduction	Annual Scholarship Amount	Annual Tuition Borne by Student
30%	390,000 JPY	910,000 JPY
50%	650,000 JPY	650,000 JPY
65%	845,000 JPY	455,000 JPY
80%	1,040,000 JPY	260,000 JPY
100%	1,300,000 JPY	0 JPY

■ Transfer Students Tuition Reduction Scholarships for 2022 enrollment

Tuition Reduction	Annual Scholarship Amount	Annual Tuition Borne by Student
30%	450,000 JPY	1,050,000 JPY
50%	750,000 JPY	750,000 JPY
65%	975,000 JPY	525,000 JPY
80%	1,200,000 JPY	300,000 JPY
100%	1,500,000 JPY	0 JPY

Note that tuition amount may be subject to change. In addition, the tuition for the first year of study is different from the tuition for the second through fourth years of study.

After enrollment, there are various scholarships available to outstanding international students. ★ please see the Student Office's webpage ⇒ <https://en.apu.ac.jp/student-support/page/content10220.html/> ¹¹

【Tuition fees and APU Tuition Reduction Scholarship】

1. About Tuition

- First year payment ¥1,500,000- (Entrance fee ¥200,000+ Tuition fees ¥1,300,000)
- After second year payment : Tuition fees ¥1,500,000-

★The official website for tuition fees⇒ <https://en.apu.ac.jp/home/life/content19/>

2. About APU Tuition Reduction Scholarship

APU Tuition Reduction Scholarships are offered in percentages of 30%, 50%, 65%, 80% and 100%, and cover the least amount of academic credits needed to graduate within the standard period of time.

These scholarships are made available by the financial contributions of domestic and international companies and individuals, together with the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), to support the ideals of APU, with the purpose of helping to reduce the financial burden for outstanding international students of lesser financial means.

See below for more details.

★The official website for APU Tuition Reduction Scholarship is here.

⇒ https://admissions.apu.ac.jp/costs_scholarships/tuition_reduction_scholarship/?&lang=en

10



サステイナビリティ観光学部

College of Sustainability and Tourism

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。1



新学部開設の趣旨

世界レベルやコミュニティレベルの課題

- 資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- 観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- グローバリゼーションの中の地域再生

社会のニーズ

- 持続可能な社会に関する教育・研究
- 持続可能な観光に関する教育・研究
- 環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な地域社会を形成する理論と実践
- 将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは若者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かして、新学部として対応

これまで培った環境学、開発学、観光学等の教育研究実績、別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む**学問的実務家** (Scholar-practitioner) のコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよび**キャンパス内外**における様々な社会と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な**分析・問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身に付けることで、様々な**社会課題に対処**でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

*2023年4月設置構想中。



新学部の概要

学部・学科名称
 サステイナビリティ観光学部
 サステイナビリティ観光学科
 College of Sustainability and Tourism
 Department of Sustainability and Tourism

学位名称
 学士（サステイナビリティ観光学）
 Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

3

教育内容－文理融合の専門科目群

9つの専門領域から、学生自身が希望するキャリア・修得したい知識・能力に応じて、組み合わせさせて学ぶ

科目群 (コンセンストレーション)	内容
環境学 Environmental Studies	自然、社会、経済、教育など、学術基礎
資源マネジメント Resource Management	循環型社会、エネルギー・気候変動などを中心
国際開発 International Development	学部教育では国内でもトップレベルの国際開発が学べる環境と組み合わせることで持続可能な開発をカバー
観光学 Tourism Studies	経済、社会、歴史、文化などに関係する観光の基礎
観光産業 Tourism Industry Operations	観光産業の分析、新製品創出、マーケティング
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	ホテルやリゾートにフォーカス
地域づくり Regional Development	観光地を中心とした地域の持続可能な開発・デザイン
社会起業 Social Entrepreneurship	社会起業、プロジェクトマネジメント
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICTとその応用

*2023年4月設置構想中。

5

教育方法－特徴的な学び方

- 「理論」と「実践」を併せ持つ「Scholar-Practitioner」の育成
- 教育手法：すべての学生が、「講義・演習」「現場での実践」「調査・分析スキル」を組み合わせて学ぶ



*2023年4月設置構想中。

7

カリキュラム設計－系統履修、スキル必修、小人数クラス

科目区分	考え方
共通教育科目	日本の基礎となる知識や方法論を身につけること、および本学が目指す人材育成の目的に必要な幅広いものの見方、考え方、知識を修得できる科目をバランスよく配置する。 本学部に関連する科目として、 持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門、社会科学のための統計学 を必修科目として配置する。(ほか：SAW/MQW(ITリテラシー))
言語教育科目	日本語科専攻学生は英語を、英語専攻学生は日本語を必修する。必修として履修する科目・単位は入学時のレベル測定により異なる。必修以外には、選択科目としてより高いレベルの科目等を配置する。
アカデミック・スキル科目	本学部を学ぶ上で必要なアカデミック・スキルの科目を配置する。必修科目として 社会科学法入門、文献情報Ⅰ、文献情報Ⅱ を、選択科目として質的分析法を配置する。
演習・最終成果科目	3年次・4年次の演習科目、および最終成果を要する科目を配置する。3年次演習は 必修 する必要がある履修指定科目とする。 最終成果は 卒業プロジェクト、キャリアポートフォリオ を配置し、 どちらかを選択必修 とする。
コアキャンパス・プログラム科目	学外における実習を含む科目を配置する。1科目2単位以上を選択必修とする。
学部共通科目	観光および持続可能な社会の両分野に共通する、課題解決のための手法として重要な分野の科目を配置する。 学外における実習を含む科目を配置する。1科目2単位以上を選択必修とする。
観光学分野科目	観光学 観光産業 ホスピタリティ産業
持続可能な社会分野科目	環境学 資源マネジメント 国際開発

*2023年4月設置構想中。

教育方法－学外での学び Off-Campus Study

目的や期間に応じて、「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」「専門実習(プラクティカム)」という3種類の学外学修を用意。新学部で学ぶ学生は、この内のいずれかを必修。



フィールドスタディの事例

- ・ Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (実習地: イタリア、スペイン)
- ・ 「国際機関の役割と活動」(実習地: スイス、フランス、東京)
- ・ 「持続可能な地域の価値づくり: 長野県飯田市における調査」(実習地: 長野県)

機関・企業との連携事例・活動事例 ※実績ベース (今後さらに開拓予定)

- ・ 国際機関 (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAOなど)
- ・ 企業連携 (インターコンチネンタルホテル、杉乃井ホテル、日本航空、全日空、大分合同新聞社、大分銀行など)
- ・ 国内外のフィールドワーク (上海、ソウル、ストックホルム、カナダ、バンクーバー、大分・別府、国東世界農業遺産、北九州、佐賀県有田町、阿蘇くじゅう国立公園・環境省など)

*2023年4月設置構想中。

想定する進路・就職

- 環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- 観光産業やサービス業
- まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- 国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- 大学院進学、社会起業

【学費と授業料減免奨学金】

1. 学費について

- ・初年度納入金：1,500,000円(入学金200,000円+授業料1,300,000円)
- ・2年次以降納入金：授業料1,500,000円

★学費に関する公式ホームページはこちら⇒<https://www.apu.ac.jp/home/life/content/9/>

2. APU授業料減免奨学金について

APUは、優秀で経済的に修学困難な学生に対して4年間(標準修業年限)の修学に適用される独自の授業料減免制度(年間授業料額の30%, 50%, 65%, 80%, 100%を減免)を設けています。授業料減免は本学の理念に賛同していただいた日本国内外の企業や個人からの寄付金および日本国文部科学省からの補助金で運営されます。その趣旨は優秀で、経済的に修学困難な外国人留学生に対する奨学援助です。詳しくは以下をご覧ください。

★APU授業料減免奨学金制度に関する公式ホームページはこちら

⇒https://admissions.apu.ac.jp/costs_scholarships/tuition_reduction_scholarship/?&lang=ja

2023年4月設置構想中。

【学費と授業料減免奨学金】

■1回生新入学：2022年度入学者授業料減免額

授業料減免率	授業料減免額(年間)	授業料自己負担額(年間)
30%	390,000円	910,000円
50%	650,000円	650,000円
65%	845,000円	455,000円
80%	1,040,000円	260,000円
100%	1,300,000円	0円

■編入学・転入学：2022年度入学者授業料減免額

授業料減免率	授業料減免額(年間)	授業料自己負担額(年間)
30%	450,000円	1,050,000円
50%	750,000円	750,000円
65%	975,000円	525,000円
80%	1,200,000円	300,000円
100%	1,500,000円	0円

※授業料の改定に応じて変更されることがあります。2回生以降の授業料は1回生時の授業料(年間)と異なります。

APU入学後は、優秀な留学生を対象とした奨学金制度があります。詳細はスケジュール・オフィスのホームページをご覧ください⇒<https://www.apu.ac.jp/studentsupport/page/content020.html>

11



[資料 11-1] 立命館アジア太平洋大学
海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査報告書(2022年
6-7月追加調査)
追加調査d-1

1) 調査概要

- 2) 調査対象：
- (A) 説明会出席者対象調査
2023(令和5)年の春もしくは秋に大学進学意向を示し、かつ、本学部を受験する意向を持つ者を対象としたオンライン説明会へ参加した高校生(既卒含む)
- (B) 連絡先を把握する高校生(既卒含む)を対象としたメール調査
本学部がメールアドレスを把握している、2023(令和5)年の春もしくは秋に大学進学意向を持つ高校生(既卒含む)
- 調査期間 2022(令和4)年6月19日～7月8日
- 回答 241人
- 調査方法 (A) 説明会出席者対象調査
2023(令和5)年の春もしくは秋に大学進学意向を示し、本学部を受験する意向を持つ者に対するオンライン説明会において、本学部の資料をオンライン説明会で提示し、その上で、本学部の受験意向および合格した場合の入学意向などを調査した。調査方法は、説明会における調査実施および説明会後のメールアンケート調査となった。対象の説明会は4回。回答者数71人。
- (B) 連絡先を把握する高校生(既卒含む)を対象としたメール調査
2023(令和5)年の春もしくは秋に大学進学意向を示している者に対して、本学部の資料をメールに添付し、本学部の内容への関心、本学部の受験意向および、合格した場合の入学意向などを調査した。調査送付先5,400人。回答者数170人。
- 調査時に明示した事項 開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所(アクセス)、学生納付金、問い合わせ先
- 使用言語 日本語、英語
*質問項目は日本語もしくは英語で提示。
- 質問項目 問1 (日本語) あなたの入学希望年度を教えてください。(2023年春、2023年秋、2024年春、2024年秋、2025年春、2025年秋、未定)
(英語) When do you plan to enroll in university?
(April 2023, September 2023, April 2024, September 2024, April 2025、

September 2025、Unsure)

- 問2 (日本語) サステナビリティ観光学部(仮称)への関心をお持ちですか。(はい/いいえ)
 (英語) Are you interested in the Sustainability and Tourism *(tentative)? (Yes, I am. / No I'm not.)
- 問3 (日本語) サステナビリティ観光学部(仮称)を受験したいと思いますか。(受験したい/受験したくない)
 (英語) Will you apply for the college of Sustainability and Tourism *(tentative)? (Yes, I will. /No, I will not)
- 問4 (日本語) サステナビリティ観光学部(仮称)に合格したら入学したいと思いますか。(入学したい/入学したくない)
 (英語) If you are admitted to the college of Sustainability and Tourism, do you plan to enroll? (Yes, I do. /No, I don't.)

2) 調査結果のまとめ(追加調査d-1)

今回、「海外の高校生・高校既卒者を対象とした追加アンケート調査」では本学部のオンライン説明会4企画および本学が個人情報を持つ高校生(既卒含む)約6000人にオンラインアンケートを行った結果、241人から回答が得られた。回答者241人のうち、入学希望時期が2023(令和5)年であり、本学部への関心(あり)、本学部の受験意向(あり)、本学部合格した場合に入学意向(あり)をクロス集計した結果142人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった(表1参照)

今回の調査は、2023(令和5)年度に大学進学を希望する者にとって進路決定時期に行っており、本学部の開設時期や教学の概要、学生納付金など受験や入学判断に必要な情報を提示した上での回答のため、上記142人は入学する見込みが高いと言える。

(表1) 全回答者241人の内訳

全回答者	入学希望時期 2023年	入学希望時期 春もしくは秋	本学部への関心(あり)	受験意向(あり)	入学意向(あり)	合計
241人	203人	春	102人	93人	88人	87人
		秋	101人	67人	55人	55人
						142人

3) 調査方法(A) 説明会出席者対象調査 および (B) 連絡先を把握する高校生(既卒含む)を対象としたメール調査の集計結果(単純集計)

入学意思を持つ人数は、(A) 説明会出席者対象調査での 50 人、および(B) 連絡先を把握する高校生(既卒含む)を対象としたメール調査での 92 人を合計して 142 人である。(A)および(B)の調査結果は以下の通り。入学意思を持つ人数とは、入学希望時期 2023 年春もしくは秋であり、本学部への関心(あり)、受験意向(あり)、入学意向(あり)の全てを満たす者を指す。

(A) 説明会出席者対象調査

① 6月 19日実施、本学部説明会 タイ 英語・タイ語開催

出席者数	回答者数	入学意思を持つ人数
22	15	9

② 6月 22日実施、本学部説明会 全世界 日本語開催

出席者数	回答者数	入学意思を持つ人数
13	7	7

③ 6月 22日実施、本学部説明会 全世界 英語開催

出席者数	回答者数	入学意思を持つ人数
56	38	28

④ 7月 3日実施、留学説明会 タイ 英語開催

出席者数	回答者数	入学意思を持つ人数
24	11	6

(B) 連絡先を把握する高校生(既卒含む)を対象としたメール調査

送付数	回答者数	入学意思を持つ人数
5,400	170	92

【質問項目（英語版）】

College of Sustainability and Tourism*(Tentative) Interest Survey

The following form is for prospective applicants who have expressed interest in applying to APU for the April 2023 and September 2023 semesters.

If you would like to answer the four questions, please answer them, then click submit to confirm your response. Thank you!

◆Update Your Interests

1. When do you plan to enroll in university?

- April 2023
- September 2023
- April 2024
- September 2024
- April 2025
- September 2025
- Unsure

2. Are you interested in the Sustainability and Tourism *(tentative)?

- Yes, I am.
- No I'm not.

3. Will you apply for the college of Sustainability and Tourism *(tentative)?

- Yes, I will.
- No, I will not

4. If you are admitted to the college of Sustainability and Tourism, do you plan to enroll?

- Yes, I do.
- No, I don't.

【質問項目（日本語版）】

サステナビリティ観光学部（仮称）への関心度調査

以下のフォームは、2023年春および2023年秋にAPUへの入学を希望する受験生向けのものです。

よろしければ4つの質問にお答えいただき、送信ボタンをクリックしてください。ご協力ありがとうございます！

◆APUへの関心度調査

1. あなたの入学希望年度を教えてください。

- 2023年春
- 2023年秋
- 2024年春
- 2024年秋
- 2025年春
- 2025年秋
- 未定

2. サステナビリティ観光学部（仮称）への関心をお持ちですか。

- はい
- いいえ

3. サステナビリティ観光学部（仮称）を受験したいと思いますか。

- 受験したい
- 受験したくない

4. サステナビリティ観光学部（仮称）に合格したら入学したいと思いますか。

- 入学したい
- 入学したくない



College of Sustainability and Tourism

*Planned for April 2023. Since the plan is underway, it is subject to change. The college name is tentative.

1

Purpose for establishing the new college

Responding to social conditions as well as academic reforms to strengthen fields where APU's strengths can be utilized.

*Planned for April 2023.。

World-level and community-level challenges

- Sustainability issues for human society, such as resource depletion, environmental pollution, and climate change
- Social changes due to the growth of the tourism industry, environmental and social burdens due to over tourism, etc.
- Regional revitalization in globalization

To respond to social conditions

- Education and research on sustainable society
- Education and research on sustainable tourism
- Theory and practice to form a sustainable community with the three pillars of environment, society, and economy
- Building a society that can meet the needs of future generations and those living in the present at the same time is a need for young people and is a "realistic goal."

Taking advantage of APU's strengths, responding as a new college

Taking advantage of APU's features, including achievements in education and research in environmental studies, development studies, tourism studies, etc. the location of Beppu, and students from 95 countries/regions, APU will respond to social demands by developing a new college

2



New College Overview

Name	サステイナビリティ観光学部 サステイナビリティ観光学科 College of Sustainability and Tourism Department of Sustainability and Tourism
Degree	学士 (サステイナビリティ観光学) Bachelor of Sustainability and Tourism
Intake Capacity	350

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. The name of the faculty is subject to change. The name of the faculty is tentative.

3

New College Concept

Mission

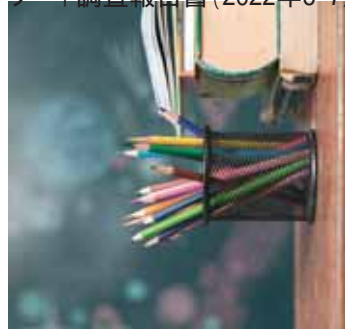
Our college adheres to APU's core values of freedom, peace, humanity and international understanding towards shaping the future of the Asia Pacific region. Our faculty and students form the **community of scholars-practitioners**, who employ scholarly knowledge and innovative research to solve contemporary issues and global challenges in sustainable development and tourism.

Human Resource Development Goals

The purposes of the College of Sustainability and Tourism is to develop human resources who can **cope with various challenges** and act responsibly as a global citizen by gaining a **cross-disciplinary understanding of society and regions, acquiring basic and specialized knowledge on the sustainable society and tourism**, and learning logical and critical thinking, qualitative and quantitative analysis, problem solving, and communication and collaboration in a cross-cultural environment through curriculum based on sociology in **collaboration with various social actors** both on and off campus.

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept.

4



Teaching Content Specialized subject group of social sciences

With 9 concentrations, curriculum that corresponds to the careers that students want to pursue and the knowledge and skills they want to acquire

Concentration	Contents
環境学 Environmental Studies	Scientific fundamentals such as nature, society, economy, and education
資源マネジメント Resource Management	Focuses on a recycling-oriented society, energy, and climate change
国際開発 International Development	Top level learning of international development, available in Japan, with sustainable development covered alongside with environment.
観光学 Tourism Studies	Fundamental tourism related to the economy and society as well as history and culture
観光産業 Tourism Industry Operations	Tourism industry analysis, new product creation, and marketing
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	Focuses on hotels and resorts
地域づくり Regional Development	Sustainable development and tourist area design
社会起業 Social Entrepreneurship	Social entrepreneurship and project management
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICT and its applications

Teaching Methods Evolving from lecture-based education

- Developing Academic-Practitioners (Scholar-Practitioners) equipped with an understanding of both theory and practice
- All students will engage their studies through a combination of lectures and seminars, practice in the field, and the acquisition of skills.



System course, skill requirement, small class

Category	Point of View
Liberal Arts	To acquire the knowledge and methodology that are the basis of the specialty, and to provide subjects that enable the acquisition of a wide range of viewpoints, ways of thinking and knowledge necessary for the human resources development that this university is aiming for.
Common Education Subjects	As subjects related to this college, Introductions to Sustainable Development, Tourism, Sociology, and Statistics for Social Science will be assigned as compulsory subjects.
Language	Japanese basis students are assigned English and English basis students are assigned Japanese. The subjects and credits required differ depending on the level of the students at the time of entrance. In addition to compulsory subjects, higher-level subjects will be allocated as elective subjects.
Academic Skills	The subjects of academic skills necessary for studying this department will be allocated. Introduction to Research Methods and Critical Reading / II are placed as required subjects, and Qualitative Research Methodology is placed as an elective subject.
Seminar, Final Results	Subjects for three-year and four-year seminars, and subjects for achieving final results, are allocated. The major Seminars are automatically registered. The Final Result will be a graduation project or a capstone.
Off-Campus Program	Courses including practical training outside the school. Students have to complete at least 1 subject with 2 credits.
Major Subjects	Assign subjects in areas of importance as a means to solve problems common to both tourism and sustainable society.
Common	Introduce courses that teach cutting-edge research in the fields of tourism and sustainable society.
Tourism	Tourism Industry Operations Major subjects in the field of tourism are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.
Sustainable Society	Environmental Studies Resource Management International Development Major subjects in the field of sustainable society are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.

Teaching Method Off-Campus Study

Three types of off-campus studies are available, “field study”, “specialized internship”, and “specialized training” depending on the purpose and period. Students studying in the new faculty are required to do one of these.

Examples of Field Studies

- Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (Italy, Spain)
- Roles and activities of international organizations (Switzerland, France, Tokyo)
- Sustainable Regional Value Creation: Survey in Iida City, Nagano Prefecture (Nagano Prefecture)

Collaborations with institutions and companies

Performance-based (planned to be further developed in the future)

- International Organizations (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAO, etc.)
- Corporate collaboration (InterContinental Hotel, Suginoi Hotel, Japan Airlines, All Nippon Airways, Oita Godo Shinbun, Oita Bank, etc.)
- Fieldwork in Japan and overseas (Shanghai, Seoul, Stockholm, Canada, Vancouver, Oita/Beppu, National East World Agricultural Heritage, Kitakyushu, Arita Town, Saga Prefecture, Aso Kuju National Park, Ministry of the Environment, etc.)



Possible career paths

- CSR and ESG divisions from industries, general companies, and organizations related to forming a recycling-oriented society, preventing global warming, and conserving natural environment
- Tourist businesses (i.e. hotels, inns, and restaurants), and service businesses (i.e. wholesalers and retailers)
- Companies and organizations involved in community and regional development
- International, public, and non-governmental organizations
- Starting a business after going to graduate school

【Tuition fees and APU Tuition Reduction Scholarship】

1. About Tuition

- First year payment ¥1,500,000- (Entrance fee ¥200,000+ Tuition fees ¥1,300,000)
- After second year payment : Tuition fees ¥1,500,000-

★The official website for tuition fees⇒ <https://en.apu.ac.jp/home/life/content19/>

2. About APU Tuition Reduction Scholarship

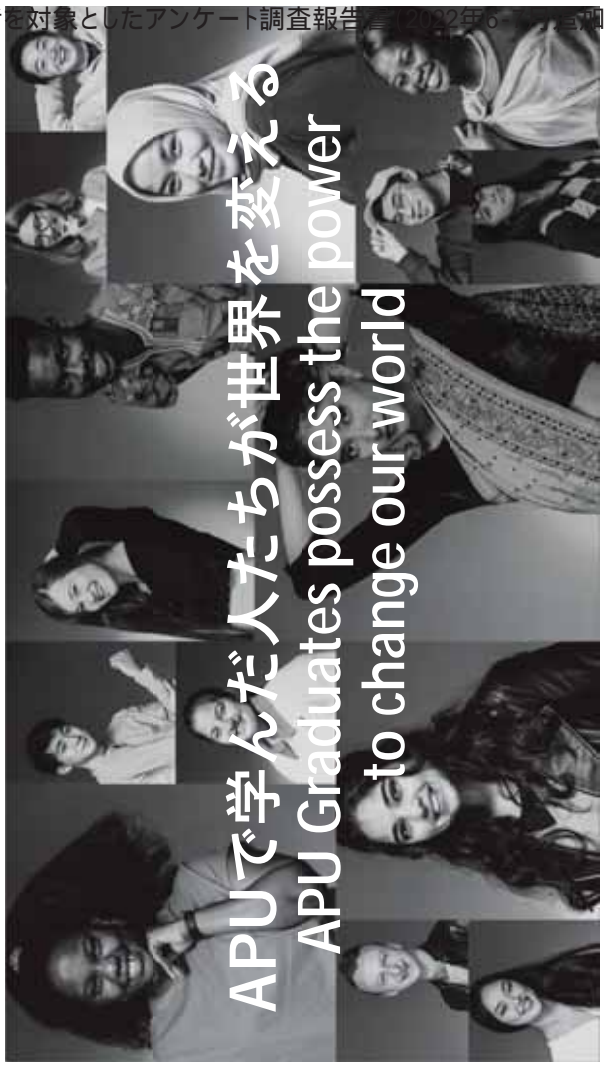
APU Tuition Reduction Scholarships are offered in percentages of 30%, 50%, 65%, 80% and 100%, and cover the least amount of academic credits needed to graduate within the standard period of time.

These scholarships are made available by the financial contributions of domestic and international companies and individuals, together with the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), to support the ideals of APU, with the purpose of helping to reduce the financial burden for outstanding international students of lesser financial means.

See below for more details.

★The official website for APU Tuition Reduction Scholarship is here.

⇒ https://admissions.apu.ac.jp/costs_scholarships/tuition_reduction_scholarship/?&lang=en



【Tuition fees and APU Tuition Reduction Scholarship】

■ First Year Students Tuition Reduction Scholarships for 2022 enrollment

Tuition Reduction	Annual Scholarship Amount	Annual Tuition Borne by Student
30%	390,000 JPY	910,000 JPY
50%	650,000 JPY	650,000 JPY
65%	845,000 JPY	455,000 JPY
80%	1,040,000 JPY	260,000 JPY
100%	1,300,000 JPY	0 JPY

■ Transfer Students Tuition Reduction Scholarships for 2022 enrollment

Tuition Reduction	Annual Scholarship Amount	Annual Tuition Borne by Student
30%	450,000 JPY	1,050,000 JPY
50%	750,000 JPY	750,000 JPY
65%	975,000 JPY	525,000 JPY
80%	1,200,000 JPY	300,000 JPY
100%	1,500,000 JPY	0 JPY

Note that tuition amount may be subject to change. In addition, the tuition for the first year of study is different from the tuition for the second through fourth years of study.

After enrollment, there are various scholarships available to outstanding international students.

★ please see the Student Office's webpage ⇒ <https://en.apu.ac.jp/student-support/page/content10220.html/>



サステイナビリティ観光学部

College of Sustainability and Tourism

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。 1

新学部開設の趣旨

世界レベルやコミュニティレベルの課題

- 資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- 観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- グローバリゼーションの中の地域再生

社会のニーズ

- 持続可能な社会に関する教育・研究
- 持続可能な観光に関する教育・研究
- 環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な地域社会を形成する理論と実践
- 将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは若者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かして、新学部として対応

これまで培った環境学、開発学、観光学等の教育研究実績、別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

新学部の概要

学部・学科名称
 サステイナビリティ観光学部
 サステイナビリティ観光学科
 College of Sustainability and Tourism
 Department of Sustainability and Tourism

学位名称
 学士（サステイナビリティ観光学）
 Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。 3

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む**学問的実務家** (Scholar-practitioner) のコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよび**キャンパス内外**における様々な社会と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な**分析・問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身に付けることで、**様々な社会課題に対処**でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。



*2023年4月設置構想中。

【学費と授業料減免奨学金】

1. 学費について

- ・初年度納入金：1,500,000円(入学金200,000円+授業料1,300,000円)
- ・2年次以降納入金：授業料1,500,000円

★学費に関する公式ホームページは [こちら](https://www.apu.ac.jp/home/life/content/9/)⇒ <https://www.apu.ac.jp/home/life/content/9/>

2. APU授業料減免奨学金について

APUは、優秀で経済的に修学困難な学生に対して4年間(標準修業年限)の修学に適用される独自の授業料減免制度(年間授業料額の30%, 50%, 65%, 80%, 100%を減免)を設けています。
 授業料減免は本学の理念に賛同していただいた日本国内外の企業や個人からの寄付金および日本国文部科学省からの補助金で運営されます。その趣旨は優秀で、経済的に修学困難な外国人留学生に対する奨学援助です。詳しくは以下をご覧ください。

★APU授業料減免奨学金制度に関する公式ホームページは [こちら](https://admissions.apu.ac.jp/costs_scholarships/tuition_reduction_scholarship/?&lang=ja)

⇒ https://admissions.apu.ac.jp/costs_scholarships/tuition_reduction_scholarship/?&lang=ja



想定する進路・就職

- ・環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- ・観光産業やサービス業
- ・まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- ・国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- ・大学院進学、社会起業

*2023年4月設置構想中。

【学費と授業料減免奨学金】

■1回生新入学：2022年度入学者授業料減免額

授業料減免率	授業料減免額(年間)	授業料自己負担額(年間)
30%	390,000円	910,000円
50%	650,000円	650,000円
65%	845,000円	455,000円
80%	1,040,000円	260,000円
100%	1,300,000円	0円

■編入学・転入学：2022年度入学者授業料減免額

授業料減免率	授業料減免額(年間)	授業料自己負担額(年間)
30%	450,000円	1,050,000円
50%	750,000円	750,000円
65%	975,000円	525,000円
80%	1,200,000円	300,000円
100%	1,500,000円	0円

※授業料の改定に応じて変更されることがあります。2回生以降の授業料は1回生時の授業料(年間)と異なります。

APU入学後は、優秀な留学生を対象とした奨学金制度があります。詳細は <https://www.apu.ac.jp/studentsupport/page/content020.html> ホームページをご覧ください⇒ <https://www.apu.ac.jp/studentsupport/page/content020.html>



Hello from APU in Japan!

Don't miss out on the upcoming **APU New College: College of Sustainability and Tourism (ST)* Webinar** by APU Thailand Office. Registration and participation is free!

Sign up below!

ขอเชิญทุกท่านลงทะเบียนเข้าร่วมงาน **APU New College: College of Sustainability and Tourism (ST)***

Webinar โดยสำนักงานเอพิอูประเทศไทย ผ่านทางออนไลน์ในวันที่ 19 มิถุนายน 2565

ลงทะเบียนและเข้าร่วมฟรีไม่มีค่าใช้จ่าย!

คณะใหม่ของเอพิอูคืออะไร?

งานนี้เราจะพาคุณไปเรียนรู้ความสำคัญของการพัฒนาอย่างยั่งยืนและการท่องเที่ยว
และทำความรู้จักกับคณะใหม่ของเอพิอู คณะที่จะพาคุณไปเปลี่ยนแปลงโลก

คลิกเพื่อลงทะเบียนฟรี!

APU New College:

College of Sustainability and Tourism (ST)* Webinar

June 19, 2022 13:00 - 14:45 (Thailand Time)

REGISTER HERE

**This program is currently under development. The name of the college is tentative, and all content is subject to change.*

This webinar will be conducted in both the English and Thai languages. The main content of the webinar is as follows:



The importance of education for Sustainability and Tourism (Thai)

— **Dr. Jitti Mungkalasiri**

Director, Technology and Informatics Institute for Sustainability, NSTDA
Thailand



The overview and concept of APU's College of Sustainability and Tourism (English)

— **Dr. Kubo Takayuki**

Professor and Associate Dean of APS (College of Asia Pacific Studies,
APU)

Specialized fields: Urban and Regional Planning, Economics, Policies



Getting to know APU & how to apply for APU scholarships (Thai)

— APU Thai Office

You can join from your computer, tablet or smartphone. If it's your first time using Zoom, we recommend you [download the application in advance here](#).

We look forward to seeing you online!



RITSUMEIKAN ASIA PACIFIC UNIVERSITY

APU Thailand Office

Room 1015, 10th Floor, Serm-mit Tower 159/16 Soi Asoke,

Sukhumvit 21 Road, Wattana, Bangkok 10110 Thailand

Tel: [+66-2-665-7145](tel:+6626657145)

admissions.apu.ac.jp

© 2022 Ritsumeikan Asia Pacific University

This email was sent to natkritatang@gmail.com by "APU Thailand Office" <thailand@apu.ac.jp>.

[Unsubscribe](#) from Ritsumeikan Asia Pacific University (APU).



Yanさん、6月22日開催の **A NEW APU 新学部 サステイナビリティ観光学部*** ウェビナーへご招待します！

日本からこんにちは！立命館アジア太平洋大学です。

APUがどんな大学かご存じですか？

2023年度はカリキュラム改革、学部が新設されるなどAPUは大きく生まれ変わります。このWebinarではAPUがどのように生まれ変わるのかをお伝えします。もっと知りたいという方、ぜひ以下のウェビナーにご参加ください！



A NEW APU 新学部 サステナビリティ観光学部* ウェビナー

- 日付:2022年6月22日(水)
- 時刻:16:00-17:00 日本時間
- テーマ:新学部 サステナビリティ観光学部*について
- 開催言語:日本語

* 2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。また学部名称は仮称です。

[参加登録はこちら](#)

パソコンやタブレット、携帯からご参加いただけます。ZOOMを初めて利用する方は、事前にこちらから [アプリケーションをダウンロード](#)してください。

ご不明な点があれば、[ウェブサイト](#)右下の「Help Chat」をご利用いただくか、[お問い合わせフォーム](#) よりご連絡ください。

立命館アジア太平洋大学

アドミッションズ・オフィス(国際)

〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1

 +81-977-78-1200



© 2022 Ritsumeikan Asia Pacific University

This email was sent to yan599372540@163.com by "APU International Admissions" <welcome@apu.ac.jp>. [Unsubscribe](#) from Ritsumeikan Asia Pacific University (APU).



Heydar, you're invited to the **A New APU: About the College of Sustainability and Tourism*** webinar on June 22, 2022!

Hello from APU in Japan!

Very soon, we are planning to open up the applications for our new college, the College of Sustainability and Tourism!*

Are you curious about the sort of things you can learn in our new college? Be sure to join us in our upcoming webinar! This webinar will be presented entirely by current students, and you're welcome to ask as many questions as needed.



A New APU: About the College of Sustainability and Tourism* Webinar

- **Date:** June 22, 2022 (Wednesday)
- **Time:** 6pm–7pm Japan Standard Time
- **Topic:** About the new College of Sustainability and Tourism*

*This program is currently under development. The name of the college is tentative, and all content is subject to change.

[Register Here](#)

You can join from your computer, tablet or smartphone. If it's your first time using Zoom, we recommend you [download the application in advance here](#).

If you have any questions, please contact us via the Help Chat on the bottom right of the [website](#) or via the [Inquiry Form](#) on our [Contact Us](#) page.

Ritsumeikan Asia Pacific University

Office of International Admissions

1-1 Jumonjibaru, Beppu, Oita 874-8577 Japan

 +81-977-78-1119



© 2022 Ritsumeikan Asia Pacific University

This email was sent to heydardeep@gmail.com by "APU International Admissions" <welcome@apu.ac.jp>. [Unsubscribe](#) from Ritsumeikan Asia Pacific University (APU).



Pichaya, you're invited to the **APU Q&A Session (for Thailand applicants)** on July 3, 2022!

Hello from APU in Japan!

Are you confused about your application to APU? Do you still have uncertainties, or are looking for advice on how to submit a good application?

Join the upcoming Q&A session for applicants from Thailand to get help from our admissions counselors directly!

Register below to save your spot!

This event will be conducted in Thai, and both English-basis and Japanese-basis applicants are welcome to attend!



APU Q&A Session (for Thailand applicants)

- **Date:** July 3, 2022 (Sunday)
- **Time:** 1pm—2:30pm Bangkok Time
- **Topic:** APU Application Tips and Advice

พิเศษสำหรับน้องๆ นักเรียนไทยที่สนใจสมัครทุนเอพียู
ขอเชิญลงทะเบียนเข้าร่วมงานตามวันและเวลาที่ระบุด้านล่างได้เลยค่ะ

Register Here
คลิกเพื่อลงทะเบียนฟรี!

You can join from your computer, tablet or smartphone. If it's your first time using Zoom, we recommend you [download the application in advance here](#).

If you have any questions, please contact us via the Help Chat on the bottom right of the [website](#) or via the [Inquiry Form](#) on our [Contact Us](#) page.

Ritsumeikan Asia Pacific University

APU Thailand Office

Room 1015, 10th Floor, Serm-mit Tower 159/16 Soi Asoke,
Sukhumvit 21 Road, Wattana, Bangkok 10110 Thailand

 +66-2-665-7145



© 2022 Ritsumeikan Asia Pacific University

This email was sent to pichichan.ss@gmail.com by "APU Thailand Office" <thailand@apu.ac.jp>. [Unsubscribe](#) from Ritsumeikan Asia Pacific University (APU).



Coming April 2023

A New APU

2023年4月APUの新たな挑戦

Hello from APU in Japan!

Thank you for your continued interest in APU.

The establishment of the new college, tentatively called the College of Sustainability and Tourism will expand learning opportunities amongst all undergraduate students and be an evolution for APU's education overall.

We would like to hear your opinions on the establishment of the new college.

The information received will be used as statistical data for the establishment of the "College of Sustainability and Tourism* (tentative name)" at Ritsumeikan Asia Pacific University.

Click [here](#) for more information about A New APU

Click [here](#) for the survey

*This program is currently under development. The name of the college is tentative, and all content is subject to change. If you have any questions, please contact us via the Help Chat on the bottom right of the website or via the Inquiry Form on our Contact Us page.

Thank you for your time and cooperation.

Sincerely,

Office of International Admissions

Ritsumeikan Asia Pacific University



Ritsumeikan Asia Pacific University

Office of International Admissions

1-1 Jumonjibaru, Beppu, Oita 874-8577 Japan

 +81-977-78-1119

© 2022 Ritsumeikan Asia Pacific University

This email was sent to heydardeep@gmail.com by "APU International Admissions" <welcome@apu.ac.jp>.

[Unsubscribe](#) from Ritsumeikan Asia Pacific University (APU).

2022年6月の企画 (統合データベースにより企画単位で管理)

June 2022

month week day > today

View Calendar List

Status

- All Events
- Confirmed
- Tentative
- Cancelled/Declined
- Full

Folders

All Folders

- ACE
- Admitted Student Events
- Fairs
- Graduate
- Imported Fairs
- Imported Info Sessions
- Imported School Visit
- Information Sessions
- Open Campus
- School Visit
- Templates
- Test
- VMUP

Users

Exclude archived
Include archived

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
30 E01536c IMPOR... #3 (3)	31 E01537 IMPOR... #1 (1)	1 4:00pm E01433 Global ... #17 (11) 6:00pm E01391 Global I... #82 (53)	2 5:00pm E01502 IMPOR... #39 (39)	3 4:00pm E01528 IMPOR... #2 (2) 4:00pm E01529 IMPOR... #1 (1)	4 2:00pm E01469 IMPOR... #48 (28)	5 6:30pm E01467 IMPOR...
6 1:00pm UK3 Inquiry Cor... #1	7 10:00am E01499 JMW... #26 (29)	8 6:00pm E01392 Global ... #230 (99)	9 5:00pm E01508 IMPOR... #16 (16)	10 4:00pm E01528 IMPOR... #2 (2) 4:00pm E01529 IMPOR... #1 (1)	11 E01473 IMPOR TIC AS... #43 E01533 IMPOR Korea ... #1 (1) E01534 IMPOR Korea ... #1 (1)	12
13 E01533 IMPOR... #3 (3)	14 E01534 IMPOR... #3 (3)	15 E01535 IMPOR... #5 (5) E01491 Global ... #47 (30) E01395 Global ... #111 (156)	16 3:30pm E01508 IMPOR... #16 (16)	17 12:50pm E01510 IMPOR... #16 (16)	18 1:00pm E01481 Thailan... #53 (22)	19
20 E01536 IMPOR... #3 (3)	21 8:30am E01497 Thailan... #17 (17)	22 4:00pm E01434 A NEW ... #16 (13) 6:00pm E01396 Global ... #143 (56)	23 4:00pm E01460 Global ... #248 (64)	24 4:00pm E01460 Global ... #248 (64)	25 12:30pm E01505 IMPOR... #74 (30) 2:00pm E01503 CHOC C... #17 (4) 2:45pm E01504 Cambou... #14 (4)	26 1:00pm E01501 Vietna... #74 (30) 6:00pm E01489 日本通... #74 (30)
27 10:00am E01517 Japan ... #3 (3) 12:40pm E01498 Thaila... #16 (16)	28 E01511 India APP x U... #24 (24) 4:00pm E01538 Malay... #16 (16)	29	30	1	2	3

① 6月19日 本学部説明会 タイ 英語・タイ語開催企画
② 6月22日 本学部説明会 全世界 日本語開催企画
③ 6月22日 本学部説明会 全世界 英語開催企画

イベント管理画面 (6/22実施 全世界対象・サステイナビリティ観光学部説明会ウェビナー)

統合データベースの名称

イベント名称や開催日を表示

E01396 Global New APU ST Webinar

A New APU: About the College of Sustainability and Tourism* Webinar
 Wednesday, June 22, 2022 at 06:00 PM until 07:00 PM (Tokyo Standard Time UTC +09:00)

tempster
 Customizable International Examinations Event - Webinar
 Information Sessions / global

User CONFIRMED
 Status Person
 Scope
 URL <https://apub.admissions.apu.ac.jp/register/newcolleges20220622> Edit URL
 Documents Edit Documents
 Online Connect

Registrants (143) Launch Check In
 Attendees: 36 (No shows: 87)

Registered Canceled All Registrants Outreach

Registrar
 New Registration

ここに、イベントに事前申し込みした者の氏名が表示される。

Payment Due	Status	Submitted ▲
	Attended	06/22/2022
	No Show	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	No Show	06/22/2022
	No Show	06/22/2022
	Attended	06/22/2022
	Attended	06/22/2022

出欠管理

jans.apu.ac.jp/manager/Form/responseId=6e7ae6cd-5360-4923-a989-b6e4502a311d

2022年4月以降に取得した高校生・既卒生情報の件数（企画単位での取得数、志願に移行した登録者数等）

【2022/4/1～】新規登録者：Origin Source → First Source for New Person Records from April 1, 2022

The list below includes records with either a **UG Program of Interest** or a **UG 2023 application**. (Does not include 2022 applications submitted after April 1, 2022.)

Metric	New Prospects/Inquiries	Application Started	Application Submitted	Enrolled
New UG Records Created from April 1, 2022: First Source / Source Type Summary				
Total	7,617	415	44	
Event - External/Imported	5,826	2		
(Old) Imported External Online Fair as Interaction	3,890	2		
Imported Event	1,769			
(Old) Imported External Fair as Interaction	167			
Event - APU	1,252	50	9	
Recruiting Event	743	38	4	
ACE	412	12	5	
(Old) Imported External School Visit as Interaction	74			
(Old) Imported APU Event UG Registration as Interaction	23			
Application	351	351	34	
Application Created	351			
Form	188			

企画単位での個人情報取得数

志願に移行した登録者数

アプリケーション (志願) システム (志願入力～出願までのプロセス管理)

2023 UG Applications/Enrollment Total

Click below for breakdown. Ordered by highest number of Completed Applications (column 2).

Metric	Applications Started	Completed Applications	Completion Rate	Admitted	Admit Rate	Enrolled	Yield Rate
Applications Overview / UG Enrollment Semester / Language Basis / Country/Region							
Total	495	50	10.1%		%		%
APM	209	27					
April 2023	163	17					
UGB	127	17					
UGJ	4						
September 2023	46						
UGB	46	10					
China	10	10					
Bangladesh	2						
Botswana	1						
Ghana	1						
India	4						
Indonesia	6						
Myanmar	1						
Nigeria	3						
Pakistan	1						
Philippines	2						
Taiwan	1						
Thailand	3						
United States	3						
Uzbekistan	1						
Vietnam	3						
Zambia	1						
APS	286	23	8%		%		%
April 2023	216	20	9.3%		%		%
September 2023	70	3	4.3%		%		%
Applications by Enrollment Semester							
	Applications Started	Completed Applications		Admitted		Enrolled	

- 2023学部生志願～入学までのプロセス管理
- ・ 希望学部
- ・ 入学希望時期：2023春/2023秋
- ・ 英語基準での入学/日本語基準での入学
- ・ 在住国 . . . など

[資料 12] 立命館アジア太平洋大学
海外の高校教員、学校カウンセラーを対象としたアンケート調査報告書

1) 調査概要

- 調査対象 : 立命館アジア太平洋大学と入試や学生募集活動に何らかの関わりがあり、本学からのメール配信を承諾している海外の高校教員、学校カウンセラー
- 調査期間 2021（令和3）年11月～2022（令和4）年1月
- 回答 42人
- 調査方法 サステイナビリティ観光学部の詳細資料および Web アンケートへの遷移先を記載したメールを送り、任意でアンケートを実施
- 調査時に明示した事項 開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所
- 使用言語 日本語、英語
* 質問項目は日英で提示し、回答者が言語を選択して回答。
本報告書は英語での回答は和訳して集計を行った。
- 質問項目
 - 問1：あなたの属性をお答えください。
住んでいる国を教えてください。
あなたの国籍を教えてください。
 - 問2：あなたの国では、ニュースレターに示す学問が必要であると思いますか？
 - 問3：問2でそのように回答された理由について教えてください。
 - 問4：ニュースレターをみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか
 - 問5：問4でそのように回答された理由について教えてください。
 - 問6：ニュースレターをみて、あなたの国の受験生に設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。
 - 問7：あなたの国の受験生に APU や新学部を志願いただくために、今後 APU で立地条件や奨学金以外でどのような工夫が必要と思われますか。
 - 問8：その他、自由にご意見をお寄せください。

2) 調査結果のまとめ

◆回答を得た海外の高校教員、学校カウンセラーの基本情報

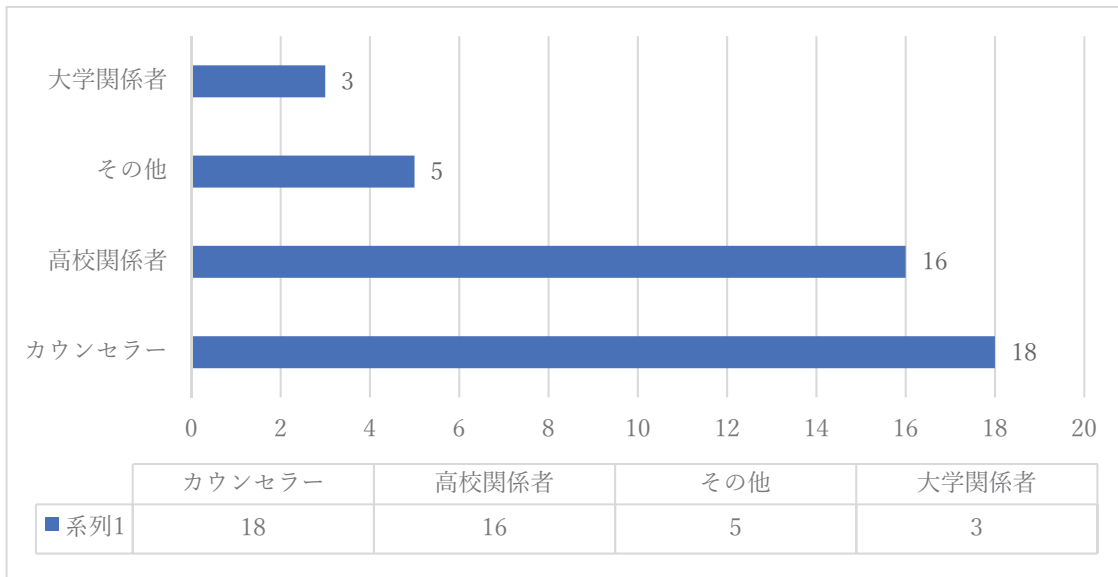
今回、「海外の高校教員、学校カウンセラーを対象とした調査」では19カ国42人から回答を得た。主に、生徒の進路や学校生活全般に関わりのあるカウンセラーが18人、高校教員などが16人であった。

◆本学部の必要性

本学部の必要性について、32人が「必要だと思う」と回答し、8人が「どちらかと言うと必要と思う」と回答し本学部の学びが幅広い国・地域で需要があることが判明した。また、記述式の回答内容からも大学全体の特徴である多文化協働学修など大学全体への期待とともに持続可能な社会の形成や観光を学ぶ点が支持され、需要の高さもうかがえた。

3) 集計結果

問1. あなたの属性をお答えください。(居住国、国籍はアルファベット順)



・住んでいる国を教えてください。

Australia	2
Bangladesh	6
China	3
Costa Rica	1
Ghana	1
India	5
Indonesia	5

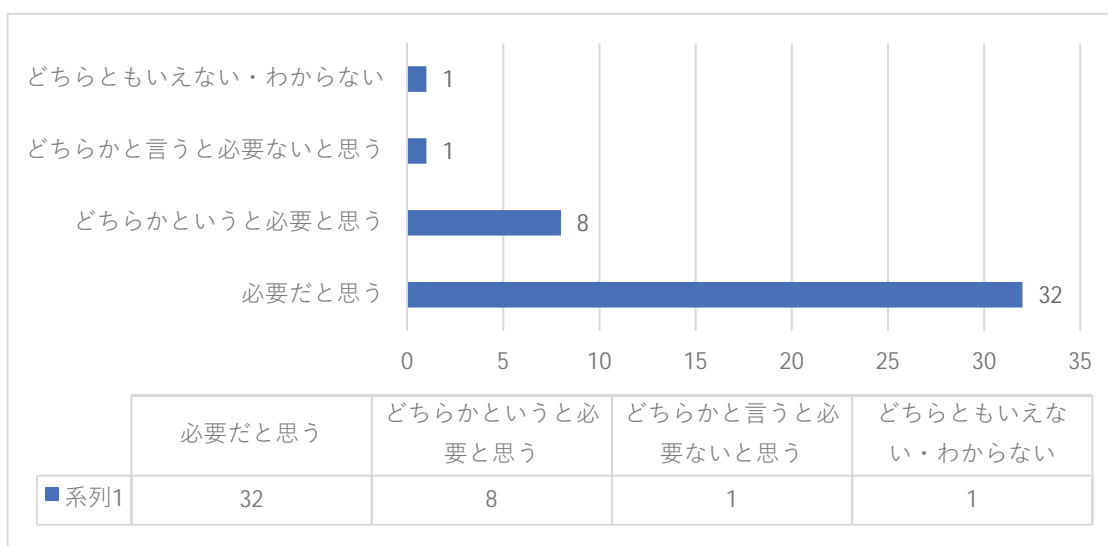
・あなたの国籍を教えてください。

Australia	3
Bangladesh	4
China	2
Costa Rica	1
France	1
Germany	1
Ghana	1

Japan	3
Kenya	2
Korea	1
Malaysia	2
Mexico	1
Mongolia	1
Nepal	2
South Africa	1
Sri Lanka	2
Taiwan	1
Thailand	2
Zimbabwe	1

India	5
Indonesia	5
Japan	1
Kenya	1
Malaysia	2
Nepal	2
Romania	1
South Africa	1
Sri Lanka	1
Taiwan	1
Thailand	1
Uganda	2
United States	5
Zimbabwe	1

問2. あなたの国では、ニュースレターに示す学問が必要であると思いますか？（①アジア太平洋学部 ②国際経営学部 ③サステナビリティ観光学部それぞれについて質問） ※③のサステナビリティ観光学部への回答のみ記載

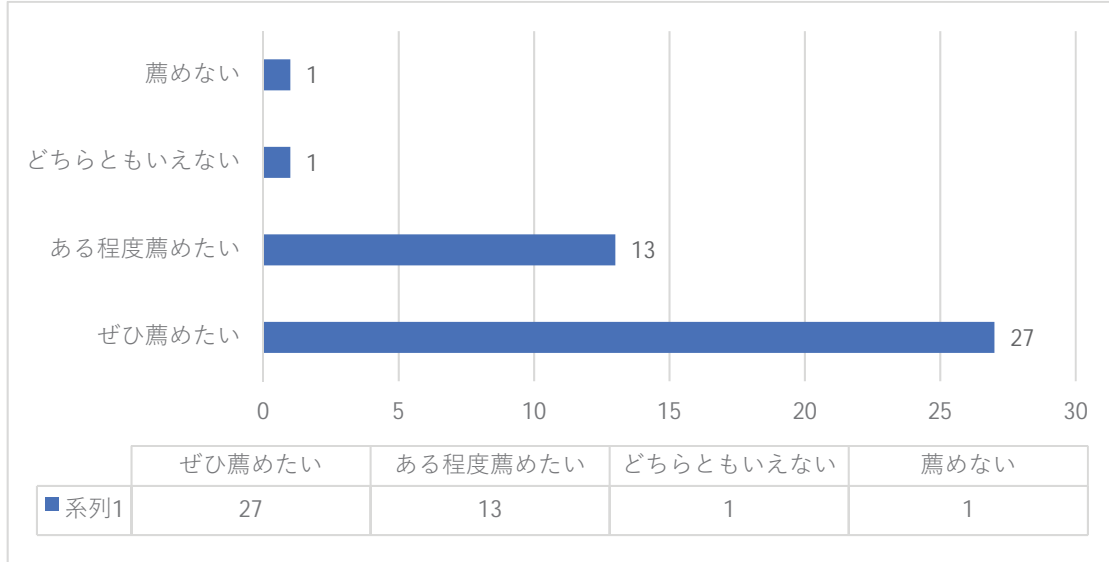


問3. 問2でそのように回答された理由について教えてください。

- ・観光に対する視点が他の大学にはあまり見られないものだと思うから
- ・観光は経済活動の維持に最良の産業だと思うから

- ・「持続可能性」は重要な概念だと思うから

問4. ニュースレターをみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか



問5. 問4でそのように回答された理由について教えてください。(一部抜粋)

- ・APUが教育方法やカリキュラムの開発において、先進的であると思っているから
- ・確実に観光を志す学生の選択肢になる
- ・新学部に期待しているから

問6. ニュースレターをみて、あなたの国の受験生に設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。(一部抜粋)

- ・多文化共生や学生同士の交流、グローバルな問題を取り扱う点
- ・学生にとって地域や世界の問題に関連する内容が学べる点
- ・「社会のために何かしたい」という夢を持った学生に社会をより良くするための一つの方法を提供できる点

問7. あなたの国の受験生にAPUや新学部を志願いただくために、今後APUで立地条件や奨学金以外でどのような工夫が必要と思われますか。(一部抜粋)

- ・地域の課題に対応したコースを提供すること
- ・政府機関や民間企業に就職できること
- ・日本文化について学べるイベントの実施

問8. その他、自由にご意見をお寄せください。(一部抜粋)

※新学部や大学、教学内容に関する記述は無し

海外の高校教員、学校カウンセラーを対象としたアンケート調査：質問項目

質問内容/Questions
<p>Q1. Please tell us about yourself. affiliation? (single-select) High school, School counselor, University Officials ,Other () Country or Region of Residence Primary Citizenship</p>
<p>Q2. Do you think that the disciplines within each college at APU, as described in the newsletter, are needed in your country or region?</p> <p>①College of Asia Pacific Studies -APS:</p> <p>1 : Necessary 2 : Rather necessary 3 : Not very necessary 4 : Not necessary 5 : Neither/I don't know 6 : Other</p> <p>②College of International Management -APM</p> <p>1 : Necessary 2 : Rather necessary 3 : Not very necessary 4 : Not necessary 5 : Neither/I don't know 6 : Other</p> <p>③College of Sustainability and Tourism</p> <p>1 : Necessary 2 : Rather necessary 3 : Not very necessary 4 : Not necessary 5 : Neither/I don't know 6 : Other</p>
<p>Q3. Please share a reason for your answer above(Q2)</p> <p>① College of Asia Pacific Studies -APS: _____</p> <p>② College of International Management -APM: _____</p> <p>③ College of Sustainability and Tourism: _____</p>

<p>Q4. After reading the newsletter, would you recommend APU's new college to prospective students?</p> <p>1: Highly likely 2: Would recommend to some extent 3: Rather not recommend 4: Would not recommend 5: None of the above/I don't know 6: Other: _____</p>
<p>Q5. Please share a reason for your answer above(Q4)</p>
<p>Q6. After reading the newsletter, what aspects of the vision of establishing the new college do you think will be attractive to prospective students in your country?</p>
<p>Q7. Apart from location and scholarships, what do you think APU must do to attract applicants from your country or region to our new or existing colleges?</p>
<p>Q8. Please share any additional comments below.</p>

質問内容/Questions
<p>問1：あなたの属性をお答えください。</p> <p>高校関係者・カウンセラー・大学関係者・その他（ ）</p> <p>●住んでいる国を教えてください。（プルダウン）</p> <p>●あなたの国籍を教えてください。（プルダウン）</p>
<p>問2：あなたの国では、ニュースレターに示す学問が必要であると思いますか？</p> <p>①APS ②APM ③新学部それぞれに以下の選択肢を設定</p> <p>1：必要だと思う</p> <p>2：どちらかという必要と思う</p> <p>3：どちらかと言う必要ないと思う</p> <p>4：必要ではないと思う</p> <p>5：どちらともいえない・わからない</p> <p>6：その他</p>
<p>問3：問2でそのように回答された理由について教えてください。</p> <p>④ College of Asia Pacific Studies （ ）</p> <p>⑤ College of International Management （ ）</p> <p>⑥ College of Sustainability and Tourism （ ）</p>
<p>問4：ニュースレターをみて、設置構想中の新学部を受験生に薦めたいと思いますか</p> <p>1：ぜひ薦めたい</p> <p>2：ある程度薦めたい</p> <p>3：どちらともいえない</p> <p>4：あまり薦めない</p> <p>5：薦めない</p> <p>6：その他</p>
<p>問5：問4でそのように回答された理由について教えてください。</p>
<p>問6：ニュースレターをみて、あなたの国の受験生に設置構想中の新学部のどの点が魅力に映ると思いますか。</p>
<p>問7：あなたの国の受験生にAPUや新学部を志願いただくために、今後APUで立地条件や奨学金以外でどのような工夫が必要と思われますか。</p>

問8：その他、自由にご意見をお寄せください。

Purpose for establishing the new college

Responding to social conditions as well as academic reforms to strengthen fields where APU's strengths can be utilized.

*Planned for April 2023. °

World-level and community-level challenges

- Sustainability issues for human society, such as resource depletion, environmental pollution, and climate change
- Social changes due to the growth of the tourism industry, environmental and social burdens due to over tourism, etc.
- Regional revitalization in globalization

To respond to social conditions

- Education and research on sustainable society
- Education and research on sustainable tourism
- Theory and practice to form a sustainable community with the three pillars of environment, society, and economy
- Building a society that can meet the needs of future generations and those living in the present at the same time is a need for young people and is a "realistic goal."

Taking advantage of APU's strengths, responding as a new college

Taking advantage of APU's features, including achievements in education and research in environmental studies, development studies, tourism studies, etc. the location of Beppu, and students from 95 countries/regions, APU will respond to social demands by developing a new college

38



*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. °

New College Concept

Mission

Our college adheres to APU's core values of freedom, peace, humanity and international understanding towards shaping the future of the Asia Pacific region. Our faculty and students form the **community of scholar-practitioners**, who employ scholarly knowledge and innovative research to solve contemporary issues and global challenges in sustainable development and tourism.

Human Resource Development Goals

The purposes of the College of Sustainability and Tourism is to develop human resources who can **cope with various challenges** and act responsibly as a global citizen by gaining a **cross-disciplinary understanding of society and regions, acquiring basic and specialized knowledge on the sustainable society and tourism**, and learning logical and critical thinking, qualitative and quantitative analysis, problem solving, and communication and collaboration in a cross-cultural environment through curriculum based on sociology in **collaboration with various social actors** both on and off campus.

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. °

College of Sustainability and Tourism

*Planned for April 2023. Since the plan is underway, it is subject to change. The college name is tentative. °

37

Name

サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

Degree

学士 (サステイナビリティ観光学)
Bachelor of Sustainability and Tourism

Intake Capacity

350

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept. The installation plan is subject to change. The name of the faculty is tentative. °

39

New College Overview

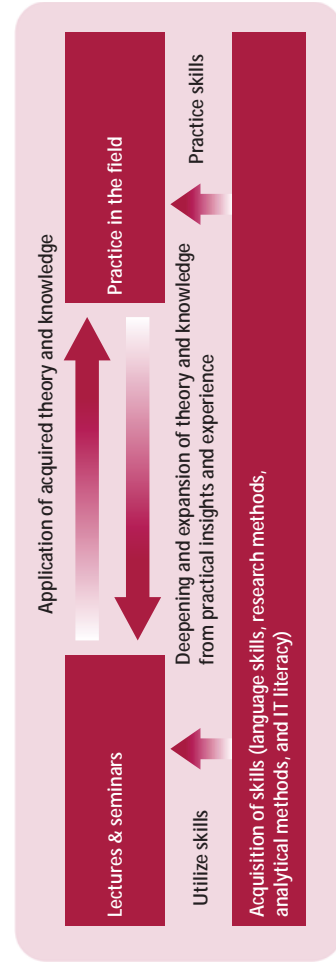
Teaching Content Specialized subject group of social sciences

With 9 concentrations, curriculum that corresponds to the careers that students want to pursue and the knowledge and skills they want to acquire

Concentration	Contents
環境学 Environmental Studies	Scientific fundamentals such as nature, society, economy, and education
資源マネジメント Resource Management	Focuses on a recycling-oriented society, energy, and climate change
国際開発 International Development	Top level learning of international development available in Japan, with sustainable development covered alongside with environment.
観光学 Tourism Studies	Fundamental tourism related to the economy and society as well as history and culture
観光産業 Tourism Industry Operations	Tourism industry analysis, new product creation, and marketing
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	Focuses on hotels and resorts
地域づくり Regional Development	Sustainable development and tourist area design
社会起業 Social Entrepreneurship	Social entrepreneurship and project management
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICT and its applications

Teaching Methods Evolving from lecture-based education

- Developing Academic-Practitioners (Scholar-Practitioners) equipped with an understanding of both theory and practice
- All students will engage their studies through a combination of lectures and seminars, practice in the field, and the acquisition of skills.



System course, skill requirement, small class

Category	Point of View
Common Education Subjects	To acquire the knowledge and methodology that are the basis of the specialty, and to provide subjects that enable the acquisition of a wide range of viewpoints, ways of thinking and knowledge necessary for the human resources development that this university is aiming for. As subjects related to this college, Introductions to Sustainable Development, Tourism, Sociology, and Statistics for Social Science will be assigned as compulsory subjects.
Language	Japanese basis students are assigned English and English basis students are assigned Japanese. The subjects and credits required differ depending on the level of the students at the time of entrance. In addition to compulsory subjects, higher-level subjects will be allocated as elective subjects.
Academic Skills	The subjects of academic skills necessary for studying this department will be allocated. Introduction to Research Methods and Critical Reading / II are placed as required subjects, and Qualitative Research Methodology is placed as an elective subject.
Seminar, Final Results	Subjects for three-year and four-year seminars, and subjects for achieving final results are allocated. The major Seminars are automatically registered. The Final Result will be a graduation project or a capstone.
Off-Campus Program	Courses including practical training outside the school. Students have to complete at least 1 subject with 2 credits.
Major Subjects	Assign subjects in areas of importance as a means to solve problems common to both tourism and sustainable society.
Common	Introduce courses that teach cutting-edge research in the fields of tourism and sustainable society.
Tourism	Major subjects in the field of tourism are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.
Sustainable Society	Major subjects in the field of sustainable society are allocated. Students must complete at least 5 subjects with 10 credits.

Teaching Method Off-Campus Study

Three types of off-campus studies are available, “field study”, “specialized internship”, and “specialized training” depending on the purpose and period. Students studying in the new faculty are required to do one of these.

Examples of Field Studies

- Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (Italy, Spain)
- Roles and activities of international organizations (Switzerland, France, Tokyo)
- Sustainable Regional Value Creation: Survey in Iida City, Nagano Prefecture (Nagano Prefecture)

Collaborations with institutions and companies

Performance-based (planned to be further developed in the future)

- International Organizations (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAO, etc.)
- Corporate collaboration (InterContinental Hotel, Suginoi Hotel, Japan Airlines, All Nippon Airways, Oita Godo Shinbun, Oita Bank, etc.)
- Fieldwork in Japan and overseas (Shanghai, Seoul, Stockholm, Canada, Vancouver, Oita/Bepu, National East World Agricultural Heritage, Kitakyushu, Arita Town, Saga Prefecture, Aso Kuju National Park, Ministry of the Environment, etc.)



Possible career paths

- CSR and ESG divisions from industries, general companies, and organizations related to forming a recycling-oriented society, preventing global warming, and conserving natural environment
- Tourist businesses (i.e. hotels, inns, and restaurants), and service businesses (i.e. wholesalers and retailers)
- Companies and organizations involved in community and regional development
- International, public, and non-governmental organizations
- Starting a business after going to graduate school

*Planned for April 2023, the installation plan is under concept.⁴⁵



APUで学んだ人たちが世界を変える
APU Graduates possess the power
to change our world

サステイナビリティ観光学部

College of Sustainability and Tourism

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。37

新学部開設の趣旨

世界レベルやコミュニティレベルの課題

- 資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- 観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- グローバリゼーションの中の地域再生

社会のニーズ

- 持続可能な社会に関する教育・研究
- 持続可能な観光に関する教育・研究
- 環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な地域社会を形成する理論と実践
- 将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは若者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かして、新学部として対応

これまで培った環境学、開発学、観光学等の教育研究実績、別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

38

社会情勢への対応
 × **APUの強みが活かせる分野を強化する**
教学改革

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む**学問的実務家** (Scholar-practitioner) のコミュニティを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよび**キャンパス内外**における様々な社会と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な**分析・問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身に付けることで、様々な**社会課題に対処**でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

*2023年4月設置構想中。



学部・学科
名称
サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

学位名称
学士（サステイナビリティ観
光学）
Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想中のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

39

新学部の概要

カリキュラム設計－系統履修、スキル必修、小人数クラス

科目区分	
共通教育科目	<p>日本語教育科目</p> <p>言語教育科目</p> <p>アカデミック・スキル科目</p> <p>演習・最終成果科目</p> <p>コアキヤンパス・プログラム科目</p> <p>学部共通科目</p> <p>観光学分野科目</p> <p>持続可能な社会分野科目</p>
専門科目	<p>地域づくり</p> <p>社会起業</p> <p>学際研究</p> <p>観光学</p> <p>観光学</p> <p>観光学</p> <p>ホスピタリティ産業</p> <p>観光学</p> <p>国際開発</p>

考え方

日本専攻学生は英語も、英語専攻学生は日本語を配課する。必修として課する科目・単位は入学時のレベル決定により異なる。必修以外には、選択科目としてより高いレベルの科目等を配課する。

専門の基礎となる知識や方法論を身につけること、および本学が目指す人材育成の目的に必要な幅広いものの見方、考え方、知識を修得できる科目をバランスよく配課する。

本学部に関連する科目として、**持続可能な開発入門、観光学入門、社会学入門、社会学のための統計学**を必修科目として配課する。(ほか：SAW/MQW(ITリテラシー))

本学部を学修する上で必要なアカデミック・スキルの科目を配課する。必修科目として社会学法入門、文献調査Ⅰ、文献調査Ⅱを、選択科目として質的分析法を配課する。

3年次・4年次の演習科目、および最終成果を要する科目を配課する。3年次演習は必修とする必要のある履修指定科目とする。

最終成果は卒業プロジェクト、キャリアポートフォリオを配課し、どちらかを選択必修とする。

学外における実習を含む科目を配課する。1科目2単位以上を選択必修とする。

観光および持続可能な社会の両分野に共通する、課題解決のための手法として重要な分野の科目を配課する。

観光および持続可能な社会の分野における最先端の研究などを教授する科目を配課する。

観光学分野の専門科目を配課する。5年目10単位以上を選択必修とする。

観光学

国際開発

持続可能な社会分野

観光学

国際開発

*2023年4月設置構想中。

教育内容－文理融合の専門科目群

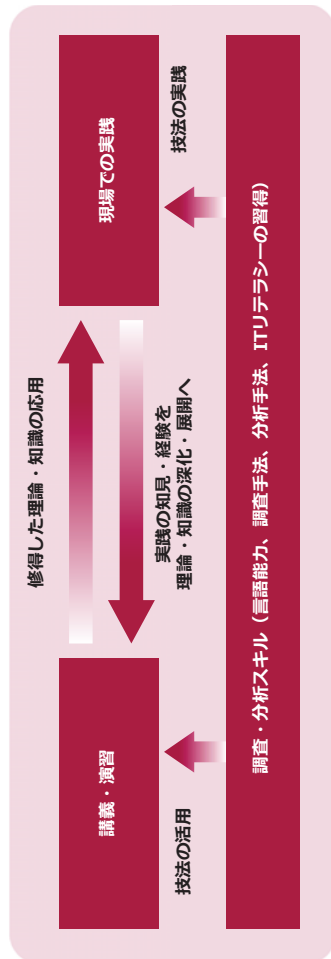
9つの専門領域から、学生自身が希望するキャリア・修得したい知識・能力に応じて、組み合わせさせて学ぶ

科目群 (コンセプトレーション)	内容
環境学 Environmental Studies	自然、社会、経済、教育など、学術基礎
資源マネジメント Resource Management	循環型社会、エネルギー・気候変動などを中心
国際開発 International Development	学部教育では国内でもトップレベルの国際開発が学べる環境と組み合わせることで持続可能な開発をカバー
観光学 Tourism Studies	経済、社会、歴史、文化などに関係する観光の基礎
観光産業 Tourism Industry Operations	観光産業の分析、新製品創出、マーケティング
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	ホテルやリゾートにフォーカス
地域づくり Regional Development	観光地を中心とした地域の持続可能な開発・デザイン
社会起業 Social Entrepreneurship	社会起業、プロジェクトマネジメント
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICTとその応用

*2023年4月設置構想中。

教育方法－特徴的な学び方

- 「理論」と「実践」を併せ持つ「Scholar-Practitioner」の育成
- 教育手法：すべての学生が、「講義・演習」「現場での実践」「調査・分析スキル」を組み合わせて学修



*2023年4月設置構想中。

教育方法－学外での学び Off-Campus Study

目的や期間に応じて、「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」「専門実習(プラクティカム)」という3種類の学外学修を用意。新学部で学ぶ学生は、この内のいずれかを必修。



フィールドスタディの事例

- ・ Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes (実習地: イタリア、スペイン)
- ・ 「国際機関の役割と活動」 (実習地: スイス、フランス、東京)
- ・ 「持続可能な地域の価値づくり: 長野県飯田市における調査」 (実習地: 長野県)

機関・企業との連携事例・活動事例 ※実績ベース (今後さらに開拓予定)

- ・ 国際機関 (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAOなど)
- ・ 企業連携 (インターコンチネンタルホテル、杉乃井ホテル、日本航空、全日空、大分合同新聞社、大分銀行など)
- ・ 国内外のフィールドワーク (上海、ソウル、ストックホルム、カナダ、バンクーバー、大分・別府、国東世界農業遺産、北九州、佐賀県有田町、阿蘇くじゅう国立公園・環境省など)

*2023年4月設置構想中。

想定する進路・就職

- 環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- 観光産業やサービス業
- まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- 国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- 大学院進学、社会起業



[資料13 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科 学生納付金]

国内他大学の学生納付金					
設置区分	大学名	学部・学科	初年度合計(円)	入学金	授業料等
私立	立教大学*	観光学部・観光学科	1,321,000	200,000	1,121,000
私立	東洋大学*	国際観光学部・国際観光学科	1,250,000	250,000	1,000,000
私立	東海大学*	観光学部・観光学科	1,427,000	200,000	1,227,000
私立	國學院大學*	観光まちづくり学部・観光まちづくり学科	1,300,000	240,000	1,060,000
私立	東海大学*	教養学部・人間環境学科	1,469,000	200,000	1,269,000
私立	法政大学	人間環境学部・人間環境学科	1,299,000	240,000	1,059,000
公立	大阪成蹊大学	国際観光学部・国際観光コース	1,410,000	250,000	1,160,000
公立	東京都立大学	都市環境学部・観光科学科	802,800	282,000	520,800
私立	長野大学	環境ツーリズム学部・環境ツーリズム学科	1,063,000	423,000	640,000
国立	和歌山大学	観光学部	817,800	282,000	535,800
公立	国際教養大学*	国際教養学部	1,119,000	423,000	696,000
私立	国際基督教大学*	教養学部	1,731,000	300,000	1,431,000
私立	上智大学*	国際教養学部	1,490,650	200,000	1,290,650
私立	立命館大学*	国際関係学部	1,467,600	200,000	1,267,600
私立	西南大学*	国際文化学部	1,160,000	200,000	960,000
海外大学の授業料等					
(2022年3月1日時点の仲値レートで換算。1ドル=115.28円、1ポンド=154.73円 小数点以下切り捨て)					
州立	University of MICHIGAN (アメリカ) *	SCHOOL FOR ENVIRONMENT AND SUSTAINABILITY	\$ 48,542 (≒5,595,921円)		
公立	University of Surrey (イギリス) *	International Hospitality and Tourism Management	£ 20,950 (≒3,241,593円)		
公立/私立	Cornell Univsity (アメリカ) *	Peter and Stephanie Nolan School of Hotel Administration	\$60,286 (≒6,949,770円)		

*は2022年度の学生納付金、*以外は公開されている最新の学生納付金情報

学校法人立命館 御中

大学新学部設立に向けた調査(採用担当者)
調査報告書

2022年2月8日

合同会社 オンサイドマーケティング

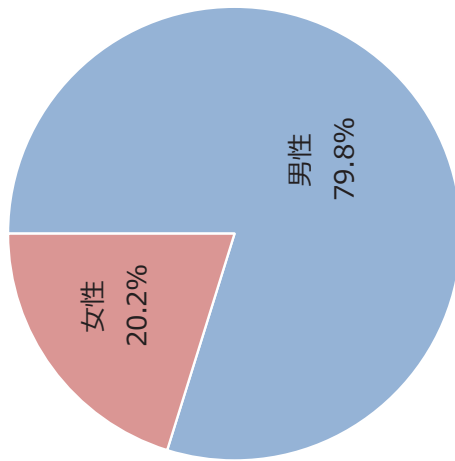
■ 調査概要

- 調査目的 : 新設する学部に対する企業側の必要性を把握する。
①新学部は企業から必要だと感じられるか。
②新学部出身者を企業は採用したいと感じるか。
- 調査対象 : マクロミルモニタ 20～59歳 男女
- 調査地域 : 全国
- 調査方法 : インターネットリサーチ
- 調査時期 : 【事前調査】 2022年1月5日 (水) ～1月7日 (金)
【本調査】 2022年1月7日 (金) ～1月9日 (日)
- 有効回答数 : 【事前調査】 9,909サンプル (全国 20～59歳 男女)
【本調査】 515サンプル
(従業員規模が50名以上の企業に勤めている、採用活動関係者)
- 調査実施機関 : 合同会社オンサイドマーケティング

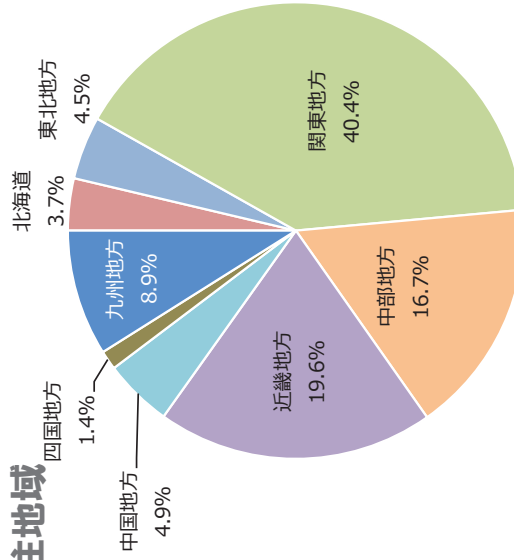
調査対象者属性

■ 本調査対象者 (n=515) の属性①

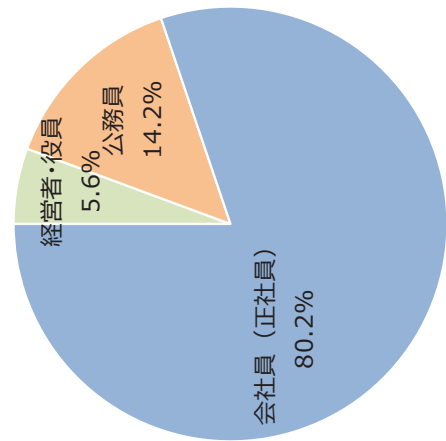
■ 性別



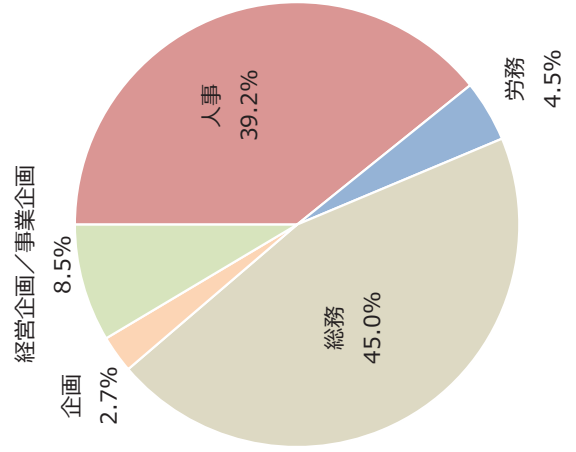
■ 居住地域



■ 職業



■ 職種



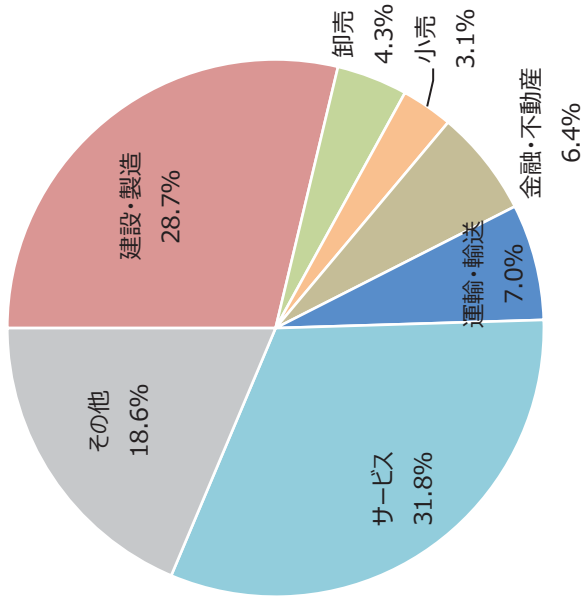
■ 本調査対象者 (n=515) の属性②

■ 業種 (中分類)

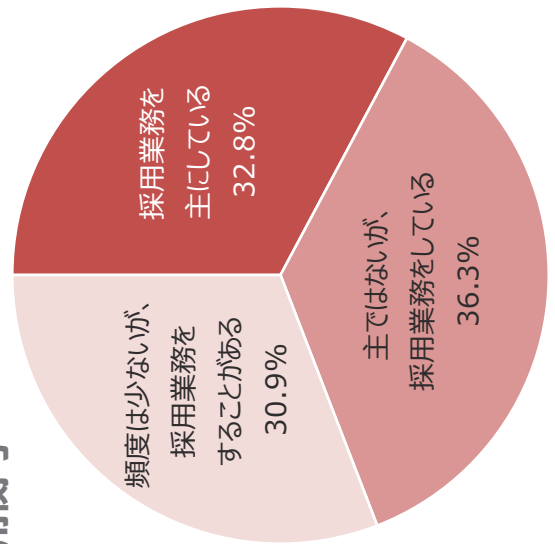


■ 本調査対象者 (n=515) の属性③

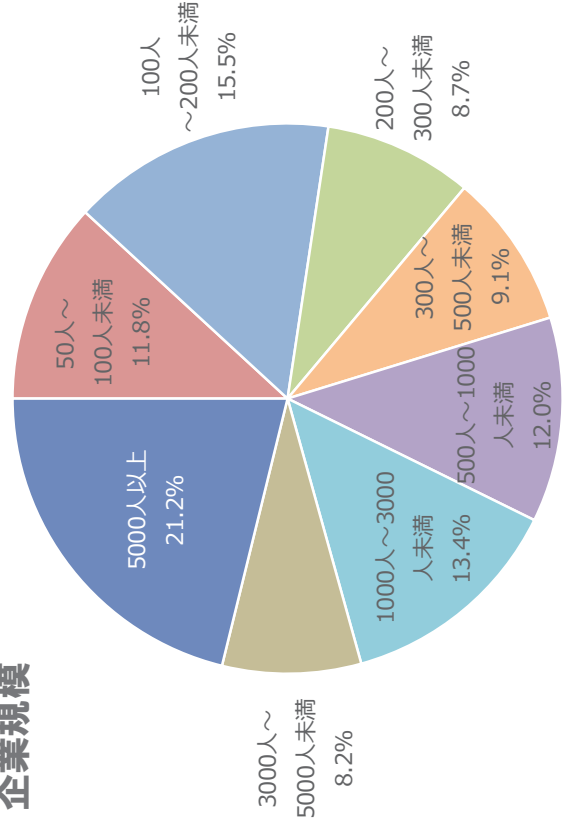
■ 業種 (大分類)



■ 採用関与



■ 企業規模



調査結果【要約】

【総括】

新学部に対する社会的必要性、また卒業生に対する採用意向について検証すべく外部機関である、合同会社オンサイトマーケティング(所在地：東京都三鷹市)が調査を実施した。

調査の方法は、前頁の通り規模が50名以上の企業で採用活動に関与している層を対象としたインターネットリサーチによる。調査期間について、

事前調査 : 2022年1月5日(水)～1月7日(金)
 本調査 : 2022年1月7日(金)～1月9日(日) に行った。

【社会的必要性について】

本調査回答者515名(属性は前頁)のうち、**本学部の社会的必要性**について「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」と回答したのは**全体の58.4% (301名)**。

また、採用の担当者(169名)に限定すると、69.2%(117名)が本学部の設置を必要としている。過半数以上が必要性を感じていることから、**新学部の社会的必要性は認められている**といえる。

【卒業生の採用意向について】

新学部を卒業した学生を採用する可能性を尋ねた結果、全体では「是非採用したい」「採用を検討したい」を合わせて**31.5% (162名)**。「人柄・採用条件さえ合えば採用を検討したい」を含めると**73.0% (376名)**が**本学部の卒業生に対して採用意向を示している**。

また、採用の担当者(169名)に限定してすると、**TOP2では49.7% (84名)**、**TOP3では81.1% (137名)**が本学部の卒業生に対して採用意向を示しており、**採用関与度が高い層の需要が高い**。

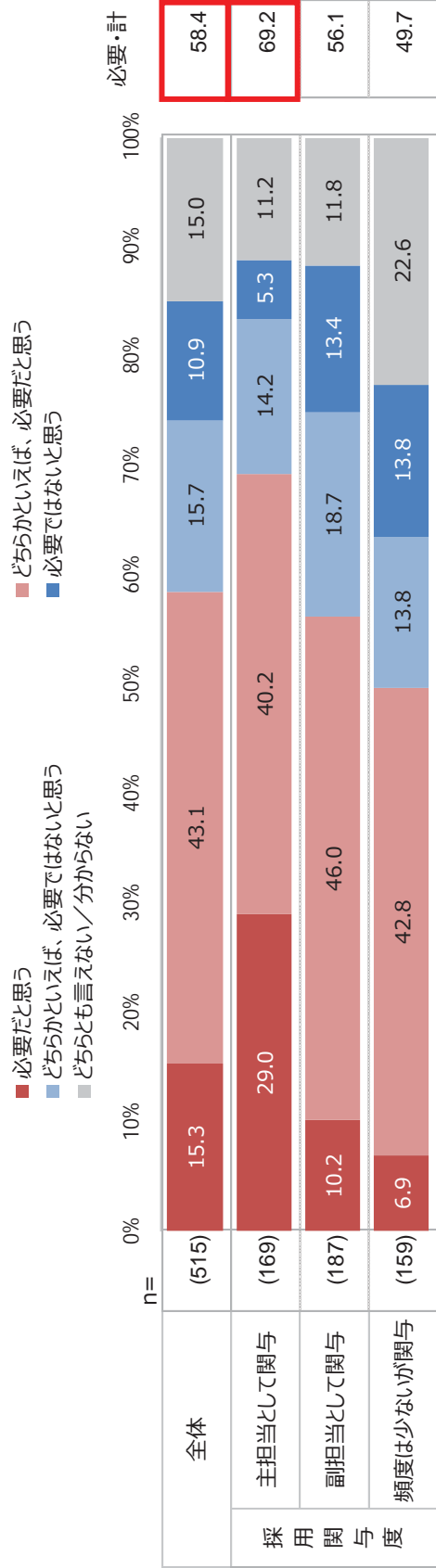
1. 新学部の社会的必要性

インターネットリサーチからみられる新学部に対する社会的必要性は、次の通りである。

■ 社会的必要性について

回答者515名（属性は前頁）全体で「必要だと思う」「どちらかといえば必要だと思う」を合わせ**本研究科の必要性について58.4%（301名）が必要と考えている。**

さらに、採用の主担当者（169名）に限定して集計すると**69.2%（117名）が本学部の設置を必要としており、採用関与度が高い層からの評価が高い。**



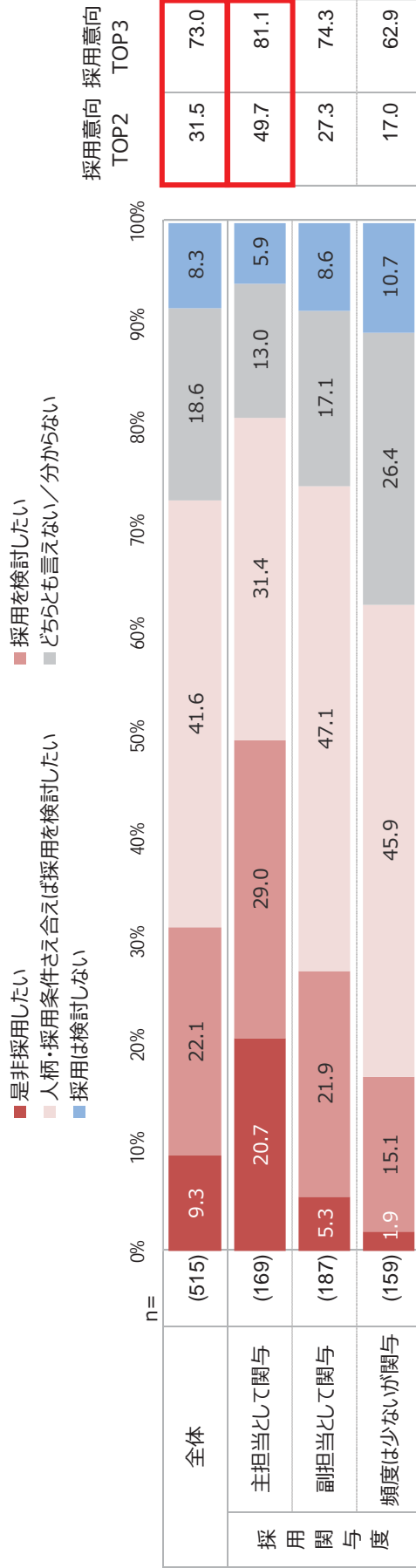
2. 新学部の卒業生採用意向

インターネットリサーチからみられる新学部の卒業生採用意向は、次の通りである。

■ 卒業生採用意向について

回答者515名(属性は前頁)に対して本学部を卒業した学生を採用する可能性を尋ねた結果全体で「是非採用したい」「採用を検討したい」を合わせて**31.5% (162名)**、「人柄・採用条件さえ合えば採用を検討したい」を含めると**73.0% (376名)**が**本学部の卒業生に対して採用意向を示している。**

さらに、採用の主担当者(169名)に限定して集計すると、**TOP2では49.7% (84名)**、**TOP3では81.1% (137名)**が本学部の卒業生に対して採用意向を示しており、採用関与度が高い層の需要が高い。以上の通り、**新学部に対する採用意向は高いといえる。**



3. 新学部の卒業生への期待度

インターネットリサーチからみられる新学部の卒業生への期待度は、次の通りである。

■ 学部卒業生への期待度について

回答者515名(属性は前頁)に対して本学部を卒業した学生を採用する可能性を尋ねた結果全体で「物事に自ら進んで取り組もうとする力」「実践を通じて、行動する力」「コミュニケーション能力」を中心、どの項目も、全体の4割から5割程度の期待を得ている。

また、採用意向TOP2との差分を見ると、採用意向の高い層は、**領域横断的な知識力や課題発見力、分析力**をより期待している傾向にある。



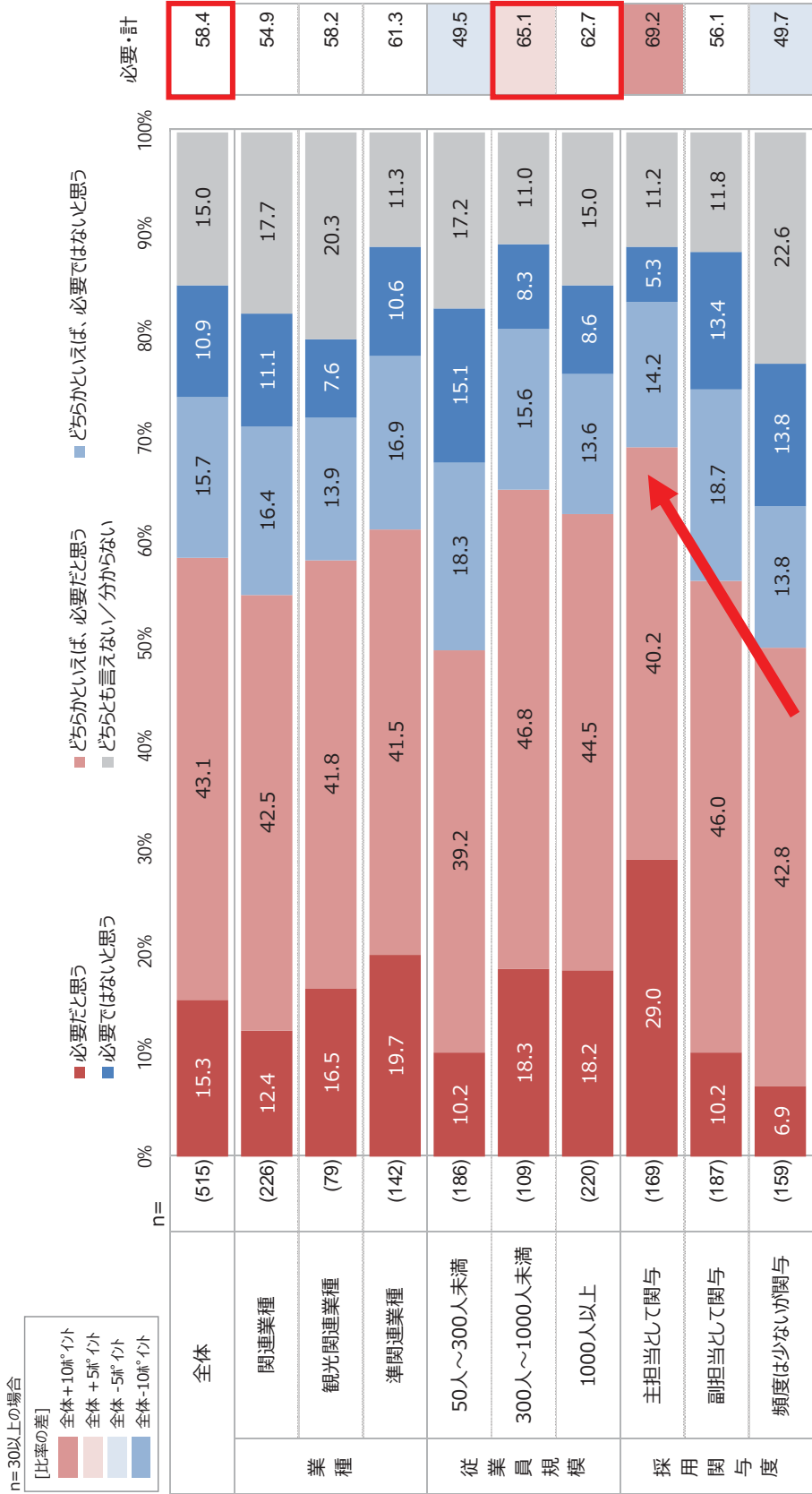
調査結果【詳細】

1. 新学部の社会的必要性

<クロス集計： 社会的必要性 x 業種・従業員規模・採用関与度>

- 全体のうち、58.4%が新学部の必要性を感じている。
- 業種別に見ると、いずれの業種も5割～6割が必要性を感じている。
- 従業員規模別に見ると、従業員規模が300人以上の企業で、必要性を強く感じている傾向にある。
- 採用関与度別に見ると、採用関与度の高い人の方が、必要性を強く感じている傾向にある。

※全ベース



※「必要・計」=「必要だと思う」+「どちらかといえば、必要だと思う」

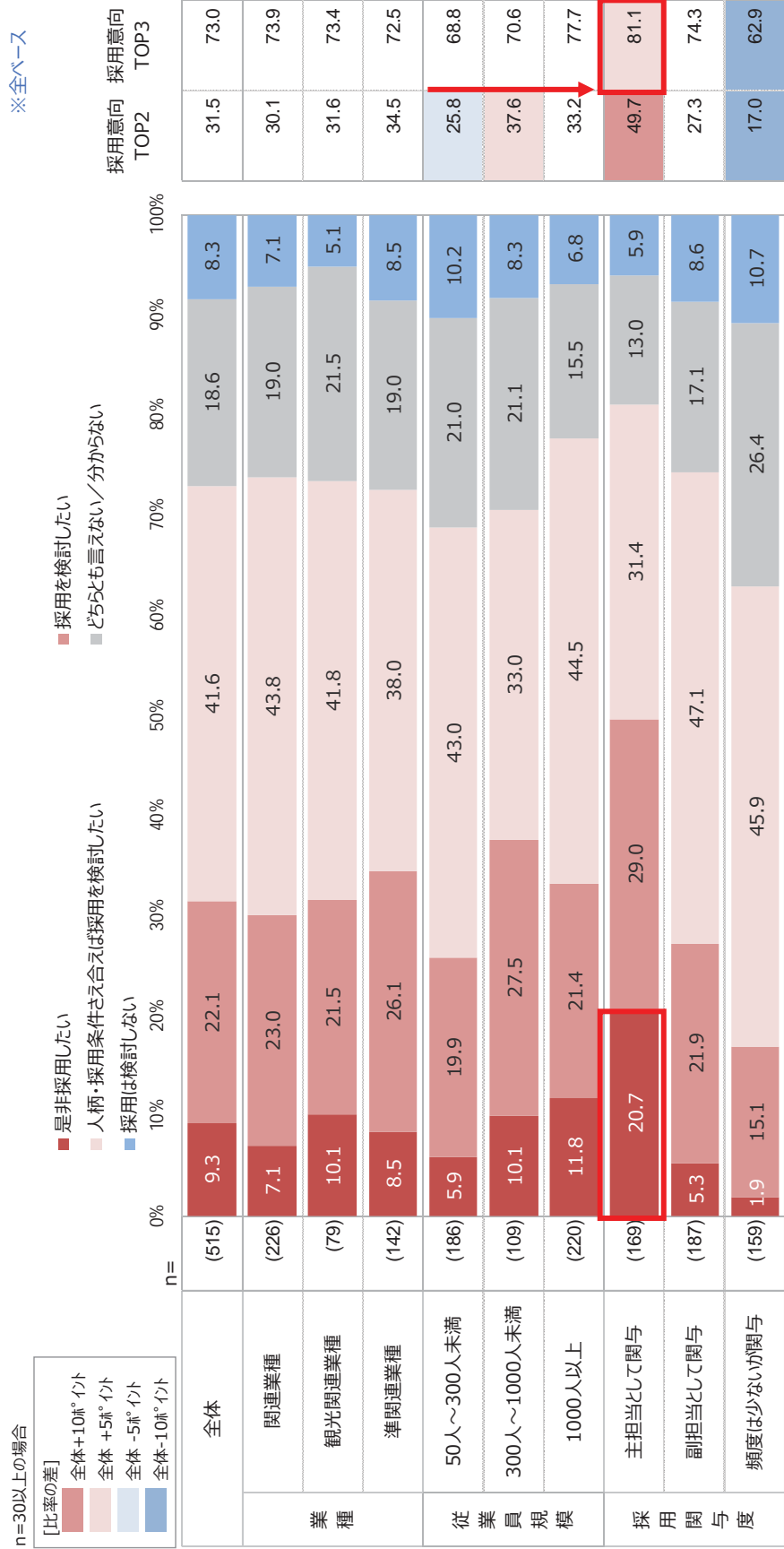
2. 新学部の必要性 理由

必要だと思ふ理由	必要だと思わない理由
<p>専門的で、学びに対する目的と理論が確立されており、これからグローバル化され、ゆくゆくは社会に対応できる人材が育っていきそうな印象を受けたからです。</p>	<p>コロナ禍で実践できなさそう。観光産業も大きな変化があるため活かせるかどうかかわからない。</p>
<p>文系・理系の隔てなく学べて、実践に役立つ学問というコンセプトが魅力的。グローバルな視点も今後は不可欠だと思う。</p>	<p>仕事に直結する内容がよくわからない。直結する必要性はないが、専門的に学ぶ必要性が分りづらい。</p>
<p>これからはアジアの時代です。その上で語学、野外活動も含めた実戦力もすべてとてもいい。</p>	<p>テーマが大きく大学生には達成できなさそうなので。</p>
<p>サステナビリティという考えは今後益々大切になるが、ある一部分に特化したサステナビリティを考えるのではなく、もっと幅広く様々な要素の関係性からも考えるべきだと思う為、このような学部は意味があると思う。</p>	<p>類似した学部は他大学にも沢山あり、わざわざAPUで新設する必要は感じなかった。もっとAPUの特性を活かせる別の学部を新設するべきだと感じた。</p>
<p>外国人と接する機会が仕事で多いため、国際相互理解があると、私の職場では役立つから。</p>	<p>どれも中途半端に終わる社会で役に立つスキルを身につけた気になって社会に出てくる学生が多くなりそう。経験をさせるにはもう少し範囲を絞った方がよい。変に知った、または経験した程度で「わかる」「できる」と思われてはもっとも質の悪い学生になりそうで敬遠したい。</p>
<p>国際的な視点から学ぶことが出来るから、時代のニーズに即した人材育成が可能になると思うから。</p>	<p>採用にあたっては、その人物の特性を重視する。特にストレス耐性やコミュニケーションの取り方が大切と考える。また、自分の信念をしっかりと貫く姿勢も大切。仕事で必要なスキルは就職してから学んでも間に合う。</p>
<p>シンプルで観光科であれば他大学にも複数存在するが『観光』『持続可能性』『国際機関』といったファクターを横断的に学修する学科は聞いたことが無いから。また実践に重きを置いて学外に学びの場を豊富に設けるなど質的にも従来に無い高いレベルの教育を提供しようとしているから。</p>	<p>観光産業や飲食などのサービス業や運輸業などでは有用かもしれないが、私の会社はその業界ではないし、また、新設学部といわずとも、それらは経済や経営学部の範疇のような気がする。</p>
<p>多様な人間性の確立が昨今の状況では必要になってくると思いますので、人材育成の観点から必要だと感じました。</p>	<p>確立された学問ではなさそうに感じるため、本当に成果が出せるのかに疑問を感じるから</p>
<p>学ぶという知識習得の範囲に縛られず、実社会での活かし方や人間形成や社会体験を通じて、卒業後の社会人へのソフトランディングを図ろうとしている</p>	<p>建設業の営業を採用するにあたって、必要なスキルになるとは思わなかったため。学んだ人材はある程度絞られた職種での採用になるのかなと併せて感じました。</p>
<p>今後は、国際的な感覚や考え方が必要であり、まちづくりに関しても、外国人と共存し発展していけるような発想ができる人材が必要であるから。</p>	<p>何が学びになるのか、就職するためのスキルのための学びなのか、よくわからなかった 頻度は少ないが関与</p>

3. 新学部の卒業生採用意向

〈クロス集計：卒業生採用意向 x 業種・従業員規模・採用関与度〉

- 全体のうち、採用を検討しているのはTOP3でみると73.0%、TOP2では31.5%であった。
- 業種別に見ると、採用意向に大きな差は見られなかった。
- 従業員規模別に見ると、TOP3では従業員規模が大きいほど採用意向が高くなっている。
- 採用関与度別に見ると、採用の主担当者の検討率がTOP3で81.1%と高く、特に「是非採用したい」と回答している層が21%と他の採用者に比べて多い。

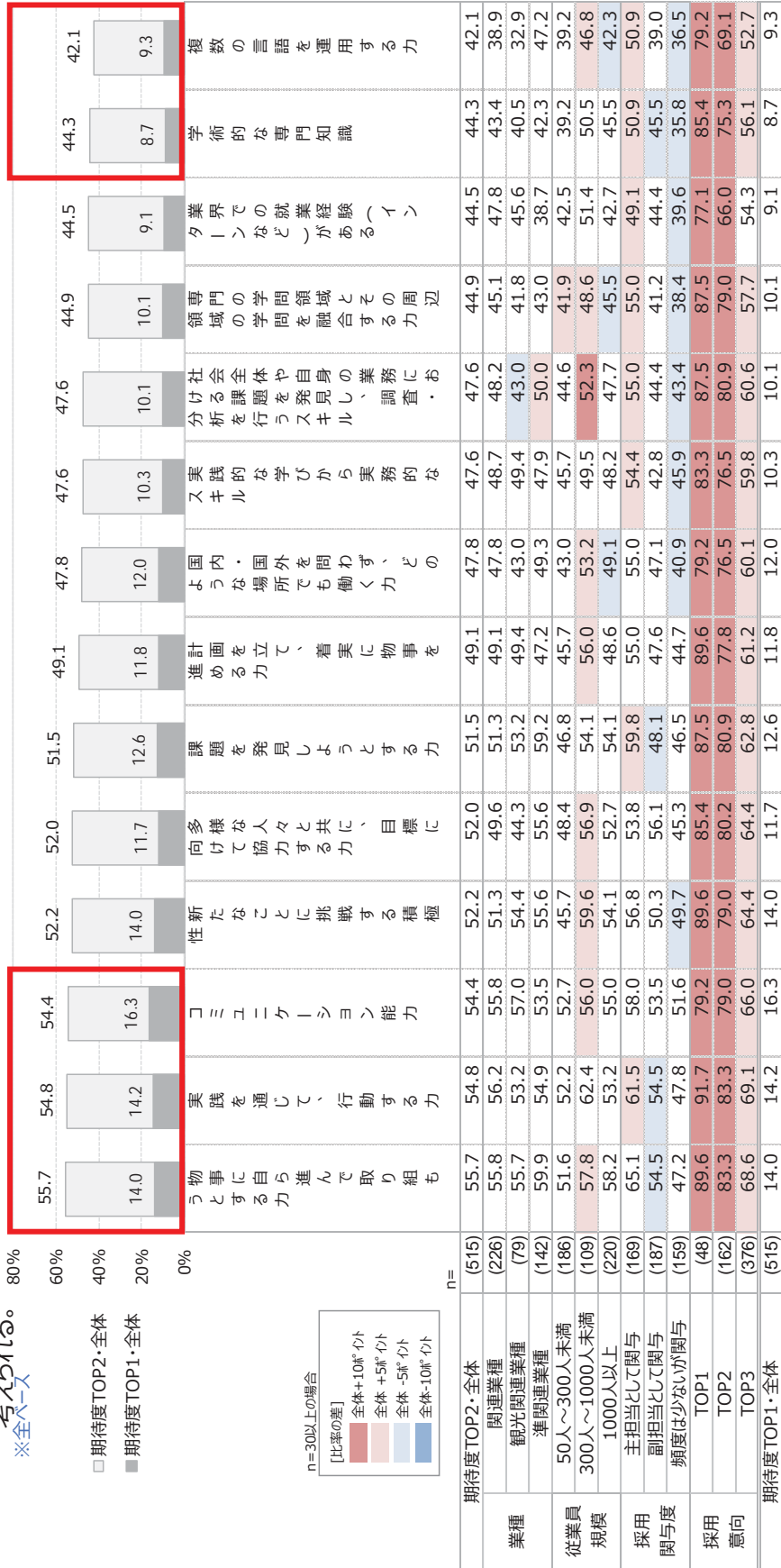


4. 新学部の卒業生への期待度

＜クロス集計：卒業生への期待度 x 業種・従業員規模・採用関与度＞

・ 卒業生の能力に対する期待度をTOP2の全体で見ると、「物事に自ら進んで取り組む」と「物事を進んで取り組む」として期待される力」(55.7%)「実践を通じて、行動する力」(54.8%)が上位。全体として、マインド面が期待されている傾向がある。

・ 「コミュニケーション能力」(54.4%)が上位。全体として、マインド面が期待されている傾向がある。
 ・ また、「学術的な専門知識」「複数の言語を運用する力」も4割の層から期待されており、スキル面も含めて一定の期待値は得られていると考えられる。
 ※全へん



※期待度TOP2・全体：「期待できる」+「やや期待できる」
 ※期待度TOP1・全体：「期待できる」

5-1. 新学部の卒業生への期待度 理由①

期待していない理由	期待している理由
このカリキュラムだからといって決して積極的にみにつくものではないと考えました。【主担当として関与】	身近な問題に触れることで自然に考察力が養えそう【主担当として関与】
本人の資質に左右される部分が大きいため、学習で補完できる部分は少ない。【副担当として関与】	そもそも持続可能な社会を創り出すことに興味を持つ時点で積極的な姿勢が感じられるから。【主担当として関与】
行動する力がどこで学べるのか分からないから【主担当として関与】	オフキャンパススタディに力を入れていそうだから【主担当として関与】
実践を経験したことは大きいけど個々の能力によるところが大きいと考えました。【主担当として関与】	身につけた理論や知識を実践を通して現場で実践するため、意欲的かつ主体的に行動できそうだから【副担当として関与】
学部による勉強以外の経験の方が身に付くことが多いのではないかと思いました。【主担当として関与】	学習はもとより、外部学習の活用などが実践され、そういったことでコミュニケーション能力がつくと思うから。【副担当として関与】
元々の能力で、トレーニングではそれほど向上しない【頻度は少ないが関与】	このカリキュラムをこなす前提にはコミュニケーション能力が前提になると思うから【頻度は少ないが関与】
大学で学ぶことで身に付く能力ではないのではと考えました。【主担当として関与】	新たな学問になると思うので、チャレンジ精神のある学生が集まりそうだから【主担当として関与】
授業だけでは期待できない【頻度は少ないが関与】	持続可能性に興味を持つ時点で積極的な姿勢が感じられるから。【副担当として関与】
この資料では読み取れない【副担当として関与】	グローバルな観点で物事に取り組むことを考える人材が学が学校だと思うから【主担当として関与】
独自性のある目標と感じずグループを引っ張る力をつけられるのが疑問を感じた【副担当として関与】	主に学外での学習を通して、多様な人々との交流を深めて目標に向けて協力し合う姿勢を身につけることができそうだと感じたから【副担当として関与】
課題発見は本人のセンスが重要であり、他人に指導されて意欲が変化するとは思えない。【副担当として関与】	理論と実践の繰り返しがあるので、自然と課題に気づく力が付きそうだから【主担当として関与】
課題を発見する、ということは大学で学んで身につくものではない(日常生活での興味関心なども含めた総合力)【頻度は少ないが関与】	調査、分析スキルの習得の記載があり、こういった学習の積み重ねが功を奏すると思うから。【副担当として関与】
これはどの学部でもそれほど大きな差がないのではないかと思います。【主担当として関与】	学問的実務家として育成されているから【主担当として関与】
広く浅い取り組みに対して何をどう計画するかイメージができない。【副担当として関与】	地域づくり・社会起業・プロジェクトマネジメントのカリキュラムがあるから。【副担当として関与】

5-2. 新学部の卒業生への期待度 理由②

期待している理由	期待していない理由
<p>国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力</p>	<p>どのような場所でも働くだけの力が身につくのか不明【副担当として関与】</p>
<p>実践的な学びから実務的なスキル</p>	<p>教育で身につけられるスキルではないから【頻度は少ないが関与】</p>
<p>社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキル</p>	<p>ちよとかじった程度の経験で実務スキルが身につく程度の仕事であればよいが、変に「実務」を知っていると思っている新人より専門性がある新人を育てる方がよい。【副担当として関与】</p>
<p>専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力</p>	<p>実務的なスキルは様々な環境が影響するので、学問の段階では期待できる物が少ない。【副担当として関与】</p>
<p>業界での就業体験</p>	<p>これは就職してから身につくと思います。学生のうちでは厳しい。【主担当として関与】</p>
<p>学術的な専門知識</p>	<p>課題発見や調査分析は、センスが問われる。その場での臨機応変な対応ができるかは感じ取れない。【副担当として関与】</p>
<p>複数の言語を運用する力</p>	<p>カリキュラムの詳細が明確ではない。学問を連携・融合する意欲が伝わってこない。【副担当として関与】</p>
	<p>この分野と他分野との融合で何か期待値が高まるのか疑問【頻度は少ないが関与】</p>
	<p>多くの企業は職員でもない学生インターンを育成する気持ちを持っていない。【副担当として関与】</p>
	<p>インターシッピングはあくまでも就労体験。その延長線上に就職があることが少ないと思うので。【主担当として関与】</p>
	<p>実際に社会に出ていないのに専門知識があるとはおもえないから。【副担当として関与】</p>
	<p>4年間で学ぶ項目としては多すぎるため専門性は期待できない。【副担当として関与】</p>
	<p>専門的に言語を学んでいるわけではないのでなんとも言いがたいです。【主担当として関与】</p>
	<p>言語獲得の時間が取れないプログラムと感じた【副担当として関与】</p>
	<p>1つのことをあらゆることに融合できたらもっと先のことを見越せるから。【主担当として関与】</p>
	<p>文理の融合を謳っているのだから、ある程度は期待できそう。【主担当として関与】</p>
	<p>積極的なインターン経験はとても重要だと思います。中小企業とのギャップを感じるかもしれません。【主担当として関与】</p>
	<p>就業体験できることはミスマッチも防げるので期待したい【副担当として関与】</p>
	<p>目的が明確で専門的な教育を必要としている人材が学ぶ学校だと思っから【主担当として関与】</p>
	<p>9つの専門領域から学生が自ら選択して複数の専門領域について学修しているから。【副担当として関与】</p>
	<p>留学などの制度の充実や、恐らく帰国子女や留学生が周囲に多い環境であろうから、語学習得には最適の環境だと思う。【主担当として関与】</p>
	<p>国際や観光を学びたい学生は自然と言語についても興味を持つだろうと思うから。【頻度は少ないが関与】</p>

付録

■ 調査票 <事前調査>

ご職業に関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いいたします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミル・モニタの皆様にはモニタ規約にて「調査」についての「守秘義務」の徹底をお願いしています。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力をお願いします。

・ ①必須入力

Q1 あなたの**現在のご職業(雇用形態)**をお知らせください。

※複数あてはまる方は、メインの職業についてお答えください。

【必須入力】

- 1. 経営者・役員
- 2. 公務員
- 3. 会社員(正社員)
- 4. 会社員(契約)
- 5. 会社員(派遣)
- 6. 自営業
- 7. 自由業
- 8. パート・アルバイト
- 9. 専業主婦(主夫)
- 10. 学生
- 11. 無職
- 12. その他

■ 調査票 <事前調査>

02

あなたのお仕事の「業種」をお選びください。

※完全に該当しない場合、最も近いと思われるものを選択してください。

※複数該当はまる方は、メインの業種についてお答えください。

【必須入力】

- 水産・農林・漁業
 - 1. 水産・農林・漁業
 - 2. 漁業
- 建設
 - 3. 建設
- 製造
 - 4. 食品・飲料
 - 5. 繊維工業
 - 6. 衣料・繊維
 - 7. 木材・木製品
 - 8. 家具・装飾品
 - 9. パルプ・紙
 - 10. 化学・化学品・化粧品
 - 11. 薬品・医薬品
 - 12. ゴム製品
 - 13. プラスチック製品
 - 14. 鉄鋼・非鉄
 - 15. 金属製品
 - 16. 機械器具
 - 17. 電気機器
 - 18. 輸送用機器
 - 19. 精密機器/情報通信機器
 - 20. その他製造
- 卸売
 - 21. 化学医薬卸
 - 22. 衣服繊維卸
 - 23. 食料飲料卸
 - 24. 電気機器卸
 - 25. 輸送機器卸
 - 26. その他卸
- 小売
 - 27. 百貨店
 - 28. スーパー・コンビニエンスストア
 - 29. 衣服・服飾小売
 - 30. 食品・飲料小売
 - 31. 家庭器具小売
 - 32. 家電・電器器具小売
 - 33. 医薬品・化粧品小売
 - 34. その他小売
- 金融
 - 35. 銀行・信託
 - 36. 消費者金融
 - 37. クレジット
 - 38. 証券・先物
 - 39. 保険
 - 40. その他金融
- 不動産
 - 41. 不動産
 - 42. 鉄道
 - 43. 道路輸送
 - 44. 水上輸送
 - 45. 航空輸送
 - 46. 倉庫
 - 47. 郵便・運輸サービス
 - 48. 飲食店
 - 49. 旅行
 - 50. 通信
 - 51. 電気・ガス・水道
 - 52. 賃貸・リース
 - 53. 宿泊所・ホテル
 - 54. 娯楽・美容
 - 55. 娯楽
 - 56. 放送
 - 57. 出版・印刷
 - 58. 広告・調査
 - 59. Sier/Mier、システムコンサルファーム、ベンダー
 - 60. 情報サービス
 - 61. ソフトウェア
 - 62. 病院・医療
 - 63. 老人福祉・介護
 - 64. 教育
 - 65. その他サービス
- その他
 - 66. 官庁・自治体
 - 67. その他団体
 - 68. その他

03

あなたのお仕事の「職種」をお選びください。

※完全に該当しない場合、最も近いと思われるものを選択してください。

※複数の職種をお持ちの方は、主に業務をされているものを選択してください。

【必須入力】

- 1. 人事
- 2. 労務
- 3. 営業/営業企画
- 4. 財務/会計/経理
- 5. 総務
- 6. 施設・設備管理
- 7. 法務/知的財産
- 8. 売り場担当
- 9. 調理/ホール/フロアスタッフ
- 10. 旅行手配/ツアー/コンダクター
- 11. ホテル/宿泊サービス
- 12. ドライバー/配達スタッフ
- 13. 鉄道・航空・船舶乗務員
- 14. 倉庫管理
- 15. 警備/守衛
- 16. 清掃関連スタッフ
- 17. ビル施設管理/メンテナンス
- 18. 不動産販売
- 19. マンション管理
- 20. 購買/物流
- 21. 仕入/商品管理
- 22. 一般事務/営業事務
- 23. 企画
- 24. 広報/IR
- 25. 調査/マーケティング
- 26. 経営企画/事業企画
- 27. 経営管理/コンサルtant(会計/戦略など)
- 28. コンサルtant(人事)
- 29. コンサルtant(IT関係)
- 30. カスタマーサポート
- 31. 情報システム
- 32. 研究/開発
- 33. 生産/製造
- 34. 生産技術/生産計画
- 35. 品質管理/検査
- 36. インテリアデザイナー、インテリアコーディネーター
- 37. クリエイター/デザイナー
- 38. 建築士
- 39. 設計
- 40. プランニング・測量・建築
- 41. 施工管理
- 42. 工事/大工
- 43. MR/医療用具営業(医薬)
- 44. 管理栄養士・栄養士
- 45. 訪問介護員(ホームヘルパー)
- 46. 介護福祉士
- 47. 保健師
- 48. 医師(歯科・眼科医師以外)
- 49. 歯科医師
- 50. 眼科医師
- 51. 獣医師
- 52. 薬剤師
- 53. 看護師/准看護師/看護助手
- 54. 理学療法士/作業療法士
- 55. 歯科衛生士
- 56. 歯科技工士
- 57. 医療事務
- 58. 介護事務
- 59. その他医療機関従事者
- 60. 弁護士、弁理士、司法書士、行政書士
- 61. 公認会計士、税理士
- 62. 美容師/理容師/美容師
- 63. 保育士/幼稚園教員
- 64. 教員(小学校~大学院・専門学校)
- 65. 教員(その他)
- 66. 学校事務職員/用務員・教育委員会
- 67. その他

■ 調査票 <事前調査>

Q4 あなたはお勤め先で、**採用に携わる**ことがありますか。

【必須入力】

- 1. 採用業務を主にしている
- 2. 主ではないが、採用業務をしている
- 3. 頻度は少ないが、採用業務をすることがある
- 4. 採用業務は行わない

Q5 最後に、あなたが勤めている**企業・団体の従業員数**をお選びください。

※会社全体(本社・支社・営業所などを合わせた)の従業員数をお答えください。
※正確な人数がわからない場合、最も近いと思われるものを選択してください。

【必須入力】

- 1. 5人未満
- 2. 5人～10人未満
- 3. 10人～20人未満
- 4. 20人～30人未満
- 5. 30人～50人未満
- 6. 50人～100人未満
- 7. 100人～200人未満
- 8. 200人～300人未満
- 9. 300人～500人未満
- 10. 500人～1000人未満
- 11. 1000人～3000人未満
- 12. 3000人～5000人未満
- 13. 5000人以上
- 14. わからない/答えたくない

■ 調査票 <本調査>

新設学部の人材ニーズに関するアンケート

下記アンケートにご協力をお願いします。

当アンケートの回答者の皆様へお願い

マクロミルモニターの皆様にはモニタリング業務の徹底をお願いします。

当アンケートの内容および当アンケートで知り得た情報については、決して第三者に口外しないよう(掲示板やホームページへの書き込みを含む)、ご協力お願いします。

◆まず、下記リーフレットをご一読ください。

▼ 画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。▼

※クリック必須

The image displays six informational leaflets for the new department. The leaflets include:

- 立命館アジア太平洋大学(APU) 新設学部の概要**: Overview of the new department at APU, including the school name, location, and enrollment.
- 新設学部のコンセプト**: The department's concept, focusing on liberal education and humanistic education.
- 教育内容 - 文理融合の専門科目群**: A list of specialized courses that integrate liberal arts and sciences.
- 教育方法 - 特徴的な学び方**: A flowchart showing the learning process from liberal education to specialized courses.
- 教育方法 - 学外での学び Off-Campus Study**: Information about off-campus study opportunities.
- 想定する進路・就職**: Career paths and job prospects for graduates, including various industries and roles.

■ 調査票 <本調査>

Q1 ◆一通りご覧いただいた新学部について、お伺いいたします。

人事や採用に携わるあなたの立場でお答えください。

あなたは、この学部の必要性についてどう思いますか。

【必須入力】

- 1. 必要だと思う
- 2. どちらかといえば、必要だと思う
- 3. どちらかといえば、必要ではないと思う
- 4. 必要ではないと思う
- 5. どちらとも言えない/分からない

Q2 前問で、この学部について【Q1の選択内容】とお答えになった理由について、

具体的に記入ください。

【必須入力】

※500文字以内で記入ください。

Q3 では、ご覧いただいたようなリーフレットの内容で学びを得て卒業した学生を、

社員として採用することについて、どのように思っていますか。

【必須入力】

- 1. 是非採用したい
- 2. 採用を検討したい
- 3. 人柄・採用条件さえ合えば採用を検討したい
- 4. どちらとも言えない/分からない
- 5. 採用は検討しない

■ 調査票 <本調査>

◆改めて、下記リーフレットをご一読ください。

▼ 画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。

※クリック必須

04 この学部を卒業する学生に対して、以下の力・スキルが身にまわっていることをどの程度期待できそうですか。

【必須入力】

	1 期待できる	2 やや期待できる	3 ふつうに期待できる	4 あまり期待できない	5 期待できない
1. 物事に自ら進んで取り組もうとする力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 課題を通じて、行動する力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 課題を見出しようとする力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 計画を立て、確実に物事を進める力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 国内・国外を問わず、どのような環境でも働く力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 学術的な専門知識が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力を身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 実務的な学びがから実務的なスキルが身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 業界での就業経験(インターンなど)がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 複数の言語を運用する力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルが身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. コミュニケーション能力が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 新たなことに挑戦する積極性が身にまわっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

■ 調査票 <本調査>

◆改めて、下記リーフレットをご一読ください。(再掲)

▼画像をクリックして、別画面で表示される画像をご覧ください。

The collage consists of five leaflets:

- 新学部の概要** (Overview of the New Department): Lists the department name (立命館アジア太平洋大学(APU)), school/department (立命館アジア太平洋大学(国際文化学部)), and enrollment (入学定員 100名).
- 新学部のコンセプト** (Concept of the New Department): Discusses the concept of 'Scholarship' and the goal of creating a new type of student.
- 教育内容-文理融合の専門科目群** (Educational Content - Interdisciplinary Specialized Course Group): Lists various subjects like Business Law, Business Ethics, and International Business.
- 教育方法-学外での学び Off-Campus Study** (Educational Method - Learning Outside Campus): Describes off-campus study programs and their benefits.
- 想定する進路・就職** (Expected Career/Job): Lists potential career paths such as international business, education, and public service.

05 以下のカードスキルが身に寄っていることに対する期待感を、前問のようにお答えになった理由について、自由に教えてください。

【全て必須】

- ⇒ 物事に自ら進んで取り組もうとする力について[[Q4S1の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 英語を通じて、行動する力について[[Q4S2の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 課題を発見しようとする力について[[Q4S3の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 計画を立て、着実に物事を進める力について[[Q4S4の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力について[[Q4S5の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 多様な人々と共に、目標に向けて協力する力について[[Q4S6の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 学術的・実務的知識について[[Q4S7の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 専門の学習領域とその周辺領域の学習を融合する力について[[Q4S8の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 実践的な学びから実務的なスキルについて[[Q4S9の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 業界での就業経験(インターンなど)について[[Q4S10の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 複数の言語を運用する力について[[Q4S11の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルについて[[Q4S12の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ コミュニケーション能力について[[Q4S13の選択内容]]と答えた理由
- ⇒ 新たなことに挑戦する積極性について[[Q4S14の選択内容]]と答えた理由

本学重点企業採用担当者調査報告書

調査概要

- 調査対象： 本学でオンキャンパス・リクルーティングに参加した企業および本学卒業生の採用実績が多い企業の採用担当者
- 実施時期： 2021（令和3）年12月8日～2021（令和3）年12月24日
- 回収回答数： 95件
- 調査方法： 本学部の概要資料を提示の上、本学部の教育研究の必要性、企業の採用意識、企業で必要な人材像と学部の育成像の関係等についてWebアンケートを実施した。
- 対象企業： 観光・環境等に偏らない幅広い業種

■ 回答者の内訳（業種） [問1]

業種	件数	業種	件数	業種	件数
水産・農林・漁業	1	輸送用機器	6	電気・ガス・水道	1
建設	1	精密機器／情報通信機器	3	宿泊所・ホテル	2
食品・飲料	4	その他製造	7	放送	1
衣料・繊維	1	化学医薬卸	2	出版・印刷	2
化学・化学品・化粧品	5	衣服繊維卸	1	広告・調査	2
薬剤・医薬品	1	電気機器卸	2	SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー	5
ゴム製品	1	その他卸	7	情報サービス	6
プラスチック製品	2	その他小売	2	ソフトウェア	1
鉄鋼・非鉄	2	銀行・信託	3	病院・医療	1
金属製品	2	道路輸送	1	教育	1
機械器具	5	航空輸送	1	その他サービス	3
電気機器	6	郵便・運輸サービス	2	その他	2

■ 回答者の内訳（所在地） [問2]

所在地	件数	所在地	件数	所在地	件数
東京都	48	広島県	3	山梨県	1
大阪府	14	その他	2	石川県	1
愛知県	5	愛媛県	1	大分県	1
福岡県	5	岡山県	1	長崎県	1
京都府	4	岐阜県	1	兵庫県	1
神奈川県	4	埼玉県	1	北海道	1

■ 回答者の内訳（企業規模（従業員数）） [問3]

従業員規模	件数	従業員規模	件数	所在地	件数
10,000人～	20	500～999人	22	～99人	4
3,000～9,999人	17	300～499人	5		
1,000～2,999人	22	100～299人	5		

■ 回答者の内訳（日本の大学を卒業した留学生の労働者数） [問 4]

留学生数	件数	留学生数	件数	留学生数	件数
50名～	18	10名～29名	24	1名～4名	27
30名～49名	5	5名～9名	19	0名	2

■ 回答者の内訳（本学学生の採用実績） [問 5]

回答	件数
採用したことがある	83
採用したことはない	10
わからない	2

回答結果

*比率は、小数点以下第2位を四捨五入したもの

■ サステナビリティ観光学部が養成する人材のニーズ【必須回答】 [問 6]

回答	件数	比率
ニーズは極めて高い	17	17.9%
ニーズはある程度高い	49	51.6%
ニーズはあまりない	10	10.5%
ニーズは全くない	1	1.1%
わからない	18	18.9%
計	95	100.0%

本調査回答者 95 名のうち、本学部が養成する人材のニーズについて、「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と回答したのは全体の 69.5% (66 名)。

<回答の内訳>

① 業種

業種	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
その他卸		5	1		1	7
その他製造		4	1		2	7
情報サービス	4	2				6
電気機器	2	3	1			6
輸送用機器		3		1	2	6
SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー	1	2	1		1	5
化学・化学品・化粧品	1	1	1		2	5
機械器具	2	2			1	5
食品・飲料		3	1			4
その他サービス	1				2	3

業種	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
銀行・信託		2			1	3
精密機器／情報通信機器		2			1	3
その他		1	1			2
その他小売		2				2
プラスチック製品	1	1				2
化学医薬卸		1			1	2
金属製品		1	1			2
広告・調査		1	1			2
宿泊所・ホテル		1			1	2
出版・印刷	1	1				2
鉄鋼・非鉄	1	1				2
電気機器卸		1			1	2
郵便・運輸・ビジネス	1	1				2
ゴム製品			1			1
ソフトウェア		1				1
衣服繊維卸	1					1
衣料・繊維		1				1
教育		1				1
建設		1				1
航空輸送					1	1
水産・農林・漁業		1				1
電気・ガス・水道		1				1
道路輸送		1				1
病院・医療	1					1
放送		1				1
薬剤・医薬品					1	1
計	17	49	10	1	18	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
～99人	1	3	0	0	0	4
100～299人	2	2	0	0	1	5
300～499人	1	3	1	0	0	5
500～999人	2	15	2	0	3	22
1,000～2,999人	1	11	3	0	7	22
3,000～9,999人	1	8	4	0	4	17
10,000人～	9	7		1	3	20
計	17	49	10	1	18	95

■ サステナビリティ観光学部卒業者の採用意向【必須回答】 [問7]

(日本人学生)

回答	件数	比率
是非採用したい	13	13.7%
採用を検討したい	53	55.8%
どちらとも言えない	25	26.3%
採用は検討しない	4	4.2%
計	95	100.0%

(国際学生 (留学生))

回答	件数	比率
是非採用したい	14	14.7%
採用を検討したい	54	56.8%
どちらとも言えない	25	26.3%
採用は検討しない	2	2.1%
計	95	100.0%

本調査回答者 95 名のうち、本学部卒業者の日本人学生・国際学生 (留学生) それぞれ採用意向について、「是非採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは、**全体の約 70% (日本人学生 : 69.5% (66 名)、国際学生 : 71.6% (68 名))**。

<回答の内訳>

(1) 日本人学生

① 業種

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
その他卸	1	5	1		7
その他製造		3	4		7
情報サービス	2	3	1		6
電気機器	1	4	1		6
輸送用機器		2	4		6
SIer/NIer、システム カンパニー、ベンダー		3	2		5
化学・化学品・化 粧品		5			5
機械器具		3	2		5
食品・飲料		1	2	1	4
その他サービス	1	2			3
銀行・信託		3			3
精密機器/情報通 信機器	1	1	1		3
その他	1		1		2
その他小売	1	1			2
プラスチック製品	1		1		2
化学医薬卸			1	1	2
金属製品		2			2

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
広告・調査			2		2
宿泊所・ホテル		1	1		2
出版・印刷	1			1	2
鉄鋼・非鉄	1	1			2
電気機器卸		2			2
郵便・運輸・サービス	1	1			2
ゴム製品		1			1
ソフトウェア				1	1
衣服繊維卸	1				1
衣料・繊維		1			1
教育		1			1
建設		1			1
航空輸送			1		1
水産・農林・漁業		1			1
電気・ガス・水道		1			1
道路輸送		1			1
病院・医療		1			1
放送		1			1
薬剤・医薬品		1			1
計	13	53	25	4	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
～99人		1	1	2	4
100～299人		3	2		5
300～499人		4	1		5
500～999人	3	15	3	1	22
1,000～2,999人	2	13	7		22
3,000～9,999人	3	5	8	1	17
10,000人～	5	12	3		20
計	13	53	25	4	95

<回答の内訳>

(2) 国際学生（留学生）

① 業種

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
その他卸	1	5	1		7
その他製造		3	4		7
情報サービス	1	5			6
電気機器	1	4	1		6
輸送用機器		2	4		6

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
SIer/NIer、システムコンサルティング、ベンダー		2	3		5
化学・化学品・化粧品	1	4			5
機械器具		3	2		5
食品・飲料		2	2		4
その他サービス	2	1			3
銀行・信託		3			3
精密機器／情報通信機器	2		1		3
その他	1		1		2
その他小売		2			2
プラスチック製品	1		1		2
化学医薬卸				2	2
金属製品		1	1		2
広告・調査		1	1		2
宿泊所・ホテル		1	1		2
出版・印刷		1	1		2
鉄鋼・非鉄	1	1			2
電気機器卸		2			2
郵便・運輸サービス	1	1			2
ゴム製品		1			1
ソフトウェア		1			1
衣服繊維卸	1				1
衣料・繊維		1			1
教育	1				1
建設		1			1
航空輸送			1		1
水産・農林・漁業		1			1
電気・ガス・水道		1			1
道路輸送		1			1
病院・医療		1			1
放送		1			1
薬剤・医薬品		1			1
総計	14	54	25	2	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
～99人		3		1	4
100～299人	1	2	2		5
300～499人		3	2		5
500～999人	3	15	4		22
1,000～2,999人	2	13	6	1	22
3,000～9,999人	3	7	7		17

10,000 人～	5	11	4		20
計	14	54	25	2	95

■ サステナビリティ観光学部卒業生の年度あたり採用規模【任意回答】 [問 8]

(日本人学生)

回答	件数
0～1 名	1
1 名	7
1～2 名	1
3 名	1
5 名	1
20 名程度	1
人数・国籍不問	4
未定	2

(国際学生)

回答	件数
0～3 名	1
1 名	8
1 名～2 名	1
2 名	4
5 名	1
若干名	1
人数・国籍不問	3
未定	2

(日本人学生/国際学生を問わず)

回答	件数
1 名	7
1 名～2 名	3
1 名～3 名	1
1 名～5 名	1
2 名	9
2 名～3 名	1
3 名	4
10 名	2
20 名	1
30 名 (当社全体人数)	1
40 名	1
70 名	1
90 名	1
100 名	1
350 名	1
400 名～500 名	1
若干名	2
人数不問	1
未定	3

■ 問7で「採用しない」「どちらとも言えない」とする理由【任意回答】 [問 9]

国籍より言語スキルを重視するため
サステナビリティそのものはコンサルティングビジネスとしても重要なテーマではあり、活かしていただく機会はあるものの、ビジネスコンサルティング、デジタル・IT コンサルティングに必要なスキル、知識自体を直接的に身につける教育内容や機会が豊富で即戦力として活躍できるとは言い難いため。
当社の業界とは違うため。また、求められる人物像に関しても「分析力」「論理的思考力」などの能力が養われているのかが疑問なため。
弊社の事業が観光ではないため。ただ、国際感覚を持った人材という意味では可能性はゼロではないため。
特に学部拘って採用をしている訳ではないのでどちらともいえないとしました。
募集要項と対象学生とのミスマッチが懸念されるため。
当社の業種と観光学との関係性が希薄なため
採用計画が未定の為
当社の業界では必要性を感じ取れない、しかし外国人留学生の採用については検討したい
当社における事業および業務内容に直接的にマッチする内容ではないと考えたため
現在の募集は現場作業員となるため、希望と合致しないと思われる為。
具体的な人材イメージがわからないため
SDGs および観光に精通した人材の社会的需要は一定あると考えるが、最終的には他の様々な要素を総合的に判断し採用可否を判断するため。
弊社の採用基準の中に学部という概念はあまり影響はないため。しかし、今後の将来について鑑みると採用をする場面が出てくる可能性があると考えている。
サステナビリティ事業に特化していく予定はなく、その分野を専門的に扱っていただくことはないから。(ミスマッチにつながりかねない)
海外志向の強い学生様・語学堪能な学生様は歓迎しますが、観光分野はこれまでほぼ採用実績が無かったもので「どちらとも言えない」を選択しました
弊社は、学生含め日本籍の方とは異なる視点を持つ外国籍の方、外国籍の学生の方にご参加頂く事で、社内でこれまでと異なる意見を得る事が出来たり、より様々な世の中の情報や情勢をキャッチできる会社環境を構築していけると考えている為、現時点では外国籍の方の採用の方に重きを置いております。
観光産業は弊社の属する産業とは異なり、なおかつ貴学部ならではの学びを活かす環境が他社に比べ少ないと考えるため。
弊社事業との親和性の観点による。ホテル事業も一部おこなっているものの、継続的な採用活動を行っていないため

■ 国際学生（留学生）を採用する際の日本語能力の基準【任意回答】 [問 10]

回答	件数
JLPT N1 レベル以上	48
JLPT N2 程度	15
JLPT N4 程度	1
JLPT N5 程度	1
基準は設けていない	6
その他	4

(「その他」と回答した内訳)

回答	件数
ビジネスレベル	1
今後検討	1

基準は設けていないが業務において問題なくコミュニケーションが図れるレベル	1
ビジネスレベル以上	1

■ サステナビリティ観光学部卒業生に期待できる能力・スキル【任意・複数回答】 [問 11]

回答	件数	比率
物事に自ら進んで取り組もうとする力が身についている	66	69.5%
コミュニケーション能力が身についている	65	68.4%
多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身についている	63	66.3%
課題を発見しようとする力が身についている	62	65.3%
新たなことに挑戦する積極性が身についている	62	65.3%
実践を通じて、行動する力が身についている	45	47.4%
社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルが身についている	45	47.4%
国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力が身についている	44	46.3%
複数の言語を運用する力が身に着いている	35	36.8%
計画を立て、着実に物事を進める力が身についている	31	32.6%
実践的な学びから実務的なスキルが身についている	23	24.2%
専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力を身につけている	21	22.1%
学術的な専門知識が身についている	9	9.5%
業界での就業経験(インターンなど)がある	7	7.4%

■ 貴社が求める人材像【必須回答】 [問 12]

回答	件数	比率
チャレンジ精神	29	30.5%
主体性	16	16.8%
問題発見・解決能力	15	15.8%
コミュニケーション能力	12	12.6%
チームワーク力	6	6.3%
論理的・批判的思考力	5	5.3%
その他	3	3.2%
責任感	3	3.2%
リーダーシップ	2	2.1%
異文化理解力 テクノロジーに対するリテラシー	2	2.1%
英語によるビジネス推進能力	2	2.1%

(「その他」と回答した内訳)

回答	件数
誠実性	1
高い志を持ち、日々挑戦し続ける方	1
選択肢の複数領域のスキルを同程度の水準で求める	1

■ サステナビリティ観光学部への期待【任意回答】 [問 13]

国境を、ある意味意識せず人類に対して課題解決に向けて活躍できる人材を期待しています。観光は、国境をまたぎ、双方向で交流し、地域・違いを理解し、言わば弊社においても重要な「グローバル」を実践・研究(学ぶ)できる学問にまで昇華する可能性があり期待しています。

<p>立命館アジア太平洋大学の学生さんには社内外において活用いただく以下を重視しています。</p> <p>①複数言語スキル ②異なる思考/文化背景の理解と課題特定～解決能力 ③(オフィスによっては) 新規事業推進力/データ解析力</p> <p>サステナビリティ観光学部が目の前に「見えている」だけではないことを志向するであろうことを鑑みて、②③のスキルのある学生さんが育成されたのであればぜひ採用のご縁があればと思います。</p>
<p>文系的な学部なので、IR 部署や経営企画等の即戦力として育成して欲しいというより、今後の世界を見据える力や、社会問題について考えた経験があり、会社で課題に対して解決が出来る再現実性のある学生を育成していただきたいです。即戦力を育てるという視点も必要かと存じますが、あくまでも日系企業は「ポテンシャル採用」ですので、様々な知見や、文化等に触れ、問題解決のプロセスや経験をしている学生であった方が、採用したいと感じます。また大分という地を活かした課題解決を行っている学生には需要があると思います。</p>
<p>日本から、世界に向けて活躍できる人材の育成を希望します。</p>
<p>異業界企業ではあるものの、「デジタル×観光」のような IT スキルを持った人材であれば採用を検討したい。</p>
<p>グローバルな人材、社会課題への取り組みを期待しています。</p>
<p>観光学を通じて、異文化の人に対する認識やコミュニケーション力が備わることを期待します。</p>
<p>調査分析能力や、IT リテラシーはどの分野でも活躍できると思います。</p>
<p>貴学の当社内定者のような魅力ある人材の輩出を引き続きよろしくお願いいたします。</p>
<p>地域の持続可能性についての問題意識や課題を認識し、行動できる人材の育成。</p>
<p>創造性豊かで素直に現実を受け止め、自分の考えを強く発信し行動できる人を育成して欲しいです。</p>
<p>社会課題を自分事として捉えるだけでなく、具体的に解決のためのアクションに繋がられる人材を輩出されることを期待しております。</p>
<p>SDG's や ESG をビジネスに組み込み設計し粘り強く提案する力と、地球市民として高い視座で周囲を牽引する力、そしてそういった理想に向かって組織的・集团的に成長されてゆくことを期待しています。サステナブルな考えが地球全体にとって必要である一方、まだまだ個人は目先の利益や利害関係にとらわれる傾向にあります。</p> <p>この社会の現実に理想を掲げて邁進する労力は一通りではなく、個人の取り組みには限界があります。確かな知識と強い意志を持ったリーダー、それを支え合う仲間が存在が必要不可欠です。当社はサステナビリティレポートを発信していますが、日本においてはまだまだ途上です。ぜひ、地球市民としてあるべき高い視座を社会にもたらししてほしいと期待しています。</p>
<p>弊社はエネルギーに関する事業を進めており、持続可能な社会構築を最終目標として事業を進めております。貴校が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」は一般的な認識にある観光と異なり、環境学及び資源マネジメントを理解した上でどのように環境にやさしい観光及び広域的な持続可能な発展を進める観光行動が弊社として期待している点だと思っております。また、観光を進めることにより、地域エリアの経済発展や文化のコミュニケーション等を活発させるために、地域構造もより暮らしやすいほうに推進できるのではないかと期待しております。</p>
<p>当社のパーパスとして「持続可能な社会」の実現を掲げており、貴校の新設学部である「サステナビリティ観光学部」のミッションとも方向性が合致しているため、ぜひ色々と連携できればと思います。</p>
<p>資料を拝見し、他大学の観光学部にはない独自性があると思われますので、卒業生の皆様が新しい発想でビジネスを展開されることを期待いたします。</p>

アンケート調査項目

APU 新学部設置に関するアンケート調査

[問1] 貴社の主業種として、最もあてはまるものをお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

水産・農林・漁業 鉱業 建設 食品・飲料 繊維工業 衣料・繊維 木材・木製品
 家具・装備品 パルプ・紙 化学・化学品・化粧品 薬剤・医薬品 ゴム製品
 プラスチック製品 鉄鋼・非鉄 金属製品 機械器具 電気機器 輸送用機器
 精密機器/情報通信機器 その他製造 化学医薬卸 衣服繊維卸 食料飲料卸 電気機器卸
 輸送機器卸 その他卸 百貨店 スーパー・コンビニエンスストア 衣服・履物小売
 食品・飲料小売 家庭機具小売 家電・電気器具小売 医薬品・化粧品小売 その他小売
 銀行・信託 消費者金融 クレジット 証券・先物 保険 その他金融 不動産 鉄道
 道路輸送 水上輸送 航空輸送 倉庫 郵便・運輸サービス 飲食店 旅行 通信
 電気・ガス・水道 賃貸・リース 宿泊所・ホテル 理容・美容 娯楽 放送 出版・印刷
 広告・調査 SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー 情報サービス ソフトウェア
 病院・医療 老人福祉・介護 教育 その他サービス 官庁・自治体 その他団体 その他

[問2] 貴社の所在地をお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県
 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県
 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県
 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 その他

[問3] 貴社の従業員・職員数をお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

～99人 100～299人 300～499人 500～999人 1,000～2,999人 3,000～9,999人
 10,000人～

[問4] 貴社で働いている「日本の大学を卒業した国際学生（留学生）」の人数についてお伺いします。最も近いものを1つお選びください。

0名 1名～4名 5名～9名 10名～29名 30名～49名 50名～

[問5] 貴社においてこれまで、立命館アジア太平洋大学の卒業生をご採用いただいたことはありますか。あてはまるもの一つにチェックをお願いします。

採用したことがある 採用したことはない わからない

次の質問からは、別紙の構想概要をご覧頂き回答下さい。

[問6] 今後の社会において、立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステイナビリティ観光学部」が養成する人材はニーズが高いと思われますか。あてはまるもの一つにチェックをお願いします。

ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない
 ニーズは全くない わからない

[問7] 貴社において、立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステイナビリティ観光学部」が養成する人材を採用したいと思われますか。「日本人学生」「国際学生（留学生）」それぞれについて、お選びください。なお、回答にあたっては、新型コロナウイルス感染症終息後（平常時）を念頭に置いて回答頂ければ幸いです。それぞれあてはまるもの一つにチェックをお願いします。

是非採用したい 採用を検討したい 採用は検討しない どちらとも言えない

[問8] 問7で「是非採用したい」「採用したい」とされた場合、よろしければ、採用規模（年度あたり）について、以下にお答えください。

日本人学生について、採用を希望する人数
 国際学生（留学生）について、採用を希望する人数
 日本人・国際学生（留学生）を問わない場合は、合計人数をこちらに記入してください

[問9] 問7で「採用しない」「どちらとも言えない」とされた場合、よろしければその理由をお答えください。

[問10] 問7で国際学生（留学生）を「是非採用したい」「採用したい」とされた場合、貴事業所において国際学生（留学生）を採用する際の日本語能力の基準についてお伺いします。最も近いものを1つお選びください。

JLPT N1 レベル以上 JLPT N2 程度 JLPT N3 程度 JLPT N4 程度 JLPT N5 程度
 基準は設けていない その他

[問11] サステイナビリティ観光学部を卒業する学生に対して、以下の能力・スキルが身についていることをどの程度期待できそうですか。あてはまるもの全てにチェックをお願いします。

物事に自ら進んで取り組もうとする力が身についている
 実践を通じて、行動する力が身についている
 課題を発見しようとする力が身についている
 計画を立て、着実に物事を進める力が身についている
 国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力が身についている
 多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身についている
 学術的な専門知識が身についている
 専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力を身につけている

実践的な学びから実務的なスキルが身についている
業界での就業経験(インターンなど)がある
複数の言語を運用する力が身についている
社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルが身についている
コミュニケーション能力が身についている
新たなことに挑戦する積極性が身についている

[問12] 貴社が求める人材像についてお聞きします。最も近いものを1つお選びください。

英語によるビジネス推進能力
異文化理解力 テクノロジーに対するリテラシー
リベラルアーツの素養
業務に関連する専門的な知識
論理的・批判的思考力
倫理的判断力
問題発見・解決能力
チャレンジ精神
責任感
主体性
リーダーシップ
チームワーク力
情報収集・分析能力
コミュニケーション能力
その他

[問13] 立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」について期待される点やご要望等がありましたら、ご記入ください。



*2023年4月設置構想中。設置構想のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

1

学部・学科名称
サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

新学部の概要

学位名称
学士（サステイナビリティ観
光学）
Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

3

新学部開設の
趣旨

世界レベルやコミュニケーションの課題

- ・資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- ・観光産業の成長による社会変化、オーパーツーリズム等による環境・社会への負荷
- ・グローバル化・デジタル化の進展

社会のニーズ

- ・持続可能な社会に関する教育・研究
- ・持続可能な観光に関する教育・研究
- ・環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な社会を形成する理論と実践
- ・将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは著者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かして対応

これまで培った環境学、国際学、観光学等の教育研究実績、一村一品運動など地域開発のモデルを転用してきた大分・別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

2

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や複雑な問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む学問的実務家 (Scholar-practitioner) のコミュニケーションを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学は、社会学を基礎としたカリキュラムおよびキャンパス内外における様々な社会の活動主体と協働した学びを通じて、社会と地域について学際横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する基礎的・専門的知識を修得し、論理的・批判的思考、定性的・定量的な分析、問題解決および異文化環境におけるコミュニケーションや協働の力を身につけることで、様々な社会課題に討議でき、世界市民としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

*2023年4月設置構想中。

4



教育内容－文理融合の専門科目群

9つの専門領域から、学生自身が希望するキャリア・修得したい知識・能力に応じて、組み合わせさせて学ぶ

科目群（コンセントレーション）		内容
環境学 Environmental Studies	自然、社会、経済、教育など、学術基礎	
資源マネジメント Resource Management	循環型社会、エネルギー・気候変動などを中心	
国際開発 International Development	学部教育では国内でもトップレベルの国際開発が学べ、環境と組み合わせることで持続可能な開発をカバー	
観光学 Tourism Studies	経済、社会、歴史、文化などに関係する観光の基礎	
観光産業 Tourism Industry Operations	観光産業の分析、新製品創出、マーケティング	
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	ホテルやリゾートにフォーカス	
地域づくり Regional Development	観光地を中心とした地域の持続可能な開発・デザイン	
社会起業 Social Entrepreneurship	社会起業、プロジェクトマネジメント	
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICTとその応用	

5

*2023年4月設置構想中。

教育方法－特徴的な学び方

- 「理論」と「実践」を併せ持つ「学問的実務家 Scholar-Practitioner」の育成
- 教育手法：すべての学生が、「講義・演習」「現場での実践」「調査・分析スキル」を組み合わせて学修



6

*2023年4月設置構想中。

教育方法－学外での学び Off-Campus Study

目的や期間に応じて、「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」「専門実習（プラクティカム）」という3種類の学外学修を用意。
新学部で学ぶ学生は、この内のいずれかを必修。

フィールドスタディの事例

- ・ 「Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes」(実習地:イタリア、スペイン)
- ・ 「国際機関の役割と活動」(実習地:スイス、フランス、東京)
- ・ 「持続可能な地域の価値づくり：長野県飯田市における調査」(実習地:長野県)



機関・企業との連携事例・活動事例 ※実績ベース（今後さらに開拓予定）

- ・ 国際機関 (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAOなど)
- ・ 企業連携 (インターコンチネンタルホテル、杉乃井ホテル [オリックス]、日本航空、全日空、大分合同新聞社、大分銀行など)
- ・ 国内外のフィールドワーク (上海、ソウル、ストックホルム、カナダ、バンクーバー、大分・京府、関東世界農業遺産地域、北九州、佐賀県有田町、阿蘇くじゅう国立公園・環境省など)

7

*2023年4月設置構想中。

想定する進路・就職

これからのグローバル化する社会のあらゆる面で求められる持続可能性と観光関連分野を対象に、課題発見-分析-解決のための理論的・実践的学修を徹底することで、幅広い企業・機関で活躍する人材を育てます。

想定する進路・就職（例）

- ・ 環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- ・ 観光産業やサービス業
- ・ まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- ・ 国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- ・ 大学院進学、社会起業

8

*2023年4月設置構想中。

本学重点企業採用担当者調査報告書

(2022年6-7月再調査反映版)

調査概要

- 調査対象： 本学でオンキャンパス・リクルーティングに参加した企業および本学卒業生の採用実績が多い企業の採用担当者
- 実施時期： 2021（令和3）年12月8日～2021（令和3）年12月24日
※2022年（令和4）年6月24日～29日：設問8について電話での再調査実施
- 回収回答数： 95件
- 調査方法： 本学部の概要資料を提示の上、本学部の教育研究の必要性、企業の採用意識、企業で必要な人材像と学部の育成像の関係等についてWebアンケートを実施した。
- 対象企業： 観光・環境等に偏らない幅広い業種

■ 回答者の内訳（業種） [問1]

業種	件数	業種	件数	業種	件数
水産・農林・漁業	1	輸送用機器	6	電気・ガス・水道	1
建設	1	精密機器／情報通信機器	3	宿泊所・ホテル	2
食品・飲料	4	その他製造	7	放送	1
衣料・繊維	1	化学医薬卸	2	出版・印刷	2
化学・化学品・化粧品	5	衣服繊維卸	1	広告・調査	2
薬剤・医薬品	1	電気機器卸	2	SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー	5
ゴム製品	1	その他卸	7	情報サービス	6
プラスチック製品	2	その他小売	2	ソフトウェア	1
鉄鋼・非鉄	2	銀行・信託	3	病院・医療	1
金属製品	2	道路輸送	1	教育	1
機械器具	5	航空輸送	1	その他サービス	3
電気機器	6	郵便・運輸サービス	2	その他	2

■ 回答者の内訳（所在地） [問2]

所在地	件数	所在地	件数	所在地	件数
東京都	48	広島県	3	山梨県	1
大阪府	14	その他	2	石川県	1
愛知県	5	愛媛県	1	大分県	1
福岡県	5	岡山県	1	長崎県	1
京都府	4	岐阜県	1	兵庫県	1
神奈川県	4	埼玉県	1	北海道	1

■ 回答者の内訳（企業規模（従業員数）） [問3]

従業員規模	件数	従業員規模	件数	所在地	件数
10,000人～	20	500～999人	22	～99人	4
3,000～9,999人	17	300～499人	5		
1,000～2,999人	22	100～299人	5		

■ 回答者の内訳（日本の大学を卒業した留学生の労働者数） [問4]

留学生数	件数	留学生数	件数	留学生数	件数
50名～	18	10名～29名	24	1名～4名	27
30名～49名	5	5名～9名	19	0名	2

■ 回答者の内訳（本学学生の採用実績） [問5]

回答	件数
採用したことがある	83
採用したことはない	10
わからない	2

回答結果

*比率は、小数点以下第2位を四捨五入したもの

■ サステナビリティ観光学部が養成する人材のニーズ【必須回答】 [問6]

回答	件数	比率
ニーズは極めて高い	17	17.9%
ニーズはある程度高い	49	51.6%
ニーズはあまりない	10	10.5%
ニーズは全くない	1	1.1%
わからない	18	18.9%
計	95	100.0%

本調査回答者 95 名のうち、本学部が養成する人材のニーズについて、「ニーズは極めて高い」「ニーズはある程度高い」と回答したのは全体の 69.5% (66名)。

<回答の内訳>

① 業種

業種	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
その他卸		5	1		1	7
その他製造		4	1		2	7
情報サービス	4	2				6
電気機器	2	3	1			6
輸送用機器		3		1	2	6
SIer/NIer、システムソリューション、ベンダー	1	2	1		1	5
化学・化学品・化粧品	1	1	1		2	5
機械器具	2	2			1	5
食品・飲料		3	1			4
その他サービス	1				2	3
銀行・信託		2			1	3

業種	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
精密機器／情報通信機器		2			1	3
その他		1	1			2
その他小売		2				2
プラスチック製品	1	1				2
化学医薬卸		1			1	2
金属製品		1	1			2
広告・調査		1	1			2
宿泊所・ホテル		1			1	2
出版・印刷	1	1				2
鉄鋼・非鉄	1	1				2
電気機器卸		1			1	2
郵便・運輸・バス	1	1				2
ゴム製品			1			1
ソフトウェア		1				1
衣服繊維卸	1					1
衣料・繊維		1				1
教育		1				1
建設		1				1
航空輸送					1	1
水産・農林・漁業		1				1
電気・ガス・水道		1				1
道路輸送		1				1
病院・医療	1					1
放送		1				1
薬剤・医薬品					1	1
計	17	49	10	1	18	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	ニーズは極めて高い	ニーズはある程度高い	ニーズはあまりない	ニーズは全くない	わからない	総計
～99人	1	3	0	0	0	4
100～299人	2	2	0	0	1	5
300～499人	1	3	1	0	0	5
500～999人	2	15	2	0	3	22
1,000～2,999人	1	11	3	0	7	22
3,000～9,999人	1	8	4	0	4	17
10,000人～	9	7		1	3	20
計	17	49	10	1	18	95

■ サステナビリティ観光学部卒業者の採用意向【必須回答】 [問7]

(日本人学生)

回答	件数	比率
是非採用したい	13	13.7%
採用を検討したい	53	55.8%
どちらとも言えない	25	26.3%
採用は検討しない	4	4.2%
計	95	100.0%

(国際学生(留学生))

回答	件数	比率
是非採用したい	14	14.7%
採用を検討したい	54	56.8%
どちらとも言えない	25	26.3%
採用は検討しない	2	2.1%
計	95	100.0%

本調査回答者95名のうち、本学部卒業者の日本人学生・国際学生(留学生)それぞれ採用意向について、「是非採用したい」「採用を検討したい」と回答したのは、全体の約70%(日本人学生:69.5%(66名)、国際学生:71.6%(68名))。

<回答の内訳>

(1) 日本人学生

① 業種

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
その他卸	1	5	1		7
その他製造		3	4		7
情報サービス	2	3	1		6
電気機器	1	4	1		6
輸送用機器		2	4		6
SIer/NIer、システムコンパニオン、ベンダー		3	2		5
化学・化学品・化粧品		5			5
機械器具		3	2		5
食品・飲料		1	2	1	4
その他サービス	1	2			3
銀行・信託		3			3
精密機器/情報通信機器	1	1	1		3
その他	1		1		2
その他小売	1	1			2
プラスチック製品	1		1		2
化学医薬卸			1	1	2
金属製品		2			2

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
広告・調査			2		2
宿泊所・ホテル		1	1		2
出版・印刷	1			1	2
鉄鋼・非鉄	1	1			2
電気機器卸		2			2
郵便・運輸サービス	1	1			2
ゴム製品		1			1
ソフトウェア				1	1
衣服繊維卸	1				1
衣料・繊維		1			1
教育		1			1
建設		1			1
航空輸送			1		1
水産・農林・漁業		1			1
電気・ガス・水道		1			1
道路輸送		1			1
病院・医療		1			1
放送		1			1
薬剤・医薬品		1			1
計	13	53	25	4	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
～99人		1	1	2	4
100～299人		3	2		5
300～499人		4	1		5
500～999人	3	15	3	1	22
1,000～2,999人	2	13	7		22
3,000～9,999人	3	5	8	1	17
10,000人～	5	12	3		20
計	13	53	25	4	95

<回答の内訳>

(2) 国際学生（留学生）

① 業種

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
その他卸	1	5	1		7
その他製造		3	4		7
情報サービス	1	5			6
電気機器	1	4	1		6
輸送用機器		2	4		6

業種	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
SIer/NIer、システムコンサルティング、ベンダー		2	3		5
化学・化学品・化粧品	1	4			5
機械器具		3	2		5
食品・飲料		2	2		4
その他サービス	2	1			3
銀行・信託		3			3
精密機器／情報通信機器	2		1		3
その他	1		1		2
その他小売		2			2
プラスチック製品	1		1		2
化学医薬卸				2	2
金属製品		1	1		2
広告・調査		1	1		2
宿泊所・ホテル		1	1		2
出版・印刷		1	1		2
鉄鋼・非鉄	1	1			2
電気機器卸		2			2
郵便・運輸サービス	1	1			2
ゴム製品		1			1
ソフトウェア		1			1
衣服繊維卸	1				1
衣料・繊維		1			1
教育	1				1
建設		1			1
航空輸送			1		1
水産・農林・漁業		1			1
電気・ガス・水道		1			1
道路輸送		1			1
病院・医療		1			1
放送		1			1
薬剤・医薬品		1			1
総計	14	54	25	2	95

② 企業規模（従業員数）

従業員数	是非採用したい	採用を検討したい	どちらとも言えない	採用は検討しない	総計
～99人		3		1	4
100～299人	1	2	2		5
300～499人		3	2		5
500～999人	3	15	4		22
1,000～2,999人	2	13	6	1	22
3,000～9,999人	3	7	7		17

10,000人～	5	11	4		20
計	14	54	25	2	95

■ サステナビリティ観光学部卒業生の年度あたり採用規模【任意回答】 [問8]

(日本人学生)

回答	件数
0～1名	1
1名	8
1～2名	1
3名	1
5名	1
人数・国籍不問	4
未定	2

(国際学生)

回答	件数
0～3名	1
1名	8
1名～2名	1
2名	4
5名	1
若干名	1
人数・国籍不問	3
未定	2

(日本人学生/国際学生を問わず)

回答	件数
1名	9
1名～2名	4
1名～3名	4
1名～5名	4
2名	9
2名～3名	1
3名	4
若干名	3
人数不問	1
未定	3

■ 問7で「採用しない」「どちらとも言えない」とする理由【任意回答】 [問9]

国籍より言語スキルを重視するため
サステナビリティそのものはコンサルティングビジネスとしても重要なテーマではあり、活かしていただく機会はあるものの、ビジネスコンサルティング、デジタル・ITコンサルティングに必要なスキル、知識自体を直接的に身につける教育内容や機会が豊富で即戦力として活躍できるとは言い難いため。
当社の業界とは違うため。また、求められる人物像に関しても「分析力」「論理的思考力」などの能力が養われているのかが疑問なため。
弊社の事業が観光ではないため。ただ、国際感覚を持った人材という意味では可能性はゼロではないため。
特に学部拘って採用をしている訳ではないのでどちらともいえないとしました。
募集要項と対象学生とのミスマッチが懸念されるため。
当社の業種と観光学との関係性が希薄なため
採用計画が未定の為
当社の業界では必要性が感じ取れない、しかし外国人留学生の採用については検討したい
当社における事業および業務内容に直接的にマッチする内容ではないと考えたため
現在の募集は現場作業員となるため、希望と合致しないと思われる為。
具体的な人材イメージがわからないため
SDGs および観光に精通した人材の社会的需要は一定あると考えるが、最終的には他の様々な要素を総合的に判断し採用可否を判断するため。
弊社の採用基準の中に学部という概念はあまり影響はないため。しかし、今後の将来について鑑みると採用をする場面が出てくる可能性があると考えている。
サステナビリティ事業に特化していく予定はなく、その分野を専門的に扱っていただくことはないから。(ミスマッチにつながりかねない)
海外志向の強い学生様・語学堪能な学生様は歓迎しますが、観光分野はこれまでほぼ採用実績が無かったもので「どちらとも言えない」を選択しました
弊社は、学生含め日本籍の方とは異なる視点を持つ外国籍の方、外国籍の学生の方にご参加頂く事で、社内でこれまでと異なる意見を得る事が出来たり、より様々な世の中の情報や情勢をキャッチできる会社環境を構築していけると考えている為、現時点では外国籍の方の採用の方に重きを置いております。
観光産業は弊社の属する産業とは異なり、なおかつ貴学部ならではの学びを活かす環境が他社に比べ少ないと考えるため。
弊社事業との親和性の観点による。ホテル事業も一部おこなっているものの、継続的な採用活動を行っていないため

■ 国際学生（留学生）を採用する際の日本語能力の基準【任意回答】 [問10]

回答	件数
JLPT N1 レベル以上	48
JLPT N2 程度	15
JLPT N4 程度	1
JLPT N5 程度	1
基準は設けていない	6
その他	4

(「その他」と回答した内訳)

回答	件数
ビジネスレベル	1
今後検討	1
基準は設けていないが業務において問題なくコミュニケーションが図れるレベル	1
ビジネスレベル以上	1

■ サステナビリティ観光学部卒業生に期待できる能力・スキル【任意・複数回答】 [問 11]

回答	件数	比率
物事に自ら進んで取り組もうとする力が身についている	66	69.5%
コミュニケーション能力が身についている	65	68.4%
多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身についている	63	66.3%
課題を発見しようとする力が身についている	62	65.3%
新たなことに挑戦する積極性が身についている	62	65.3%
実践を通じて、行動する力が身についている	45	47.4%
社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルが身についている	45	47.4%
国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力が身についている	44	46.3%
複数の言語を運用する力が身に着いている	35	36.8%
計画を立て、着実に物事を進める力が身についている	31	32.6%
実践的な学びから実務的なスキルが身についている	23	24.2%
専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力を身につけている	21	22.1%
学術的な専門知識が身についている	9	9.5%
業界での就業経験(インターンなど)がある	7	7.4%

■ 貴社が求める人材像【必須回答】 [問 12]

回答	件数	比率
チャレンジ精神	29	30.5%
主体性	16	16.8%
問題発見・解決能力	15	15.8%
コミュニケーション能力	12	12.6%
チームワーク力	6	6.3%
論理的・批判的思考力	5	5.3%
その他	3	3.2%
責任感	3	3.2%
リーダーシップ	2	2.1%
異文化理解力 テクノロジーに対するリテラシー	2	2.1%
英語によるビジネス推進能力	2	2.1%

(「その他」と回答した内訳)

回答	件数
誠実性	1
高い志を持ち、日々挑戦し続ける方	1
選択肢の複数領域のスキルを同程度の水準で求める	1

■ サステナビリティ観光学部への期待【任意回答】 [問13]

<p>国境を、ある意味意識せず人類に対して課題解決に向けて活躍できる人財を期待しています。観光は、国境をまたぎ、双方向で交流し、地域・違いを理解し、言わば弊社においても重要な「グローバル」を実践・研究(学ぶ)できる学問にまで昇華する可能性があり期待しています。</p>
<p>立命館アジア太平洋大学の学生さんには社内外において活用いただく以下を重視しています。</p> <p>①複数言語スキル ②異なる思考/文化背景の理解と課題特定～解決能力 ③(オフィスによっては)新規事業推進力/データ解析力</p> <p>サステナビリティ観光学部が目の前に「見えている」だけではないことを志向するであろうことを鑑みて、②③のスキルのある学生さんが育成されたのであればぜひ採用のご縁があればと思います。</p>
<p>文系的な学部なので、IR部署や経営企画等の即戦力として育成して欲しいというより、今後の世界を見据える力や、社会問題について考えた経験があり、会社で課題に対して解決が出来る再現性のある学生を育成していただきたいです。即戦力を育てるという視点も必要かと存じますが、あくまでも日系企業は「ポテンシャル採用」ですので、様々な知見や、文化等に触れ、問題解決のプロセスや経験をしている学生であった方が、採用したいと感じます。また大分という地を活かした課題解決を行っている学生には需要があると思います。</p>
<p>日本から、世界に向けて活躍できる人材の育成を希望します。</p>
<p>異業界企業ではあるものの、「デジタル×観光」のようなITスキルを持った人材であれば採用を検討したい。</p>
<p>グローバルな人材、社会課題への取り組みを期待しています。</p>
<p>観光学を通じて、異文化の人に対する認識やコミュニケーション力が備わることを期待します。</p>
<p>調査分析能力や、ITリテラシーはどの分野でも活躍できると思います。</p>
<p>貴学の当社内定者のような魅力ある人材の輩出を引き続きよろしくお願いいたします。</p>
<p>地域の持続可能性についての問題意識や課題を認識し、行動できる人材の育成。</p>
<p>創造性豊かで素直に現実を受け止め、自分の考えを強く発信し行動できる人を育成して欲しいです。</p>
<p>社会課題を自分事として捉えるだけではなく、具体的に解決のためのアクションに繋がられる人材を輩出されることを期待しております。</p>
<p>SDG'sやESGをビジネスに組み込み設計し粘り強く提案する力と、地球市民として高い視座で周囲を牽引する力、そしてそういった理想に向かって組織的・集团的に成長されてゆくことを期待しています。サステナブルな考えが地球全体にとって必要である一方、まだまだ個人は目先の利益や利害関係にとらわれる傾向にあります。</p> <p>この社会の現実理想に掲げて邁進する労力は一通りではなく、個人の取り組みには限界があります。確かな知識と強い意志を持ったリーダー、それを支え合う仲間が必要不可欠です。当社はサステナビリティレポートを発信していますが、日本においてはまだまだ途上です。ぜひ、地球市民としてあるべき高い視座を社会にもたらしてほしいと期待しています。</p>
<p>弊社はエネルギーに関する事業を進めており、持続可能な社会構築を最終目標として事業を進めております。貴校が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」は一般的な認識にある観光と異なり、環境学及び資源マネジメントを理解した上でどのように環境にやさしい観光及び広域的な持続可能な発展を進める観光行動が弊社として期待している点だと思っております。また、観光を進めることにより、地域エリアの経済発展や文化のコミュニケーション等を活発させるために、地域構造もより暮らしやすいほうに推進できるのではないかと期待しております。</p>
<p>当社のパーパスとして「持続可能な社会」の実現掲げており、貴校の新設学部である「サステナビリティ観光学部」のミッションとも方向性が合致しているため、ぜひ色々と連携できればと思います。</p>
<p>資料を拝見し、他大学の観光学部にはない独自性があると思われますので、卒業生の皆様が新しい発想でビジネスを展開されることを期待いたします。</p>

アンケート調査項目

APU 新学部設置に関するアンケート調査

[問1] 貴社の主業種として、最もあてはまるものをお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

水産・農林・漁業 鉱業 建設 食品・飲料 繊維工業 衣料・繊維 木材・木製品
家具・装備品 パルプ・紙 化学・化学品・化粧品 薬剤・医薬品 ゴム製品
プラスチック製品 鉄鋼・非鉄 金属製品 機械器具 電気機器 輸送用機器
精密機器/情報通信機器 その他製造 化学医薬卸 衣服繊維卸 食料飲料卸 電気機器卸
輸送機器卸 その他卸 百貨店 スーパー・コンビニエンスストア 衣服・履物小売
食品・飲料小売 家庭機具小売 家電・電気器具小売 医薬品・化粧品小売 その他小売
銀行・信託 消費者金融 クレジット 証券・先物 保険 その他金融 不動産 鉄道
道路輸送 水上輸送 航空輸送 倉庫 郵便・運輸サービス 飲食店 旅行 通信
電気・ガス・水道 賃貸・リース 宿泊所・ホテル 理容・美容 娯楽 放送 出版・印刷
広告・調査 SIer/NIer、システムコンサルファーム、ベンダー 情報サービス ソフトウェア
病院・医療 老人福祉・介護 教育 その他サービス 官庁・自治体 その他団体 その他

[問2] 貴社の所在地をお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県
埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県
岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県
佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 その他

[問3] 貴社の従業員・職員数をお答えください。以下からひとつだけ選んでください。

～99人 100～299人 300～499人 500～999人 1,000～2,999人 3,000～9,999人
10,000人～

[問4] 貴社で働いている「日本の大学を卒業した国際学生(留学生)」の人数についてお伺いします。最も近いものを1つお選びください。

0名 1名～4名 5名～9名 10名～29名 30名～49名 50名～

[問5] 貴社においてこれまで、立命館アジア太平洋大学の卒業生をご採用いただいたことはありますか。あてはまるもの一つにチェックをお願いします。

採用したことがある 採用したことはない わからない

次の質問からは、別紙の構想概要をご覧頂き回答下さい。

[問6] 今後の社会において、立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」が養成する人材はニーズが高いと思われますか。あてはまるもの一つにチェックをお願いします。

ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない
 ニーズは全くない わからない

[問7] 貴社において、立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」が養成する人材を採用したいと思われますか。「日本人学生」「国際学生（留学生）」それぞれについて、お選びください。なお、回答にあたっては、新型コロナウイルス感染症終息後（平常時）を念頭に置いて回答頂ければ幸いです。それぞれあてはまるもの一つにチェックをお願いします。

是非採用したい 採用を検討したい 採用は検討しない どちらとも言えない

[問8] 問7で「是非採用したい」「採用したい」とされた場合、よろしければ、採用規模（年度あたり）について、以下にお答えください。

日本人学生について、採用を希望する人数
 国際学生（留学生）について、採用を希望する人数
 日本人・国際学生（留学生）を問わない場合は、合計人数をこちらに記入してください

[問9] 問7で「採用しない」「どちらとも言えない」とされた場合、よろしければその理由をお答えください。

[問10] 問7で国際学生（留学生）を「是非採用したい」「採用したい」とされた場合、貴事業所において国際学生（留学生）を採用する際の日本語能力の基準についてお伺いします。最も近いものを1つお選びください。

JLPT N1 レベル以上 JLPT N2 程度 JLPT N3 程度 JLPT N4 程度 JLPT N5 程度
 基準は設けていない その他

[問11] サステナビリティ観光学部を卒業する学生に対して、以下の能力・スキルが身につけていることをどの程度期待できそうですか。あてはまるもの全てにチェックをお願いします。

物事に自ら進んで取り組もうとする力が身につけている
 実践を通じて、行動する力が身につけている
 課題を発見しようとする力が身につけている
 計画を立て、着実に物事を進める力が身につけている
 国内・国外を問わず、どのような場所でも働く力が身につけている
 多様な人々と共に、目標に向けて協力する力が身につけている
 学術的な専門知識が身につけている
 専門の学問領域とその周辺領域の学問を融合する力を身につけている

実践的な学びから実務的なスキルが身についている
業界での就業経験(インターンなど)がある
複数の言語を運用する力が身についている
社会全体や自身の業務における課題を発見し、調査・分析を行うスキルが身についている
コミュニケーション能力が身についている
新たなことに挑戦する積極性が身についている

[問12] 貴社が求める人材像についてお聞きします。最も近いものを1つお選びください。

英語によるビジネス推進能力
異文化理解力 テクノロジーに対するリテラシー
リベラルアーツの素養
業務に関連する専門的な知識
論理的・批判的思考力
倫理的判断力
問題発見・解決能力
チャレンジ精神
責任感
主体性
リーダーシップ
チームワーク力
情報収集・分析能力
コミュニケーション能力
その他

[問13] 立命館アジア太平洋大学が設置構想中の「サステナビリティ観光学部」について期待される点やご要望等がありましたら、ご記入ください。



*2023年4月設置構想中。設置構想のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

1

新学部開設の趣旨

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

世界レベルやユニバーシティレベルの課題

- ・資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- ・観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- ・グローバル化・デジタル化の中での地域再生

社会のニーズ

- ・持続可能な社会に関する教育・研究
- ・持続可能な観光に関する教育・研究
- ・環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な社会を形成する理論と実践
- ・将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは前者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みとする所は、新学部として期待

これまで培った環境学、観光学、観光学等の教育研究実績、一村一品運動など地域開発のモデルを創造してきた大分・別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として期待することと社会的な要請へ対応する

*2023年4月設置構想中。

2

新学部のコンセプト

ミッション

サステイナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や知見の発展を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組み、**学問的実践者 (Scholar-practitioner)** のコミュニケーションを目指す。

人材育成目的

サステイナビリティ観光学部は、社会学を基礎としたカリキュラムおよびキャンパス内外における様々な社会の活動主体と協働した学びを通じて、社会と地域について学際横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的思考、定性的・定量的**分析、問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身につけることで、様々な**社会課題**に対処でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。

*2023年4月設置構想中。

4



学部・学科名称
サステイナビリティ観光学部
サステイナビリティ観光学科
College of Sustainability and Tourism
Department of Sustainability and Tourism

新学部の概要

学位名称
学士（サステイナビリティ観光学）
Bachelor of Sustainability and Tourism

入学定員 350名

*2023年4月設置構想中。設置構想のため、設置計画は変更になる場合があります。学部名称は仮称です。

3

教育内容－文理融合の専門科目群

9つの専門領域から、学生自身が希望するキャリア・修得したい知識・能力に応じて、組み合わせる

科目群 (コンセントレーション)	内容
環境学 Environmental Studies	自然、社会、経済、教育など、学術基礎
資源マネジメント Resource Management	循環型社会、エネルギー・気候変動などを中心
国際開発 International Development	学術教育では国内でもトップレベルの国際開発が学べ、環境と組み合わせることで持続可能な開発をカバー
観光学 Tourism Studies	経済、社会、歴史、文化などに関係する観光の基礎
観光産業 Tourism Industry Operations	観光産業の分析、新製品創出、マーケティング
ホスピタリティ産業 Hospitality Operation	ホテルやリゾートにフォーカス
地域づくり Regional Development	観光地を中心とした地域の持続可能な開発・デザイン
社会起業 Social Entrepreneurship	社会起業、プロジェクトマネジメント
データサイエンスと情報システム Data Science & Information System	ICTとその応用

*2023年4月設置構想中。 5

教育方法－特徴的な学び方

- 「理論」と「実践」を併せ持つ「学問的実務家 Scholar-Practitioner」の育成
- 教育手法：すべての学生が、「講義・演習」「現場での実践」「調査・分析スキル」を組み合わせて学修



*2023年4月設置構想中。 6

教育方法－学外での学び Off-Campus Study

目的や期間に応じて、「フィールド・スタディ」「専門インターンシップ」「専門実習(プラクティカム)」という3種類の学外学修を用意。新学部で学ぶ学生は、この内のいずれかを必修。



フィールドスタディの事例

- ・ 「Heritage Tourism in Urban and Rural Landscapes」(実習地:イタリア、スペイン)
- ・ 「国際機関の役割と活動」(実習地:スイス、フランス、東京)
- ・ 「持続可能な地域の価値づくり:長野県飯田市における調査」(実習地:長野県)

機関・企業との連携事例・活動事例 ※実績ベース(今後さらに開拓予定)

- ・ 国際機関 (OHCHR, ILO, OECD, IEA, UNWTO, FAOなど)
- ・ 企業連携 (インターコンチネンタルホテル、杉乃井ホテル【オリックス】、日本航空、全日空、大分同新運社、大分銀行など)
- ・ 国内外のフィールドワーク (上海、ソウル、ストックホルム、カナダ、バンクーバー、大分・別府、関東世界遺産圏、北九州、佐賀県唐津市、阿蘇くじゅう国立公園・環境省など)

*2023年4月設置構想中。 7

想定する進路・就職

これからのグローバル化する社会のあらゆる面で求められる持続可能性と観光関連分野を対象に、課題発見-分析-解決のための理論的・実践的学修を徹底することで、幅広い企業・機関で活躍する人材を育てます。

想定する進路・就職(例)

- ・ 環境産業および一般企業・組織のCSRやサステイナビリティを推進する部門
- ・ 観光産業やサービス業
- ・ まちづくり、地域開発のプロジェクトマネージャー
- ・ 国際機関、公的機関、NGO(非政府組織)
- ・ 大学院進学、社会起業

*2023年4月設置構想中。 8

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	テグチ ハルアキ 出口 治明 <平成30年1月>		学士 (法学)		立命館アジア太平洋大学 学長 (平成30年1月～令和5年12月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次）サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科

1. 本学の他の学部学科における志願者数や歩留率等を踏まえれば、一定の学生確保は可能であると見受けられるが、本学部は新たに設置される学部であり、既設学部の志願者数等をそのまま根拠とすることが適切であるとは判断できない。その上で、一般高校生、附属高校生、海外の高校生等へのアンケート調査に基づき学生確保の見通しについて説明されているが、複数ある調査項目のうちクロス集計されているのは2項目のみであり、真（しん）に本学部に対する入学する意向がある者の分析としては本学部への進学を念頭に、高校卒業後の希望進路や進学希望分野などについても合わせてクロス集計を行うことが適切である。このようなクロス集計を行えばさらに入学見込みが高い者が減少することが想定されるが、2項目のみのクロス集計結果においても326人と増加後の入学定員は達しておらず、学生確保の見通しが十分にあるとは判断できない。このため、より入学する見込みが高い者を精査するため、適切な項目のクロス集計等により、改めて客観的な根拠を示した上で、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しがあることを明確に説明すること。

（是正事項）・・・2

2. 人材需要の社会的動向の根拠の一つとして説明されている「本学重点企業採用担当調査報告書」では日本人学生、国際学生及びどちらであるかを問わない採用意向がそれぞれ示されているが、示されている年度規模採用数の中に「30名（当社全体人数）」といった趣旨が不明確な記載や採用予定数を「400名～500名」とするなど規模として真（しん）に本学部の卒業生のための強い採用意向としての趣旨なのか不明確な回答も見られるため、本学の卒業生に対する採用意向について示している数値であるかを具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。

（是正事項）・・・17

(是正事項) サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科

1. 本学の他の学部学科における志願者数や歩留率等を踏まえれば、一定の学生確保は可能であると見受けられるが、本学部は新たに設置される学部であり、既設学部の志願者数等をそのまま根拠とすることが適切であるとは判断できない。その上で、一般高校生、附属高校生、海外の高校生等へのアンケート調査に基づき学生確保の見通しについて説明されているが、複数ある調査項目のうちクロス集計されているのは2項目のみであり、真(しん)に本学部に対する入学する意向がある者の分析としては本学部への進学を念頭に、高校卒業後の希望進路や進学希望分野などについても合わせてクロス集計を行うことが適切である。このようなクロス集計を行えばさらに入学見込みが高い者が減少することが想定されるが、2項目のみのクロス集計結果においても326人と増加後の入学定員は達しておらず、学生確保の見通しが十分にあるとは判断できない。このため、より入学する見込みが高い者を精査するため、適切な項目のクロス集計等により、改めて客観的な根拠を示した上で、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しがあることを明確に説明すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、サステナビリティ観光学部の入学意向をより確実に、より正確に把握すべく、以下の対応を行った。

【概要】

- (対応) ① クロス集計の改善・・・既存調査 a、b
 ② 国内高校生への追加アンケート調査実施(①と同じクロス集計)・・・追加調査 a-1
 ③ 海外高校生(既卒含む)への追加アンケート調査の実施・・・追加調査 d-1

【対象者別の対応状況】

対象者	既存調査(2021年11月～2022年1月実施)	追加調査(2022年6月～7月実施)
①国内高校生(一般高校生)	既存調査 a→対応①	追加調査 a-1→対応②
②国内高校生(附属高校生)	既存調査 b→対応①	
③海外高校生(既卒含む)	既存調査 d(d-1に差替)	追加調査 d-1→対応③

※ その他、既存調査として海外事務所・エージェントへの調査(c)、海外の高校教員・カウンセラーへの調査(e)も実施。

【対応を通して本学部への入学意向が明らかとなった者】

対象者	既存調査(2021年11月～2022年1月実施)	追加調査(2022年6月～7月実施)	合計
①国内高校生(一般高校生)	160人	140人	300人
②国内高校生(附属高校生)	2人		2人
③海外高校生(既卒含む)		142人	142人
合計			444人

(1) 国内高校生追加アンケート調査の実施とクロス集計の改善

① 追加アンケート調査 (a-1) の実施

申請書においては、国内 67 校を対象にアンケート調査を実施した（既存調査 a：2021 年 11 月～2022 年 1 月に高校 2 年生を対象に実施）。審査意見を踏まえ、長期的かつ安定的な学生の確保の見通しを得るべく、追加のアンケート調査（追加調査 a-1）を実施した。アンケート内容、提示資料は前回の既存調査と全く同じものを使用した。追加調査 a-1 の概要は以下の通りである。

なお、追加調査 a-1 は第三者機関である株式会社高等教育総合研究所がアンケート用紙および回答の Web サイトを用意し、既存調査分との重複確認も含めて、集計作業を行っている。

調査概要	2023 (令和 5) 年度の大学入試を受験する可能性が最も高い高校 3 年生 (2023 (令和 5) 年 3 月卒業予定者) を対象としたアンケート
調査対象者	既実施のアンケート調査対象 67 校および学校法人立命館附属高等学校以外の高校の高校 3 年生
調査期間	2022 (令和 4) 年 6 月 24 日～7 月 8 日
回答	1,432 人 (紙ベース回答 238 人、Web ベース回答 1,194 人)、252 校
調査方法	(A) アンケート実施の了承が得られた高校 (既実施のアンケート調査対象 67 校を除く) に以下の方法で実施。 ・本学部の資料とアンケート用紙を高校へ送付、高校 3 年生の生徒へ配布し、回答をその場で回収。 ・アンケート用紙と同じ内容の調査のための Web サイトを構築。本学部の資料と回答のための Web サイトを高校へ送付、生徒が Web にて回答。 (B) オープンキャンパスや大学説明会などへ参加し、本学がメールアドレスを把握している高校生 (4,260 人) へ、本学部の資料を送付の上、前出の調査のための Web サイトへの回答を依頼。 ※ (A) は、既存調査 a で依頼した 67 校以外に本学に入学実績がある高校を中心に調査を依頼した。(B) は、様々な入試関連イベントで本学と接点があり連絡先を登録した高校 3 年生 (本学からのアンケートなどを了承してくれた高校生) を対象とした。 ※ 既存調査と (A) (B) の重複は除外している。
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所 (アクセス)、学生納付金、問い合わせ先

② クロス集計の改善と集計結果

審査意見を踏まえ、より確実な入学の意向を集計すべく、希望進路については「大学」を希望する者のみ、進学希望分野については「社会科学」を希望する者のみを対象として、本学部の受験意向を持ち、本学部に合格した場合に入学する意向を示した者の人数を集計した。以上の集計方法は、既存調査および追加調査の両方に適用している。

1) (既存調査 a) 一般高校生

アンケート調査による入学意向を持つ一般高校生の人数を 321 人としていたが、前述のク

ロス集計改善により、160 人となった。(回答数 10,602 人)

2) (既存調査 b) 附属校生

アンケート調査による入学意向を持つ附属校生の人数を 5 人としていたが、前述のクロス集計改善により、2 人となった。(回答数 854 人)

3) (追加調査 a-1) 一般高校生

全く同様のクロス集計により、入学の意向を確認できたのは 140 人となった。(回答数 1,432 人)

③ 国内の高校生の入学意向

以上から、合計 302 人の入学意向を持つ高校生を確認することができた (併願結果により入学する意向を持つ者を除く)。

※ 併願結果により入学する意向を持つ高校生

参考までに、「合格した場合、入学したい」ではなく、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」のクロス集計は、(既存調査 a) 一般高校生 367 人、(既存調査 b) 附属校生 8 人、(追加調査 a-1) 一般高校生 87 人の、合計 462 人となった。この 462 人の一部の入学も期待ができる。

(別添資料 8 P28)

◆ 「サステナビリティ観光学部 (仮称)」への入学意向 (a、a-1、b 合計)

「高校卒業後の進路：進学 (大学)」且つ「希望する学問分野：社会科学」と回答した者に限定した上で、入学意向を把握するために、「受験意向：受験したい」・「入学意向：はい/併願次第」と回答した数を集計したところ、下表の結果となった。[グラフ/表 5]

全体で 772 人が「受験したい」と答え、その受験者の中から 302 人が合格した場合に「入学したい」という回答を示した。

なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 462 人となった。

[グラフ/表 5]

高校卒業後の進路	関心のある学問分野	受験意向	入学意向	調査			合計
				a 調査	a-1 調査	b 調査	
進学 (大学)	社会科学	受験したい	入学したい	160 人	140 人	2 人	302 人
			併願次第	367 人	87 人	8 人	462 人
			無回答	7 人	0 人	1 人	8 人
		計	534 人	227 人	11 人	772 人	
	受験しない	—	3,615 人	448 人	384 人	4,447 人	
	無回答	—	62 人	1 人	13 人	76 人	
	計		4,211 人	676 人	408 人	5,295 人	
	その他		5,167 人	634 人	421 人	6,222 人	
	計		9,378 人	1,310 人	829 人	11,517 人	
	その他		1,224 人	122 人	25 人	1,371 人	
	全体 計		10,602 人	1,432 人	854 人	12,888 人	

なお、既存調査は、回答数に比して入学意向を示した割合が低く、追加調査は高い割合になっている。既存調査は各高校に用紙を送付、生徒に配布し、その場で記入させて、すべて回収する仕組みとしたため、本学や本学部に関心がない高校生も全て回答したこととなる。他方、追加調査のほとんどのケースは、各高校に Web に設けたサイトを案内し、回答してもらう仕組み（調査項目・内容、資料は全く同じ）、および、資料と調査内容を送付し、Web に設けたサイトにて回答する仕組み（調査項目・内容、資料は全く同じ）としたため、興味関心がない生徒は回答をしなかったことが原因と思われる。加えて、時期的に既存調査が高校 2 年生であったのに対して、追加調査は回答者がすべて高校 3 年生であり、進学希望先のイメージがより具体的な生徒が回答したことも理由と思われる。

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (5~6 ページ)

※ 既存調査 a (一般高校生) のクロス集計の修正

新	旧
<p>(既存調査 a : 別添資料 P31~)</p> <p>一般高校生を対象としたアンケート調査(既存調査 a)において、サステナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路(大学を選択)、希望分野(社会科学)、受験希望(本学部)、入学意向(本学部に入りたい)をクロス集計した結果、160 人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。</p> <p>内訳は、高校卒業後の進路では 9,378 人が「大学」と回答し、その内 4,211 人が希望分野を「社会科学」と回答した。その中で 534 人が本学部の受験を希望し、その受験希望の中から 160 人が合格した場合に入学するという回答を示した。</p> <p>なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 367 人となった。(以上、数値は別添資料 P40 に整理)</p>	<p>一般高校生を対象としたアンケート調査では、高校卒業後の進路について 9,378 人(88.5%)が「大学」と回答した。興味のある学問分野は 4,478 人(42.2%)が社会学、観光学、経営学、経済学、法学、開発学などを含む「社会科学」と回答し、本学部が対象とする教学分野への関心の高さがうかがえた。サステナビリティ観光学部の概要を示した上で受験意欲・進学意欲について回答を求めたところ、1,034 人(9.8%)が「受験したい」と回答した。さらに、「受験したい」と回答した 1,034 人に合格した場合の入学意欲について回答を求めたところ、321 人(31.0%)が「入学したい」と回答し、698 人(67.5%)が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。本学が行った今回の調査は、全国の高校の一部の約 1 万人に対して行った調査ではあるが、結果として、「入学したい」「併願大学の結果によって入学したい」と回答した高校生は合計 1,034 人となり、本学部が設定する入学定員 350 名の 2.95 倍であった。サステナビリティ観光学部を「受験しない」と回答した 9,402 人(88.7%)にその理由について回答を求めたところ、「サステナビリティ観光学部(仮称)に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから(685 人)」「国公</p>

	立大学進学を希望しているから（同分野の学部）（331人）」「他の私立大学進学を希望しているから（同分野の学部）（475人）」という回答が示された（いずれも複数回答の結果）。これらの選択肢を選択した高校生はサステナビリティ観光学部と教学内容が同じ分野に興味を示していることから、今後の広報活動を通じて本学部への進学希望者になりえる層と推察される。
--	--

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (6~7 ページ)

※ 追加調査 a-1 (一般高校生) の集計結果追加

新	旧
<p>(追加調査 a-1: 別添資料 P42~)</p> <p>長期的かつ安定的な学生の確保の見通しを得るべく、追加のアンケート調査(追加調査 a-1)を実施した。サステナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路(大学を選択)、希望分野(社会科学)、受験希望(本学部)、入学意向(本学部に入りたい)をクロス集計した結果、140人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。</p> <p>内訳は、高校卒業後の進路では 1,310人が「大学」と回答し、その内 676人が希望分野を「社会科学」と回答した。その中で 227人が本学部の受験を希望し、その受験希望の中から 140人が本学部合格した場合に入学するという回答を示した。</p> <p>なお、参考までに、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 87人となった。(以上、数値は別添資料 P50-51に整理)</p> <p>※ (A) は、既存調査 a で依頼した 67 校以外に本学に入学生績がある高校を中心に調査を依頼した。(B) は、様々な入試関連イベントで本学と接点があり連絡先を登録した高校 3 年生(本学からのアンケートなどを了承してくれた高校生)を対象とした。</p> <p>※ 既存調査 a と追加調査 a-1 において、重複</p>	なし

<p>は取り除いている。具体的には、追加調査 a-1 においては、既存調査 a の調査対象の高校（67 校）および附属高校（4 校）の回答を全て除外した。</p>	
---	--

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (7 ページ)

※ 既存調査 b (附属校生) のクロス集計の修正

新	旧
<p>(既存調査 b : 別添資料 P53~)</p> <p>本学を設置する学校法人立命館の附属高校生 (計 4 校) を対象としたアンケート調査 (既存調査 b) では、<u>サステナビリティ観光学部の概要を示した上で、高校卒業後の進路 (大学を選択)、希望分野 (社会科学)、学内進学希望 (本学部)、入学意向 (本学部に入りたい) をクロス集計した結果、2 人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった。</u></p> <p>内訳は、高校卒業後の進路では 829 人が「大学」と回答し、その内 408 人が希望分野を「社会科学」と回答した。その中で 11 人が本学部の学内進学を希望し、その学内進学希望の中から 2 人が合格した場合に入学するという回答を示した。</p> <p>なお、参考までに、「内定した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答した者は 8 人となった。(以上、数値は別添資料 P61-62 に整理)</p>	<p>本学を設置する学校法人立命館の附属高校生 (計 4 校) を対象としたアンケート調査では、<u>附属高校卒業後の進路として 829 人 (97.1%) が「大学」と回答した。サステナビリティ観光学部の概要を示した上で、学内進学への意欲について回答を求めたところ、18 人 (2.1%) が「希望する」と回答し、808 人 (94.6%) が「希望しない」と回答した。学内進学を希望しない理由について回答を求めたところ、602 人 (74.5%) が「立命館大学への進学を希望しているから」と回答し、85 人 (10.5%) が「進路は未定だから」と回答した (いずれも複数回答の結果)。</u></p> <p>なお、2022 年度附属校推薦入試の定員はアジア太平洋学部・国際経営学部併せて 15 名であり、定員に対する志願者数 (=学内進学希望者数) は 24 名であった。今次の調査結果より、附属高校生 18 人が本学部への学内進学への意欲を示していることから、本学部と既設学部の志願者数 (=学内進学希望者数) の比較において、本学部は需要が大きいことが判明した。</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (7 ページ)

※ 国内高校生の調査結果のまとめの追加

新	旧
<p>(国内高校生調査のまとめ : a、a-1、b)</p> <p>以上から、国内においては、合計 302 人の入学意向を持つ高校生を確認することができた (併願結果により入学する意向を持つ者を除く)。</p>	なし

<p>また、「併願結果により入学する意向を持つ者」は、合計 462 人となった。この 462 人の一部の入学も期待ができると考えている。</p>	
--	--

(2) 海外高校生（既卒含む）アンケート調査（d-1）の実施

① 海外高校生アンケート調査の背景

本年 3 月に提出した申請書においては、本学が把握している海外の高校生を対象に、本学が開設を予定している 2023（令和 5）年の春もしくは秋に大学進学意向を示している者を対象にメールで調査を行ったが（既存調査 d）、調査時期の昨年 11 月-本年 1 月はコロナ禍で日本が入国制限をしていたこと、また昨年 11 月-本年 1 月は 2023（令和 5）年の春もしくは秋の大学進学希望向けの説明会の開催時期ではなかったため、十分な調査を実施できず、回答は 40 人とどまった。

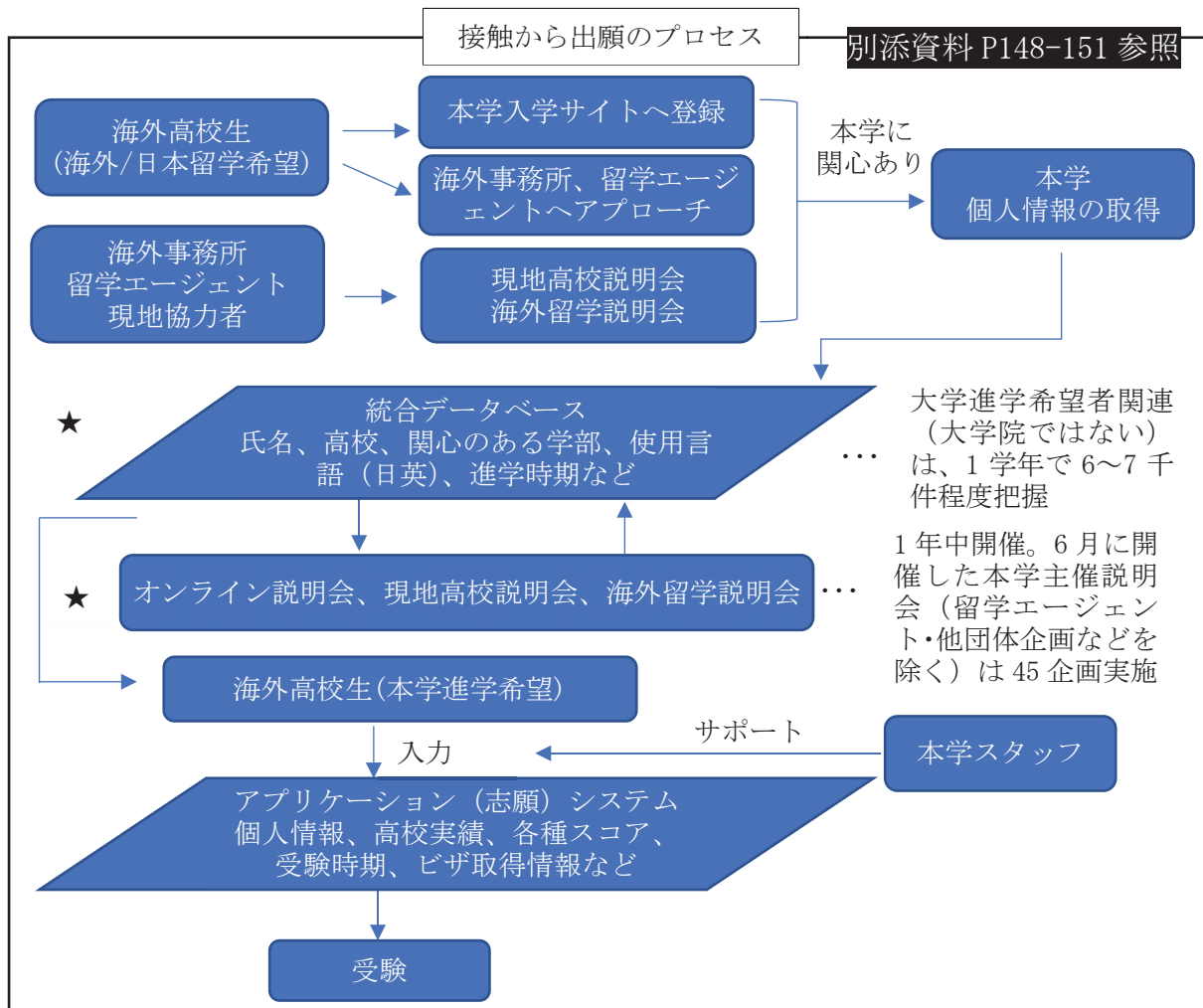
現在はコロナの影響はまだ残るものの、3 月末より日本へ入国が可能となり、キャンパスで学生生活を送ることができる環境となった。また、説明会も多数、開催できるなど大きく環境が変わったため、以下の通り、再度、調査を実施することとした。このため、申請書において実施した既存調査の海外高校生向けのアンケート調査（資料 11）は参考資料とし、既存調査 d の結果の人数は入学意向の人数に算入せず、この追加調査 d-1 を入学意向の人数に算入することとしたい。

② 海外高校生（既卒含む）の接触から出願のプロセス

下図のフローの通り、これまで様々なアプローチを通じて把握した本学への進学に関心を寄せる高校生（既卒含む）の情報をデータベースへ統合し、様々な説明会（学部説明会、奨学金・学費説明会、ビザ説明会など）の案内・参加を通じて、当該高校生の進学意向の詳細を把握し、次のステップのアプリケーション（志願）システムの入力へと進むこととなる。留学の出願は膨大な情報入力が必要となるので、本学スタッフがサポートをしている。本学部はまだ構想中のため、アプリケーションシステム入力できないようになっているが、設置構想中との説明の下、各種説明会を実施し、統合データベースにより本学部に強い関心を持つ高校生の情報を蓄積している。

※ 既卒者について：留学生は様々な社会制度の国・地域から来る。既卒者は高校卒業後、数年経っている年齢層も若干いるが（例、各国の兵役、米国の GI BILL など）、2023（令和 5）年の大学進学を希望する者のみを対象としているので、現時点の大学進学希望層と言える。

※ 連絡先の把握方法：下図「接触から出願のプロセス」にあるように、海外の高校生自らのアプローチ（本学入学サイトや海外事務所、留学エージェントなど）で得た情報、海外事務所・留学エージェント・海外協力者が現地高校や留学イベントを通じて得た情報が主になる。



③ 調査の概要

調査概要	海外の高校3年生および高校卒業者（以下、高校生（既卒含む）を対象としたアンケート
調査対象者	(A) 説明会出席者対象調査 2023（令和5）年の春もしくは秋に大学進学を希望し、かつ、本学を受験する意向を持つ者を対象としたオンライン説明会へ参加した高校生（既卒含む） (B) 連絡先を把握する高校生（既卒含む）を対象としたメール調査 本学がメールアドレスを把握している、2023（令和5）年の春もしくは秋に大学進学の意向を持つ高校生（既卒含む）
調査期間	2022（令和4）年6月19日～7月8日
回答	241人
調査方法	(A) 説明会出席者対象調査 2023（令和5）年の春もしくは秋に大学進学の意向を示し、本学を受験する意向を持つ者に対するオンライン説明会において、本学部の資料をオンライン説明会で提示し、その上で、本学部の受験意向および、本学部に合格した場合の入学意向などを調査した。調査方法は、説明会の

	場における調査実施および説明会後のメールアンケート調査となった。対象説明会は4回。回答者数71人 (B) 連絡先を把握する高校生（既卒含む）を対象としたメール調査 2023（令和5）年の春もしくは秋に大学進学意向を示している者に対して、本学部の資料をメールに添付し、本学部の内容への関心、本学部の受験意向および、合格した場合の入学意向などを調査した。調査送付先5,400人。回答者数170人
調査時に明示した事項	開設時期、学部・学科名称、入学定員、設置の理念、養成する人物像、教学の概要、卒業後の進路の例、設置場所（アクセス）、学生納付金、問い合わせ先

④ 今回の調査対象

今回の調査対象は、このプロセスにおける「説明会」への出席者、および、統合データベースに登録している高校生（既卒含む）を対象としている（上図の★）。

(A) 説明会出席者対象調査

本学が主催する6月に実施された説明会は合計45企画あったが、この調査期間で実施された企画の内、4企画を対象に調査を行った（全てオンライン説明会）。本学部の資料を提示し、その上で、2023（令和5）年春もしくは秋に進学を希望し、本学部の内容に関心があり、本学部の受験意向および、合格した場合の入学意向を調査した。全ての項目をクロス集計し得られた入学意思を持つ者は、下記の通り50人となった。

なお、本学部が設置構想中であることは、全ての説明会で明示し、説明もしている。

6/19 本学部説明会	タイ 英語・タイ語開催	出席 22人	回答 15人	入学意思 9人
6/22 本学部説明会	全世界 日本語開催	出席 13人	回答 7人	入学意思 7人
6/22 本学部説明会	全世界 英語開催	出席 56人	回答 38人	入学意思 28人
7/3 留学説明会	タイ 英語開催	出席 24人	回答 11人	入学意思 6人
	合計	出席 115人	回答 71人	入学意思 50人

※ 6/22の企画（英語、日本語）は、13カ国・地域から出席（台湾*、コートジボワール、インドネシア*、スリランカ*、フィリピン、ミャンマー、マレーシア、タイ*、ベトナム*、ドイツ、インド*、モロッコ、ウガンダ、日本）*本学の出身国・地域別在籍者数上位10か国

※ 6/19, 6/22の企画は本学部に限った内容、7/3の企画は本学部に限った説明会ではないが、いずれの企画においても本学部の内容への関心、受験意向、入学意向を調査し、クロス集計している。

(B) 連絡先を把握する高校生（既卒含む）を対象としたメール調査

統合データベースに登録されている高校生（既卒含む）の内、本学への関心が高いと思われる5,400人を対象に（1年以上前に取得した情報、登録情報が少ない、過去送付したメールが届かなかったなどを除外）、本学部の資料を添付したメールにより、本学部の内容への関心、本学部の受験意向および、合格した場合の入学意向を問う調査を行った。回答数は170人、その内、2023（令和5）年春もしくは秋に進学を希望し、本学部の内容に関心があり、本学部の受験意向を持ち、本学部合格した場合に入学する意向を示した者は92人（クロス集計結果）となった。

④ 海外の高校生（既卒含む）の調査結果

以上の2つの調査の結果より、合計142人の入学意向を確認できた。

調査は、説明会出席者への調査、および、本学入学サイトの登録、各種企画（高校説明会・留学説明会など）への出席などで収集した海外留学もしくは本学に関心を寄せる層へのメールアンケート調査であり、かつ、「2023（令和5）年春もしくは秋の進学希望」、「本学部の内容への関心」、「本学部の受験意向」、「本学部合格した場合の入学意向」の項目をすべて満たす調査方法とした。適切な調査対象および調査方法であると考えている。また、統合データベースによるチェックにより、これらの集計において回答の重複はないことを確認した。

説明会における調査結果は、自発的に企画に参加した、かなり強い志願希望者が対象であるため、高い割合で入学意思の回答があった。他方、連絡先を把握する高校生（既卒含む）へのメール調査では、他学部へも関心ある層も含めて一律に調査を実施したため、回答率自体が非常に低く出ている。

（別添資1 1-1 P124）

2) 調査結果のまとめ（追加調査d-1）

今回、「海外の高校生・高校既卒者を対象とした追加アンケート調査」では本学部のオンライン説明会4企画および本学が個人情報を持つ高校生（既卒含む）約6000人にオンラインアンケートを行った結果、241人から回答が得られた。回答者241人のうち、入学希望時期が2023（令和5）年であり、本学部への関心（あり）、本学部の受験意向（あり）、本学部合格した場合に入学意向（あり）をクロス集計した結果142人が本学部に入りたい意向を持つ結果となった（表1参照）

今回の調査は、2023（令和5）年度に大学進学を希望する者にとって進路決定時期に行っており、本学部の開設時期や教学の概要、学生納付金など受験や入学判断に必要な情報を提示した上での回答のため、上記142人は入学する見込みが高いと言える。

（表1）全回答者241人の内訳

全回答者	入学希望時期 2023年	入学希望時期 春もしくは秋		本学部への 関心（あり）	受験意向 （あり）	入学意向 （あり）	合計
		春	秋				
241人	203人	春	102人	93人	88人	87人	142人
		秋	101人	67人	55人	55人	

（新旧対照表）学生確保の見通しを記載した書類（9ページ）

※ 既存調査d（海外高校生・高卒既卒者）の数値不算入の追記

新	旧
<p>（既存調査d：別添資料P107）</p> <p>海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査（既存調査d）では、サステナビリティ観光学部に関する詳細な資料を提示の上で本学部への受験意欲・進学意欲について回答を求めたところ、22人（55.0%）が「受験し</p>	<p>海外の高校生、高校既卒者を対象としたアンケート調査では、サステナビリティ観光学部に関する詳細な資料を提示の上で本学部への受験意欲・進学意欲について回答を求めたところ、22人（55.0%）が「受験したい」と回答し</p>

<p>たい」と回答した。「受験したい」と回答した 22 人に合格した場合の入学意欲について回答を求めたところ、10 人(45.5%)が「入学したい」と回答し、12 人 (54.5%) が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した 12 人のうち 4 人が「興味・関心はあるが詳細を知った上で検討したい」と回答していることから今後の広報活動を通じて本学部への進学希望者になりえる層と推察される。</p> <p>なお、後述のように追加調査を行ったので、本調査（既存調査 d）の結果は本文の「入学意向者」の人数には算入していない。</p>	<p>た。「受験したい」と回答した 22 人に合格した場合の入学意欲について回答を求めたところ、10 人(45.5%)が「入学したい」と回答し、12 人 (54.5%) が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した 12 人のうち 4 人が「興味・関心はあるが詳細を知った上で検討したい」と回答していることから今後の広報活動を通じて本学部への進学希望者になりえる層と推察される。</p>
--	---

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (10 ページ)

※ 追加調査 d-1 (海外高校生・高卒既卒者) の集計結果追加

新	旧
<p>(追加調査 d-1: 別添資料 P123~)</p> <p><u>2023 (令和 5) 年の春もしくは秋に大学進学</u> <u>の意向を示している海外の高校生、高校既卒者</u> <u>を対象とした追加アンケート調査(追加調査 d-</u> <u>1) では、サステナビリティ観光学部の概要</u> <u>を示した上で、希望入学時期 (2023 (令和 5)</u> <u>年の春もしくは秋) をあらためて確認した上</u> <u>で、本学部への関心 (あり)、本学部への受験意</u> <u>向 (あり)、本学部への入学意向 (あり) をクロ</u> <u>ス集計した結果、142 人が本学部に入学したい</u> <u>意向を持つ結果となった。</u></p> <p><u>回答者 241 人の内訳は、入学時期を 2023 (令</u> <u>和 5) 年の春もしくは秋と回答した者が 203 人、</u> <u>本学部への関心があると回答した者が 160 人、</u> <u>その内 143 人が本学部の受験を希望し、その内</u> <u>142 人が合格した場合に入学するという回答を</u> <u>示した。(以上、数値は別添資料 P124 に整理)</u></p> <p><u>※ 調査は、説明会出席者への調査、および、</u> <u>本学入学サイトの登録、各種企画 (高校説明会・</u> <u>留学説明会など) への出席などで収集した海外</u> <u>留学もしくは本学に関心を寄せる層へのメー</u> <u>ルアンケート調査であり、かつ、「2023 (令和 5)</u></p>	<p>なし</p>

<p>年春もしくは秋の進学希望」、「本学部の内容への関心」、「本学部の受験意向」、「本学部に合格した場合の入学意向」の項目をすべて満たす調査方法とした。適切な調査対象および調査方法であると考えている。また、統合データベースによるチェックにより、これらの集計において回答の重複はないことを確認している。(後述の「学生確保に向けた具体的な取組状況<国際学生(留学生)募集>参照)」</p>	
--	--

(3) 結果

以上の通り、適切なクロス集計を行い、追加調査を実施した結果、国内の高校生では 302 人、海外の高校生では 142 人、合計 444 人の入学意向が示されているため、サステナビリティ観光学部の入学定員 350 人を上回り、十分に定員を充足できる見込みがあることを確認できた。

(国内高校生は既存調査 a に加えて追加調査 a-1 を実施し重複高校を除外し人数を加算、海外高校生については既存調査 d は今回の人数に加え追加調査 d-1 の人数のみ計上)。

なお、追加調査は期間が限られたため、適切な広報により高校生に本学部を周知できれば、実際はさらに入学意向者を獲得できると考えている。また、加えて国内の高校生の場合、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」という層も 462 人確認することができ、これらの層の一部からの入学も期待できる。

本学は、2000 年の開学以来、国内学生(日本人学生)を 50%、国際学生(留学生)を 50%とすることを大学運営の基本としてきた。本学の開学の理念(「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」)に基づく本学の教育研究の基本方針である。

そのため、キャンパスにあるアドミッションズ・オフィスの他、前述の通り、かなりの投資をして、海外事務所(6 か国・地域)を設置し、現地エージェント(23 社)や現地協力者(本学卒業生や退職教職員など 7 名)と契約し*、アジア太平洋を中心に全世界から進学希望の高校生情報を集め、包括的に管理して、高校生(既卒含む)の接触から出願、入学まで丁寧にサポートしている。入学後も、4 年 3 カ月の留学ビザが取得可能なところを、2 年 3 カ月の留学ビザしか許可せず、成績基準を設けてビザの更新の可否を判断するなど、学業に集中させる仕組みを 20 年以上取り組んできている。

国際学生(留学生)の確保は、決して入学定員充足のためではないことを付記しておきたい。

* 海外事務所(中国、韓国、インドネシア、タイ、ベトナム、台湾)は、海外からの入学実績の最上位国・地域にあたる。現地エージェント、現地協力者は、インド、アフリカ、アメリカなど若年人口増加国・地域への戦略、および、ロシアなど本学の入学実績があまりない国・地域などへの戦略の、2 つの戦略を持って取り組んでいる。

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類(11 ページ)

※ 既存調査・追加調査を踏まえた定員充足の見通しのまとめ

新	旧
<p>以上の通り、適切なクロス集計を行い、追加調査を実施した結果、国内の高校生では 302 人、海外の高校生では 142 人、合計 444 人の入学意向が示されているため、サステナビリティ観光学部の入学定員 350 人を上回り、十分に定員を充足できる見込みがあることを確認できた。</p> <p>なお、追加調査は期間が限られたため、適切な広報により高校生に本学部を周知できれば、実際はさらに入学意向者を獲得できると考えている。また、加えて国内の高校生の場合、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」という層も 462 人確認することができ、これらの層の一部からの入学も期待できる。</p>	<p>以上の客観的なデータの結果により、本学はサステナビリティ観光学部の入学定員 350 人の充足は十分に可能であると判断した。</p>

(4) 学生確保の見通し

以上のように、本学が行ったアンケート調査により、入学定員を上回る入学意向を持つ高校生（既卒含む）を確認することができた。このデータを踏まえ、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しについて、以下の通り整理する。

本申請書において、以下のデータについて取りまとめた。

【定員充足の根拠となる客観的なデータの概要】

- ・ 教学内容が同じ分野である他大学の学部・学科の入学定員および志願状況
- ・ 日本の 18 歳人口動態および私立大学における志願者動向
- ・ 世界規模での留学生・大学進学者の動向
- ・ 本学既設学部の過年度入試結果
- ・ 本学が独自に行ったアンケート調査

【学生納付金の設定の考え方】

本学部と同じ構成の教学内容を擁する国内の学部はほぼないが、「国際観光・観光・ツーリズム」「持続可能性・サステナビリティ」の教学内容を持つ学部において、入学定員を大きく超えて志願者を集めていることが確認できた [資料 1]。

また、日本の 18 歳人口は減少が続くが、本学は特定の地域のみを学生確保の基盤とせず全国から志願者を集めており、人口が集中する都市部や人口減少率が低いもしくは増加する地域から多くの志願者を集めていることが確認された [資料 2-1]。特に人口増加地域の東京にはオフィスを置き、本学入試担当者を配置している。

また、志願者の基調として、本学部の基礎となっているアジア太平洋学部（観光や開発・環境などの教学を擁する）の過去 5 年の志願数は、1,899～3,500 人となっており、本学部および定員変更後のアジア太平洋学部の合計の入学定員 (350+510=860 人) を大きく超えていることが確認

できた [資料 7]。

他方、世界の留学生動向は拡大を続けており（2015：478 万人→2019：606 万人 出展：UNESCO Institute of Statistics）、コロナ前の推計ではあるが 2025 年には 800 万人に達するとの分析もあった（OECD, 2017）。また、コロナ禍からの回復基調も確認できている [資料 5、6]。本学は世界の留学生の大部分を占める英語ベースのカリキュラムを全面的に取り入れている。この留学生の中長期的な増加傾向は、本学の学生獲得のマーケットの中長期的な拡大が見込めるということを意味する。引き続き、世界各国・地域から留学生を獲得できることが期待できる。

加えて、本学部の必要性などについて、各国・地域の高校生を獲得する事務所・現地協力者・エージェント等から好意的な見解が出されている [資料 9]。

なお、国内においても新型コロナウイルスの影響で停滞した留学生の行き来を回復させるため、文部科学省は 5 年後の 2027 年をめどに外国人留学生の受け入れ数をコロナ前の 30 万人超、海外に出る学生数を 10 万人超に戻す支援強化策を検討している（2022 年 6 月 21 日日本経済新聞）。

学生納付金については、本学が行ったアンケート調査においてその金額を明示しており、それを理解した上での回答を得ている。また、学費が高いことを理由に受験しないと回答した者は 8.3%に限られていることが確認できた（複数回答）。

本学が行ったアンケート調査により、入学定員 350 人を上回る 444 人の入学意向を持つ高校生（既卒含む）を確認することができた。また、加えて「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」という層も 462 人確認することができた。

本学が行った直接的なアンケート調査に加え、以上の重層的な分析より、本学部で長期的かつ安定的に学生の確保を図ることのできる見通しを得られたと考える。

（新旧対照表）学生確保の見通しを記載した書類（3 ページ）

※ 世界的な拡大傾向と本学の受け入れに関わる追記

新	旧
しかし、専門家・専門機関の見通しでは、海外留学は中長期的には増加傾向にあり（2015：478 万人→2019：606 万人 出展：UNESCO Institute of Statistics）、コロナ前の推計ではあるが 2025 年には 800 万人に達するとの分析もあった（OECD, 2017）。また、コロナ禍でも留学生の数を堅調に獲得している国など、受入れ国や受入れ機関等の個別事情において状況は異なるため、留学生市場は一律に悲観的なものにはなっていない [資料 5] [資料 6]。本学は世界の留学生の大部分を占める英語ベースのカリキュラムを全面的に取り入れている。この留学生の中長期的な増加傾向は、本学の学生獲得のマーケットの中長期的な拡大が見込めるということを意味する。引き続き、世界各国・地域か	しかし、専門家・専門機関の見通しでは、海外留学は中長期的には増加傾向にある <u>他</u> 、コロナ禍でも留学生の数を堅調に獲得している国など、受入れ国や受入れ機関等の個別事情において状況は異なるため、留学生市場は一律に悲観的なものにはなっていない [資料 5] [資料 6]。

ら留学生を獲得できることが期待できる。	
---------------------	--

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (4 ページ)

※ 本学部の基礎となった学部¹の志願動向に関わる追記

新	旧
<p>また、直近の入試結果 (2021 年度入試結果) では、国内学生・国際学生合わせた既設学部の入学定員 1,320 名に対して志願者 4,709 名、合格者 2,159 名、入学者 1,185 名、志願倍率は 3.6 倍であった。そのうち、本学部の基礎となるアジア太平洋学部の入試結果は、入学定員 660 名に対して志願者 2,500 名、合格者 1,047 名、入学者 586 名、志願倍率は 3.8 倍であり、COVID-19 による不安定な情勢の中でも安定して志願者および入学者を確保している [資料 7]。この志願者数は、本学部の基礎となったアジア太平洋学部の新しい入学定員 (510 名) に本学部の入学定員 (350 名) を加えた 860 名を大きく超えており、十分な志願者を集める基盤があることが分かる。</p>	<p>また、直近の入試結果 (2021 年度入試結果) では、国内学生・国際学生合わせた既設学部の入学定員 1,320 名に対して志願者 4,709 名、合格者 2,159 名、入学者 1,185 名、志願倍率は 3.6 倍であった。そのうち、本学部の基礎となるアジア太平洋学部の入試結果は、入学定員 660 名に対して志願者 2,500 名、合格者 1,047 名、入学者 586 名、志願倍率は 3.8 倍であり、COVID-19 による不安定な情勢の中でも安定して志願者および入学者を確保している [資料 7]。</p>

(新旧対照表) 学生確保の見通しを記載した書類 (4 ページ)

※ 本学の留学生の動向に関わる追記

新	旧
<p>これは、本学の約半分を占める国際学生 (留学生) のほとんどが直接、海外から入学する構造になっているため、2 年間の入国制限が大きく影響した結果である。それでもこの 2 年間に入学した 1,000 名を超える国際学生は、母国に居ながらオンライン授業を受講し、入国できる日を待ち続けてきた。本年 3 月末頃より入国できるようになり、すでに 1,037 名の国際学生が日本に入国をしている (2022 年 7 月 8 日時点)。</p>	<p>これは、本学の国際学生 (留学生) のほとんどが直接、海外から入学する構造になっているため、2 年間の入国制限が大きく影響した結果である。それでもこの 2 年間に入学した 1,000 名を超える国際学生は、母国に居ながらオンライン授業を受講し、入国できる日を待ち続けている。</p>

(是正事項) サステナビリティ観光学部 サステナビリティ観光学科

2. 人材需要の社会的動向の根拠の一つとして説明されている「本学重点企業採用担当調査報告書」では日本人学生、国際学生及びどちらであるかを問わない採用意向がそれぞれ示されているが、示されている年度規模採用数の中に「30名（当社全体人数）」といった趣旨が不明確な記載や採用予定数を「400名～500名」とするなど規模として真（しん）に本学部の卒業生のための強い採用意向としての趣旨なのか不明確な回答も見られるため、本学の卒業生に対する採用意向について示している数値であることを具体的に説明の上、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、別添資料のアンケート結果について一部再調査を行い、結果を更新した。

具体的には、意見のあった「設問8」（日本人学生、国際学生及びどちらであるかを問わない採用意向）について、誤答であると判断される回答者（過去の採用実績から不適と解釈することが妥当なもの、計10件）に電話調査を実施し、一部の回答修正を行った。

なお、本問は、任意回答として取得したものであり、人材需要の社会的動向の直接的な根拠としていない。「学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）」でも本問の結果は用いていない。本問は、開設予定の新学部学生の採用意向（採用人数規模）を尋ねたものであるが、誤答であると判断される回答者（過去の採用実績から不適と解釈することが妥当なもの、計10件）に対し、2022年6月に電話調査を実施、一部の回答修正を行った。

なお、電話調査の結果、人材需要の社会的動向の直接的な根拠とした、問6（当該学部が要請する人材ニーズ）・問7（当該学部卒業生の採用意向）において修正は生じなかった。

(新旧対照表) 「学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）」(209 ページ)

新	旧
実施時期： 2021（令和3）年12月8日～2021（令和3）年12月24日 ※2022年（令和4）年6月24日～29日： 設問8について電話での再調査実施	実施時期： 2021（令和3）年12月8日～2021（令和3）年12月24日

(新旧対照表) 「学生の確保の見通し等を記載した書類（別添資料）」(215 ページ)

新	旧																								
■ サステナビリティ観光学部卒業生の年度あたり採用規模【任意回答】 [問8] (日本人学生) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0～1名</td><td>1</td></tr> <tr><td>1名</td><td>8</td></tr> <tr><td>1～2名</td><td>1</td></tr> <tr><td>3名</td><td>1</td></tr> <tr><td>5名</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	回答	件数	0～1名	1	1名	8	1～2名	1	3名	1	5名	1	■ サステナビリティ観光学部卒業生の年度あたり採用規模【任意回答】 [問8] (日本人学生) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0～1名</td><td>1</td></tr> <tr><td>1名</td><td>7</td></tr> <tr><td>1～2名</td><td>1</td></tr> <tr><td>3名</td><td>1</td></tr> <tr><td>5名</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>	回答	件数	0～1名	1	1名	7	1～2名	1	3名	1	5名	1
回答	件数																								
0～1名	1																								
1名	8																								
1～2名	1																								
3名	1																								
5名	1																								
回答	件数																								
0～1名	1																								
1名	7																								
1～2名	1																								
3名	1																								
5名	1																								

人数・国籍不問	4	20名程度	<u>1</u>
未定	2	人数・国籍不問	4
(国際学生)		未定	2
回答	件数	回答	件数
0～3名	1	0～3名	1
1名	8	1名	8
1名～2名	1	1名～2名	1
2名	4	2名	4
5名	1	5名	1
若干名	1	若干名	1
人数・国籍不問	3	人数・国籍不問	3
未定	2	未定	2
(日本人学生/国際学生を問わず)		(日本人学生/国際学生を問わず)	
回答	件数	回答	件数
1名	<u>9</u>	1名	<u>7</u>
1名～2名	<u>4</u>	1名～2名	<u>3</u>
1名～3名	<u>4</u>	1名～3名	<u>1</u>
1名～5名	<u>4</u>	1名～5名	<u>1</u>
2名	9	2名	9
2名～3名	1	2名～3名	1
3名	4	3名	4
若干名	<u>3</u>	10名	<u>2</u>
人数不問	1	20名	<u>1</u>
未定	3	30名(当社全体 人数)	<u>1</u>
		40名	<u>1</u>
		70名	<u>1</u>
		90名	<u>1</u>
		100名	<u>1</u>
		350名	<u>1</u>
		400名～500名	<u>1</u>
		若干名	<u>2</u>
		人数不問	1
		未定	3